

日本古典作者事典 え 1300 ; [目次にもどる](#)

- 慧安(えあん・東巖) → 東巖(とうがん;道号・慧安、臨濟僧) C 3 1 3 0
- C1344 英(えい/さかゝ・沢田さわだ/通称;泰蔵、親盈男)?-? 江中期会津藩士/司業;世子侍講、儒者、
「日新館童子訓」編参加、「時余筆記」「保傳伝附説」「孝経類編」著、名垂たりの父
- B1388 嬰(えい・毛利もうり) ? - ? 儒者、1788-92毛利壺邸「壺邸詩稿」編
- C1345 纓(えい・河井かわい) ? - ? 江後期儒者、
1815穂積[鱸]貞治編「菅贈太政大臣歌集」漢文序
- U1316 栄(えい・富田とみた、旧姓;大池)1849-190557 飛騨高山の歌人、高山代官所地役人富田道彦と結婚、
詩歌;義父富田節斎(礼彦いやひこ)門
- 嬰(えい・岡) → 熊嶽(ゆうがく・岡おか、絵師) B 4 6 0 4
- 纓(えい・山本) → 君清(くんせい・山本やまと、医者) B 1 7 2 3
- 永(えい・並河) → 誠所(せいしょ・並河なみかわ/なびかわ、儒者) I 2 4 7 4
- 永(英えい・東条) → 英庵(えいあん・東条、洋学/兵学者) C 1 3 5 1
- 永(えい・寺本) → 海若(かいじやく・寺本てらもと/鈴木、書家) I 1 5 6 8
- 永(えい・北条) → 螻堂(かくだう・北条ほうじょう、儒者) K 1 5 3 3
- 永(えい・安田/早川) → 石牙(せきが・安田/早川、医者/俳人) D 2 4 3 6
- 永(えい・白崎) → 永(ながし・白崎しろさき/鑑谷、商家/歌人) N 3 2 3 7
- 英(えい・松平) → 頼重(よりしげ・松平、藩主/茶・歌人) I 4 7 7 3
- 英(えい・山県) → 鶴江(かくこう・山県やまがた、藩士/書家) J 1 5 8 0
- 英(えい・岡部) → 菊涯(きくがい・岡部おかべ、儒者/詩人) E 1 6 2 5
- 英(えい・金谷) → 玉川(ぎよくせん・金谷かなや、藩士/儒者) I 1 6 8 7
- 英(えい・石川) → 鴻斎(こうさい・石川いしかわ、儒者/詩/画) J 1 9 0 8
- 英(えい・高柴) → 三雄(さんゆう・高柴たかしぼ/高、地誌家) M 2 0 8 0
- 瑛(えい・西河) → 菊荘(きくそう・西河にしかわ/浅井、儒者) K 1 6 1 6
- 瑛(えい・松田) → 義雄(よしお・松田まつだ、藩士/詩歌) P 4 7 1 4
- 瑛(えい・山田) → 鼎石(ていせき・山田/山、詩人) B 3 0 3 4
- 瑛(えい・氏家) → 緑山(りよくざん・氏家うじえ、藩儒者) J 4 9 7 6
- 瑛(えい・辻) → 蘭室(らんしつ・辻つじ/中原/村田、医者/蘭学) C 4 8 4 7
- 瑛(えい・西村) → 真斎(しんさい・西村にしむら、藩医/詩人) O 2 2 4 9
- 瑛(えい・中山) → 手巻(たまき・中山なかやま、国学/名主) Y 2 6 6 5
- 栄(えい・白石しらいし) → 桃花洞(とうかどう・白石、医/道学) C 3 1 2 5
- 栄(えい・伊東[藤]) → 而后(じこう・伊東[藤]、商人/俳人) T 2 1 4 2
- 栄(えい・白田) → 衍々子(えんえんし・白田うすだ、儒者/詩文) E 1 3 4 5
- 栄(えい・葛飾) → 応為(おうい・葛飾かつしか、北斎女/絵師) C 1 4 3 0
- 栄(えい・田中) → 芹坡(きんば・田中たなか、儒者/藩士) J 1 6 0 7
- 栄(えい・松村) → 芳洲(ほうしゅう・松村、藩士/儒者/詩人) B 3 9 3 9
- 栄(えい・滝) → 松隠(しょういん・滝たき/赤松、儒・医者) G 2 2 8 1
- 栄(えい・松平) → 峯子(みねこ・松平、定信室/歌人) F 4 1 4 5
- 栄(えい・渡辺) → 去何(きよか・渡辺わたなべ、国学者/俳人) H 1 6 1 0
- 栄(えい・片桐) → 源栄(げんえい・片桐かたざり、歌人) B 1 8 2 9
- 栄(えい・横山) → 蘭腕(らんえん・横山よこやま、詩人) B 4 8 6 0
- 栄(えい・小曾根) → 乾堂(けんどう・小曾根こそね、書/篆刻家) L 1 8 7 5
- 栄(えい・一色/向山) → 黄村(こうそん・向山むこうやま/一色、幕臣/詩人) G 1 9 6 6
- 栄(えい・関屋) → 致鶴(ちかく・関屋せきや、医/儒者) 2 8 8 5
- 栄(えい・千屋) → 孝健(たかたけ・千屋ちや、勤王派志士) M 2 6 1 6
- 栄(えい・花木) → 潭斎(たんさい・花木、藩士/医/儒者) I 2 6 6 9
- 栄(えい・小林/平田) → 眠翁(みんおう・平田/小林、医者/本草家) G 4 1 7 7
- 栄(えい・接待) → 治郷(じきょう・接待せつたい、藩士/故実家) Q 2 1 2 8

栄(えい・桜井)	→	政賢(まさかた・桜井さくらい/下田、神職/歌)	Q 4 0 0 2
栄(えい・松平)	→	栄(さかえ・松平まつだいら、藩主室/歌人)	P 2 0 4 2
栄(えい・笹木)	→	祐雄(すけお・笹木ささき、神職/国学)	I 2 3 5 6
栄(えい・戸谷)	→	栄(さかえ・戸谷とや/上野、神職/国学)	O 2 0 8 4
穎(えい・幡鎌)	→	鄰斎(りんさい・幡鎌はたかま、儒者)	K 4 9 2 9
鋭(えい・伴)	→	信友(のぶとも・伴ばん、藩士/国学者)	3 5 1 0
鋭(えい・高)	→	雲外(うんがい・高こう、儒/蘭学者)	D 1 2 6 2
盈(えい・桂/樋口)	→	東里(とうり・樋口ひぐち、医/儒者)	I 3 1 0 9
盈(えい・高橋)	→	盈(みつる・高橋たかはし、別名;景作、医者)	F 4 1 2 9
盈(えい・青地)	→	林宗(りんそう・青地あおち、医者/翻訳)	K 4 9 6 2
盈(えい・井上)	→	充仲(みつなか・井上いのうえ、神職/詩歌人)	L 4 1 1 5
瀛(えい・小田)	→	海僊(かいせん・小田おだ、絵師)	I 1 5 8 5
瀛(えい・宇田川)	→	興斎(こうさい・宇田川うだがわ、医者/蘭学)	B 1 9 1 9
瀛(えい・桑原)	→	眞清(ますが・桑原くわばら、神職/勤王)	I 4 0 9 6
衛(えい・藤原)	→	衛(まもる・藤原、内麻呂男/廷臣/学者)	K 4 0 1 4
衛(えい・中西)	→	衛(まもる・中西なかにし、藩士)	K 4 0 1 5
衛(えい・新岡)	→	旭宇(きよく・新岡にいおか、書家)	O 1 6 7 9
衛(えい・北見)	→	星月(せいげつ・北見きたみ、和算家/医者)	H 2 4 9 7
衛(えい/まもる・筑紫)	→	義門(よしかど・筑紫、藩士/国事奔走)	C 4 7 9 7
衛(えい・関屋)	→	高英(たかひで・関屋せきや、藩士/軍学/国学)	X 2 6 7 9
エイ(;川柳作者)	→	応為(おうい・葛飾かつしか、北斎女/絵師)	C 1 4 3 0
えい(・竹内)	→	月花永女(げっかえいじよ、狂歌)	G 1 8 9 2

- C1346 **英阿**(えいあ) ? - ? 連歌;1452「宝徳千句」参加;宗砌・専順らと
- C1334 **永安**(永庵/栄庵えいあん・小出こいで/修姓;出、名;立庭/字;不見)?-1684 播磨儒者;熊谷活水門、尾張藩儒、京・江戸遊学、「性理大全」「易学啓蒙通釈鈔」、「江村紀行」「江府紀行」著、[永安の通称/別号]通称;内記、別号;永庵/栄庵/新蕉軒、 侗斎とうさいの父
- C1347 **永庵**(永菴えいあん・大谷おおたに、名:業広なりひろ、業知男/本姓在原) 1698-1780⁸³ 京栗田青蓮院宮坊官、1738天台宗法印;治部卿法印、歌人;冷泉家入門、御家流の書家、習字手本;「風月帖」「鶴竜帖」「慶賀帖」「春陽帖」「春宴帖」書、「五節往来」著
- C1348 **栄庵**(えいあん・安達あだち、通称;伊介/安立)?-? 江中期明和1764-72頃大阪の医者;後藤良山門、「李樹園随筆」著
- C1349 **栄庵**(えいあん・大谷おおたに、名:業延なりのおぶ、業重男/本姓;在原) 1775-1835⁶¹ 京の栗田梶井宮坊官、1811天台宗法印、宮内卿、書家/上代様の書に長ず、「東照宮式百回御忌日光山御参向之記」著、「百人一首」書 [栄庵(栄菴;号)の別号/通称]別号:梁臬、通称;大谷宮内郷
- C1350 **英庵**(えいあん・小村こむら、泰輔/馨) 1766-1837^{72歳} 越後長岡町医者;宇川榕庵門、長崎で蘭学修学、越後53泉を調査分析、1830「英庵鉅泉考」著
- C1351 **英庵**(えいあん・東条とうじょう、名:永/英/寅、永玄男) 1821-75⁵⁵ 長州洋学;1840青木周弼門/44洪庵門、1845兵学;伊藤玄朴門、53長門藩医/幕府軍艦操練所員、「海防試説」著、「雷火銃小解」訳 [英庵の字/別通称/号]字;公寅こういん/公賓、別通称;永庵/礼蔵、号;白玉/静軒、法号;見堂院
- 永庵(えいあん・熊谷) → 活水(かつすい・熊谷くまがい、漢学者) H 1 5 4 9
- 永安(えいあん・松田) → 黄牛(こうぎゅう・松田まつだ、医者/儒者) G 1 9 5 2
- 曳庵(えいあん・亀山) → 筋宇(せつう・亀山かめやま、藩儒) K 2 4 7 0
- 英安(えいあん・岡田) → 宗郷(そうきょう・千せん、千家華道14世/歌) G 2 5 8 1
- 英安(えいあん・小出) → 英安(ふさやす・小出こいで、藩主/国学) I 3 8 2 4
- 英庵(えいあん・三宅) → 良斎(こんさい・三宅みやけ、蘭方医者) P 1 9 2 1
- B1389 **永以**(えいい・柏崎かしわざき/本姓;北畠、名;具慶/具之/要)?-1772 国学者;故事に通ず/歌人、1730「古今沿革考」41「古老茶話」46「落穂集考」「参考落穂集」「東都事蹟合考」/53「武跡譚」1772「事蹟合考」著、[永以の字/通称/別号]字;具元とももと、通称;三郎右衛門、別号;元珍

- 英為(えいゐ・奥井) → 英為(ひでため・奥井おくい、藩士/国学) I 3 7 3 9
- F1356 永一(えいち) ? - ? 室町後期法師/連歌;
1482通直願主「大山祇社法楽連歌」(万句)参加
- B1390 英一(えいち・静斎せいさい、姓;小林こばやし)818-48早世31歳 江戸下谷鳩組前の絵師;溪斎英泉門、
人物画・花鳥画に長ず、為永春水らの全盛期の人情本の挿絵/遊戯絵本を画く:
1836春水「いろは文庫」「処女七種」画、1838「春色対暖語」39「春色初旭の出」画、
1840「春色鶯日記」41「春色梅美婦禰」画、外面多数、
[静斎英一(;号)の通称/別号]通称;市太郎、別号;山下園
- 英一(えいち・高井) → 英一(ひでかず・高井、藩士/蝦夷記録) C 3 7 9 2
- 鋭一(えいち・高) → 雲外(うんがい・高こう、儒/蘭学者) D 1 2 6 2
- 永一郎(えいちろう・関) → 松窓(しょうそう・関せき、儒者/詩人) T 2 2 9 8
- 1300 永胤(えいん/よういん、左馬助藤原栄光男)?-? 平安期僧/法師、通称;雲林院供奉、
歌人、1053近江守泰憲三井寺歌合/63(康平6)丹後守藤原公基歌合(丹波で)参加、
勅撰;後拾遺(3首;164/381/840)、袋草紙に後拾遺840は貫之の歌という逸話入、
[思ひ出づることのみしげき野辺に来てまた春にさへ別れぬるかな]
(後拾;春164/詞書;三月尽日親の墓にまかりて詠める/親との死別と春との別れ)
- B1340 英因(えいん;法諱・英因、法眼)? - ? 戦国期僧/歌人;
1492?大内政弘家集「拾塵集」共撰;源道輔と
- 1311 永因(えいん;法諱・三益さんえき;道号)?-1521 戦国期;若年京の建仁寺入;如是院の雪嶺永瑾門、
臨濟僧;のち建仁寺首座:如是院住持;没、詩人;月舟寿桂門/艶詩を多作、
「三益稿」、「三益艶詞」著
- B1391 永胤(えいん・島しま) ? - ? 江中期豊後杵築の旧家の生/儒者/詩人:
1796脇蘭室詩文編集(のち「蘭室集略」に収納)、1813島吉利の碑を建立
- 永員(えいん・藤原) → 永数(なかがず・高倉たかくら/藤原、廷臣/歌) D 3 2 3 6
- 永胤(えいん・大中臣) → 永胤(ながたね・大中臣おおなかとみ、神職/歌) E 3 2 1 7
- 栄陰(えいん・宮地) → 騰(のぼる・宮地みやじ、藩士/儒/詩歌) E 3 5 1 8
- 1312 栄運(えいん;法諱) ? - ? 天台僧;法印/権大僧都、
尊道親王に法門を授ける、1340「即身義竜女分極」、「勸学講法則」「悉曇反音鈔」著、歌人、
勅撰3首;新千(932/2230;敬運僧都没時の詠)新拾遺(895;成運法印三十三回忌の詠)、
[窓ふかき法のともし火思ひきや竹のそのふを照らすべとは](新千;釈教932、
尊道親王に法門を授けた時の詠)
- 1313 永運(えいん/よういん;法諱)? - ? 1355存 南北期の僧;権少僧都/連歌師・救済門、能筆、
救済「北野社千句」発句(散佚)/1355文和千句参;第二百韻発句詠(文の名)、「永運発句集」、
菟玖波集25句入、
[まてばとて花は急がぬ日数哉](菟玖波;二十発句2042/権少僧都永運)
- C1321 叡運(えいん;法諱・藤村)1848-191770 奈良の真言僧/東大寺真言院僧、
大坂高津の自性院に移る/円主庵(;契沖旧跡)住職を兼任、歌;中村良顕門
- 映雲(えいん・小賀) → 安諦雄(あさお・小賀おが/こが、神職/歌人) H 1 0 1 5
- 英雲院(えいんいん) → 日燧(にちぞう;法諱、日蓮僧) C 3 3 7 1
- 英雲院(えいんいん) → 重就(しげたか・毛利/大江、藩主/歌) R 2 1 1 9
- 詠雲院(えいんいん) → 通夏(みちなつ・久世くぜ/源/中院、廷臣/歌) C 4 1 0 9
- 英雲居士(えいんこじ) → 紅器(こうき・高月たかつき、商家/俳人) I 1 9 1 8
- 栄雲斎(えいんさい) → 慎義(しんぎ・堀内ほりうち、華道家) N 2 2 7 8
- 盈栄(えいゐ・桜井) → 盈栄(みつひで・桜井さくらい、商家/歌人) J 4 1 2 1
- F1373 永悦(えいゑつ・宮田みやた) ? - ? 江前中期歌人;中院通茂門、京極家の家人、
1702元翠「三翁和歌永言集」入(通茂門の京極高門・磯田正隆・永悦の歌を撰した歌集)、
1700茂睡[鳥の迹]入/石野広通「霞関集」(1768刊)入、
[手枕に結ぶもさもなうかるらんあやめの露のかかる旅ねは]、
(辰の年上野の御法事につきて久世中将通清卿[1670-1747/通茂男]江戸下向の時、
五月五日旅店へ罷りて読みける)、

[埋れぬ句ひを風の伝へずは咲くとも知らじ雪の梅むめが香](霞関;春53/梅風)

- 1314 永縁(永円えいゑん・ようゑん;法諱、藤原永相男)1048-1125 母;大江公資女、法相僧;1061出家;
一条院頼信門、1096権律師/1116法印/24興福寺権僧正、歌;1124奈良花林院歌合主催、
堀河院御時百首和歌参加、1076経仲家歌合/1118右衛門督実行歌合参加、
袋草紙/無名抄に逸話入、後葉/続詞花集5首/檜葉集15首/雲葉集入、
勅撰26首;金葉(13首Ⅱ71/113/131/202-)詞花(185)千(1123)新古(330/689/950)以下、
[山里は野辺のさ蕨わらびもえいづるをりにのみこそ人はとひけれ](金葉;春71、
奈良で百首歌の時の詠)、☆金葉集夏113[聞く度に]の歌は実は高階正業作(袋草紙)、
[永縁の通称]初音の僧正(金葉113より)、花林院僧正、

☆百合花(前齋宮)河内・前齋宮内侍の兄

参考 → 河内(こうち・百合花、歌人) B 1 9 6 8

→ 内侍(ないし・前齋宮、歌人) 3 2 0 0

英園[院](えいゑん[いん]) → 日英(にちゑい;法諱、日蓮宗学僧) 3 3 6 7

栄遠院(えいゑんいん;/ようゑんいん) → 日就(にちじゆ;法諱・本用院、日蓮僧) C 3 3 1 2

- 1315 永縁母(えいゑんのはは/ようゑんのはは、大江公資きんより女)?-? 藤原永相(従五下/大蔵大輔)の妻、
永源(東大寺得業)・永縁(興福寺権僧正)の母、平安期歌人、金葉Ⅲ(129)、
[あやめ草我が身のうきにひきかへてなべてならぬに思ひいでなん](金葉Ⅲ;129、
宮仕する娘の許に端午の薬玉を贈る歌/金葉Ⅱ131では息子永縁の歌;5句生ひも-、
菖蒲草は娘/泥土うきと憂きを掛る/沼ぬと打消を掛る/泥土・引く・沼は菖蒲の縁語)

参考 → 永相(ながすけ・藤原;息子息女の説明) D 3 2 8 8

栄翁(えいおう・津軽) → 信寿(のぶひさ・津軽つがる、藩主/詩歌) C 3 5 9 5

栄翁(えいおう・島津) → 重豪(しげひで・島津/松平、藩主/諸学) C 2 1 9 0

英翁(えいおう・秋田) → 倩季(よしすえ・秋田あきた/安倍、藩主) D 4 7 7 2

永翁(えいおう・井上) → 頼定(よりさだ・井上いの上、神職/歌人) L 4 7 3 6

嬰翁(えいおう・上田) → 及淵(しきぶち・上田/平井、藩医/国学) Q 2 1 1 0

憲翁(えいおう・津島) → 北溪(ほくけい・津島つしま、医者/漢学) E 3 9 6 1

瀛翁(えいおう・山村) → 良喬(たかてる・山村やまむら、藩代官/俳人) M 2 6 3 4

- C1338 英屋(えいおく) ? - ? 江中期江戸俳人;乾什座尹督側の点者、
1754竹翁「誹諧童の的」点句入

栄屋(えいおく/さかえや?・猪熊) → 方主(かたぬし・猪熊いのくま/卜部、神職) N 1 5 0 4

盈億(えいおく・梅内/阿部) → 千秋(ちあき・阿部あべ/梅内、代官/俳人) L 2 8 7 5

- 1316 永恩(えいおん;法諱・春澤しゅんたく;道号、武田元光男)1511-7464歳 若狭守護家の生、
臨濟僧;建仁寺の九峰以成門/法嗣/同寺如是院住、1552建仁寺387世、
1571南禅寺住持公帖を受けるも不住、如是院に没、
「春沢和尚詩集」「春沢和尚文集」「春沢和尚録」、「枯木藁」著
[春澤永恩の号] 枯木/泰安/萍郷へいきょう/天津

詠嘉(えいか・遊林子) → 遊林(ゆうりん・珍書堂、俳人) E 4 6 0 6

永可(えいか) → 晩山(ばんざん・爪木、俳人/歌人) H 3 6 8 5

翳華(えいか;号) → 恵晃(えこう;法諱・照山;字、律宗僧) D 1 3 8 2

- C1352 永雅(えいが;法諱、律師)? - ? 平安期の僧/律師、
歌;1058(天喜6)丹後守藤原公基歌合参加(判者;藤原範永)、
[秋の野にしめや結はましさまさまに色めく花のうしろめたさに](公基歌合;一番右2)

- U1344 永雅(えいが;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
歌人;1237刊素俊撰[檜葉集]入、
[建久八(1197)年春日後番歌合に述懐の心を、

うしといはばなほ世の常になりぬべし身におふほどのことのはもがな](檜葉;雑899)

- F1371 永賀(えいが・市村いちむら) ? - ? 江前期上方の俳人、

1673西鶴「生玉万句」第九霜発句入、

[生玉の神垣なれや霜柱](霜発句)

- C1354 永我(えいが・姓;盛もり/さかり、一永男)?-1764 俳人、俳諧収集;撰集、1736「此長月」47「梅の牛」編、

1750?「三人張」52「片相手」54「続片相手」55「新片相手集」編、江戸両吟集を覆刻、
[永我(；号)の別号] 浮齋/一浮齋/掬堂/盛永/如斯亭

- B1392 **英賀**(えいが; 初世琴通舎、姓; 森/丸庄) 1770-1844 75 江中後期の茶番・狂歌作者、
「茶番の正本」「瀬川ぼうし」著
- C1353 **永雅**(えいが; 法諱・徹範; 字) 1779-1856 78歳 武州比企郡紫竹村の真言僧; 長谷寺梅心院で修学、
1833武州中島の金剛院住/50江戸本所弥勒寺転住/51長谷寺能化/権僧正、
「心経私記」「真如随縁成仏義」著
永雅(えいが; 法名) → 雅親(まさちか・飛鳥井/藤原、歌/蹴鞠/連歌) 4 0 1 1
永雅(えいが; 法諱) → 日導(にちどう; 法諱・一妙院、日蓮僧) C 3 3 9 9
永雅(えいが・宝田) → 寿助(すけすけ・宝田、歌舞伎作者) I 2 1 7 6
- F1343 **叡海**(えいかい) ? - ? 鎌倉期; 彼山(九州背振山)住僧/早歌作者;
1319月江「玉林苑; 背振山靈験/同山并やまのなりび」作詞
- 1302 **栄海**(えいかい/ようかい; 法諱、俗姓; 藤原、権律師聖誉男?) 1278-1347 70 南北朝真言僧; 神護寺聖濟門、
勸修寺慈尊院住職/高尾神護寺住職; 別当/僧正/東寺121代長者/法務大僧正、
歌人/説話作者、1323「清水靈験記」/25「真言伝」/46「泉宝ごほう入壇記」、「類聚八祖伝」著、
「印璽口伝」「曼荼羅供」「師口合鈔」「璽鈔秘々」「進官録鈔」「理趣経法」「瑜祇内護」外著多数、
歌; 1547「釈教36人歌仙歌合」撰/「栄海百人一首大全」編、
勸撰3首; 新千載1914/新拾遺1505/新後拾遺1081、
[敷島の道の奥なる浅香山深き心をいかで知らまし](新千; 雑1914/古今序の詞で詠む)、
[栄海の称] 慈尊院僧正/民部卿僧正
- C1355 **栄懐**(えいかい、法眼) ? - ? 1361存 真言宗勸修寺かんじゅじ僧(寛胤門跡の頃)、
連歌; 菟玖波1句羈旅入、
[とりのねも夜深き里に鐘聞きて](菟; 羈旅1668/前句; まだ出やらぬ関の旅人
- B1393 **永海**(えいかい; 名・佐竹さたけ) 1803-74 72歳 代々会津藩の蒔絵師、文晁門; 塾頭/彦根藩抱、
法眼、1850美成「提醒紀談」画/50「永海先生画帖」/53「愛育茶譚」画/56「研北集」画、
[永海(；名)の通称/別号]通称; 衛司/衛士
別号; 周村/愛雪楼/九成堂/天水/雲梅/盤玉/衛海/永海/幽宝子/篤敬/愛堂
衛海(えいかい・佐竹) → 永海(えいかい・佐竹さたけ、絵師) B 1 3 9 3
永愷(えいかい・ながやす・橘) → 能因(のういん、法師/歌人) 3 5 0 2
- 1317 **叡覚**(えいかく; 法諱・俗名; 藤原信綱、藏人入道、藤原定成男?) 1025?-? 母拳直女?、歌人、1058出家、
後拾遺4首; 209/288/605/718、金葉集連歌作者と同一?、
[五月雨の小止をやむけしきの見えぬかな庭たづみのみ数まさりつゝ](後拾; 209、
4・5句; 庭の水溜りの数がますばかり)
金葉集の信綱と同一? → 信綱(のぶつな・藤原、金葉集に連歌) C 3 5 0 7
- C1356 **永覚**(えいかく) ? - ? 河内三宅村(現交野市)の尼僧、歌/俳人;
1656梅盛「鸚鵡集」入、1660顕成「境海草さかいぐさ」/76西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
1684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入;
[錦かと思ゆれどしかと紅葉かな](女哥仙; 18/しかと; 確しかとと鹿を掛る)
- C1357 **永覚**(えいかく; 法諱) 1832 - 1895 64歳 相模三崎真宗本願寺派最福寺住職、
儒; 広瀬旭荘門、1850本山学林で講義/61失明; 口述筆録多数/明如より学階輔教、
「往生礼賛偈私聚鈔」著
- C1358 **英岳**(えいがく; 法諱、字; 宜春、俗姓; 宇都宮、進休庵大僧正) 1639-1712 74 伊賀上野真言僧; 良誉門、
1653より諸寺で密教/華嚴唯識/俱舎台密/金剛胎藏を修学、1661豊山で後進指導、
1673尾張法華寺住職/95幕命で長谷寺14世/1707大僧正/湯島進休庵に隠棲、「見聞隨筆」、
「和州豊山長谷寺古今雑録」「般若理趣経純秘鈔講義」外著多数
- C1359 **永岳**(えいがく・狩野かのう、狩野永俊の養子) 1790-1867 78 京の狩野派の絵師; 宮中絵所の絵師、
狩野永納の画風を継承; 四条風を交える; 近代平安の名画と称された、
「孝明天皇劔絵形」画、
[永岳(；名)の字/通称/号]字; 公嶺、通称; 縫殿助、号; 山梁・晚翠
英岳(えいがく・景洪; 法諱) → 景洪(けいこう・英岳、臨濟僧) D 1 8 4 3

- 英学(えいがく;字) → 日成(にちじょう;法諱・円成院、日蓮僧) C 3 3 4 3
 叡嶽艮蹊樵夫(えいがくこんけいしやうふ)→ 重政(初世しげまさ・北尾、絵師) 2 1 1 5
 永嘉亭(えいかてい) → 波静(はじょう・日下部、俳人) E 3 6 5 3
 英果亭(えいかてい) → 百尺楼桂雄(ひやくせきろうけいゆう、狂歌) E 3 7 6 1
 盈科堂(えいかどう) → 貞幹(さだもと・藤原、故実家) 2 0 2 7
 叡下堂(えいかどう) → 波静(はじょう、歌舞伎研究) E 3 6 5 4
 影花堂(えいかどう) → 重長(しげなが・西村、書肆/絵師) C 2 1 6 1
- F1374 栄嘉尼(えいかに) ? - ? 江中期;幕府本丸比丘尼衆、のち隠居、
 歌;冷泉家門、1798刊石野広通「霞関集」入、
 [吹き寄せて外より深く積れるは学ばぬ窓にはづる白雪](霞関;冬662/窓前雪)
- 1318 永観(えいかん・ようかん;法諱・源国経男)1033-111179歳 石清水八幡宮別当法印元命の養子、
 1043(長久4)山城の禅林寺僧;深観門、1044東大寺に修業;具足戒を受ける、有慶/顕眞門;
 三論・法相を修学、1064法成寺の堅義、のち山城光明山寺で浄土教に帰依;念仏修行、
 1072(延久4)禅林寺に帰住/1099権律師;翌日辞退、1100東大寺別当、称名教念仏;民衆教化、
 浄土宗八祖の1、「往生講式」「往生拾因」「念仏讚」「念仏勸進縁起」著、「拾遺往生伝」に逸話、
 歌人/勅撰8首;千載(1255)続古(804/1854)新後撰(673)続千(1023)続後拾(426)新拾以下、
 [みな人を渡さむと思ふ心こそ極楽に行くしるべなりけれ](千載;釈教1255、
 往生講式執筆時の教化歌/彼岸に渡そうとする阿弥陀の心が我々衆生の道標)
- 1319 永閑(えいかん・能登のと、別号;宗閑)?-? 1574存 戦国期河内の連歌師;異母兄宗碩門、
 母は能登出身、1516「月村斎千句」参加/37「伊予千句」第三百韻発句、
 1548宗養と「何木百韻」発句、
 大永1521-28ころ屢々能登下向;能登守護畠山義総に源氏物語の註釈[細流抄]を贈る、
 「万水一露」「伊賀国名所記」「伊賀名所記」著、1523宗碩と「何路百韻」/50玄清と百韻など
- B1394 永閑(えいかん・虎屋とらや、初号;虎屋小源太夫)?-? 江前期の古浄瑠璃太夫;虎屋源太夫門、
 1669(寛文9)-79(延宝7)伊勢大掾座に属す(;1669永閑に改号)、金平風豪放な永閑節の祖、
 1682(天和2)江戸堺町に永閑座を立て操り芝居興行、当時無双の大音の持主、
 「仙人竜王威勢諍あそび」著、虎屋喜元の師
- 永寛(えいかん・原田) → 永寛(ながひろ・原田はらだ、神職/医者/詩歌) O 3 2 4 6
 英侃(えいかん;号) → 随庵(ずいあん;号、空性法親王、詩歌) 2 3 2 4
 栄閑(えいかん・藤田) → 友閑(ゆうかん・藤田、書家) B 4 6 0 7
 栄侃(えいかん;法諱) → 月暁(げつぎょう;号・栄侃、天台学僧) G 1 8 9 6
- C1360 英巖(えいがん;法諱・頓成とんじょう;字、号;一轍叟)?-? 江後期嘉永1848-54頃の真宗大谷派僧;
 越後頸城郡野田村西方寺の住職、高倉学寮修学、能登の頓成の機深信自力説に異義を主唱、
 1848(嘉永元)「能登頓成御糾書」に反駁し「馬鹿権勢折伏論」著し大含以下の講師を罵倒、
 本山・幕府による正慶靈眈(しょうきやうれいおう)の調停を無視;1849本山より住職を罷免、
 1839「往生礼讚講述」40「田舎麻布」48「馬鹿権勢折伏論」51「苦心誨論章」、「師資碎啄篇」、
 「洛越闘諍旁観記」「一枚御消息復古記」「浄土文類聚鈔随聞記」「所信能信之辨」外著多数、
 参考 能登の頓成 → 頓成(とんじょう;法諱、機深信自力説、正慶門) S 3 1 3 1
 瑛含(えいがん;号) → 光海(こうかい;法諱、真宗東本願寺16世) H 1 9 8 4
 英含(英吟えいがん;字) → 日通(にっとう・英含[英吟]院、日蓮僧) F 3 3 2 9
 英含院(英吟院えいがんいん;号) → 日通(にっとう・英含、日蓮僧) F 3 3 2 9
- B1395 永鋳(えいき;法諱・玉田ぎよくでん;道号)?-? 元の臨済僧・清拙正澄門、1326清拙に随従渡来、
 清拙住の南禅寺で記室の役、正澄「清拙和尚禅居集」編
- 1320 永機(えいき・深川ふかがわ/穂積ほづみ、螺窓らそう[6世其角堂鼠肝]長男)1823-190482 江戸の俳人;父門、
 1870其角堂継承;其角堂座点者、6世永機門、諸国行脚、「芭蕉全集」「其角全集」雪人と共編、
 「支考全集」機一と共編、「芭蕉十哲集」柳涯と共編、1849「温故」53「樸口集」60「庚申集」、
 1861「辛酉集」編、「みみな草」編、「茶亭掛類句集」、1848沾山(せんざん)7世「俳諧鱧はいかいけい」点句入、
 [永機(;号)の名/通称/別号]名;善之、通称;無諍、
 別号;晋永機/其角堂7世/老鼠堂/準阿弥/善哉庵/阿心庵/黄花庵

- 永機(えいき) → 湖十(初世こじゅう・曾/深川、俳人) 1 9 3 1
永喜(えいき/永善ながよし・林) → 東舟(とうしゅう・林、儒者/詩/聯句) E 3 1 8 9
英記(えいき・松村) → 昌直(まさなお・松村、藩士/刀劍研究) F 4 0 0 4
英基(えいき・布施) → 英基(ひでもと・布施、15c後半連歌) D 3 7 9 6
英輝(えいき・小出) → 英輝(ふさてる・小出こいで、旗本/国学) I 3 8 2 1
英輝(えいき・山中) → 英輝(ひでてる・山中やまなか正吉しょうきち、商家) M 3 7 2 2
詠帰(えいき) → 桐園(とうえん・萩原、俳人) B 3 1 4 7
詠帰(えいき・三宅) → 済美(みちよし・三宅みやけ、幕臣/詩文) C 4 1 8 6
栄記(えいき・沼田) → 直宗(なおむね・沼田ぬまた、刀工) C 3 2 6 7
栄喜(えいき・岩淵) → 道教(みちのり・岩淵いわぶち、国学/故実) I 4 1 1 4
C1361 永義(えいぎ; 法諱、橘義通男?) ?- ? 平安期叡山僧/歌人、
1062無動寺和尚賢聖院歌合参加; 左方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で檢校広算主催)、
[山高み小高き松の蔭にきてよそのこそ見れ秋の野辺をば](賢聖院歌合; 九番左18)
永宜(えいぎ・吉雄) → 忠次郎(ちゅうじろう・吉雄よしお、通詞/シ事件) G 2 8 4 6
詠帰斎(えいきさい・河田) → 東岡(とうこう・河田、藩士/儒者) D 3 1 7 6
B1342 栄吉(えいきち・伊藤いとう、塩田子蔦男) 1747-9650 播磨北条村の儒者; 伊藤錦里の養子; 女婿、
家督嗣; 福井藩儒; 詩人、清田儋叟の甥、
1777「日本詠物詩」86「邀翠館集」、「明詠物詩選」「君嶺詩草」「自怡堂文稿」著、
[栄吉(;名)の字/通称/号]字; 士善、通称; 文四郎、号; 君嶺くんれい
B1397 栄吉(えいきち・堀ほり) ? - ? 播磨の儒者; 皆川淇園・清田儋叟門、
1768儋叟「弘雀楼筆記」校正(備前の高田潤・儋叟甥伊藤聖訓・医者窪田恭と共同で)
栄吉(英吉えいきち・川北) → 梅山(ばいざん・川北/川喜田かわきた、儒者) B 3 6 3 3
栄吉(えいきち・関根) → 雲停(うんてい・関根せきね、絵師) D 1 2 9 8
栄吉(えいきち・臼田) → 衍々子(えんえんし・臼田うすだ、儒者/詩文) E 1 3 4 5
栄吉(えいきち・石川) → 成章(しげあき・石川いしかわ、幕臣/日記) B 2 1 7 9
栄吉(えいきち・坪内) → 保之(やすゆき・坪内つぼうち、幕臣/歌) E 4 5 8 8
栄吉(えいきち・新井) → 政毅(まさかた・新井あらい、歌人/蔵書家) N 4 0 2 3
栄吉(えいきち・大原) → 正敷(まさのぶ・大原おおはら/源、国学/歌) O 4 0 4 2
栄吉(えいきち・志賀) → 延年(のぶとし・志賀しが、藩士/国学者) I 3 5 6 6
栄吉(えいきち・中島屋) → 光為(みつため・原はら、庄屋/歌人) K 4 1 1 5
永吉(えいきち・山本) → 亡羊(ぼうよう・山本やまもと、医者/本草家) C 3 9 6 5
英吉(えいきち・河原) → 風来(・河原、戯作者) B 3 8 0 8
英吉(えいきち・清水) → 櫟洲(れきしゅう・清水、儒/武術/故実) 5 1 7 8
英吉(えいきち・樋口) → 大種(おおたね・樋口ひぐち、国学者) E 1 4 0 7
衛吉(えいきち・田内) → 衛吉(ゑいきち・田内、志士) D 1 3 6 7
栄吉郎(えいきちろう・志賀) → 綏(やすし・志賀しが、藩士/国学者) B 4 5 6 2
英吉郎(えいきちろう・樋口) → 大種(おおたね・樋口ひぐち、国学者) E 1 4 0 7
詠帰亭(えいきてい) → 倫兼(ともかね・高野たかの、藩士/詩歌) P 3 1 3 5
詠帰堂(えいきどう・星野鶴水) → 癯軒(くげん・星野賁、儒者) B 1 7 3 4
詠帰堂(えいきどう) → 友水(ゆうすい・渡辺、役人/砲術/俳人) C 4 6 8 2
永久(えいきゅう・松下庵) → 半四郎(はんしろう・五世岩井) I 3 6 0 4
永久(えいきゅう・ながひさ・吉雄) → 献作(けんさく・吉雄よしお、医者) J 1 8 1 1
永久(えいきゅう・横山) → 秀世(ひでよ・横山よこやま、国学者/歌) I 3 7 3 1
永久(えいきゅう・本木) → 昌造(しょうぞう・本木もとき、通事/近代印刷) K 2 2 6 2
永久(えいきゅう・玉田) → 永久(ながひさ・玉田たまだ、国学) N 3 2 8 2
盈久(えいきゅう・森) → 盈久(みつひさ・森もり/伊関/賀茂、神職) E 4 1 5 6
盈久(えいきゅう・桜井) → 盈久(みつひさ・桜井さくらい、国学/歌人) J 4 1 1 9
衛久(えいきゅう・遠藤) → 黄赤子(おうせきし、遠藤、藩士/天文家) C 1 4 5 6
栄久(えいきゅう・本木) → 良意(りょうい・本木もとき、通詞/蘭医書翻訳) G 4 9 1 7
栄久(えいきゅう・片桐) → 栄久(ひでひさ・片桐かたぎり/源、国学者) J 3 7 0 4

- 栄休(えいきゅう・楡林) → 鎮山(ちんざん・楡林ならばやし、通詞/蘭医者) K 2 8 7 2
 英久院(えいきゅういん) → 泰恒(やすつね・加藤かとう、藩主/画/歌人) F 4 5 6 6
 栄居(えいきよ・長谷川) → 栄居(しげすえ・長谷川はせがわ、和算家) R 2 1 0 8
 衛居(えいきよ・山田) → 衛居(もりい・山田やまだ/石田、神職/国学) L 4 4 8 2
 D1305 永恭(えいきょう;) ? - ? 江末期京下賀茂社社家、安藝大野の妹背滝の歌、
 [たちよりてしばしむすばむひまもなしはげしく散りて落つる滝つ瀬](妹背滝;雄滝)
 永恭(えいきょう/ながちか・狩野) → 為恭(ためちか/ためたか・冷泉/岡田、絵師/歌) H 2 6 0 0
 永教(えいきょう・石坂) → 宗哲(そうてつ・石坂いしざか、医官/鍼灸) I 2 5 5 5
 永教(えいきょう・玉田) → 永教(ながのり・玉田たまだ/横山、神道家) F 3 2 3 3
 永教(えいきょう・青木) → 永教(ながのり・青木あおき/藤原、幕臣/歌) K 3 2 6 5
 英教(えいきょう・小出) → 英教(ふさのり・小出こいで/大村、藩主/歌) H 3 8 8 3
 栄境(えいきょう;字) → 日証(にっしょう;法諱・誠諦院、日蓮僧) E 3 3 2 5
 栄郷(えいきょう・山田) → 以文(もちぶみ・山田/藤とう、神職/故実) B 4 4 6 3
 F1357 裔翹(裔堯えいぎょう;法諱)? - ? 鎌倉後期室町初期の臨濟僧;竺仙梵僊門;法嗣、
 「竺仙和尚語録」「来々禅子東渡集」編
 永慶(えいきょう) → 永慶(えいけい;法諱・松崎僧都、天台僧) C 1 3 6 4
 永業(えいぎょう・奥田) → 鶯谷(おうこく・奥田、儒者) C 1 4 1 0
 英玉翁(えいぎよくおう) → 頼因(よりくに・井上、国学者/歌人) I 4 7 6 0
 1321 永瑾(えいきん;法諱・雪嶺せつれい;道号)1447-1537 91歳 丹後の臨濟僧;建仁寺十如院九峰以成門;
 出家、九峰以成の嗣法;十如院住、播磨永昌寺住持/1508建仁寺245世、詩文;天隱竜沢門、
 杜甫の詩を研究、「梅溪集」「識廬和尚疏稿」「識廬秉弘法語」「百丈清規抄」「杜詩鈔」、
 「雪嶺和尚語録」「雪嶺瑾禅師手書」外著多数、
 [雲嶺永瑾の号] 識廬/樵庵/梅溪
 栄欣(えいきん・西田) → 柳谷(りゅうこく・西田にしだ、医者) D 4 9 9 0
 C1362 英弘(えいごう・えいこう;法諱)? - ? 鎌倉期建久1190-99頃の僧;興福寺知足院の法相学僧、
 法相;興福寺信憲門、三会講師を勤む/堯思坊に住;唯識を構ず、
 1199「因明抄」「因明五帖問答鈔」、「一因違四」「一因違四比量」著
 衛愚(えいぐ・加藤) → 謙斎(けんさい・加藤かとう、医者/詩文) B 1 8 8 2
 1322 叡空(えいくう;法諱・号;慈眼房、藤原伊通男?)?-1179?(1181存説あり) 平安後期比叡山西塔学僧、
 天台法華宗;延快門/円頓戒;良忍門/浄土教を修学;念仏誦經/黒谷流戒師、上人、
 1150法然の師、「円頓戒法秘蔵大綱集」著、歌・続後撰586、
 [なにゆゑか宿をあくがれ出でにけんさし入る月の光をも見で](続後撰;釈教586)
 [慈眼房叡空の称] 疑空/叡空上人
 栄空(えいくう) → 尚頭(ひさあき・勸修寺かじゅうじ、廷臣/日記) 3 7 7 9
 栄九郎(えいくろう・宝生/服部) → 沾厩(せんぼ、宝生/服部、能楽師/俳人) G 2 4 6 0
 C1363 英訓(えいくん;法諱、俗姓;山田)?-? 1529存 山城の三論僧/密教も修学、初め観音院住/東大寺住、
 1508「因明一因違三極秘」10「後三違決」22「勸学講論義草」29「因明一因違三私」外著多数
 永薫(えいくん;法名) → 昌経(まさつね・逸見へんみ/瀬尾/源、武将/城主) E 4 0 0 2
 C1364 永慶(えいけい/えいぎょう/ようけい;法諱・通称;松崎僧都、大納言藤原齐信男)996-1066 71 天台宗園城寺僧、
 1043(長久4)権律師、1060(康平3)権大僧都、歌;金葉集解15入、
 [山桜峰は霞のこめつれば麓の花をおりてこそみれ](金葉集;橋本公夏筆本拾遺春部15、
 詞書;鞍馬寺大門の花ざかりなりとて下りてよめる)
 C1365 永敬(えいけい・狩野かとう、通称;縫殿助、号;幽賞軒/仲簡子、永納男)1662-1702 41 京狩野派絵師、
 「三十六歌仙絵本」画
 永慶(えいけい;字) → 蓮勝(れんしょう;法諱、浄土僧) B 5 1 1 7
 永慶(えいけい・高倉) → 永慶(ながよし・高倉、廷臣/故実家) G 3 2 3 7
 栄卿(えいけい・舟生) → 釣浜(ちようひん・舟生ふなり/ふにゅう、儒者) J 2 8 7 2
 栄卿(えいけい・坪川) → 常通(つねみち・坪川つばかわ、和算家) D 2 9 8 8
 栄継(えいけい) → ひでつぐ?・北 → 可継(よしつぐ・北きた、藩家老/詩/日記) E 4 7 6 6
 栄慶(えいけい) → 榮性(えいしょう・諦純、真言僧) D 1 3 0 0

- 英卿(えいけい・後藤) → 九阜(きゅうこう・後藤ごとう、儒者/詩文) M 1 6 5 3
 嬰卿(えいけい・川口) → 緑野(りよくや・川口かわぐち、医/藩儒) J 4 9 8 1
 永潔(えいけつ・近田) → 永潔(ながきよ・近田ちかだ/矢野、庄屋/国学) N 3 2 8 7
 英月(えいげつ;字) → 日饒(にちによ;法諱・興善院、日蓮僧) D 3 3 0 4
 郢月泉(えいげつせん) → 巴人(はじん・早野、俳人) 3 6 1 8
 郢月泉(えいげつせん) → 阿誰(あすい・箱島はこしま、巴人門俳人) B 1 0 1 0
 U1347 栄憲(えいけん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
 1237刊[檜葉集]入、
 [互ひに忍ぶ恋といへる心を、
 人めをもおなじ心にしのばずはあはぬつらさをたれになさまし](檜葉;恋371)
 C1366 英賢(えいけん;法諱・号;恵生房)?-? 1257存 鎌倉期;紀伊日高郡の真言僧、1257高野山檢校、
 「毘慮遮那仏別行記」著
 1324 栄賢(えいけん) ? - ? 鎌倉期;藤家流朗詠家、
 1265「朗詠要抄」心空と共著、
 朗詠秘曲の相伝は;栄賢⇒心空⇒因空(豪愉)⇒普一 と相伝
 C1367 永兼(えいけん) ? - ? 連歌:1472紹永催「美濃千句」参
 C1368 英憲(えいけん;法諱・字;密乘)?- ? 1531存 東大寺三論学僧/俱舎も修学、
 1506「因明抄物類集」「因明広文集問題篇目」26「勸学講問答抄」/31「愚舎論英憲鈔」外著多
 C1369 栄軒(えいけん・高野たかの、永貞/通称;秀右衛門) 1693-1773 越後長岡藩儒、性理学;小川晚翠門、
 古義学修得/藩政に寄与、「藩主牧野家系図」著、余慶よけの父
 C1370 栄建(えいけん・檜林ならばやし、3世栄哲の長男) 1801-75 父は肥前佐賀藩侍医、宗建そうけんの兄、
 蘭医者;檜林家で一般患者の治療に当たっていたシーボルト門、
 1839(天保10)牛痘液輸入に関与;弟宗建と牛痘法普及に尽力、1840弟に家督を譲渡し上京、
 京の富小路三条上ルで医を開業;種痘有信堂を開設、維新後は種痘医として活動、
 新宮涼庭・高島秋帆と交流、1835「南山余唱」、「西洋火薬法」「西洋軍艦表」著、
 [栄建(;通称)の名/字/別通称/号]名;高秀/恭、字;子良、初通称;栄祐、号;静山/椿陰ちんいん
 永賢(えいけん・松井) → 永賢(ながよし・松井、官人/歌人) G 3 2 5 1
 永建(えいけん・中台) → 元(はじめ・中台なかだい、藩士/儒者) E 3 6 4 3
 栄建(えいけん・足立) → 櫟亭(れきてい・足立あだち/江沢、蘭学者) 5 1 8 0
 栄賢(えいけん・吉田) → 栄賢(ひでかた・吉田、藩士/詩人) C 3 7 9 5
 英顕(えいけん・佐久間) → 英顕(ふさあき・佐久間さくま、幕臣/国学) I 3 8 2 7
 瑛兼(えいけん;名) → 如晴(にょせい;法諱・恵明院、真宗僧) G 3 3 0 2
 影見(えいけん・石尾) → 有則(ありのり・石尾いしお、藩士/歌/宗教家) G 1 0 9 9
 1323 永源(えいげん/ようげん;法諱、称:山人、藤原敦舒男)?-? 母;惟任の乳母、東大寺の三論僧;法師、
 観世音寺別当?、歌人;1076「源経仲歌合」参加、
 勅撰9首;後拾遺(7首81/141/254/645/666/674/844)金葉(653)詞花(119)、続詞花集入、
 [桜花咲かば散りなんと思ふよりかねても風のいとほしきかな](後拾;春81)、
 藤原義孝のりたかと兄弟、尊卑分脈の永縁と兄弟説(父;藤原永相/母;大江公資女)は誤か?
 参考 → 義孝(のりたか・藤原、歌人) E 3 5 7 8
 → 永縁(えいえん/ようえん、興福寺僧/歌人) 1 3 1 4
 C1371 荣源(えいげん) ? - ? 平安後期;叡山僧/歌人、1134「打聞集」書写
 B1300 荣玄(えいげん;;法諱) ? - ? 江前期真宗受徳寺僧;綽如しやくにょ3男玄真の曾孫、
 1689「荣玄聞書えいげんききがき」(荣玄記;蓮如・実如・証如の聞書集):連恵れんえ・正勝らと集成
 荣元(えいげん・三宅) → 荣元(ひでもと・三宅みやけ、藩士/剣術家) L 3 7 3 3
 荣巖(えいげん) → 榮巖(えいごん;法諱・天霊、真言僧) C 1 3 7 5
 荣彦(えいげん・松木) → 荣彦(さかひこ・松木/度会、神職) H 2 0 1 1
 永愿(えいげん;法諱) → 永愿(ようげん;法諱、真言僧) 4 7 7 6
 永元(えいげん・古森) → 永元(ながもと・荒木田あらかだ、神職/歌人) P 3 2 5 8
 永言(えいげん・古森) → 痴雲(ちうん・古森こもり、書家/俳人) 2 8 4 1
 永言(えいげん・小栗) → 永言(ながこと・小栗おぐり/港崎可酔、国学/歌) K 3 2 2 8

- 永言(えいげん・生駒) → 永言(ながこと・生駒こま、藩士/歌人) L 3 2 0 7
 永言齋(えいげんさい) → 也有(やゆう・横井、藩士/俳人/詩歌) 4 5 1 7
- B1343 英怙(えいこ) ? - ? 連歌、1571「大原野千句」、73幽齋「大覚寺千句」参
- U1317 栄子(えいこ・二条にじょう、栄子まさこ内親王、霊元天皇第3皇女) 1673-1746 74 京の生、
 母;中宮新上西門院鷹司房子、1686(貞享3)内親王宣下/中納言二条綱平(のち関白)の室、
 1732夫没/1743二品、歌人、二条吉忠の母、1746(延享3)没、
 [栄子(;名)の幼名] 女二宮
- U1312 栄子(えいこ・芝崎しばさき、) ? - ? 江戸の神田明神祠官芝崎好全よしの妻、
 国学・歌人;賀茂真淵(1697-1769)門
- U1319 栄子(えいこ・福武ふくたけ、高淵喜七清方女) 1767-1805 39 備中浅口郡安倉村の生、
 浅口郡玉島の商家福武允まこと(香川景柄門歌人)の後妻、歌人;香川景樹門
 夫允の交友範囲広く武者小路公隆・香川景柄・景樹・賀茂季鷹・藤井高尚など多数、
 夫 → 允(まこと・福武ふくたけ、儒者/歌人) 4 0 7 6
- C1372 栄子(えいこ・あしやの) ? - ? 江後期;筑前遠賀郡芦屋の商家の妻女、
 1849(嘉永2)「不知火日記」著
- U1325 栄子(えいこ・涌谷わくや、仙台藩医涌谷玄恭女) 1788-1859 72 江戸の歌人
- T1389 栄子(えいこ・市田いちだ) 1809 - ? 江後期近江神崎郡の生、歌人;楓園時子門、
 市田義輔よしすけ(1798生)・市田時子(1801生)の妹、市田伴十郎の妻;近江蒲生郡に住、
 才女;能書家
- U1318 栄子(えいこ・芳賀はが、旧姓;小県) 1811-39 早世 29 近江彦根の歌人;[彦根歌人伝・亀]入
- F1377 栄子(えいこ・慶行よしゆき女) ? - ? 江後期;歌人、父慶行は不詳;池田慶行か?;
 (但し早世[17歳]のため池田慶行には許嫁は解消;室はいない)、
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [佐保姫や霞の袖につつむらむ音のみ落つる布引の滝](大江戸倭歌;春76)
 [忘らるる秋なかりせばあふぎてふ名も頼もしく思ひこそせめ](同;恋1614/寄扇恋)
- 栄子(えいこ・中川) → 久昭室(ひさあきのしつ・中川なかがわ、加藤泰濟女/歌) L 3 7 7 6
 栄子(えいこ・高橋) → 栄子(はえこ・高橋たかはし/丸山、残夢の妻/歌人) K 3 6 3 8
 英固(えいこ) → 英因(えいん、法眼、歌人) B 1 3 4 0
 英古(えいこ/ひでふる?・梶) → 旗山(きざん・梶かじ、藩士/画/茶) K 1 6 7 1
 永古(えいこ・青木) → 永古(ながひさ・青木あおき、神職/歌人) K 3 2 7 2
 瀛壺逸史(えいこいっし) → 元贇(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳) B 1 8 2 7
- B1330 永好(えいこう) ? - ? 平安後期;僧/歌人、1050兼房歌合参加、
 [秋ごとに來る初雁の声ききてあはれといはぬ旅のなきかな](兼房歌合;初雁阿智番左)
- C1373 齋綱(えいこう;法諱) ? - ? 鎌倉末-室町初期の臨濟僧;竺仙梵僊門/法嗣、
 「竺仙和尚語録」;齋翹(えいぎょう)と共編
- C1374 英洪(えいこう/えいごう;法諱、俗姓;菅谷、法印英周男) 1707-? 1756 存 天台僧/妙法院宮の坊官、
 1747(延享4)法印、56位階を辞退、「霊元院尊義十七回聖忌雜記」著
- B1344 盈行(えいこう) ? - ? 俳人・蓼太門、1763耳徳「芙蓉文集」入
 英公(えいこう) → 頼重(よりしげ・松平、藩主/茶・歌人) I 4 7 7 3
 英弘(えいこう) → 英弘(えいぐ・平鎌期興福寺法相学僧) C 1 3 6 2
 英好(えいこう・稲葉) → 英好(ひでたか・稲葉いなば、国学者) I 3 7 5 2
 英綱(えいこう・渡辺) → 英綱(ひでつな・渡辺わたなべ、和算家) D 3 7 2 5
 英興(えいこう・本堂) → 英興(ひでおき・本堂ほんどう、藩士/国学者) K 3 7 9 8
 栄光(えいこう・日野) → 時光(ときみつ・日野/裏松/藤原、廷臣/歌) K 3 1 0 8
 栄行(えいこう・堤/葉室) → 頼熙(よりひろ・葉室はむろ/藤原/堤、権大納言/記録) J 4 7 6 6
 栄弘(えいこう・北村) → 栄弘(ひでひろ・北村きたむら、医者/国学) J 3 7 2 9
 栄孝(えいこう・重村) → 栄孝(しげたか・重村しげむら/林、神職/国学) O 2 1 7 5
 永広(えいこう→ながひろ・原田) → 永寛(ながひろ・原田はらだ、神職/医者/詩歌) O 3 2 4 6
 永好(えいこう・間宮) → 永好(ながよし・間宮まみや、藩士/国学者) G 3 2 4 7
 永好(えいこう・吉田) → 永好(ながよし・吉田よしだ、商家/国学) P 3 2 3 0

- 永孝(えいこう・三好) → 想山(しょうざん・三好みよし、藩士/書家) J 2 2 3 0
永杲(えいこう・東輝;道号) → 東輝(東暉とうき・永杲、臨濟僧) C 3 1 4 5
永興(えいこう・吉田) → 永興(ながおき・吉田よしだ、商家/国学) P 3 2 3 0
影光(えいこう/かげみつ?・日置) → 正次(まさつぐ・日置へき、弓術家) D 4 0 8 4
衛興(えいこう・三浦) → 瓶山(へいざん・三浦みづら、藩儒) 2 7 3 9
栄孝堂(えいこうどう) → 寿山(じゅざん・佐々木/高杉、医/藩儒) Y 2 1 8 4
栄国(えいこく・武谷) → 栄国(ひでくに・武谷たけくに、藩士/歌) L 3 7 5 2
栄五郎(えいごろう・向山) → 黄村(こうそん・向山むこうやま/一色、幕臣/詩) G 1 9 6 6
鋭五郎(えいごろう・伴) → 信友(のぶとも・伴ばん、藩士/国学者) 3 5 1 0
- C1375 榮巖(えいざん;法諱・字;天靈、俗姓;上撫/別所) 1814-1900⁸⁷ 淡路津名郡相川の真言僧;1826出家、
1828(文政11)高野山に修業;灌頂を受/34下山;のち高野山再山、
眞別処隆鎮門;広く諸流の伝受、1862(文久2)眞別処の上座;以後別所と改姓、
維新後1880大教正/84弘法大師1050年遠忌に東大寺で結縁灌頂を修す;大阿闍梨、
1888真言宗長者、「安流聞書」「午水大事」「諸流行要」「随流伝受聞書」「午水大事」外著多数
[榮巖(;法諱)の号]号;一不道人
瑛沙(えいさ・山陽堂、狂歌師) → 山陽(さんよう・芝の屋) G 2 0 0 9
- B1398 枝去来(えいざい・香宮かみや、神屋永三)?-? 歌謡、1782羽積「歌系図」跋文
U1349 永濟(えいさい;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
歌人;1237刊[檜葉集]4首入、
[すそのより山わけ衣ぬれそめてたもとにおもき峰の秋ぎり](檜葉;羈旅634)
- 1303 榮西(えいさい/ようさい;法諱・明庵みょうあん/みなん;道号、俗姓;加陽/賀陽かや) 1141-1215⁷⁵ 日本臨濟宗祖、
備中吉備津宮の出身/初め天台を修学、1167・1187二度入宋;明州天童山の虚庵懐敞門、
臨濟禅を嗣法;四分戒・菩薩戒を受、帰国後九州・三備に伝道/1198「興禅護国論」著す;
この著で禅宗の独立を宣言、旧仏教の非難を避け鎌倉に下る;将軍家の帰依を受ける、
鎌倉に寿福寺開創/京に建仁寺開創、禅と天台教学の興隆に尽力;台密葉上流の祖、
東大寺大勸進職/法勝寺九重塔再建;僧正、茶の普及など各方面に活動、
1178「請願寺孟蘭盆縁起」80「結縁一遍集」81「秘宗隠語集」98「興禅護国論」、
1200「出家大綱」/1211「喫茶養生記」(;源実朝に献上)/15「入唐縁起」、「榮西入唐縁起」、
「靈松一枝」「一代経論総釈」「一心戒儀軌」外著多数、歌;続古今集899、雲葉集入、
[もろこしのこずゑもさびし日の本のははそのもみぢ散りやしぬらん]、
(続古;羈旅899/宋に滞在中秋風身にしむ夕に母を思い詠む/雲葉;羈旅980)、
[明庵榮西の号/通称]号;葉上房、通称;葉上僧正/千光法師
- 1325 永濟(えいさい・西生にしなり、兼名男)?-? 戦国期永正-天文1504-55頃近江蒲生中山の隠士・
父戦死後蒲生智閑に養育される、「和漢朗詠集註」著(1671刊)
- U1356 英齋(えいさい・梅春軒ばいしゅんけん、)?-? 江中期;伊予川之江の歌人、
1722頃内海頭糺[倭譚五十人一首追加]入、
[うらみるを葛の葉になど限るらんそれとわけても風の吹くかは]、
(追加;葛風/裏返すのは葛の葉とは限らないのに)
- C1376 榮濟(えいさい・今枝いまえだ、別名;濟/字;允明/通称;竹庵、号令齋)?-? 京の本草家・松岡恕庵門、
1742「年中日次記」45「園塵」、「文哉堂手録」著
- C1377 羸齋(えいさい・吉益よしまつ辰、東洞男) 1767-? 1792大坂船場の医者、「万病一毒」「丸散解」著、
「東洞先生丸散方」「羸齋先生方研抄」著
- C1378 英齋(えいさい・三宅みやけ、名;恪/字;子勤、別号;金江) 1810-78⁶⁹ 大坂堂島の絵師;玉手棠洲門、
山水花鳥画、1832「新撰七夕狂歌集」画
- C1379 英齋(えいさい・長島ながしま) ? - ? 江後期江戸神田旅籠町一丁目の書家、歌人、
1857「木曾棧」「松島日記」著、
[英齋(;号)の名/字/通称/別号]名;重英、字;二矛、通称;英四郎、別号;大林堂
英齋(えいさい・歌川) → 国景(くにかげ・歌川、絵師) C 1 7 6 7
英濟(えいさい・高橋) → 南溪(なんけい・高橋、医者/儒) I 3 2 8 7

- 栄齋(えいさい・竹口) → 尚重(なおしげ・竹口たけぐち/津久井、国学) B 3 2 3 0
 栄齋(えいさい・梅村) → 眞守(まもり・梅村うめむら/坂本/金子/小林/平、勤王家) O 4 0 0 1
 栄哉(えいさい・太田) → 栄哉(ひでちか・太田おた/源、庄屋/国学) I 3 7 9 1
 永齋(えいさい・中村) → 時万(ときかず・中村、幕臣/和算) J 3 1 0 0
 永齋(えいさい・坂本) → 浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0
 盈齋(えいさい・葛飾) → 北岱(ほくたい・葛飾かつしか/森川、絵師) D 3 9 7 0
 英材(えいざい・在原) → 英材(ひでき・在原、;廷臣/歌) D 3 7 0 0
 英齋泉寿(えいさいせんじゅ;初号) → 英寿(えいじゅ・景齋、可候門絵師/戯作) C 1 3 8 9
 英齋白水(えいさいはくすい) → 白水(はくすい・英齋、絵師) D 3 6 4 5
 盈齋北岱(えいさいほくたい) → 北岱(ほくたい・葛飾、絵師) D 3 9 7 0
 栄左衛門(えいざえもん・山添) → 勝長(かつなが・山添やまぞえ、国学者) N 1 5 6 4
 栄左衛門(えいざえもん・初川) → 春栄(はるひで・初川はつかわ、商家/和学) K 3 6 6 3
 栄左衛門(えいざえもん・檜林) → 高明(たかあき・檜林ならばやし、オランダ通詞) L 2 6 4 9
 栄左衛門(えいざえもん・久米) → 通賢(みちかた・久米、藩士/暦算/測量) B 4 1 3 5
 栄左衛門(えいざえもん・唐木) → 埴麿(はにまる・唐木からき、商家/国学/歌) J 3 6 9 6
 永策(えいさく・脇) → 有貴(ありたか・脇わき、儒者) F 1 0 3 7
 英作(えいさく・山内) → 繁樹(しげき・山内やまうち、酒造業/国学) C 2 1 1 3
 栄作(えいさく・植田) → 義方(よしかた・植田うえだ/高須、商家/歌・俳) C 4 7 6 9
 栄三郎(初世えいざぶろう) → 菊五郎(きくごろう・尾上、歌舞伎役者) 1 6 9 5
 栄三郎(えいざぶろう・柴田) → 芳州(ほうしゅう・柴田しばた、絵師) B 3 9 5 7
 栄三郎(えいざぶろう・植松) → 是勝(ぜしょう・植松うえまつ/中村、和算家) K 2 4 6 0
 栄三郎(えいざぶろう・山内) → 貞足(さだたり・山内やまうち、国学者/歌人) P 2 0 6 9
 栄三郎(えいざぶろう・渡辺) → 為親(ためちか・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 3 9
 英三郎(えいざぶろう・松浦) → 静山(せいざん・松浦まつら、藩主/儒/詩歌) B 2 4 7 6
 英三郎(えいざぶろう・野間) → 成式(せいしき・野間のま、幕臣/医者) I 2 4 5 7
 英三郎(えいざぶろう・堀池) → 千座(ちくら・堀池ほりいけ、神職/国学/歌) N 2 8 4 7
 1326 栄算(えいさん・法印) ? - ? 鎌倉期;僧/宿曜師?、
 歌人、玉葉1087・続千載1862、
 [天つ空星のくらみを数へてぞ行末とほき御代はしらるる](玉葉;賀1087)
 永三(えいさん/えいぞう・松永) → 思斎(しさい・松永まつなが、儒者) D 2 1 6 6
 永三(えいさん・神屋) → 枝去来(えいざ・香宮かみや、歌謡) B 1 3 9 8
 英粲(えいさん・松田/小出) → 粲(つばら・小出/松田、藩士/歌人) E 2 9 3 1
 C1381 映山(えいざん・福原ふくはら、名;尚脩/字;承明/別号;水雲、百練[丹安]男) 1735-68³⁴ 大阪の医者、
 詩人;混沌社友、書画/篆刻を嗜む、「映山遺稿」
 1327 英山(えいざん・菊川きくかわ、名;俊信、英二男) 1787-1867⁸¹ 江戸市ヶ谷の造花業、絵師;菊川派の祖、
 画;父/鈴木南嶺門、1840頃から美人画/合巻挿絵;歌川派に対抗、晩年は上州藤岡住、
 「春の山」「青楼五人女」「新曲撰狂歌集」「艶本恋の操」「傾城貞操亀鑑」画、
 [英山の通称/別号] 通称;万五郎/佐花屋万吉、別号;重九齋/児玉屋英山(藤岡での号)
 英山(えいざん・伊達) → 斉宗(なりむね・伊達、藩主/歌人) I 3 2 3 0
 英山(えいざん・立花) → 鑑虎(あきとら・立花、藩主/連歌) D 1 0 6 5
 英山(えいざん・千村) → 重治(しげかる・千村ちむら、藩士/記録) S 2 1 2 6
 栄山(えいざん;法諱) → 志道軒(しどうけん、真言僧/講釈師) F 2 1 2 7
 影山(えいざん・小泉) → 則之(のりゆき・小泉、和算家) G 3 5 1 4
 永山(えいざん・曾) → 槃(はん・曾そう/宋そう、本草/医者) H 3 6 1 5
 叡山大師(えいざんだいし) → 最澄(さいちよう;法諱、天台開祖/歌) 2 0 0 5
 C1382 盈子(えいし・小槻おつき、雅久女、伊予局、三位局)?-? 戦国期享祿1528-32頃;後奈良天皇の女房、
 寛如親王の母、「伊予局日記」著
 C1383 衛士(えいし/えいじ;通称・竹内たけうち、名;軌周)?-1746 陸奥弘前藩士;江戸詰/1726御目付役、
 1735諸手物頭、1743鑓持奉行/用人、詩文、1737「陸奥津軽領産物絵図帳」編
 C1384 英子(2世えいし・津打つづつ・つづら、初号;清三郎)?-? 江中期江戸中村座の歌舞伎作者;初世英子門、

- 番付作者;1779「帰花英雄太平記」81「四天王宿直着綿」/85「日本出世鑑」「女郎花名に愛滝」
- 1328 **栄之**(えい・鳥文斎ちようぶんさい、旗本細田ほそだ時行男/本姓;藤原) 1756-1829 74 幕臣;1772家督嗣、
1781御小納戸/83西丸御小納戸/致仕;寄合、画;狩野典信門/浮世絵師;鳥居文竜斎門?、
肉筆画/黄表紙挿絵を描く、挿絵;1788「怪談四更鐘」/89「芋世中」97「狂歌柳の糸」外多数、
錦絵;「風流やつし源氏」「風流七小町」「福人略宝合」「青楼美撰合」外画多数、
[鳥文斎栄之(;号)の名/通称/別号]名;時富、通称;弥三郎/民之丞/源次郎、別号;米花斎
- B1345 **英子**(えい・石橋亭) ? - ? 江後期俳人;雑俳・田舎坊左右児門、
1805以後;左右児追善集「古今田舎樽」編
- B1399 **英之**(えい・米花斎、通称;源次郎) ?-? 江後期天保1830-44頃江戸麴町絵師;溪斎英泉門、
1832春水「吾妻の春雨」34「心意気」35「今年嘶」「和説仮名論語」画、
「ささめごと」「難波の俄雨」画
- 栄子(えい;隱名、菊葉集入) → 治仁王(はるひとおう・伏見宮、歌) G 3 6 8 0
 栄思(えい;俳名) → 二三治(にそうじ・三升屋、歌舞伎作者) 3 3 0 2
 栄之(えい・池田) → 氷川(ひょうせん・池田いけだ、農業/儒者) F 3 7 3 0
 英子(初世えい・津打つつか・つうち) → 治兵衛(2世じへえ・津打、歌舞伎作者) 2 1 3 4
 英子(えい;俳名) → 与三兵衛(初世よそべえ・鈍通、歌舞伎作者) I 4 7 1 3
 英之(えい・河崎) → 秀憲(ひでのり・河崎かわさき、神職/俳諧) D 3 7 6 1
 英之(えい・村松) → 果卿(かけい・村松むらまつ、藩士/儒者) H 1 5 4 1
 英至(えい・野村) → 英至(ひでゆき・野村のむら、地誌) E 3 7 0 5
 英氏(えい・石野) → 英氏(ひでうじ・石野いしの、藩士/記録) C 3 7 8 1
 瑛子(えい・西園寺) → 昭訓門院(しょうくんもんいん、龜山天皇妃/女房歌人数) I 2 2 1 4
 鋭子(えい・本多) → 鋭子(とじこ・本多ほんだ、歌人/生花) W 3 1 3 8
 盈之(えい・島倉/司馬) → 凌海(りょうかい・司馬しば/島倉、蘭医/語学) G 4 9 8 2
 盈之(えい・紀) → 盈之(みゆき・紀きの、国学者) I 4 1 8 5
 盈枝(えい・吉田) → 盈枝(みづえ・吉田よしだ、商家/和学/連歌) K 4 1 9 2
 盈始(えい・石塚) → 盈始(みづもと・石塚いづか、歌人) L 4 1 2 3
 衛之(えい・岡) → 蔵治(くらじ・岡おか、藩士/詩人) D 1 7 5 0
 衛士(えい・吉田) → 澹軒(たんけん・吉田よしだ、藩家老/財政) T 2 6 3 7
 衛士(えい・井上) → 素良(もとよし・井上/藤原/梯、藩士/国/史学) J 4 4 1 4
 永錫(えい・狩野) → 永錫(えいしやく・狩野かのう/三谷、絵師) U 1 3 0 7
 永錫(えい/えいしやく・狩野) → 三雄(みつお/さんゆう・狩野かのう/三谷、藩御用絵師) I 4 1 6 6
- C1326 **永氏**(えいじ) ? - ? 伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子えのこ集」1句入、
[雪にたはむ竹やさながら木綿弓きわたゆみ](犬子集;1415、
木綿弓;繰り綿を打って柔らかくする弓形の道具)
- C1327 **永治**(えいじ・畑はた与兵衛、屋号;山形屋) ?-? 京の商人/俳人、1633重頼「犬子集」6句入、
[手ごとにもたゝきならすは鈴菜ずな哉](犬子集;99/鈴を鳴らすと七草を叩くを重ねる)
- F1369 **栄治**(えいじ・古妻) ? - ? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第五青梅発句/花火第三句等入、
[青梅や鶯ならでとり肴](生玉万句;青梅発句/取り肴;酒の肴)
- B1346 **栄治**(えいじ・原はら、栄宅男、和平とも?) ?-? 1740年代の京の売薬商/講釈師;軍書講釈に長ず
- C1385 **栄治**(えいじ・奥野おくの) ? - ? 江中期;歌舞伎作者;奥野瑳助門、
1775「初冠賤束帯」76「増補河内通」77「江戸綉小袖曾我」78「伊達錦対将」著
- C1386 **栄治**(栄次えいじ・戸田とだ、玄泉[仙]堂) ?-? 江後期大阪炭屋町書家/書肆、1800「世話千字文」書、
1800「諸通文鑑」「会所往来」01「問屋往来」02「女諸通文鑑」書
- 永治(英二えいじ・白井/菅江) → 眞澄(ますみ・菅江すがえ、国学/地誌) J 4 0 2 3
 永二(えいじ・小野) → 素郷(そきょう・小野、商家/俳人/謡曲) D 2 5 4 8
 英二(えいじ・佐久間) → 熊水(ゆうすい・佐久間さくま、儒者/詩人) C 4 6 8 1
 英次(えいじ・古川) → 松根(まつね・古川ふるかわ、藩士/歌人) J 4 0 8 3
 英次(えいじ・篠崎) → 睨孤(けいこ・篠崎しのぎ、漢学者/兵法) F 1 8 5 3
 英時(えいじ・北条) → 英時(ひでとき・北条/赤橋/平、幕臣/歌) D 3 7 3 0

- 栄司(えいじ・桜井) → 政賢(まさかた・桜井さくらい/下田、神職/歌) Q 4 0 0 2
 栄次(えいじ・上野) → 梅塙(ばいじ・上野うえの、書家/詩歌) J 3 6 7 6
 栄治(えいじ・伊藤) → 栄治(ひではる・伊藤いとう、国学/歌人) D 3 7 7 0
 栄治(えいじ・中路) → 延年(のぶとし・中路なかじ/岡本、藩士/尊攘) J 3 5 3 4
 栄時(えいじ) → 栄時(ひでとき、歌人) L 3 7 8 1
 栄滋(えいじ・杉山/野尻) → 栄滋(ひでしげ・野尻/杉山、藩士) D 3 7 0
 盈持(えいじ・鶴飼) → 伝右衛門(でんえもん・鶴飼、藩士/家譜編) D 3 0 1 5
 衛司(衛士えいじ・佐竹) → 永海(えいかい・佐竹さたけ、絵師) B 1 3 9 3
 衛士(えいじ・原田) → 豊岳(とよおか・中尾なかお/三木/原田、国学) V 3 1 8 9
 栄枝館梅若(えいじかんばいじゃく) → 梅若(ばいじゃく・栄枝館、地口作者) B 3 6 4 3
 永七(えいしち・穀田屋/高平) → 斗興(とこう・高平たかひら、俳人) L 3 1 7 0
 衛七(えいしち・森) → 貞温(さだはる・森もり、神職/国学) N 2 0 2 6
 栄七郎(えいしちろう・楢林) → 高明(たかあき・楢林ならばやし、オランダ通詞) L 2 6 4 9
 栄七郎(えいしちろう・多賀屋) → 正岑(まさみね・宮下/源/宮/堀越、名主/歌人) H 4 0 7 4
 U1352 **永実**(えいじつ;法諱、撰関藤原師実[1042-1101]男)?-? 平安後期;園城寺僧/法印/一身阿闍梨、
 号;宇治法印、内大臣師通・花山院家忠・大炊御門経実・大納言能実・忠教・尋範らの兄弟、
 ☆1237刊素俊撰[檜葉集]入の[永実法師]とは別人か?
 [浦風のたゆむかたにやめぐるらむたえだえみゆるあまの漁り火](檜葉;933/永実)
 栄実(えいじつ・奥村) → 栄実(てるさね・奥村、国学/藩学制改革) C 3 0 7 4
 英実(えいじつ・大田) → 英実(ひでさね・大田おた、藩士/教育) I 3 7 8 3
 永日(えいじつ・柏木) → 如亭(じよてい・柏木/柏、幕府棟梁/詩) C 2 2 8 3
 永日庵歌種(えいじつあんうたたね) → 手枕歌種(たまくらうたたね・永日庵、狂歌) S 2 6 2 4
 永日庵其律(えいじつあんきりつ) → 其律(きりつ・永日庵、狂歌・俳人) D 1 6 7 2
 栄室主人(えいしつしゅじん) → 方主(かたぬし・猪熊いのくま/卜部、神職) N 1 5 0 4
 1329 **栄子内親王**(えいし/ながこないしんのう、後二条皇女)?-? 母;藤原公泰女の権大納言局、南北期歌人、
 「伏見殿六十番歌合」参加、続現葉/藤葉集(3首)入、
 勅撰5首;続後拾遺(708)風雅(1646)新千載(1350)新拾遺(1302)新続古今(1860)、
 [よしさらば渡りもそめじ思ひ河うきせに袖のぬれもこそすれ](続後拾;恋708)、
 [しのぼるるむかしも遠くなるぬべしくれ行くとしのなごりのみかは](藤葉;冬378)
 英舎(えいしゃ) → 保之(やすゆき・木間このま/藤原/源、歌人) D 4 5 4 2
 1330 **永釈**(えいしゃく;法諱・彌天みてん/びてん;道号、諡号;見性悟心禅師)?-1406 南北期近江臨濟僧;寂室門、
 甲斐浄土寺住持/1368永源寺2世/87近江永安寺開山、「彌天和尚語録」「彌天和尚法語」著
 U1307 **永錫**(えいしゃく・狩野かのう、三谷永雪2男)?-1822 筑後久留米の絵師;狩野永徳門/狩野姓を許可、
 法橋/1793(寛政5)法眼、北川すが(歌人)の父、
 [永錫(;号)の名/通称/別号]名;徳之助(初名)/映信、通称;主常、別号;両高斎
 徳之助(とくのすけ・三谷) → 永錫(えいしゃく・狩野かのう/三谷、絵師) U 1 3 0 7
 永錫(えいしゃく・狩野) → 三雄(みつお/さんゆう・狩野かのう/三谷、藩御用絵師) I 4 1 6 6
 永錫(えいしゃく・中村) → 時万(ときかず・中村、幕臣/和算) J 3 1 0 0
 1331 **永種**(えいしゅ・松永[祖母の姓]、号;徳庵、貞徳父、高槻城主入江政重男)1538?-98? 連歌師;宗養門、
 初め僧籍;20歳で還俗、仁如/幽斎/紹巴らと交流、貞徳の父、
 1558「弘治四年二月永種有馬歌仙」著
 英種(えいしゅ;法諱) → 万安(ばんあん;道号・英種;法諱、曹洞僧) H 3 6 1 8
 永主(えいしゅ・中村) → 永主(ながかず・中村、歌人) D 3 2 3 9
 永種(えいしゅ・高内) → 眞足(またり・高内たかうち/額田、神職) J 4 0 5 7
 栄春(えいしゅ・新山/池永) → 道雲(どううん・池永、書/篆刻) B 3 1 2 7
 C1387 **永寿**(えいじゅ、法師) ? - ? 平安後期叡山僧/歌人;
 1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;左方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で檢校広算主催)、
 [女郎花にはほはぬ野辺は秋来れど心とどむる人はあらじな](賢聖院歌合;四番左7)
 C1388 **永寿**(えいじゅ・若松わかまつ、初名;永貞、貞吉男/本姓藤原)1759-90³² 一条家の家侍、1783修理亮、
 1783「一条忠良公御元服次第」著

- U1313 **栄寿**(えいじゆ・鈴木すずき、名;磯子)1777-185074 下野鹿沼の儒者鈴木石橋せつきやう(1754-1815)の妻
- C1389 **英寿**(えいじゆ・景斎けいさい、姓;酒井さかい、通称;伊三郎)?-? 大阪の絵師:溪斎英泉[可候]門、
1825-7鼻山人「契情肝粒志けいせいきもつぶし」;英泉らと共画(英斎泉寿号)、画・戯作・狂歌作者、
戯作;1852「浮説歌線会山」53「小児やしなひ草」54「敵討九里伊賀越」55「容色仙代萩」著、
画;1852「甘口ばなし」「地口行燈」56「滑稽鈍癡奇論」65「扇ひらき嘶の新作」、「和歌柳」画、
外著作・画多数、
[景斎英寿の別号]英斎泉寿(;初号)/一筆庵[斎]/秃筆庵可一/一筆学士可一/吉泉子
永寿(えいじゆ/ひでとし・吉田)→ 令世(のりよ・吉田、儒者/歌人) 3 5 2 6
永尋(えいじゆ;別諱) → 教尋(きやうじん;法諱、真言僧) O 1 6 0 9
永樹(えいじゆ・山本) → 昌蔭(まさかげ・山本やまと/源/中島、藩士/国学) O 4 0 8 9
栄樹(えいじゆ・一宮) → 栄樹(さかき・一宮いちのみや、神職) N 2 0 8 8
栄寿(えいじゆ・川村) → 華陽(かやう・川村かわむら、詩人) H 1 5 5 2
盈寿(えいじゆ・桜井) → 盈寿(みつひさ・桜井さくらい、町年寄/国学) J 4 1 2 0
永壽院(えいじゆいん) → 道円(どうえん・賀島かしま、医者/歌) B 3 1 5 6
英脩(えいしゆう・神/諏訪)→ 英脩(秀脩ひでなが・神じん・諏訪、連歌) D 3 7 4 3
- F1358 **英秀**(えいしゆう;法諱) ? - ? 江前期寛文-元禄1661-1704頃の真言僧、
安井門跡道恕の総持院に住、法印、
1669「八幡宮末社遷宮二月堂上棟日記」92「大仏開眼供養並万僧供養之記」外著多数
- C1390 **永集**(えいしゆう;法諱・雲壑うんかく;道号)?-1717 臨濟僧、京建仁寺315世、「五岳廻状公儀触書控」著
- C1300 **栄秀**(えいしゆう・田村、緑竹軒栄秀)?-? 江前期京書肆/浮世草子作、1705刊「宝永千歳記」著、
1706浮世草子「京縫鎖帷子」刊行版元
- C1391 **英秀**(えいしゆう・静斎せいさい、別号;菊川きくかわ英秀/節香斎)?-? 文化-天保1804-44頃江戸絵師;
菊川英山門、人情本挿絵を描く、1840「六玉川」画
- C1392 **瀛洲**(えいしゆう・石山いしやま、)1754-181966 近江愛知郡の医者;箕山門、
詩歌文、「古方童謡」、「傷寒積義」、「庵詩鈔」、「牆東庵しょうとうあん詩鈔」、「牆東詩文抄」著
[瀛洲(;号)の名/字/別号]名;公文(きみふみ)/字;章卿/別号;瀛洲(えんしゆう)/牆東庵(しょうとうあん)
- U1309 **栄周**(えいしゆう・木幡こばた、)1825-188056 日向諸県郡の修験者、儒者に転向;篠崎小竹門、
都城の島津家の家臣、国学・歌;八田知紀門、薩摩藩造士館都講、西郷隆盛と交流;尊攘主唱、
1866(慶応2)蟄居、維新後;都城学校長を務める、
[栄周(;名)の通称/号]通称;正蔵/量介、号;覚温坊/無量院/鶴水
永修(えいしゆう・田谷) → 永修(ながまさ・田谷たや、神職/国学) N 3 2 6 6
永秀(えいしゆう・高倉) → 永秀(ながひで・高倉たかくら/藤原、廷臣/尊王) N 3 2 7 2
英脩(えいしゆう・神/諏訪)→ 英脩(秀脩ひでなが・神・諏訪、神職/連歌) D 3 7 4 3
栄秀(えいしゆう・吉田) → 翠屏(すいへい・吉田よしだ、農業/儒者) E 2 3 9 5
瀛洲(えいしゆう・横井) → 時敏(ときとし・横井、儒者/詩) J 3 1 4 5
瀛洲(えいしゆう・本多) → 壺山(こざん・本多、忠如、藩主/詩人) G 1 9 6 0
瀛洲(えいしゆう・小島) → 有卿(ゆうけい・小島こじま/川崎、藩医) B 4 6 3 5
- B1347 **永重**(えいじゆう/ながしげ・谷たに、法名;宗作)?-? 江前期和泉堺の俳人/連歌の宗匠、
1661「埋草」/70元順「寛伍集」入、1667(寛文7)長谷寺ちようこくじ秀政編「貝殻かいがら集」撰者の1、
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」/78西鶴「物種集」/82(天和2)「高名集こうみょうしゅう」入、
[鷺一羽柳に鞠の夕べかな](高名集;鷺の片足上げた姿を蹴鞠の上げ足に見立てる、
鞠の飛鳥井・難波両家は夏の夕に蹴鞠の会あり)
英重(えいじゆう・山澄) → 英重(ひでしげ・山澄やまざみ、藩家老/和学) M 3 7 1 8
栄重(えいじゆう・小野) → 栄重(よししげ・小野おの/須藤、和算家) D 4 7 6 1
栄重(えいじゆう・解良) → 栄重(よししげ・解良げら、国学者) D 4 7 6 7
栄充(えいじゆう・中山/阿刀/阿倍)→ 長彦(ながひこ・中山、神職/詩歌) F 3 2 4 1
栄十(えいじゆう・中野/御巫)→ 清富(きよとみ・御巫みかんなぎ、神職) P 1 6 9 8
盈重(えいじゆう・春日) → 花叔(かしゆく・春日かすが、俳人) L 1 5 8 8
永十郎(えいじゆうろう・浅野)→ 武経(たけつね・浅野あさの、藩士/国学/歌) U 2 6 3 3
栄樹園(えいじゆえん) → 直雄(なおたけ・吉永、歌人) B 3 2 5 3

- 栄樹園(えいじゅえん/さかきのその) → 広伴(ひろとも・小栗、国学/歌人) G 3 7 5 4
 栄樹園(えいじゅえん→さかきえん) → 敬雄(たかお・羽田野はたの、神職/国学者) C 2 6 5 4
 盈淑(えいしゅく・平林) → 盈淑(みつよし・平林、名主/商家/歌文) F 4 1 2 2
 英祝(えいしゅく・中村) → 焉馬(初世えんば・烏亭うてい、落語/戯作) B 1 3 3 3
 英淑(えいしゅく・井上) → 淑蔭((よしかげ・井上、国学/戯作/歌) 4 7 0 5
 英祝軒(えいしゅくけん) → 焉馬(えんば・烏亭、戯作者) B 1 3 3 3
 英叔周洪(えいしゅくしゅうこう) → 景洪(けいこう・英岳、臨濟僧) D 1 8 4 3
 榮壽軒(えいじゅけん) → 安鶴(あんつる、芸人) C 1 0 4 3
 永寿軒(えいじゅけん) → 安信(やすのぶ・小沢おざわ、京増七平、役人/歌) E 4 5 8 9
 栄寿太夫(初代えいじゅだゆう・清元) → 延寿太夫(2世えんじゅだゆう・清元、清元節) B 1 3 0 6
 永寿堂(えいじゅどう) → 梅岳(ばいがく・海野うんの、高橋/絵師) 3 6 8 6
- 1332 叡俊(えいしゅん・法印、疑俊?)?-? 鎌倉期歌人、権少僧都、1320成立「続千載集」1910、
 [吹き迷ふ嵐にかはる響きかな同じ麓の入相の鐘](続千載;雑1910)
- B1348 英俊(えいしゅん;法諱、号;長実房、俗姓;十市)1518-9679 法相僧;1528興福寺入;英繁門、因明教学、
 興福寺多聞院主/法印、権大僧都、1634-1596「多聞院日記」/「多聞院日記略」著
- U1327 英俊(えいしゅん;法諱、英俊法師?)?-? 江前期;大坂の真宗僧/光徳寺住僧、
 歌人;1688浅井忠能[難波捨草]10数首入、母も入集、
 [ふる郷を思ふ枕に夢覚めて草の筵にかかるしら露](難波捨草;羈旅699/旅宿)
- C1393 榮春(えいしゅん/えいしゅん・井岡いおか、喜之の母?)-1737 大阪の俳人;安原貞室門、剃髪、
 1673西鶴?「哥仙大坂誹諧師」/76西鶴「古今誹諧手鑑」入、84西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入;
 [月虚空くういる所をやしらま弓](女哥仙;11、虚空に入るとあてどころなく射るを掛る、
 白檀弓と知らぬを掛る)
- C1301 英春(えいしゅん・泉蝶斎/春川/溪斎?)?-? 江後期の絵師・溪斎英泉門、江戸小石川に住、
 美人画/挿絵制作、1816・26「寒紅丑の日待」画/1822山鳥「楊弓一面大当利」挿画、
 1822「花影胡蝶夢」/1827「郭の意気地」画、「今様化物退治」「絵本武者絵尽」画、
 「桃太郎鬼が島」画外多数
- C1394 英俊(えいしゅん;通称・村上むらかみ、名;義茂/義隆、字;棟梁、松園男)1811-9080 下野佐久山医者;父門、
 江戸で儒;大野鏡湖門/医学;足立長雋門/蘭学;宇田川榕庵門、1841信州松代で開業、
 松代藩医/フランス語;独学/藩主の援助で江戸で仏語書執筆/58蕃書調所教授/外国方翻訳方、
 1868仏学塾;達理堂開、1854「三語便覧」58「五方通語」59「仏蘭西詞林」64「仏語明要」著、
 [英俊の号] 茂亭/棠陰/鶴翁/松翁/棠庵閑人・法号;翠松院
- T1382 英俊(えいしゅん・ひでとし?・白石しらい?)?-? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [夕風に紅葉流るる竜田川錦をたたむ水のしがらみ](大江戸倭歌;秋1009/秋水)
- 英俊(えいしゅん/ひでとし・日向) → 元秀(げんしゅう・日向ひゅうが、本草家) J 1 8 6 2
 英峻(えいしゅん;法諱・高国) → 高国(こうこく;道号、曹洞宗僧) I 1 9 7 6
 英春(えいしゅん・大越) → 英春(ひではる・大越おおこえ、歌人) I 3 7 8 2
 英春(えいしゅん・栗岩) → 英春(ひではる・栗岩くりいわ、国学者) J 3 7 5 0
 永春(えいしゅん・長谷川) → 光信(みつね・長谷川、絵師) E 4 1 3 7
 永俊(えいしゅん・井上) → 永俊(ながとし・井上いのうえ、商家/歌人) L 3 2 0 3
 榮春(えいしゅん;字) → 隆光(りゅうこう;法諱・榮春、真言大僧正) D 4 9 7 5
 榮春(えいしゅん・新山/池永) → 道雲(どううん・池永、商家/書/篆刻家) B 3 1 2 7
 榮春(えいしゅん・井口) → 榮春(ひではる・井口いぐち、医者/小笠原調査) D 3 7 7 1
 榮春(えいしゅん・石橋) → 助左衛門(すけざえもん・石橋いしばし、通詞) C 2 3 1 6
 榮春(えいしゅん・赤井) → 直矩(なおり・赤井あかい、幕臣/歌人) K 3 2 7 6
 盈春(えいしゅん・小槻) → 盈春(みつはる・小槻おづき/壬生、廷臣/日記) E 4 1 5 2
- C1395 永純(えいじゅん) ?-? 安桃期連歌作者:1589紹巴らと「何人百韻」、
 1590大村由己亭歌会に参加
- 英純(えいじゅん・石井) → 英純(ひでずみ・石井いしい、州吏/軍学者) L 3 7 1 7
 英純(えいじゅん・萩原) → 英純(ひでずみ・萩原はぎわら、農業/国学) K 3 7 6 2

- 瑛順(瑛句えいじゆん;名) → 如晴(によせい;法諱・恵明院、真宗僧) G 3 3 0 2
永純(えいじゆん・松井) → 永雄(ながお・松井まつい、官人/歌人) O 3 2 8 2
永純(えいじゆん・吉雄) → 作次郎(さくじろう・吉雄よしお、阿蘭陀通詞) H 2 0 2 5
栄順(えいじゆん・堤) → 宣信(のりのぶ・堤つみ、医者/歌人) J 3 5 1 9
- C1396 **英俊一**(えいじゆんいち;通称・芦原あしはら、名;義長、武芸者芦原義富男)?-? 1841存 7歳に失明、
信濃松代藩出仕、1832徳川家齊家臣/幕府盲人鍼医/検校、39法眼、1834「鍼道発秘」著
[英俊一の別通称/号]別通称;俊一、号;源道/玄道
永春院(えいじゆんいん) → 元佑(もとただ・多紀/丹波、幕臣/医者) C 4 4 9 5
影馴亭(えいじゆんてい・渡部) → 主税(ちから・渡部わたなべ、好事家/文筆) C 2 8 2 5
- U1328 **英俊母**(えいじゆんのはは、英俊法師の母)?-? 江前期;大坂の真宗光徳寺僧英俊の母、
歌人;1688浅井忠能[難波捨草]入、英俊も歌人、
[寝覚めしていかなる事か思ひけん、かく読み侍る、
物思ふ心のやみもはれなくにはほのぼのあくる暁のそら](難波捨草;雑747)
- C1397 **永恕**(えいじよ・狩野かのう、三谷[狩野]永玄男)?-1761 絵師;狩野永叔[主信]門、
父の跡を継嗣;久留米藩主有馬家に出仕、江戸住、妻;江戸浪人絵師狩野林叔女、
「鷹図」画、
[永恕(;初号)の名/別号]名;茂信/淵信、別号;含章斎、
栄女(えいじよ・葛飾) → 応為(おうい・葛飾かつしか、絵師) C 1 4 3 0
- C1398 **英昌**(えいしょう;法諱・桂巖けいがん;道号)1321-1412 92歳 近江の曹洞僧;越前仏陀寺の太源宗眞門;
出家、加賀の大乗寺徹山旨廓門;嗣法、承天寺/出羽吉祥寺/大乘寺の住持、能登永光寺住、
「漢和百韻」著
- 1334 **栄昭**(えいしょう・法印) ? - ? 鎌倉期僧/歌人、1312成立「玉葉集」1906、
[ひとすぢに風のつらさになさじとやのどかなる日も花の散るらん](玉葉;1906/落花)
- D1300 **栄性**(えいしょう;法諱・字;諦純たいじゆん、俗名;浦沢又治郎)1768-1837 70歳 信濃八幡村の真言僧、
1777出家・85長谷寺蓮阿門、97師に従い武蔵弘光寺住/1814根来山住職/権僧正、
1833江戸護持院住職、1794「減縁減行決断」1810「成唯識論愚聞記」34「如実知自心千句附」著、
「減縁減行決断指要」「大疏第三重標挙問答」「得名懸隔決断」「六合釈決断」外著多数
[栄性(;法諱)の初法諱]初法諱;栄慶
- 1335 **永章**(えいしょう/ながふみ/ながあき・青木あおき/本姓;藤原)1787-1845 59歳 京の生、
長崎諏訪社神官青木永保の養子、長崎諏訪社大宮司を継嗣;従五上/丹波守、
歌;養父青木永保(加藤景範門歌人)門、国学;本居大平門、永古ながひきの父、
中島広足・近藤光輔と親交;永章を加え3人を崎陽国学の三雄と称す、
1828「烈風記うつし」39「玉園長歌集」41家集「玉園集」、「詠鯨歌」著(;平戸捕鯨)、
歌;大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌[女の心で詠む待恋歌][ある人の八十賀]など・短歌入、
中島広足「瓊浦集」(1840刊)入、
[みまのとは月かたぶけど聞えねば金門に立ちていきづきをらく](八十浦;869反歌)、
[永章(;名)の通称/号]通称;左京/丹波介/丹波守、号;玉園/秋の屋
- D1301 **栄祥**(えいしょう;法諱・字;浄純、兼松充足男)1797-1856 60 近江彦根の真言僧;1808長谷寺入、
1811出家、顕密;栄順・唯阿門/1839集議席/47(弘化4)越後蒲原郡の国上寺住職、
1849長谷寺に帰る、1850伊賀古郡村の常福寺住職、
「阿字百首」「名徳百人一首」「北越美談」「諸流印信集」「随筆無空過集」「嘉永地震録」外著多、
- C1303 **栄昌**(えいしょう・鳥高斎ちようこうさい/昌栄堂)?-? 江後期浮世絵師・鳥文斎栄之門、美人大首絵/錦絵、
1798「奇遇雌雄器」「即席御療治」「帛湊宝乗合」/1801「婦美能清書」画
- C1302 **英笑**(えいしょう・春川はるか、通称亀助、別号;春斎/英蝶)?-? 江後期京の絵師・挿絵;神屋蓬洲門、
江戸で溪斎英泉[可候]門、1818-44頃美人画錦絵/草双紙挿絵、1826「谷の初音」、
1826「恋情穿語」27「玉川日記」「赤蠅」/29「家内安全集」30「武勇功亀鑑」外著画多数
- D1302 **英松**(英笑えいしょう・松本まつもと、別号;伸斎/信斎/静斎)?-? 江後期江戸深川の絵師;溪斎英泉門、
1836「其小唄恋情紫」46「嘶の大よせ」、「孝婦貞鑑実之巻」画
永祥(えいしょう・飯尾) → 為種(ためたね・飯尾いのお/三善、幕臣/歌・連歌) 2 6 6 4
永昌(えいしょう・清水) → 柴山(さいざん・清水しみず、和算家) G 2 0 6 9

- 永昌(えいしょう・増田/黒田) → 順民(じゅんみん・黒田/増田、易卜家) K 2 1 5 0
永昌(えいしょう・尾山屋) → 満香(みつか・尾山屋おやまや、経師業/歌) I 4 1 2 9
永章(えいしょう・吉雄) → 耕牛(こうぎゅう・吉雄よしお、通詞/蘭医) E 1 9 9 5
永璋(えいしょう・豊島) → 権平(ごんべい・豊島とよしま、砲術家) P 1 9 2 8
詠昌(えいしょう・鈴木) → 自徹(じてつ・鈴木すずき、文筆家) V 2 1 2 2
栄昌(えいしょう;号) → 二三治(にそうじ・三升屋、歌舞伎作者) 3 3 0 2
栄章(えいしょう・高) → 栄章(よしのり・高こう、藩士/国学者) M 4 7 9 1
栄章(えいしょう・須藤) → 栄章(ながあき・須藤すどう、国学者、歌) N 3 2 4 7
栄装(えいしょう・宇賀村) → 栄装(えいそう・宇賀村うがむら、歌人) T 1 3 8 4
英昌(えいしょう・稲葉) → 英昌(ひでまさ・稲葉いなば、国学者/歌人) I 3 7 5 3
英勝(えいしょう;字) → 日逢(にっぽう;法諱・紫雲院、日蓮僧) F 3 3 5 8
英祥(えいしょう・斎藤) → 幸孝(ゆきたか・斎藤さいとう、名主/地誌) E 4 6 6 3
- 1333 永成(えいしょう・よりじょう・通称;西若せいじやく、源孝道男)?-? 1041存 平安期僧;法師/律師、歌人、
1041(長久2)「弘徽殿女御歌合」参加、源政隆の兄/姪に四条宮下野、
勅撰5首;後拾遺657/金葉Ⅱ313・648・653Ⅲ102(/319/640/645)、
[恋死なむ命はことの数ならでつれなき人のはてぞゆかしき](後拾;恋657/弘徽殿歌合)
- C1399 永成(えいしょう・通称;常智房)?- ? 室町期応永1394-1428頃天台宗三井寺の僧/法眼、
新羅社預、「新羅明神記」著
- 英常(えいじょう・山崎) → 英常(ひでつね・山崎やまさき、藩士/郷土史) D 3 7 2 7
英丈(えいじょう・越) → 決信(ひろのぶ・越こし、国学者/歌人) J 3 7 5 8
- U1315 永祥院(えいしょういん、千村ちむら)?-1820 美濃可児郡の旗本代官千村頼久の妾、
国学・歌人;本居春庭(1763-1828)門
- 永昌院(えいしょういん) → 日鑑(にちかん;法諱、日蓮僧) B 3 3 1 5
永昌院(えいしょういん) → 日受(にちじゅ;法諱・立円、日蓮僧) C 3 3 1 0
永照院(えいしょういん) → 好仁親王(よしひとしんのう・高松宮、連歌) G 4 7 4 7
榮昌院(えいしょういん) → 貞(さだ・於貞・植村うゑむら、藩主室/歌) N 2 0 9 6
- B1349 栄松齋(えいしょうさい・長喜ちようき)?- ? 1823存 江戸の絵師;鳥山石燕門?、喜多川歌麿の影響を受、
美人画/黄表紙/洒落本等の挿絵・役者絵を描く、晩年は葛屋重三郎版元の筆工、
1789参和「天下一面鏡梅鉢」画、1804「伽羅操狂言」04「口豆飯」05「落嘶叶福助咄」外画多、
[栄松齋長喜の別号] 百川子興
- 永正亭(えいしょうてい) → 大方(ひろかた・服部はっとり、伊賀衆/歌人) K 3 7 6 4
永昌母(えいしょうのはは・齋藤) → 永昌母(ながまさのはは・齋藤さいとう、国学/歌人) N 3 2 2 2
栄職(えいしょく/ひでより・橘/袋草子・続詞花入) → 能元(よしもと・橘たちばな、忠元男) H 4 7 6 7
- 1336 永助親王(えいじょしんのう、後光厳天皇第5皇子) 1362-1437 76 母;崇賢門院藤原仲子(広橋兼綱女)、
南北室町期仁和寺門跡、1372親王宣下/73仁和寺大聖院に得度/78灌頂を受/85二品、
1412一品、歌人、1378「永助法親王灌頂受記」、「永助法親王記」著、
歌人;1407内裏九十番歌合参加、新続古今9首(127/363/571/846/1269/1848/1895-)、
[高砂の尾上の花のよそめこそ消えあへぬ松の雪とみえけれ](新続古;春127/山花)、
[永助親王の名/法諱/通称]名;熙仁、法諱;空助(初法諱)/のち永助、
通称;後常瑜伽院御室のちのじょうゆかいのおむろ
- 英四郎(えいじろう・長島) → 英齋(えいさい・長島ながしま、書家/歌) C 1 3 7 9
英二郎(えいじろう・小川) → 能信(よしのぶ・小川おがわ、藩士/歌人) L 4 7 8 0
瑛次郎(えいじろう・赤田) → 誠軒(せいけん・赤田あかた、儒者) I 2 4 0 3
栄次郎(えいじろう・三次) → 稻齋(とうさい・三次みよし、医者) E 3 1 2 8
栄次郎(えいじろう・関岡) → 鹿野山住(しかのやまぢみ、狂歌作者) B 2 1 3 7
栄次郎(えいじろう・林) → 厚德(あつり・林、藩士/歌人) B 1 0 3 7
栄次郎(えいじろう・依田) → 川常(かわつね・依田亭よだてい、狂歌) P 1 5 8 2
栄次郎(えいじろう・宇都) → 忠重(ただしげ・宇都うつ、国学者) P 2 6 6 0
栄次郎(えいじろう・小西) → 春村(はるむら・小西こにし/本居、商家/国学) K 3 6 1 7
栄次郎(えいじろう・高濃たかの) → 東洲(とうしゅう・高濃、藩士/文学/音楽) F 3 1 0 0

- 栄次郎(えいじろう・島田) → 忠茂(ただしげ・島田しまだ、藩士/国学者) X 2 6 5 3
 栄次郎(栄二郎えいじろう・狩野) → 惟信(これのぶ・狩野かのう、幕府絵師) E 1 9 4 1
 栄次郎(えいじろう・淵井) → 正雄(まさお・淵井ふちい、歌人/狂歌) S 4 0 3 5
 栄二郎(えいじろう・狩野) → 伊川(いせん・狩野、水墨絵師) E 1 1 3 6
 栄治郎(えいじろう・川島) → 董守(ただもり・川島かわしま、歌人) R 2 6 0 3
 永二郎(えいじろう・北条) → 嬖堂(かくどう・北条ほうじょう、儒者) K 1 5 3 3
 永次郎(えいじろう・相賀) → 重茂(しげもち・相賀あいが、武家/文筆家) S 2 1 9 0
 鋭次郎(えいじろう・本多) → 敬義(たかよし・本多/菅沼、家老/国学) Z 2 6 4 4
 鋭二郎(えいじろう・持田) → 近知(ちかとも・持田もちだ/平、国学者) N 2 8 6 7
- D1303 英心(えいしん;法諱・号;如空によく) 1298-? 鎌倉期大和西大寺の真言律僧、松橋流英心方の祖、幼時より慈眞和尚門、1309(延慶2)定泉門;松橋流と満分戒を受/西大寺・撰津多田院住、1308「菩薩戒問答洞義抄」10「表無表章頭業鈔」22「業疏四上辨事鈔」、「吽字口決」著、「四字抄」「表無表章秘抄」「三摩耶口訣」「梵網經古迹鈔」「表無表章遣滞抄」外著多数
- B1350 栄心(えいしん;法諱) ? - 1546 戦国期天台宗唱導僧/近江柏原管生寺法華印学僧、「法華經直談鈔」編/「法華經抄」「阿弥陀經見聞私」「観音品直談頭説抄」、1546「独宝集」著
- D1304 英信(えいしん・雲鯨斎うんげいさい) ?- ? 江中期大阪の絵師、天王寺錦町住、寺沢昌次の師、1784(天明4)「鎮西禅師絵詞伝」90「新撰九品往生人行状絵詞」画
- U1308 栄信(えいしん・小松こまつ) 1775- ? 出羽由利郡松ヶ崎村の仏洞山神沢寺別当、国学者、
 [栄信(;法諱)の通称/号]通称;千代松、号;桜枝/一桜、院号;宝蔵院
- T1380 栄真(えいしん;法諱・寂静院) ?- ? 江後期;僧/真言?、寂静院じやくじょういんは高野の寺?、歌人;1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
 [夏草の茂る中にもわすれ水ありやとひるも鳴く水鶏かな](現存百人一首;59)
- 栄親(えいしん・北) → 栄親(ひでちか・北きた、武将/軍記作者) D 3 7 1 8
 栄親(えいしん・中山) → 栄親(ひでちか・中山/藤原、廷臣/詩人) D 3 7 1 9
 栄親(えいしん・天野) → 栄親(ひでちか・天野、和算家) D 3 7 2 0
 栄信(えいしん/なかのぶ・狩野) → 伊川(いせん・狩野、水墨絵師) E 1 1 3 6
 栄信(えいしん・井上) → 秀栄(しゅうえい・井上、幕臣/記録) W 2 1 6 6
 栄信(えいしん・田中) → 栄信(ひでのぶ・田中たなか、医者) D 3 7 5 7
 永臣(えいしん・横山) → 永臣(ながおみ・横山よこやま/源/玉田、神道) P 3 2 2 7
 永眞(えいしん・狩野) → 安信(やすのぶ・狩野家八世/藤原、絵師) C 4 5 5 4
 永親(えいしん・荒木田) → 永親(ながちか・荒木田あらかきだ、神職/歌人) K 3 2 8 8
 英信(えいしん・狩野) → 英信(てるのぶ・狩野、幕府絵師) C 3 0 8 3
 英臣(えいしん・坂本) → 英臣(ひでとみ・坂本、藩士/砲術師範) D 3 7 3 3
 英親(えいしん・小出) → 英疎(ふさのぶ・小出こいで、幕臣/国学) I 3 8 2 3
 英親(英進えいしん・山本/藤沢) → 巢光(そうちやう・建部たけべ、俳人) 2 5 1 7
 瑛親(えいしん・中山) → 手巻(たまき・中山なかやま、国学/名主) Y 2 6 6 5
 映信(えいしん・狩野) → 永錫(えいしゃく・狩野かのう/三谷、絵師) U 1 3 0 7
 盈辰(えいしん・岡部) → 梅林(ばいりん・岡部おかべ、医者) C 3 6 2 7
 盈進(えいしん・鶴飼) → 伝右衛門(でんえもん・鶴飼、藩士/家譜) D 3 0 1 5
 盈進(えいしん・奥村) → 忠順(ただのぶ・奥村おくむら、藩士/歌人) W 2 6 3 5
- F1366 永尋(えいじん;法諱) ? - ? 平安後期叡山僧/歌人、
 1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;左方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で檢校広算主催)、
 [秋立ちて沢辺の草も色づけばすまふ螢もひかりましけり](賢聖院歌合;八番左15)
- 永人(えいじん・増田) → 永人(ながと・増田ますだ、藩士/国学) O 3 2 8 0
 栄心院(えいしんいん) → 徽子(のりこ・伊達だて、綵姫、藩主室) I 3 5 9 1
 永進斎(えいしんさい) → 雪旭(せつきやく・平井ひらい、紺屋/絵師) O 2 4 2 4
 盈進斎(えいしんさい) → 蘭林(らんりん・中村/藤原、幕医/儒者) D 4 8 2 9
 栄仁親王(えいじんしんのう) → 栄仁親王(よしひとしんのう、歌人) G 4 7 4 6
 栄水(えいすい・一楽亭、絵師) → 一九(初世いっく・十返舎、滑稽本) 1 1 2 0

- 永瑞(えいずい:法諱・大雲)→ 大雲(だいうん:道号・永瑞、曹洞僧) J 2 6 1 2
永数(えいすう・高倉) → 永数(なかつ・高倉たかくら/藤原、廷臣/歌) D 3 2 3 6
永崇(えいすう・並河) → 誠所(せいしよ・並河なみかわ/なびかわ、儒者) I 2 4 7 4
1304 永輔(栄介/永助えいすけ・並木なみき/千種、通称;綿屋治右衛門)?-? 元文-明和1736-70頃歌舞伎作者、
;並木宗輔門、1754上方浄瑠璃作者を兼ねる/合作、
1742「三好長慶廓総角」47「二橋死出渡」「けいせい清見寺」、1756「けいせい由来」、
1761「けいせい大内山」62「岸姫小松轡鑑」70「勢相撲番組」著
D1306 栄助(えいすけ;通称・本郷ほんごう、名;国包くにかね[13世]・12世国包[源兵衛]男)?-1883 陸前仙台の刀匠、
1846襲名;13世藤原国包、「良治国包世系」著
栄助(えいすけ・黒木) → 貞中(さだなか・黒木くろき、藩士/軍法) J 2 0 0 2
栄助(えいすけ・高橋屋) → 彫栄(ちようえい・万代堂、俳人) H 2 8 3 7
栄助(えいすけ・伊能) → 穎則(ひでのり・伊能いのう、商人/国学/歌) D 3 7 6 5
栄助(えいすけ・小池/野崎)→ 巴明(はめい・野崎/小池、俳人) F 3 6 6 9
栄助(えいすけ・太田) → 玩鷗(がんおう・太田おた、儒者/詩人) G 1 5 1 4
栄助(えいすけ・佐野/岩瀬)→ 京山(きやうざん・山東さんとう、戯作者) 1 6 3 3
栄助(えいすけ・櫛島/島) → 高堅(たかかた・櫛島ぬでしま、藩士/回想録) L 2 6 7 4
栄助(えいすけ・桜田) → 贅庵(ぜいあん・桜田さくらだ、儒者) H 2 4 3 3
栄助(えいすけ・国友) → 恒足(つねたり・国友くにとも、国学者) C 2 9 4 5
栄助(えいすけ・五十嵐) → 嵐児(らんじ・五十嵐いがらし、俳人) C 4 8 4 1
栄助(えいすけ・田村) → 成章(せいしやう・田村たむら、俳人) I 2 4 7 8
栄助(えいすけ・石原) → 元固(もとかた・石原いしはら、村吏/歌) J 4 4 2 4
栄介(えいすけ・丹波屋) → 恭禮(たかひろ・山崎やまさき、藩士/尊攘運動) 2 7 1 1
栄亮(えいすけ・村上) → 円方(まどかた・村上、国学者/歌人) J 4 0 9 2
栄輔(えいすけ・妻木) → 陸叟(りくそう・妻木/石川、藩医/本草) 4 9 7 8
衛助(えいすけ・中村) → 春野(はるの・中村なかむら、藩士/国/史学) G 3 6 6 7
衛輔(えいすけ・中島) → 秋挙(しゅうきよ・中島なかじま、藩士/俳人) H 2 1 0 8
永助(えいすけ・重富) → 繩山(じやうざん・重富しげとみ、藩士/儒者) J 2 2 3 6
永助(えいすけ・吉井) → 直好(なおよし・吉井よしい、藩士/礼法家) P 3 2 2 8
永亮(えいすけ・並河) → 天民(てんみん・並河、儒/医/雅楽/神道) E 3 0 3 4
詠甫(えいすけ・吉田) → 利充(としみつ・吉田よしだ、農業/歌人) K 3 1 9 9
英助(えいすけ・菌) → 恵助(けいすけ・玉巻、歌舞伎作者) G 1 8 1 8
英助(えいすけ・萩原) → 大麓(だいろく・萩原はざわら、漢学者) C 2 6 4 1
英助(英輔えいすけ・萩原)→ 嵩嶽(すうがく・萩原楽亭、大麓男/儒者) 2 3 9 7
英助(えいすけ・萩原) → 西疇(せいちゆう・萩原、大麓孫/漢学者) C 2 4 6 0
英助(えいすけ・近藤) → 淡泉(たんせん・近藤、藩校教授/儒者) I 2 6 4 8
英輔(えいすけ・伊藤) → 隸尾(れいび・伊藤いとう、和算家) 5 1 6 4
永成(えいせい) → 永成(えいじやう・ようじやう・西若、歌人) 1 3 3 3
永成(えいせい) → 永成(えいじやう・常智房、天台僧) C 1 3 9 9
永世(えいせい・小倉) → 無隣(むりん・小倉おぐら無邪、儒者) D 4 2 3 0
永世(えいせい・沢田) → 鹿鳴(ろくめい・沢田さわだ、儒者) B 5 2 0 8
永世(えいせい・富山) → 定功(さだこと・富山とみやま/辻/島田、商家/歌) O 2 0 9 2
永世(えいせい・二神) → 永世(ながよ・二神ふたがみ、商家/歌人) O 3 2 6 1
永盛(えいせい・吉田) → 永盛(ながもり・吉田よしだ、商家/国学) P 3 2 2 9
永晟(えいせい→ながあき・財津)→ 左右(さゆう・日田山ひたやま、藩士/文筆) L 2 0 5 9
英成(えいせい・中山) → 英成(ひでなり・中山なかやま、神職) K 3 7 4 0
英政(えいせい・池田) → 正樹(まさき・池田いけだ、藩士/記録) C 4 0 2 3
英政(えいせい・荒川) → 栗園(りつえん・荒川/荒河あらかわ、勤王家) B 4 9 6 0
栄井(えいせい・松平) → 春嶽(しゅんがく・松平まつだいら、藩主/詩歌) J 2 1 3 3
栄清(えいせい・村田) → 栄清(ひできよ・村田むらた、和算家) D 3 7 0 3
栄盛(えいせい・小松) → 栄盛(ひでもり・小松こまつ、藩士/歌人) E 3 7 0 1

- 睿性(えいせい) → 鳩巢(きゅうそう・室ひろ、幕臣/儒者) 1 6 2 8
 延誠(えいせい・度会) → 延誠(のぶとも・度会、神職/歌人) C 3 5 3 6
 英生(英成えいせい・今村) → 市兵衛(いちべゑ・今村、通事/書翻訳) G 1 1 3 9
 英政(えいせい・茂山) → 英政(ひでまさ・茂山/青木、能楽;狂言方) D 3 7 8 2
 盈正(えいせい→みつまさ・向後むかじり) → 河鳥(かちよう・都曲園、田口/向後、狂歌) N 1 5 1 5
 英積(えいせき・夏目) → 麿磨(みかまろ・夏目、酒造業/国学者) 4 1 6 1
 英碩(えいせき・中村) → 道紀(みちのり・中村なかむら、医者、国学者) H 4 1 5 9
 D1307 榎雪(えいせつ) ? - ? 越中富山の俳人;1691北枝「卯辰集」入、
 [市人いちびとの声にもあはず烏瓜](卯辰集;407/烏瓜は商品にならない)
 映雪(えいせつ・萱野) → 熙載(ひろのり・萱野かやの、藩士/国学)) J 3 7 1 1
 映雪(えいせつ・小賀) → 安諦雄(あさお・小賀おが/こが、神職/歌人) H 1 0 1 5
 D1308 英仙(えいせん) ? - ? 1707存 高野山日光院住の真言僧、
 1692(元禄5)高野山における僧侶方と行人方との争議に関与;壱岐に配流、
 神道家;吉川惟則門/唯一神道を相伝、御流・三輪流の神道説を整理、
 「御流神道横堅印信集」「神明帳」著
 D1309 英泉(えいせん;法諱・甘露かんろ;道号)?-? 江前期宝永享保1704-36頃;江戸の曹洞僧、
 浅草橋場の福寿院住、1714「評釈天台仏心印記註」24「尸羅敲髓章」、「邪正異解集」著
 T1398 英泉(えいせん;法諱・俗姓;武内/院号;般若院) 1714-82 出羽秋田郡綴子つづに村峰積院社家の生、
 寺は神宮寺と改称;兄烈光が継嗣、のち神宮寺は綴子神社と改称される、
 1726(13歳)修験者;飲酒・肉食・情交を絶つ決心、儒を修学/曹洞宗の修業/1740大峰入山、
 下山後京で松岡玄達(1668-1746)門;論語・易・本草・医など修学、帰郷;金剛庵結庵、
 独居生活/1746山形の当山派修験寺院歴参、北秋田で各種法会を開催、
 真言宗安祥寺流儀礼の不動法の修業・七座山天神宮で役小角1050年忌開催、
 1751九州豊前の霊場彦山入山、1764七座神社で宗教家を集め7日間の祈祷法令実施、
 「七座山天神縁起」を著/農民のため雨乞い祈祷;害虫駆除の注油法を伝授、
 英泉の先祖常覚院実明さねあきが慶安(1648-52)頃創設した私塾の内館塾を兄烈光が拡充;
 英泉も塾生に指導、
 「発願紀年録」(自伝)/「修験道十八箇警策略鈔」「神迷学的」「肉食禁忌弁」著、
 「仏母孔雀明王経校訂本」著(没後1793刊行)、神社縁起・随筆集など著多数、
 永仙(永遷えいせん) → 基佐(もとすけ・桜井、連歌) 4 4 1 3
 永仙(えいせん・狩野) → 元信(もとのぶ・狩野かのう、幕府絵師) D 4 4 6 8
 英泉(えいせん・溪斎) → 可侯(かこう・一筆庵、絵師/戯作) 1 5 1 3
 英川(えいせん・中島) → 魚坊(ぎよぼう・中島、歌人/俳人) Q 1 6 3 0
 栄川(えいせん・狩野) → 古信(ひさのぶ・狩野、絵師) B 3 7 7 5
 栄川(えいせん・狩野) → 典伸(みちのぶ・狩野かのう、古信男/絵師) C 4 1 2 1
 穎川(えいせん;号) → 行照(ぎょうしょう;法諱・真宗本願寺派僧) O 1 6 0 5
 穎川(えいせん;号) → 庸徳(つねのり・奥田/穎川えがわ、質商/陶工) D 2 9 1 5
 穎川(えいせん・石島) → 筑波(つくば・石島/石/尾見、儒者/詩) 2 9 7 9
 郢泉(えいせん・速水/紅屋) → 几圭(きけい・高井、商家/俳人) 1 6 1 2
 1337 榮禪(えいぜん・ようぜん、通称;八幡法眼、法眼成禪男)?-? 鎌倉期社僧;法眼、
 歌人;中院通方八幡宮歌合参加、続後撰集入(547)、
 [みづがきの久しき世よりかげとめて仰あふぐみ山に月ぞくもらぬ](続後撰;神祇547)、
 (八幡宮歌合にて社頭月を詠む)
 D1310 英禪(えいぜん;法諱・道空房)?- ? 1369存 南北期真言僧、武州金沢称名寺劍阿門・
 のち湛睿門、1338(暦応元)劍阿より三寶院流印可を受、「違三難答抄」著
 B1396 永全(えいぜん・松波まつなみ) ? - ? 戦国期;畠山家家臣、
 連歌;1479-81賢盛「諸家月次連歌抄」入
 郢泉居(えいせんきよ・速水/紅屋) → 几圭(きけい・高井、商家/俳人) 1 6 1 2
 榮泉房(えいせんぼう) → 宥仔(ゆうせん;法諱、真言僧) D 4 6 1 5
 T1384 榮装(えいそう・宇賀村うがむら)?- ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[むすびしは浅き契りか人心くみしらぬまに忘れ井の水](大江戸倭歌;恋1480/忘恋)

- D1311 瑛三(えいそう・姫田ひめた) ? - ? 江戸幕末期飛騨高山の医者、「眼球略説」著、
明治期県民に種痘実施

永崇(えいそう・就山;道号)→ 就山(じゅうざん・永崇、臨濟僧) Y 2 1 8 2
永琮(えいそう;法諱・合浦)→ 合浦(ごうほ;道号・永琮、臨濟僧) L 1 9 1 9
永相(えいそう・高倉) → 永相(ながすけ・高倉たかくら、歌人) D 3 2 9 1
英宗(えいそう;初法諱) → 万安(ばんあん;道号・英種;法諱、曹洞僧) H 3 6 1 8
英窓(えいそう・井上/四時楼)→ 紀逸(2世きいつ・慶、俳人) 1 6 7 2
栄相(えいそう・船橋) → 経賢(つねかた・船橋ふなはし、廷臣/故実) B 2 9 9 2

- D1312 栄蔵(えいそう・片山かたやま) 1785- ?1832以降没 備前岡山藩士、1830神力丸で宇治甚介らと漂流;
呂宋るそん漂着/1831中国經由で帰国、「馬旦国母後須島漂流日記」著

栄造(えいそう・若竹) → 稚篁(ちこう・若竹わかたけ、俳人) E 2 8 1 5
栄造(えいそう・土居) → 実忠(さねただ・土居どい、藩士、国学) O 2 0 8 5
栄蔵(えいそう・大関) → 歌右衛門(初世うたえもん・中村、歌舞伎役者) 1 2 6 2
栄蔵(えいそう・山田) → 雲窓(うんそう・山田やまだ、詩/俳人) D 1 2 9 0
栄蔵(えいそう・山本) → 良寛(りょうかん;法諱・大愚、曹洞僧/詩歌) 4 9 1 7
栄蔵(えいそう・二宮) → 桃亭(とうてい・二宮にのみや、医者/工芸) G 3 1 5 9
栄蔵(えいそう・村松) → 真栄(まさひで・村松むらまつ、藩士/国学) L 4 0 8 6
栄蔵(英蔵えいそう・大竹/岳)→ 麻谷(まこく・大竹/岳、漢学者) 4 0 7 0
栄蔵(えいそう・中村) → 芦尺(ろしゃく・中村なかむら、俳人) B 5 2 6 2
栄蔵(えいそう・石橋) → 知空(ちくう・石橋いしばし、国学/歌/出家) M 2 8 0 4
栄蔵(えいそう・齋藤) → 元宝(もととみ・齋藤さいとう、藩士/国学者) K 4 4 0 5
栄蔵(えいそう・齋藤) → 建直(たてなお・境さかい二郎/齋藤、儒者/藩教授) X 2 6 3 7
栄蔵(えいそう・星川) → 正輔(正甫まさすけ・星川はしかわ/鴨沢、藩士/地誌) S 4 0 4 2
栄蔵(えいそう・星川) → 正甫(まさとし・星川/鴨沢、藩士/地誌家) E 4 0 4 9
栄蔵(えいそう・丹波屋) → 恭禮(たかひろ・山崎やまさき、藩士/尊攘運動) 2 7 1 1
永蔵(えいそう・吉井) → 直道(なおみち・吉井、礼法/地歴) C 3 2 5 7
永蔵(えいそう・関) → 為山(いざん・関せき、左官職/俳人) 1 1 8 5
永蔵(えいそう・城村/山県)→ 墨僊(墨僊ぼくせん・山県やまがた、儒/書家) D 3 9 6 3
永三(えいそう/えいさん・松永)→ 思斎(しさい・松永まつなが、儒者) D 2 1 6 6
英蔵(えいそう・金谷) → 玉川(ぎょくせん・金谷かなや、藩士/儒者) I 1 6 8 7

- T1387 英操尼(えいそうに・新見しんみ) ? - ? 江後期;尼僧/歌人、幕臣の妻?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[ふりし世をしたふあたりやいかならんよその袖さへしぐれする頃]、
(大江戸倭歌;雑1896/寄時雨懐旧)

- D1313 英祖王(えいそおう) ? - ? 琉球王統の祖/在位1260-99、古琉歌の歌人、
朝昇「琉歌大歌集」入

穎則(えいそく・伊能) → 穎則(ひでのり・伊能、国学/歌人) D 3 7 6 5
栄足(えいそく・浅野) → 栄足(よしたり・浅野、能楽師/能楽研究) E 4 7 4 3
衛足(えいそく・大貫) → 杜哉(と哉とさい・大貫おおぬき、俳人) L 3 1 7 8
衛足堂徳雨(えいそくどうとくう)→ 徳雨(とくう・衛足堂、俳人) K 3 1 4 5

- U1348 英尊(えいそん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
歌人;1237刊[檜葉集]入

[師範 円尊阿闍梨がむろにて 歌あまたよみはべりけるに、

いかにしてけふとけそむるしたひものながき契□□すびなさまし](檜葉;恋386)

- 1339 叡尊(睿尊えいそん;法諱・字;思円、諡;興正菩薩、興福寺慶玄男/俗姓源) 1201-9090 大和真言律僧、
1211醍醐寺叡賢門;17出家/高野山東大寺興福寺で修学/1235西大寺中興開山/民衆に授戒、
1236西大寺結界/般若寺再興、84四天王寺別当、1265「西大寺光明真言会縁起」著、
自伝「金剛仏子叡尊感身学正記」外著多数、「関東往還記」門弟性海編、忍性の師

- D1314 **栄尊**(えいそん・ようそん;法諱、三河僧正、藤原家房男/准大臣近衛兼教猶子)?-? 1260存 真言僧;
1245慈尊院荣然門;伝法灌頂受、60権僧正、「十八道口決」「夜甲乙」「仁王経私記」著
荣存(えいそん;字) → 日宥(にちゆう;法諱・寿命院、日蓮僧) D 3 3 3 6
荣村(えいそん・古筆) → 了仲(りょうちゆう・古筆こひつ、鑑定家) I 4 9 9 0
永存(えいそん;法名) → 公名(きんな・西園寺、太政大臣/歌) E 1 6 3 5
- 1340 **永尊親王**(えいそんしんのう、法諱;尊濟、常喜院、後二条天皇皇子)?-? 母;藤原公親女;中宮御匣、
鎌倉期;園城寺円満院門跡/1322一身阿闍梨、歌、続後拾遺1193(永尊法親王名9、
[捨てはつる人ぞすくなき身を歎き世をうらむるはならひなれども](続後拾;雑1193)
英太(えいた・木原) → 藤園(とうえん・木原、藩士/国学/故実) B 3 1 5 3
荣太(永太えいた・大友) → 親久(ちかひさ・大友おとも/藤原、神職・国学) L 2 8 3 5
荣太(えいた・加屋) → 霽堅(はるかた・加屋かや、藩士/神職/神風連) J 3 6 8 8
永泰(えいたい;道号) → 正真(しょうしん;法諱・永泰、黄檗僧) J 2 2 9 7
- B1351 **荣宅**(栄沢えいたく・原はら) ? - ? 江中期宝永1704-11頃京の講釈師、
太平記読に長ず;宗匠、荣治の父
永琢(えいたく) → 永琢(よたく・盤珪、臨濟僧) B 4 7 4 4
英達(えいたつ・布/志賀) → 天民(てんみん・志賀しが/布ぬの、医者/蘭学) E 3 0 3 6
- D1315 **荣太郎**(えいたろう・清水しみず、名;謙光、号;栢園、光房男)?-? 江後期江戸歌人;海野遊翁(1848没)門、
江戸下谷久保町で歌の教授、「詠草」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[河風に波よる岸のふし柳そこにもなびく春の色かな](大江戸倭歌;春156)
[うちなびく岸の柳にはらはれて螢乱るる河づらの里](現存百人一首;79)
荣太郎(えいたろう・根岸) → 衛奮(もりいさむ・根岸ねがし、幕臣/補任編纂) F 4 4 1 6
荣太郎(えいたろう・伊藤/宮永) → 保親(やすちか・宮永/伊藤、神職/国学/歌) C 4 5 0 4
荣太郎(えいたろう・中根) → 雪江(ゆきえ/せこう・中根、藩士/国事) E 4 6 3 3
荣太郎(えいたろう・彦部) → 知行(ともゆき・彦部ひこべ、機業/詩歌) W 3 1 1 8
荣太郎(えいたろう・戸田) → 氏壽(うじひさ・戸田ただ、旗本/歌) E 1 2 4 0
荣太郎(えいたろう・森山) → 安清(やすきよ・森山もりやま、藩士/国学者) G 4 5 9 0
荣太郎(えいたろう・和田) → 春長(はるなが・和田わだ、医者/国学/歌) K 3 6 9 8
瑛太郎(えいたろう・原) → 白圭(はくけい・原はら、藩儒/詩人) C 3 6 9 8
鏝太郎(えいたろう・沢) → 太郎左衛門(たろうざえもん・沢さわ、幕臣/海軍) T 2 6 1 0
英致(えいち・松田) → 英致(ひでむね・松田/藤原、室町幕臣) D 3 7 9 1
英知(えいち・多田) → 英知(ひでとも・多田ただ、醸造業/国学) K 3 7 0 7
荣智(えいち・人見) → 甚左衛門(じんざえもん・人見、藩士/記録) O 2 2 5 9
英智院(えいちいん) → 日宣(にっせん;法諱・智寛、日蓮僧) E 3 3 8 0
- B1369 **英竹**(えいちく) ? - ? 京の俳人;1729隆志「俳諧草結」入
[菜の花の星につぶくや野の吉野](俳諧草結;225/吉野山の花は雲に続くが、野の吉野は)
医茶(えいちや) → 医茶(いちや/えいちや、俳人/しぐれの碑入) J 1 1 2 8
- D1316 **永忠**(えいちゆう;法諱、俗姓;秋篠)743-81674 奈良・平安期京の律宗僧/幼少時出家;
奈良平城京で経律修学、770頃入唐;30年在留、帰国後近江梵釈寺主/806律師/のち大僧都、
音律学に精通、「五仏頂法決」著
- D1317 **荣中**(えいちゆう・佐藤さとう/古筆)1835-9056歳 江後期初め幕府賄方/一時古筆こひつ家の養子、
鑑定家、書画/茶道に通ず、「土屋侯御道具帳」著
英中(えいちゆう;道号) → 玄賢(げんけん;法諱・英中、臨濟僧) I 1 8 5 6
衛仲(えいちゆう・伊高) → 重徳(しげのり・伊高いだか、神職/歌人) N 2 1 3 0
郢中(えいちゆう・木幡) → 蘇門(そもん・木幡こばた、儒者) K 2 5 4 6
盈仲(盈中えいちゆう・竹村) → 盈仲(みつなか・竹村たけむら/松尾、庄屋/歌) J 4 1 6 7
- 1341 **永超**(えいちゆう;法諱、橘俊孝男)1014-109582歳 平安期京の法相僧;興福寺も主恩門;法相学修学、
1053維摩会の堅義者/59維摩会講師、のち興福寺の枝院齊恩寺に移住、1074三会の講師、
1081少僧都/92(寛治6)権大僧都/のち法隆寺別当、1094「東域伝燈目錄」編
- F1368 **荣朝**(えいちゆう;法諱、道号;积円しゃくえん)1165-124783 上州の臨濟僧;顕密二教修学/のち荣西門;

- 栄西より印可受、1221上野世良田に長樂寺を開山；関東に禅を広める；円爾・蔵叟朗誉の師
- 1342 **英朝**(えいちょう；法諱・東陽とうよう；道号、土岐持頼男) 1428-1504 77 美濃加茂郡の臨濟僧：
1432(5歳)上洛；天竜寺玉岫英種門/のち竜安寺雪江宗深門、丹波船井郡竜興寺住持、
1481(文明13)大徳寺53世/妙心寺13世、美濃に少林寺開創；同寺に没、諡号；大道真源禅師、
1494-1503「五家正宗贊抄」著、「宗門正燈録」「禅林句集」編、「少林無孔笛」「碧巖録抄」著
- 永超(えいちょう；法諱) → 了然(りょうねん；道号・永超、曹洞僧) J 4 9 2 0
 栄長(えいちょう・ひでなが・久世) → 友輔(ともすけ・久世くぜ、心学/俳人) P 3 1 6 1
 栄長(えいちょう・玉置) → 茂八(もはち・玉置たまき、書家) E 4 4 8 8
 英長(えいちょう・内堀) → 英長(ひでなが・内堀うちぼり、儒者/神道) D 3 7 4 5
 英長(えいちょう・白沢) → 英長(ひでなが・白沢しろさわ、幕臣/歌人) I 3 7 2 4
 英長(えいちょう・小川) → 英長(ひでなが・小川おがわ/源、藩士/歌人) I 3 7 6 6
 英長(えいちょう・小出) → 英長(ふさなが・小出こいで、幕臣/藩主/国学) I 3 8 2 2
 英蝶(えいちょう・春川) → 英笑(えいしょう・春川はるか、絵師) C 1 3 0 2
 英澄(えいちょう；法諱) → 良基(りょうき；法諱、真言僧/勤王) H 4 9 0 2
 盈長(えいちょう・中野/志筑) → 忠雄(ただお・志筑しづき/しつき、中野、蘭学者) E 2 6 8 5
 叡長(叡朝えいちょう；字) → 日境(につきょう；法諱・通心院、日蓮僧) D 3 3 8 2
 永長亭(えいちょうてい) → 亀輔(かめすけ・奈河、歌舞伎作者) 1 5 4 1
 英陳(えいちん・小出) → 英陳(ふさのぶ・小出こいで、幕臣/国学) I 3 8 2 3
 永直(えいちよく・讃岐) → 永直(ながなお・讃岐さぬき、廷臣/漢学者) J 3 2 9 7
 永直(えいちよく・玉田) → 永直(ながなお・玉田たまだ、国学者) N 3 2 8 1
 英直(えいちよく・土屋) → 英直(ひでなお・土屋つちや、藩主/歌人) D 3 7 3 9
 英珍(えいちん・松尾) → 英珍(ひでよし・松尾まつお、農業/歌人) L 3 7 2 5
 栄通(えいつう・奥村) → 栄通(てるみち・奥村、藩士/文筆) C 3 0 9 6
- D1318 **永貞**(えいてい・石せき；修姓？、字；子亨、号；梅窩) ?-? 江後期の儒者/儒者大久保狭南の女婿、
「杉田紀行」「武蔵遊草」著、1810小金井桜樹の碑建立
- 永貞(えいてい/ながさだ・高野) → 栄軒(えいけん・高野たかの、儒者/藩政) C 1 3 6 9
 永貞(えいてい/ながさだ・栗原) → 桶川(とうせん・栗原[栗本]、儒者) G 3 1 1 3
 永貞(えいてい/ながさだ・彦坂/田中) → 範善(のりよし・彦坂ひこさか、藩士/和算) G 3 5 3 3
 永貞(えいてい/ながさだ・徳田/金子) → 厚載(あつり・金子かねこ、藩士/測量/歌) E 1 0 7 9
 永貞(えいてい・有沢) → 永貞(ながさだ・有沢ありさわ、藩士/軍学者) D 3 2 6 5
 永貞(えいてい・富小路) → 永貞(ながさだ・富小路とみのこうじ、廷臣) D 3 2 6 6
 永貞(えいてい/ながさだ・若松) → 永寿(えいじゅ・若松わかまつ、家侍/記録) C 1 3 8 8
 永貞(えいてい・生田) → 永貞(ながさだ・生田いくた、儒者/詩歌) D 3 2 6 9
 永貞(えいてい・広江) → 永貞(ながさだ・広江ひろえ、和算家) D 3 2 7 0
 永貞(えいてい) → 永貞(ながさだ・、歌人) K 3 2 6 9
 永貞(えいてい/ながさだ・中山) → 玄亨(げんこう・中山、医者/日記) I 1 8 8 1
 英貞(えいてい・山澄) → 英貞(ひでさだ・山澄やまずみ、藩士/故実) D 3 7 0 4
 英貞(えいてい/ひでさだ?・内田) → 橋水(きょうすい・内田うちだ、俳人) C 1 6 7 2
 英亭(えいてい) → 里雄(りゆう・英亭、俳人) C 4 9 5 9
 栄貞(えいてい；名) → 尊胤法親王(そんいんほつしんのう、知恩院門跡/詩歌) 2 5 7 6
 栄貞(えいてい・小川) → 栄貞(ひでさだ・小川おがわ/三宅、里正/歌) I 3 7 5 7
 栄弟(えいてい・武谷) → 栄国(ひでくに・武谷たけたに、藩士/歌) L 3 7 5 2
 衛貞(えいてい・三浦) → 瓶山(へいざん・三浦みうら、藩儒) 2 7 3 9
 盈貞(えいてい・安部) → 眞貞(まさだ・安部あべ、国学者) D 4 0 1 1
- B1352 **永愔**(えいてき・原はら) ? - ? 元禄1688-1704頃京の講釈師/太平記読が得意、
江戸の赤松青竜軒・大坂の赤松梅竜と併称される
- B1353 **永哲**(えいてつ；法諱・惟杏いききょう；道号) ?-1613 臨濟；高岳令松門/1573東福寺218世/80南禅寺住持、
1582秀吉に従軍；肥後名護屋で通文の役、「朝鮮名跡集」、1600?「謡抄うたいしょう」編参加、
和漢聯句；1591白・瑤甫等和漢聯句/97藤宰相惟杏等和漢聯句、「惟杏哲禅師疏」著
- D1319 **栄哲**(2世えいてつ・檜林ならばやし、松浦吉重男、初世栄哲の養嗣) 1737-97 肥前長崎の医者、

外祖父栄久に養育; 早世の初世栄哲を嗣ぐ、蘭学漢方を独学、
1791肥前佐賀藩主鍋島家の医師、
「檜林経験録」「和蘭流膏薬方」著、
[栄哲(2世;号)の名/字]名;高茂/字;伯由、

F1376 **栄哲**(3世いいてつ・檜林ならばやし、名;高連/公極、2世栄哲男)?-? 肥前佐賀藩医、
1801(享和元)長崎住、菊舎の詩の師、栄哲3世夫妻は菊舎に俳諧を学ぶ、
栄建・宗建の父

英哲(いいてつ・樋口) → 英哲(ひでのり/てるもと・樋口ひぐち、神職/国学) K 3 7 7 4

D1320 **栄天**(いいてん:法諱・字;太了、俗姓;久保)1737-1801⁶⁵ 土佐中村の真言僧;豊山長谷寺に修学、
1799伊予石手寺住職、1796「大乘法苑義林章黒甜記」、「三論玄義大底記」外著多数

永天翁(いいてんおう) → 忠直(ただなお・横井よこい、漢学/史学) 2 7 2 7

永岡(えいと・齋藤) → 永岡(ながり・齋藤さいとう、藩士/歌人) F 3 2 3 2

永岡(えいと・増子/高橋) → 永岡(ながり・増子まじこ、藩士/記録) F 3 2 3 5

英棟(えいとう・平松) → 英棟(ひでむね・平松ひらまつ、国学者/歌) D 3 7 9 3

影踏(えいとう・山田) → 乙磨(おとまる・山田やまだ、藩士/歌人) E 1 4 2 3

D1322 **英同**(えいどう:法諱・号;恵覚房、俗姓林)1665-1742⁷⁸ 大和山田真言僧;1676高野山宝亀院舜政門、
1677(延宝5)出家、政観・堯知・実常門/南都・京にも遊学/永寿院住/1705聖無動院転住、
1708如意輪寺転住/1720碩学、21正智院転住/のち宝性院門主/41高野山寺務職、
「広沢西院流印可并八結伝授記録」著

D1323 **荣道**(えいどう:名・曾根、通称;又右衛門)?-? 江戸幕末期大阪の和算家:福田理軒門、
1856師口述「西算速知」筆記/編

憲道人(えいどうじん) → 北溪(ほっけい・津島つしま、医者/漢学) E 3 9 6 1

1343 **永徳**(初世えいとく・狩野かろう、松栄[直信]長男/本姓;藤原)1543-90⁴⁸ 絵師;狩野家5世、山城の生、
画;祖父元信・父松栄門、信長に出仕;1576安土城の絵を描く;法印/知行3百石、
のち秀吉に出仕;加増百石、屏風・襖絵等大作;桃山期を代表する雄渾な画風、
1574(天正2)「洛中洛外図屏風」、「唐獅子図屏風」画など、妻;土佐光茂女、
[永徳(;号)の名/通称]名;州信/重信、通称;源四郎、法号;実相院日竟、
古永徳と称される

D1324 **永徳**(2世えいとく・狩野かろう、英信[祐清]長男/本姓藤原)1739?-94⁵⁶ 中橋狩野家;父門、幕府絵師、
1773(安永2)法眼;永徳2世を称す/85同朋格、花鳥画に長ず、「添状代附外題扣」画
[2世永徳(;号)の幼名/名/別号]幼名;四郎次郎、名;高信、別号;成文斎、法号;聴受院

B1354 **荣徳**(えいとく) ? - ? 江前期京の俳人、1649立圃「花月千句」入

D1325 **英得**(えいとく・一陽軒) ? - ? 江後期絵師、溪斎英泉門、浮世絵/合巻挿画、
1829「功草泰平の錦絵」画

B1341 **永恵**(えいとく・狩野、名;立信、別号;晴雪[斎]、伊川男/祐清養子)1814-91⁷⁸ 絵師;中橋狩野家15世、
江戸木挽町の生/幕府絵師/1848幕府医師並/57法眼、
柳営御白書院虎之間新御殿御休息伺下絵」画

英徳(えいとく・松本) → 英徳(ひでのり・松本まつもと、国学者/歌) L 3 7 2 8

D1326 **荣任**(えいにん、亀屋) ? - ? 慶長1596-1615頃;京の呉服商;家康の装束調達、
連歌;1600昌叱と百韻

英仁(えいにん;親王) → 後桃園天皇(ごももどの、日記) N 1 9 7 8

F1359 **盈仁親王**(えいにんしんのう、閑院宮、名;寛宮/嘉種/盈仁、典仁親王男)1772-1830⁵⁹ 光格天皇の弟、
後桃園天皇の養子、1780聖護院忠誉親王附弟/82得度/88園城寺長吏/1810一品/30准后、
1807(文化4)「東行之記」著

荣仁親王(えいにんしんのう) → 荣仁親王(よしひとしんのう) G 4 7 4 6

D1327 **永寧**(えいねい・鄭てい、唐通事の呉ご用蔵5男)1829-97⁶⁹ 鄭幹輔の養嗣子、肥前長崎の唐通事、
華語;兄の呉泰蔵門・英語;養父幹輔門、1860少通事過人/明治期に外務省勤務、
「清文鑑和解」著、永慶/永昌の父

[永寧(;名)の別名/通称/法号]初名;卯四郎/牛郎、通称;右十郎、法号;寛量院、

永寧(えいねい・宮村) → 永寧(ながやす・宮村みやむら、歌人) K 3 2 6 1

- 櫻寧齋(えいねいさい) → 景周(かげちか・富田とだ/とみた、藩士/儒者) E 1 5 9 6
- D1328 榮然(えいねん・ようぜん;法諱、出雲僧都/慈尊院大僧都) 1172-1259⁸⁸ 鎌倉期真言僧;興然門、
1195少僧都/96大僧都/97法印/1216成宝より観修寺流灌頂を受/九条道家に灌頂を授与、
「灌頂曜宿事」「請雨経法」「請雨経法日記」「十八道聞書」「金剛界伝法灌頂曜私記」著
- D1329 永年(えいねん・白瀬しらせ、字;徳郷[卿]/号;楽園、惟彰男) 1775-1803^{早世} 日向延岡の医者;
父の藩医惟彰門/1802延岡藩侍医、藩主内藤政韻に重用される;没、1799「延陵世鑑」著
- 永年(えいねん・曾) → 槃(はん・曾そう/宋そう、本草/医者) H 3 6 1 5
- 永年(えいねん・西川) → 永年(ながとし・西川にしかわ、医者) O 3 2 2 2
- 永年堂(えいねんどう) → 貞置(さだおき・織田/平、幕臣/茶人) H 2 0 8 4
- 永年堂(えいねんどう) → 立達(りゅうたつ・麻田あさだ/綾部、天文暦学者) F 4 9 1 5
- 1344 永納(えいのう・狩野かのう、山雪男) 1631-97/1700^{67-70歳} 京狩野家3世;絵師;父山雪・狩野安信門、
古画鑑識、1659「舞楽図」76「穴太寺縁起絵巻」画/78「本朝画史」93「本朝画印」著、
「狩野永納梅岳堂記」「狩野家累世所用画法」著、「独坐禅絃之図」「本邦賢学智将像」画、
[永納(;名)の字/通称/号]字:伯受、通称;縫殿助、
号;山静/梅岳/一陽齋/素絢軒/西邑居翁山人/居翁/易亭、法号;図学院一陽
- U1357 永濃(えいのう・入谷、号;宜庵・道格)?-? 江前期;医者?/法橋、歌人、
1664歌学書「法橋永濃聞書」あり、歌;1691了然尼(茂睡編)[若むらさき]入、
[時鳥雲のいつこのひとこゑにまだ宵ながら明けぼのの空](若むらさき;44/暁郭公)
- 永能(えいのう・星野) → 永能(ながよし・星野ほしの、武家歌人) G 3 2 3 4
- 栄之丞(えいのじょう/えいのすけ・伊東) → 祐之(すけゆき・伊東いとう/牛島、藩士/歌) L 2 3 3 4
- 栄之進(えいのしん・松平/戸田) → 氏教(うじのり・戸田とだ、藩主) C 1 2 5 7
- 栄之進(えいのしん・本木) → 良永(りょうえい・本木もとき/西、通詞/翻訳) G 4 9 4 7
- 栄之進(えいのしん・中路) → 延年(のぶとし・中路なかじ/岡本、藩士/尊攘) J 3 5 3 4
- 栄之助(えいのすけ・原田) → 清矩(きよのり・小中村こなかむら/紀、商家/国学者) H 1 6 5 1
- 栄之助(えいのすけ・森山) → 多吉郎((たきちろう・森山もりやま、通詞) N 2 6 8 7
- 栄之助(えいのすけ・喜多) → 武清(ぶせい・喜多きた、絵師;挿絵) C 3 8 8 9
- 栄之助(えいのすけ・林) → 広守(ひろもり・林はやし、楽人/君が代作曲) K 3 7 6 8
- 栄之助(えいのすけ・小中村) → 清矩(きよのり・小中村こなかむら/紀、商家/国学者) H 1 6 5 1
- 栄之助(えいのすけ・柳田) → 清雄(すがお・柳田やなぎだ、里正/国学者) J 2 3 3 3
- 英之助(えいのすけ・石原) → 如松(じょしょう・石原いしはら、酒造/国学) U 2 2 6 6
- 鏝之助(えいのすけ・小川) → 尋香(じんこう・小川おがわ、俳人) O 2 2 3 3
- 栄之進(えいのしん・益田/三吉) → 周亮(しゅうすけ・三吉/益田、藩士) X 2 1 7 8
- 穎之助(えいのすけ・林) → 罔雄(くにお・林、国学者/狂歌) C 1 7 6 5
- 栄派(えいは) → 九巖(きゅうがん;道号・中達、臨濟僧) M 1 6 4 2
- 英馬(えいば・向井) → 長昇(ながのり・向井、藩士/俳人) F 3 2 3 1
- 英馬(えいば・向井) → 長樹(ながき・向井、長昇男、藩士/文筆) D 3 2 5 1
- 鋭馬(えいば・江見) → 忠梁(ただむね・江見えみ、藩士/勤王派) V 2 6 9 1
- 永配(えいはい・齋藤) → 永配(ながとも・齋藤、藩士/歌人) E 3 2 9 7
- D1330 英梅(永梅えいばい;法諱・魁叟かいそう;道号、俗姓:平)?-1467 大和曹洞僧;尾張正眼寺の道翁宗廉門、
1442正眼寺5世;66まで25年間在住、雲興寺4世/禅林寺2世;仁昌寺開、
「正眼寺歴代住山記」著
- D1331 永伯(えいはく・狩野かのう、永敬[仲簡子]男) 1687-1764⁷⁸ 狩野派絵師;父門/のち狩野永叔(主信)門、
1741「狩野古法眼系図」、「画巧諸覧」「狩氏系図附印影」著、
[永伯(;号)の名/通称/別号]名;清信、通称;縫殿助、別号;山亮、法号;図祥院
- 栄発(えいはく・奥村) → 栄発(てるのり・奥村、医/儒詩) C 3 0 8 6
- 曳白山人(えいはくさんじん) → 文亭箕山(ぶんていきざん、戯作者) G 3 8 2 6
- 栄八(えいはち・酒井) → 抱一(ほういつ・酒井さかい、絵師/俳人) 3 9 1 3
- 栄八(えいはち・遠藤) → 経教(つねのり・遠藤えんどう/藤原、神職/歌) F 2 9 3 5
- 英八(えいはち・上田) → 孤雪(こせつ;号・上田うえだ、儒者) M 1 9 8 9
- 栄発(えいはつ・奥村) → 栄発(てるのり・奥村おくむら、医者/儒詩) C 3 0 8 6

- F1355 永範(えいはん、法師) ? - ? 平安期僧/歌人;
1063(康平6)丹後守藤原公基歌合参加(判者藤原藩永のりなが/丹後で)
[もとすよりいつぬき河にすむ鶴たぐの千代のよはひを君がよとせん]、
(公基歌合;祝一番右2)
- D1332 英範(えいはん;法諱・号;宝洲房)1730-180475 近江の真言僧;醍醐寺淳臈じゅんこう門;幸心流を受、
1791江戸の真福寺27世住職、1803京の智積院27世住職/04(文化元)権僧正、
「灌頂私掌記」「御流神道口決」「伝法灌頂手鏡」「伝法灌頂秘要録」「如法三衣記」外著多数
英般若(えいはんにゃ) → 可因(かいはん・大葦原/司馬、俳人) J 1 5 1 7
- D1333 叡美(えいび・真鍋まなべ/竹村/本姓;赤松)?-? 江後期近江水口藩医、
俳人;1814「さゝなみ集」編、[叡美(;号)の通称]全弼/修吉
永美(えいび・ながよし・井上五臓)→夏鼎(ひろさだ・井上いのうえ、商家/歌人) L 3 7 0 8
英美(えいび・吉岡) → 鶴群(たづむら・吉岡よしおか、藩士/国学) U 2 6 4 6
- C1304 曳尾庵(えいびあん・加藤かとう/沼田、沼田直允3男)1763-? 水戸藩士の家/水戸藩に出仕;1787致仕、
諸国遍歴/江戸に定住、医者;山本永春院門/1816三河田原藩医;19致仕/板橋宿寺子屋師匠、
1621「我衣」、「曳尾庵雑記」「曳尾庵筆記」「曳尾隨筆」「可恐録」「園の木ノ葉」著、
谷文晁・大田南畝・山東京伝・渡辺崋山と交流、
[曳尾庵(;号)の幼名/名/別号]幼名;平吉、名;玄亀、別号;南竹/南竹庵
曳尾庵(えいびあん) → 松化(しょうか・曳尾庵、俳人) H 2 2 4 8
永弼(えいびつ・江馬) → 天江(てんこう・江馬正人、医者/詩人) D 3 0 4 6
曳尾堂(えいびどう) → 益友(えきゆう・武村/竹村、俳人) 1 3 5 7
曳尾堂(えいびどう) → 台洲(たいしゅう・熊坂くまさか、儒者/教育) 2 6 0 5
永敏(えいびん・村田) → 益次郎(ますじろう・大村、藩士/兵学) J 4 0 0 4
- B1355 栄富(えいふ) ? - ? 俳人、1663定清「尾蠅集」歌仙入
- D1334 嬰夫(えいふ、都牛;後号) ? - ? 京俳人、1782都牛に改号、1777蕪村「夜半楽」2句入
[青柳や野ごしの壁の見えがくれ](夜半楽;春興64)
永孚(えいふ・ながざね・元田) → 東野(とうや・元田、儒/藩政改革) H 3 1 5 3
永孚(えいふ・津軽) → 儼淵(げんえん・津軽つがる、藩士/儒者) E 1 8 8 2
永父(えいふ・並河) → 誠所(せいしょ・並河なみかわ/なびかわ、儒者) I 2 4 7 4
栄夫(えいふ) → 春道(はるみち・村田むらた、商人/国学/歌) 3 6 3 7
叡父(えいふ・鳥羽) → 台麓(たいろく・鳥羽とば、絵師) L 2 6 3 8
永武(えいぶ・高倉/持明院) → 宗時(むねとき・持明院/藤原、廷臣/書家) B 4 2 7 9
永武(えいぶ・榎倉/上部) → 永武(ながたけ・上部うわべ/度会/榎倉、神職) E 3 2 0 9
栄武(えいぶ・中島) → 栄武(よしたけ・中島なかじま、大庄屋/歌人) O 4 7 1 8
栄風(えいふう・三次みよし) → 稻斎(とうさい・三次、医者) E 3 1 2 8
英風(えいふう・矢田部) → 卿雲(けいうん・矢田部/荒井、蘭学) F 1 8 2 7
英風(えいふう・小出) → 英風(ひでかぜ・小出こいで、藩士/歌人) J 3 7 5 1
嬰風(えいふう・二川) → 相近(すけちか・二川ふたがわ、藩士/書/詩歌) C 2 3 4 1
永福(えいふく・高倉) → 永福(ながよし・高倉、廷臣/故実家) G 3 2 4 0
永福(えいふく・横山) → 永福(ながとみ・横山、国学者) E 3 2 9 3
永福(えいふく・田谷) → 永修(ながまさ・田谷たや、神職/国学) N 3 2 6 6
永福門院(えいふくもんいん/ようふくもんいん) → 鐙子(しょうし、伏見天皇中宮) 2 2 0 8
永福門院鐙子(えいふくもんいんしょうし) → 鐙子(しょうし、京極派歌人) 2 2 0 8
永福門院右衛門督(えいふくもんいんのうえもんのかみ) → 右衛門督(うえもんのかみ) 1 2 0 1
永福門院小右衛門督(えいふくもんいんのこひょうえのかみ) → 小右衛門督(こひょうえのかみ・章義門院) D 1 9 6 0
永福門院左京大夫(えいふくもんいんのさきょうのたいふ) → 左京大夫(さきょうのたいふ) B 2 0 4 3
永福門院治部卿(えいふくもんいんのじぶきょう) → 治部卿(じぶきょう) F 2 1 5 6
永福門院中将(えいふくもんいんのちゅうじょう) → 中将(ちゅうじょう) G 2 8 4 1
- 1345 永福門院内侍(えいふくもんいんのないし、裡[裏]葉内侍、坊門藤原基輔女)?-? 母;高階経仲女、
鎌倉/南北期歌人;京極派、永福門院鐙子女房、進子内親王の伯母;内親王を養育、
1297十五夜歌合/99五種歌合/1303伏見院仙洞五十番歌号/持明院殿当座歌合参加、

1305(嘉元3)永福門院歌合/15(正和4)為兼「詠法華經和歌」参加、
 姪の進子内親王を伴い播磨へ下り養育/1343頃帰京;43花園院院六首歌合参加、
 1346七夕百首/貞和百首参加、
 勅撰49首;玉葉(12首199/542-)続千(2首)続後拾(1119)風(27首88/101-)以下、
 [をちかたの花のかをりもややみえてあくる霞の色ぞのどけき]、
 (玉葉;春199/春朝の心)

[定家卿はやうすみける家にしばし立ち入いて又ほかへ移り侍るける折、
 かのみづから植ゑて侍りける梅の木の枝に結びつける、
 忘れじな宿は昔にあとふりてかはらぬ軒に匂ふ梅がえ](風雅1422雑;永福門院内司、
 返し;前大納言為世、
 朽ち残る古き軒端の梅が枝も又とはるべき春を待つらし、
 定家の梅については[明月記][拾遺愚草]などに入、
 徒然草139段;定家が京極の邸の軒端に一重の梅を二本植えた故事入)

永福門院二条(えいふくもんいんのにじょう)→ 二条(にじょう・永福門院、歌人) 3 3 2 5

衛奮(えいふん・根岸) → 衛奮(もりいさむ・根岸ねざし、幕臣/補任編纂) F 4 4 1 6

D1335 盈文(えいぶん:名・関せき、号;羽山/四折館)?-? 上総市原の漢学;林祭酒門、博物学、古銭蒐集、

長崎で舶来の諸鳥を観察/写生、1793「海舶来禽図彙説」、「千慮一得」[毛詩正義]著

英文(えいぶん;法諱) → 景南(けいなん;道号・英文、臨濟僧) G 1 8 4 8

映平(えいへい・太田) → 蘭堂(らんどう・太田おた、俳人) D 4 8 1 1

永平元禪師(えいへいげんぜんじ)→ 道元(どうげん:道号・希玄、日本曹洞宗祖) 3 1 0 7

栄兵衛(えいべえ・茶屋) → 玉条(たまえだ・茶屋ちやや、儒者/歌人) Y 2 6 2 5

D1336 永遍(えいへん) ? - ? 1394-1441頃越中崇福寺真言僧・高野山の成雄/快全門、
 小野・広沢流を探究、「快遍問答」「快遍問答鈔」「中院流相伝」「中院秘訣」「院秘訣」外著多数

D1337 永弁(えいべん・ようべん) 1626 - ? 1682存 山城の高山寺華嚴学僧、十無尽院住、仏書を書写、
 1661高弁「四座講式」の勘注を完成;「四座講式勘注」/「十六羅漢講式勘注」著

F1370 栄圃(えいほ・水野みずの) ? - ? 江前期大阪の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」第五夏草第三句入、1676西鶴「古今誹諧手鑑」入、
 [峯の月詩人すむべき浦見えて](生玉;夏草第三、
 脇句西随さいずい;鷺の身むるひ夏の夜の霜/蒼鷺の怪異)

英甫(えいほ・永雄;法諱)→ 永雄(えいゆう・英甫、臨濟僧/狂歌) 1 3 0 5

英輔(えいほ・桜井) → 英輔(ひですけ・桜井さくらい、国学/歌人) J 3 7 7 4

永保(えいほ・ながやす・吉雄)→ 権之助(ごんのすけ・吉雄、通詞) E 1 9 7 9

永保(えいほ・ながやす・寺田)→ 保(たもつ・寺田てらだ、国学者) S 2 6 9 4

永保(えいほ・齋藤) → 永保(ながやす・齋藤さいとう/鈴木、藩士/連歌) N 3 2 2 3

永甫(えいほ・朝川あさかわ) → 同斎(どうさい・朝川、儒者) E 3 1 4 4

永甫(えいほ・横江) → 同斎(どうさい・朝川あさかわ、藩儒者/書) E 3 1 4 4

永輔(えいほ・大中臣) → 永輔(ながすけ・大中臣おなかとみ、廷臣/歌) P 3 2 6 4

詠甫(えいほ/えいすけ・吉田)→ 利充(としみつ・吉田よしだ、農業/歌人) K 3 1 9 9

栄保(えいほ/ひでやす?・久世/六条)→ 有言(ありあや・六条、廷臣/日記) F 1 0 1 9

1346 栄宝(えいほう、通称;素阿弥)?-? 南北期僧・歌人、新千載2103、新後拾遺783、
 [すててこそおなじ山路に入りにつれ心心のうき世なりしを](新千;雑2103)

連歌師素阿と同一か? → 素阿(そあ・素眼、室町期連歌師) 2 5 3 4

栄芳(えいほう・樋口) → 雪汀(せつてい・樋口ひぐち/菅原、藩士/儒者) E 2 4 5 9

英方(えいほう・梅溪) → 雅富(まさとみ・白川しらかわ/梅溪、神祇伯) E 4 0 5 6

英方(えいほう・岩手) → 宗也(そうや・岩手、藩士/歌/連歌) D 2 5 0 0

永放(えいほう・山本) → 通春(道春みちはる・山本やまもと、詩人) C 4 1 2 9

永豊(えいほう・久子) → 翠峰(すいほう・久子くす、儒者/詩人) E 2 3 9 8

永峯(えいほう・串原くしはら)→ 正峯(せいほう・串原遠山/永井、和算家) J 2 4 6 3

永房(えいほう・間宮) → 永房(ながふさ・間宮まみや、俳人) K 3 2 0 4

永房(えいほう・齋藤) → 永房(ながふさ・齋藤さいとう、藩士/国学) N 3 2 2 1

- 英昉(えいぼう・勝俣) → 秀安(ひでやす・勝俣かつまた、医者/国学) J 3 7 0 7
 鋭矛(えいぼう・古田) → 鋭矛(としほこ・古田ふるた/源/萱野、藩士/国学) W 3 1 3 1
 英穆(えいぼく・玉井) → 養純(ようじゅん・玉井たまい、医者/儒者) B 4 7 2 1
 叡北山樵(えいほくさんしょう) → 理斎(りさい・志賀しが、幕臣/漢学/狂歌) B 4 9 0 8
 栄宮(えいみや・毛利) → 幸子(ゆきこ・毛利/有栖川、貞操院/歌) G 4 6 3 8
- D1338 英明(えいみょう;法諱、号;良田房、俗姓;新美)?-1756 三河西尾の真言僧;伊豆般若院の英澄門、
 ;出家/1711頃高野山に入;野沢の両流を修学、伊豆走湯山住/のち高野山宝珠院住、
 千蔵院/多聞院に住、1753(宝暦3)「普賢講義式」著
- 永民(えいみん・吉雄) → 忠次郎(ちゅうじろう・吉雄よしお、通詞/シ事件) G 2 8 4 6
- C1317 永明(えいめい) ? - ? 山城の歌人、1666行風「古今夷曲集」入、
 [つまづきて浮きぬ沈みぬ吉野川よしやよしなき水心だて](古今夷曲集;雑594、
 水嵩の増した吉野川を渡る人がころび流されるのを見ての詠、
 水心だては水練心得のある振舞、
 本歌;古今読人知らず;流れては妹背の山の中に落つる吉野の川のよしや世の中)
- 永明(えいめい・末満) → 永明(ながあき・末満すえみつ、神職/国学者) N 3 2 4 9
 英明(えいめい・源) → 英明(ふさあきら・源、廷臣/詩人) B 3 8 9 7
 英明(えいめい・色川) → 三中(さんちゅう・色川、商家/国学者) G 2 0 0 3
 英茂(えいも・藤田) → 英茂(ひでしげ・藤田ふじた、儒者) D 3 7 0 9
 永門(えいもん・斎藤) → 永門(ながかど・斎藤、藩士/文筆家) D 3 2 4 6
- 1347 永祐(えいゆう/ようゆう) ? - ? 南北期・1352-71頃「帝王編年記」著
- 1305 永雄(えいゆう/ようゆう;法諱・英甫;道号、武田信重[信高]男) 1547-1602 56 母;宮川尼、母方叔父;幽斎、
 若狭生/臨濟僧;建仁寺十如院修業;文溪永忠門/詩;熙春竜喜門/1586建仁寺292世、
 詩/聯句/狂歌、1595「謡抄」編纂参加、詩;「羽弓集」「倒痴集」、連歌;「也足永雄両吟」、
 近世狂歌の祖;「雄長老詠百首狂歌」「狂歌三百首抄」、「英甫永雄和尚語録」「倒痴法語」
 [英甫えいほ永雄の通称/号] 通称;雄長老ゆうちやうろう、号;武罕ぶろう/芳洲/小溪
- D1339 栄宥(えいゆう;法諱・号;陳春房)?-? 1752 存 真言僧;1746(延享3)長谷菩提院住職、
 1748(寛延元)喜多坊住職、「長谷寺脇寺記録」著
- T1399 栄雄(えいゆう;法諱・俗姓;永山)?-1821 備中倉敷の藤戸寺の住職/権律師、国学者
- 永雄(えいゆう・松井) → 永雄(ながお・松井まつい、官人/歌人) O 3 2 8 2
 衛友(えいゆう・谷) → 衛友(もりとも・谷/源、藩主/劍術/歌) G 4 4 0 1
 栄祐(えいゆう・檜林) → 栄建(えいけん・檜林ならばやし、医者;種痘) C 1 3 7 0
 栄雄(えいゆう・辺見) → 栄雄(ひでお・辺見へんみ、国学者) K 3 7 9 2
- 1348 永璵(えいよ;法諱・東陵とうりん/とうりょう;道号、俗姓;許) 1285-1365 81 元の四明の曹洞僧;
 雲外雲岫門、四明天寧寺住持/1351足利直義の招請で渡来/天竜寺3世/南禅寺33世、
 円覚寺26世、1365「璵東陵日本録」「清拙禅師塔銘」「東陵永璵禅師語録」「東陵和尚詩偈」著
- 1349 英璵(永璵えいよ;法諱・玉隠;道号、俗姓;滋野) 1432-1524 93 鎌倉臨濟宗禅興寺僧;器庵僧璵門、
 1491金沢文庫の蔵書検査に参加/建長寺住持/同寺西来庵に退隠、
 「玉隠語録」/「雙林寺聯燈録」編、
 [英璵(永璵)の号] 懶庵/玉澗、諡号;宗猷大光禅師
- 英誉(えいよ・上蓮社) → 了月(りょうげつ;法諱、浄土僧) H 4 9 2 5
- C1305 英庸(えいよう・藤河ふじかわ) ? - ? 漢学・梅外門、1857「梅外詩鈔」編
- 英要(えいよう・山澄) → 英重(ひでしげ・山澄やまがみ、藩家老/和学) M 3 7 1 8
- D1340 永陽門院(えいようもんいん、後深草院皇女) 1272-1346 75 鎌倉期、女房に歌人;左京大夫・少将など
- 永陽門院左京大夫(えいようもんいんのさききょうのだいふ) → 左京大夫(さききょうのだいふ) B 2 0 4 3
 永陽門院少将(えいようもんいんのしょうしょう) → 少将(しょうしょう・永陽門院) N 2 1 6 5
- T1388 栄瀬(えいらい・青木あおき) 1738 - 1837 70 肥前長崎の歌人、
 長崎諏訪神社大宮司青木永鷹の妻、中島広足「瓊浦集」(1840刊)入、
 永頼(えいらい・鈴木) → 永頼(ながより・鈴木すずき/穂積/竹本、藩士) N 3 2 5 3
 詠楽人(えいらくじん・「戯場楽屋図会」狂歌入) → 半兵衛(はんべゑ、松好斎、絵師) I 3 6 5 1

- 永楽屋東四郎(えいらくやとうしろう)→ 東四郎(初世とうしろう・片野、書肆) F 3 1 5 6
- B1356 郢里(えいり) ? - ? 俳人:巴人門/1732巴人「卯花千句」を宋屋と共編、
1772几董「其雪影」入;[川波の梢にとどく柳かな]几董の代句?
- B1357 嬰利(えいり) ? - ? 俳人:巴人門、1743「造花集」編:巴人追善
- C1306 英利(えいり・井せい;修姓) ? - ? 江中期詩人、
1749東溟編「名月篇」の寛延二年版を鶴沖と共編
- C1307 永理(永鯉・栄里・永犁えいり・武川亭ぶせんてい、姓;字田川)?-? 江中期江戸の絵師:鳥文斎永之門、
小石川に住、錦絵・肉筆美人画に長ず、狂歌本・黄表紙・洒落本の挿絵、
1788梶人「青楼五ツ雁金」画/90「染抜五所紋」1804「風薫婦仇討」07「狂歌蓬萊集」画、
[武川亭永理(;号)の通称/別号]通称;五左衛門、
別号;武川/礪川亭れきせんてい/勿用斎ぶつようさい/鳥橋斎/鳴鳩斎しきゅうさい/一指
永律(えいりつ・谷崎) → 永律(ながのり・谷崎、医/歌人) F 3 2 2 9
穎栗(えいりつ・清宮) → 秀堅(ひでかた・清宮せいみや、農業/国学者) C 3 7 9 8
永隆(えいりゅう・喜多山) → 永隆(ながたか・喜多山きたやま/吉江、国学/兵学) L 3 2 8 5
栄隆(えいりゅう・下田) → 栄隆(ながたか・下田しもだ、槍術/国学) N 3 2 3 5
叡竜(えいりゅう;法諱) → 界浦(かいほ・河野、儒者;音韻学) H 1 5 2 0
英竜(えいりゅう・川方/山澄) → 英竜(ひでたつ・山澄み/川方、藩士/戦記) D 3 7 1 5
英竜(えいりゅう/ひでたつ・江川) → 担庵(たんあん・江川えがわ、幕臣/砲術) H 2 6 9 0
- D1341 盈亮(えいりょう・加治かじ/本姓;平、名;景長/通称;左膳、号;北山)?-? 江戸中期江戸の武道家;
弓・馬・鎧・太刀・打物・組撃の術を大和流兵法六藝と命名、1758「本朝甲劔録」伝、
杉本保長/新藤信興らの師
- D1342 永良(えいりょう・狩野かのう、狩野永伯[山亮]の養子)?-1771 京狩野家絵師;永伯門、宮中絵所絵師、
1770(明和7)「有馬六景」画、祇園の絵馬、
[永良(;名)の通称/号]通称;縫殿助、号;山晟斎、法号;景勝院
栄亮(えいりょう・村上) → 円方(まどかた・村上、国学者/歌人) J 4 0 9 2
- B1358 栄倫(えいりん) ? - ? 俳、1678益友「大阪十歌仙名蓋」入
- C1308 英琳(えいりん・嶋しま、通称;仁三郎にさぶろう)?-? 江後期江戸両国の絵師・挿絵、
1847-53永常「勸善夜話」画
[英琳の別号] 春川二三/娛速斎夕朝
永隣(えいりん・民上) → 永隣(ながちか・民上たみのえ、医者/神職) N 3 2 8 3
英林(えいりん・倉田) → 秋満(あきみつ・倉田くらた、商家/国学) H 1 0 4 5
英琳(えいりん;字) → 日英(にちえい;法諱・英琳、日蓮僧) 3 3 6 2
栄倫(えいりん・里見) → 栄倫(ひでとも・里見さとみ、料理人) D 3 7 3 7
栄隣(えいりん;法名) → 山手白人(やまてのしろひと、布施胤致たねよし、幕臣/狂歌) E 4 5 1 4
永琳院(えいりんいん;号) → 禅慶(ぜんけい;法諱・永琳院、社僧/日記) M 2 4 1 8
影臨閣(えいりんかく) → 義教(ぎきょう;法諱・了翁、真宗僧) J 1 6 9 4
英林宗雄(えいりんそうゆう) → 孝景(たかかげ・朝倉あさくら、武将/家訓) L 2 6 6 6
永林堂(えいりんどう) → 石水(せきすい・中なか、書家) K 2 4 2 9
英林入道(えいりんにゅうどう・朝倉) → 孝景(たかかげ・朝倉、武将/家訓) L 2 6 6 6
永類(えいりい・近田) → 八束(やつか・近田ちかだ、庄屋/国学/歌) D 4 5 7 6
英烈院(えいれついん) → 忠邦(ただくに・水野、天保改革/詩歌) F 2 6 0 5
英蓮社善誉称念(えいれんしゃぜんよしょうねん) → 秀馨(しゅうけい;法諱、浄土僧) W 2 1 9 6
- D1343 英露(えいろ・秀島ひでしま) 1764-1833 70歳 肥後熊本の養菊家、西古町の別当/算法に通ず、
肥後養菊秀島流の祖、1807(文化3)「箒作菊花仕立法」/19「養菊指南車」著
[英露(;名)の通称/号]通称;七右衛門、号;有芳亭
- D1344 叡麓(えいろく・猿山さやま、名;秀盈、字;季明/進々、別号;竜池)?-1780 江戸大橋流書家;篠田行休門、
寺社奉行付右筆/致仕後;書法を指南、竜池/赤城の父、
1778「猿山書札筆用集」、「錦百人一首」著
栄六(えいろく・多田) → 竹林(ちくりん;法諱、結庵/詩歌) M 2 8 9 1
栄六郎(えいろくろう・吉田) → 秀民(ひでひと・吉田よしだ、幕臣;天文家) D 3 7 7 4

- 英和(えいわ;字) → 日意(にちい;法諱、日蓮僧) 3 3 4 1
- U1311 **慧胤**(えいん;法諱) 1699 - ? 1780(83歳)存 尾張名古屋天台宗金剛山長栄寺住僧、詩人、1781(安永10/83歳)絵師内藤東甫(閑水)主催の長栄寺尚齒会に参加(9人);詠詩賦、[慧胤の字/号]字;定保、号;明星庵
- 慧印(えいん;法諱) → 指月(しげつ;道号・慧印:法諱、曹洞僧) R 2 1 4 5
- D1345 **恵運**(えうん;法諱、安祥寺僧都、俗姓;安曇) 789-869⁸¹ 山城真言僧;815東大寺で出家/東寺実慧門、842入唐;青龍寺義眞より灌頂受/847帰国;儀軌経論180余卷請来、848山科安祥寺創建、861東大寺大仏修理落慶の導師/864小僧都、「檜尾雑記」「護摩鈔」「金剛界秘要記」著
- 1351 **慧雲**(えうん;法諱・山叟;道号、道空房/仏智禪師) 1227-1301⁷⁵ 武州臨濟:円爾門、1258-68入宋、1295東福寺5世、「山叟和尚語録」著
- D1346 **恵雲**(えうん;法諱・諡号;宝性院、恵隆男) 1613-91⁷⁹ 伊勢真宗高田派僧、性相学を修学、京の本誓寺住職、1651「善信聖人伝絵鈔」60「興御書抄」73「一枚起請鈔」86「教行信証鈔」著
- D1347 **慧雲**(えうん;法諱・字:子潤、義周男) 1730-82⁵³ 広島真宗僧;上京;僧僕門、叡山/南都/高野山修学、帰郷;報専坊住/真宗義徹底;[神棚下しの報専坊]として幕府に上訴され迫害される、1770「安心芳談」79「正信偈呉江録」80「安樂集庚子録」、「高僧和讃興宗記」著、「甘露遺稿」[慧雲の号] 号;甘露/東岳/白道、諡号;深諦院
- 慧運(えうん;字) → 大乘(だいじょう;法諱・慧運;字、真宗僧) K 2 6 3 6
- 慧雲[院](えうん[いん]) → 日円(にちえん;法諱、日蓮僧) 3 3 7 3
- 慧雲(えうん・山本) → 嘉之(よしゆき・山本やまと、官人/歌人) P 4 7 9 4
- 恵雲(えうん) → 徳子(のりこ・伊達だて、玉台院/藩主室) I 3 5 9 2
- 恵雲院(えうんいん) → 植家(たねいえ・近衛このえ、関白/歌/連歌) 2 6 4 1
- 恵永(えい、恵光) → 呑海(どんかい;法諱、有阿、時宗遊行4世) S 3 1 1 0
- 慧応(えおう;法諱・曇英) → 曇英(どんえい;道号・慧応、曹洞僧) S 3 1 0 2
- 恵雄(えおう;字) → 日講(にちこう;法諱・安国院、日蓮僧) B 3 3 8 0
- 恵雄(えおう;字) → 日習(にっしゅう;法諱・安国院、日蓮僧) E 3 3 0 2
- D1348 **懐音**(えおん・かいおん;法諱・本蓮社真誉玄阿) ?-1714 大和浄土僧;芝増上寺修学、今井西光寺住職、1693京法然院住職;大和葛城寺・称念寺再興、「浄土考原録」著/1672「諸家念仏集」編、1688「孟蘭盆法式略解」1710「往生礼讃纂釈」著
- 恵音(えおん;初法諱) → 僧音(そうおん;法諱、真宗本願寺派学僧) G 2 5 4 0
- 会遠(えおん/かいおん) → 日習(にっしゅう;法諱・修禅院、日蓮僧) E 3 3 0 5
- 恵恩院(えおんいん;号) → 智洞(ちどう;法諱・恵恩院、僧) E 2 8 9 0
- D1349 **慧海**(えかい;法諱・字;万元ばんげん/番現、俗姓広橋) 1659-1718⁶⁰ 大和吉野の僧;1674比叡山で修業、天台;憲海門、のち真言僧;1683越後国上山の五合庵結庵;住;山主良長門;真言学研鑽、国上寺の寺堂再建;国上寺中興と称される、越後長岡藩主・新発田藩主の尊信を受く、詩文/歌/連歌を嗜む、1682「吾妻の道の記」、「旅のねざめ」著
- D1350 **慧海**(えかい;法諱・字;春貞/寛春、俗姓;山田) 1662-1745⁸⁴ 三河吉田の真言僧;1673(12歳)出家、1685長谷寺・96醍醐寺で修学;顕密の奥旨を修得、常陸東福寺住職/下総妙見寺住職、江戸根生寺住職/1724護国寺住職/1725権僧正/30長谷寺21世、「慶長以来御朱印并条目等写」編
- D1351 **恵海**(えかい;法諱・字;法饒、芙蓉峰/独麟/白雪廬主、諡号;竜音院) 1707-71⁶⁵ 駿河真宗高田派僧、浄円寺住職、華嚴;鳳潭門、講師/高田派学頭職、本願寺派日溪・大谷派慧琳と交流、「安心問答記」「連環弁道略」/1763「浄土解行論」/71(明和8)「浄土文類聚鈔義贊」外著多数
- D1352 **慧海**(えかい;法諱・字;潮音、号;海印定院) 1783-1836⁵⁴ 江戸四谷の油商/真宗僧;本山学林智洞門、天台学;寛永寺慧灯門、駒込西教寺8世、神道・儒学も修学;排仏論に反駁、1819「摺裂邪網編」編、「仏蹟志」「仏足蹟誌」編、「大乘起信論義筌蹄録」「無用閑談」著/外多、
- D1353 **慧海**(えかい;法諱・号;灰峰、諡号;甘露院) 1798-1854⁵⁷ 安藝の真宗本願寺派僧、備後正満寺住職、儒;筑前の亀井南冥門、宗学;安藝長浜の僧叡門、1844(天保15)司教/51勸学、1853(嘉永6)安居に観無量寿経を構ず、足利義山・竜川慈雲の師、「観経論要」「大経論要」「浄土論啓蒙」「浄土真宗要義論題」「讃阿弥陀仏偈講義」外著多数

- 慧開(えかい;法諱) → 棲智(せいち;道号・慧開、曹洞僧) C 2 4 6 1
 恵海(えかい;法名) → 用久(もちひさ・森もり、神職) B 4 4 5 8
 恵階(えかい;法諱) → 羅城(らじょう;号・恵階;法諱、真宗僧/俳人) B 4 8 3 9
 D1354 慧鑑(えがい;法諱・字;誓禪)?-1781 真宗本願寺派僧、俳諧、「俱舍論懸譚十條」著、
 「御文章旋持記」「真宗安心義」、1770「俳諧四十八願」「俳諧善光寺詣」外著多数、
 [慧鑑の号] 臨風/遊国子/仏国子/遊諸仏国子
 D1355 慧鑑(えがい;法諱・諡号;宣忠院、俗姓本多)?-1874 三河岡崎の真宗大谷派専福寺住職、義讓門、
 1867擬講/没後嗣講を追贈、1855「私建護法議」、「内典啓蒙依宗目録」「原人論大綱」著
 1352 笑顔(えがお;美図垣みずがき、別号;愛亭めでてい/湧泉堂真清) 1789-1846 58 江戸の質商/書肆湧泉堂経営、
 1826山青堂から馬琴「八犬伝」の版木購入;6/7輯出版、32江戸京橋住/のち芝田町住、
 戯作;合巻/狂歌;眞顔まがお門、1839-68刊合巻「児雷也豪傑譚」著、40「春色眉玉柳」著、
 1841「恵花雨鉢木」「娘要文宝箱」/42「旅硯振袖日記」43「舞扇出世景清」外著多数
 C1309 慧鶴(えかく;法諱・白隠;道号、俗姓;杉山) 1685-1768 84 駿河浮島原の臨濟僧;1699(15歳)出家、
 松蔭寺で出家;単嶺祖伝門/諸師参禪/道鏡慧瑞門、1700信州の正受老人門;のち正受庵住職、
 駿河松蔭寺住持/1758三島竜沢寺の開山/日本臨濟禅中興の祖、絵師;達磨絵・観音像等多数、
 詩/和語法語/俚謡:「壁生草いつまでぐさ」「因縁集」「さし藻草」「白隠詩集」「白隠禅師法語」外著多、
 [白隠慧鶴の号/通称/諡号]号;鶴林こくりん/闍提屈[窟]せんだいくつ/沙羅樹下老衲、通称;原の白隠、
 諡号;神機独妙禅師/正宗しょうしゅう国師
 B1359 会覚(えかく) ? - ? 俳人、1692不玉「継尾つぎお集」歌仙発句入
 1353 恵岳(えかく;法諱・字;俊道、俗姓;鈴木) 1719-89 71 江戸真言僧;弥勒寺恵教門・1732出家/常陸住、
 1754常陸楽法寺24世;焼失の堂宇再建、75門弟恵応に譲り隠退、歌人;万葉集研究、
 1779「万葉集撮要」「万葉選要抄」/80「万葉非選要抄」/82「万葉集傍註」「枕詞略註」、
 「歌枕略註」著
 T1391 恵岳(えかく;法諱、) 1760 - 1827 68 京の浄土宗常楽寺住職/歌人;澄月門、
 のち香川景樹門;桂門十哲の1、徳大寺公迪きんり家の歌会に参加
 恵覚(えかく) → 恵覚(けいかく、連歌師) 1 8 3 9
 恵嶽(えかく;法諱・玄定) → 玄定(げんてい;道号・恵嶽、曹洞僧) L 1 8 6 1
 慧覚(えかく;法諱・鉄牛) → 鉄牛(てつぎゅう;道号・道機;法諱、黄檗僧) C 3 0 2 5
 慧学(えかく;字) → 念海(ねんかい;法諱、浄土僧) 3 4 6 1
 慧岳(えかく;法諱) → 弘基(こうき;法諱、真言僧) I 1 9 1 6
 恵覚房(えかくぼう;号) → 英同(えいどう;法諱、真言僧) D 1 3 2 2
 1354 慧竈(えかつ;法諱・鄂隠がくいん;道号、初諱;梵竈ほんかつ/後号;大歳たいさい) 1357?-1425 69 筑後臨濟僧、
 ・絶海中津門/1386入明;在明10年/帰国後も絶海門、1410相国寺19世/14同寺鹿苑院塔主、
 1417天竜寺61世/土佐吸江庵に退隠、「南游稿」著、1403「蕉堅藁」編、「鄂隠和尚行録」
 [鄂隠慧竈の道号法諱につて] 初め;鄂隠梵竈/晩年;大歳慧竈、号;関西/仏慧正統国師
 慧活(えかつ;字) → 日穂(にちおん;法諱・慧活、日蓮僧) 3 3 9 7
 慧勝(えかつ) → 勝子(かつこ・小津/村田、宣長母/書簡) N 1 5 2 8
 D1356 慧観(えかん;法諱・字;聖弁、号;良然)?-? 鎌倉後期浄土僧;名越派祖尊観門、
 下総古河の正定寺慈観門/師の跡を継嗣;正定寺3世、「澆季無証論」著
 D1357 慧鑑(えかん;法諱・字;法明、初字;祐光/号;居円堂) 1706-63 58 下野の真言僧;法雲祐全門;出家、
 江戸湯島靈雲寺住、1729慧曦より衣鉢戒受/1746靈雲寺住職;46「靈雲第四代住持録」著
 1760「問室童問」62「施餓鬼法私録」、「鎮護要集」「審問稽弁」「無文艸」外著多数
 恵観(えかん;出家号) → 昭良(あきよし・一条兼遐、廷臣/歌/連歌) E 1 0 0 6
 D1358 恵含(えがん;法諱) ? - ? 江後期寛政文化1789-1818頃天台僧;比叡山行光坊住、
 法印/1794(寛政6)大僧都、1804法華会行事担当、1798「山家故実記」、1803「地蔵護摩記」著
 慧巖(慧岩えがん;字) → 堅卓(けんたく;法諱・慧巖、浄土僧) K 1 8 9 3
 慧鑑明照禅師(えかんみょうしょうぜんじ) → 靈彦(れいげん;法諱・希世;道号、臨濟僧/詩文) 5 1 0 1
 慧眼院(えがんいん) → 日祝(にっしゅう;法諱、日蓮僧) E 3 3 0 1
 1338 益(えき・曾そう) ? - ? 琉球詩人;1689「執圭堂詩草」(順則「中山詩集」所収)
 D1359 益(えき・杉浦すぎうら、字;子謙/通称千輔/号;尊性堂)?-? 江中期大阪の漢学者;島町・天満町住、

1783「飢食松皮製法」著

- D1360 繹(えき・武田たけだ) ? - ? 江中期会津儒者、「呂覽抄解」「辨道管蠡」
- D1361 益(えき・中岡なかおか、字;叔享)?- ? 江後期医者/1814長崎奉行に随行:長崎滞在、1814「瓊浦通」
- C1310 益(えき・瀬山) ? - ? 江後期儒者:1841一堂「学範」の初篇筆録(佐藤簡と)
- 益(えき・小原) → 氏益(うじます・小原おはら、藩士/絵師) C 1 2 7 2
- 益(えき・小泉) → 棲真齋(せいしんか・小泉こいずみ、医者/詩) I 2 4 9 4
- 益(えき・沢) → 益(おおし・沢さわ、歌人) B 1 4 8 6
- 益(えき・草野) → 筋斎(せつさい・草野くさの、医者) K 2 4 9 1
- 益(えき・徳弘とくひろ) → 孝蔵(こうぞう・徳弘、藩士/絵/砲術) K 1 9 3 7
- 益(えき・青木) → 老樗(ろうちよ・青木あおき、医/儒者/詩) 5 2 3 8
- 益(えき・森田) → 筋斎(せつさい・森田もりた、儒者/尊攘論) 2 4 1 8
- 益(えき・早崎) → 益(すすむ・早崎はやさき、藩士/骨董商/歌) D 2 3 3 7
- 益(えき・小原) → 氏益(うじます・小原おはら、藩士/絵師) C 1 2 7 2
- 易(えき・斎藤) → 定易(さだやす・斎藤/大坪、馬術家) K 2 0 0 4
- 奕(えき・河野) → 杏庵(きょうあん・河野/越智/越、医者) N 1 6 1 6
- 繹(えき・内藤) → 泉庵(せんあん・内藤ないとう、医者/詩文) L 2 4 5 1
- 慧曦(えぎ;字) → 義燦(ぎさん・慧曦、真言僧) K 1 6 7 3
- D1362 益庵(えきあん・渡部/渡辺、名;宗佐、宗男/本姓源) 1627-8862歳 美濃医者;幕医須原清庵門、1655陸中盛岡藩主南部重直を治療/侍医;69仙台住、1660「八戸紀行」
[益庵の号] 陽光/焉知/敦樸とんぱく/嘯月庵
- 益庵(えきあん・河野) → 春察(しゅんさつ・河野こうの、儒者) K 2 1 7 8
- 益庵(えきあん・松井) → 蘿月(らげつ・松井まつい、医者/国学者) D 4 8 5 7
- 易安(易庵えきあん・宮原) → 筋庵(せつあん・宮原/渡橋、儒者/詩) E 2 4 0 3
- 易安(えきあん・滝本) → 容安(ようあん・滝本たきもと、地誌家) 4 7 5 6
- 易安(えきあん・林) → 孚一(さねかず・林はやし/石井、商家/歌人) P 2 0 1 6
- 亦庵(えきあん;号) → 桃源(とうげん;道号・瑞仙、臨濟僧) D 3 1 3 8
- 益英(えきえい→ますひで・新山/津高) → 勤斎(きんさい・小亀こがめ、書肆/韻学/仮名草子) I 1 6 9 8
- 益栄(えきえい・下平) → 益栄(ますなが・下平しもひら/大原、国学者) Q 4 0 1 8
- 掖々山人(えきえきさんじん) → 鷗洲(おうしゅう・巻まき、書家/歌人) C 1 4 4 8
- 易右衛門(えきえもん) → 易右衛門(いえもん・金こん、藩士/養蚕/俳) F 1 1 0 4
- 益翁(えきおう;号) → 慈航(じこう;法諱/性海、真宗本願寺派僧) T 2 1 3 7
- 益翁(えきおう・高滝) → 以仙(いせん・山崎/高滝、俳人) B 1 1 0 3
- 益翁(えきおう;道号) → 益翁(やくおう/えきおう;道号・宗謙;法諱、曹洞僧) 4 5 4 6
- 益翁(えきおう・小亀) → 勤斎(きんさい・小亀こがめ、書肆/韻学) I 1 6 9 8
- 益翁(えきおう・草野) → 筋斎(せつさい・草野くさの、医者) K 2 4 9 1
- 易翁(えきおう) → 岱海(たいかい・市島、医/詩文) J 2 6 4 2
- 易翁(えきおう・青木) → 北海(ほっかい・青木/殿岡、和漢学者) E 3 9 5 3
- 易往院(えきおういん) → 撝謙(ぎげん;法諱、真宗僧/教育者) K 1 6 3 1
- 易往閣(えきおうかく) → 義教(ぎきょう;法諱・了翁、真宗僧) J 1 6 9 4
- D1363 益音(えきおん) ? - ? 尾張津島の俳人;1689「あら野」入、
[谷川や茶袋ちやぶくろそゝぐ秋のくれ](あら野;卷四/仲秋/茶袋を濯ぐ隠者の景)
- 亦可草堂(えきかそうどう) → 可亭(かてい・羽倉はくら、書画/篆刻) O 1 5 0 9
- F1372 亦閑(えきかん・江崎えざき) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
[尾羽打からす善知鳥うとう安方やすかた](物種集/前句;牢人の果ては物うき血の泪、
謡曲「善知鳥うとお」;親は空にて血の涙を降らせば)
- 役観(えきかん・役) → 藍泉(らんせん・役えき/島田、修験僧/詩人) C 4 8 8 3
- 奕禱(えきき・多紀) → 元胤(もとつぐ・多紀/丹波、幕臣/医者/詩) D 4 4 0 8
- 益久(えききゅう・賀茂) → 益久(ますひさ・賀茂かも、神職/歌人) J 4 0 1 5
- 益躬(えききゅう・宮地) → 益躬(ますみ・宮地/藤原、神職/国学) J 4 0 2 5

- 益郷(えききょう・進藤) → 益郷(益卿ますさと・進藤、坊官/記録) J 4 0 0 2
- D1321 益愚(えきぐ) ? - ? 江前期俳人;1693不角「二息ふたいき」入、
「頼様ゆりさまと言はぬ菖蒲あやめが人殺し」(二息/源頼政の女選び/人殺しは男を迷わす美女)、
参照 → 頼政(よりまさ・源、武将) 4 7 3 6
- 1355 慧菊(えきく;法諱・允芳いんぼう;道号)?-1548 安桃期京の臨濟僧;旭昇恵桑門、
建長寺住持/安国寺住持、「持雲安集」・「蔵六遺稿」、竺雲慧心の得度の師
亦愚居士(えきぐこじ) → 聴雨(ちやう・村上、儒者) H 2 8 2 7
益敬(えきけい・鷲尾) → 益敬(ますたか・鷲尾わしのお、藩士/郡奉行) J 4 0 0 6
益溪(えきけい・清水) → 黙雷(もくらい;法諱・島地/清水、真宗僧) B 4 4 1 2
益卿(えきけい・溝口) → 直諒(なおあき・溝口、藩主/文筆) 3 2 5 9
益卿(えきけい・小笠原) → 冠山(かんざん・小笠原おがさわら、藩士/儒) H 1 5 6 4
益卿(えきけい・小川) → 乾山(けんざん・小川おがわ、藩士/儒者) J 1 8 2 4
益卿(えきけい・進藤) → 益郷(益卿ますさと・進藤、坊官/記録) J 4 0 0 2
益卿(えきけい・伊藤) → 蘭林(らんりん・伊藤いとう、儒者/詩人) D 4 8 3 1
- 1306 益軒(えきけん・貝原かいばら篤信/字;子誠、利貞[寛斎]男)1630-1714⁸⁵ 筑前儒者;尺五/闇斎/順庵門、
福岡藩儒臣、程朱学/民生日用の学;庶民啓蒙、詩文・語学/本草/晩年は古学派的思考、
「慎思録」「近思録備考」「大疑録」「和歌紀聞」「和爾雅」「益軒十訓」「和俗童子訓」「養生訓」、
[養生の術は安閑無事なるを専とせず 心を静かにし身を動かすをよしとす](1713養生訓)
[益軒の別号] 柔斎/損軒、妻は江崎広通女の初はつ(東軒)、
「女大学」は「和俗童子訓」により編成;妻東軒の著? → 東軒(とうけん・貝原/江崎) D 3 1 3 0
- F1375 益謙(えきけん・内池うちいけ、通称;周平)?-? 江中期;近江の医者/京に住、
歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末;長歌1首入
- F1378 益堅(えきけん・名越なごえ) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[なつかしき妹が垣根に袖ふれてかたえはをりつ山吹の花](大江戸倭歌;春332/垣山吹)、
[暁のうつつにひとりしのべとや恋しき人の夢に見えけん](同;恋1499/暁恋)
- 益謙(えきけん・橋本) → 伴鷗(ばんおう・橋本、商家/詩歌/俳) H 3 6 3 1
易軒(えきけん・小泉) → 安定(やすだ・小泉いづみ、藩士/歌人) B 4 5 3 8
- B1360 益光(えきこう・中津なかつ) ? - ? 伊勢の俳人、1683三千風と俳話「伊勢斐杉」入、
1683三千風・未済みせい・勝筵しやうえん・又玄ゆげんらと一座:三千風「日本行脚文集」入
益光(えきこう・裏松) → 益光(ますみつ・裏松/藤原、廷臣/日記) J 4 0 2 9
益興(えきこう・今泉) → 千春(ちはる・今泉いまいづみ、歌人) F 2 8 1 8
益孝(えきこう・徳弘) → 孝蔵(こうぞう・徳弘とくひろ、藩士/絵/砲術) K 1 9 3 7
益孝(えきこう・中津) → 益孝(ますたか・中津なかつ/秦、国学者) R 4 0 1 4
益弘(えきこう・黒瀬) → 益弘(ますひろ・黒瀬/度会、神職/記録) J 4 0 2 0
益荒(えきこう→ますら・伊藤) → 嘉融(よしゆき/よしなが・伊藤いとう/藤原、尊攘) B 4 7 7 3
益綱(えきこう・真野) → 益綱(みちつな・真野まの/渡辺、神職) K 4 1 4 8
亦光(えきこう・佐藤) → 立軒(りっけん・佐藤さとう、儒者) B 4 9 7 6
易行庵(えきこうあん→いぎやうあん) → 通元(通玄つうげん、真宗大谷派僧) 2 9 3 2
易行院(えきこういん→いぎやういん) → 法海(ほうかい;法諱、真宗大谷派僧) 3 9 2 6
易行院(えきこういん;諡号) → 栖城(せいじやう;法諱、真宗学僧) I 2 4 8 3
益根(えきこん・河村) → 益根(ますね・河村、秀根男/儒・国学者) J 4 0 1 2
- D1364 益斎(えきさい・富取とみとり/修姓;富)?-1822 越後西蒲原郡地藏堂の大庄屋の一族、
医者/のち京四条高倉西で篆刻家、「印章概説」「印章備正」著、
[益斎(;号)の名/字/法号]名;鴻、字;公範、法号;清山院
- 1307 掖斎(えきさい・狩谷かりや、江戸本屋青裳堂高橋高敏男/狩谷保吉養子)1775-1835⁶¹ 国学/漢学者、
1799狩谷家養嗣子、江戸の米屋(屋号;津軽屋)、上代制度研究;屋代弘賢門/考证学・校勘、
小学・金石学研究、1815家督を息子懐之かねゆきに譲り研究没頭、「転注説」「箋注和名類聚抄」、
「古京遺文」「日本靈異記攷証」「蒙求和歌」「本朝音韻考」「律呂精義抄書」「京游筆記」外多数、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[文字の関まだ越えやらぬ旅人は道の奥をもいかに知るべき](大江戸倭歌;雑1953、

説文解字といふ事を)、

[掖齋(号)の名/字/通称/別号] 高橋姓の時;名;眞末/眞秀、字;自直、通称;与惣次、狩谷姓になり改名;望之もちゆき/字;卿雲/通称;三右衛門、

別号;蟬翁たんのう/求古楼/六漢老人/超花亭/常閑書院/実事求是書屋

益齋(えきさい・前田) → 利保(としやす・前田、藩主、歌/本草) O 3 1 0 1
益齋(えきさい・浅野) → 慶熾(よしてゐる・浅野あさの、藩主/書/歌) K 4 7 6 1
益齋(えきさい・大熊) → 峰麿(みねまろ・大熊おおくま、医者/歌人) I 4 1 3 5
益齋(えきさい・河原) → 信充(のぶみつ・河原かわはら、神職/国学者) I 3 5 0 3
繹齋(えきさい・谷) → 三山(さんざん・谷たに、儒者) F 2 0 8 5
掖山(えきざん・卷) → 鷗洲(おうしゅう・卷、書家/歌) C 1 4 4 8

F1365 益子(えきし;道号・集箴しゅうしん/宗箴そうしん;法諱) 1410-8778 戦国期臨濟僧;

相国寺塔頭の鹿苑院蔭涼軒いんりょうけん主、「蔭涼軒目録」には後職の亀泉集証筆録に入

益子(えきし・万孚まんぷ) → 万孚(まんぷ・益子;道号、曹洞僧) K 4 0 8 2
益子(えきし・芝山) → 益子(ますこ・芝山しばやま、歌人) Q 4 0 1 3
益之(えきし/ますゆき・東) → 素明(そみょう;法師、東とう益之、武将/歌) E 2 5 3 8
益之(えきし/ますゆき・志村) → 天目(てんもく・志村むら、篆刻/俳人) E 3 0 4 0
益之(えきし・佐藤) → 水石(すいせき・佐藤さとう、絵師) E 2 3 7 3
易治(えきじ・岡/高橋) → 易治(やすはる・高橋/岡、藩士/手記) C 4 5 6 9

D1365 益子内親王(えきしないしんのう、後西天皇皇女、九条輔実室) 1669-173870 江前期;1686内親王、母;清閑寺共綱の女共子、歌人、「地歌集」「長歌文字鎖」「心華光院殿御日記」著、

[益子内親王の幼名/法号]幼称;賢宮、法号;心華光院

益主(えきしゅ;法諱) → 魯山(ろざん;道号・益主;法諱、黄檗僧) B 5 2 5 8
益寿院(えきじゅいん) → 元端(げんたん・向井、去来の兄/医者) F 1 8 0 2
易従(えきじゅう・江村) → 毅庵(きあん・江村えむら、藩士/儒者) I 1 6 4 2
易重(えきじゅう・左右田) → 易重(やすしげ・左右田そうだ、兵法家) B 4 5 6 7
易重(えきじゅう・春日) → 易重(やすしげ・春日かすが/藤原、神職/国学) F 4 5 7 6
亦柔(えきじゅう・多紀) → 元堅(もとかた・多紀たき/丹波、幕府奥医) C 4 4 3 6

B1361 益春(えきしゅん・福嶋ふくしま)?-? 江前期俳人;以仙門、1677以仙「難波千句」入、1678西鶴「物種集」入、

[もとより富士は住吉の茶屋](物種集/前句;うどんをも今はうたでは叶ふまじ、謡曲「葵上」;今は打たでは叶ふまじと、謡曲「富士太鼓」;住吉の富士という名の楽人)

益春(えきしゅん・壺井) → 益春(ますはる・壺井つばい/山本、役人/国学) Q 4 0 9 8
亦如(えきじょ;号) → 戒輓(かいげん;法諱・石車、黄檗僧) I 1 5 5 7
亦助(えきじょ・中沢) → 亦助(またすけ・中沢、藩士/和算家) J 4 0 4 6

C1328 易勝(えきしょう) ?-? 江前期伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」372、

[いくたびもうたれんものや花の滝、

(犬子集;二372/散る花の滝なら何度打たれてもよい)

D1366 益昌(えきしょう;名・壇だん;姓、通称;堪左衛門)?-? 江後期筑後柳川藩士/和算家、

古川氏清創始の三和一致流(至誠賛化流)を相伝、「算術学板問答」「雑問解」

T1379 益城(えきじょう/ましき?・津守つもり)?-? 江後期;歌人、神職?、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[夕闇におぼろのしみづむすぶ手のしづくの玉や螢なるらん]、

(大江戸倭歌;夏579/水辺螢)

益城(えきじょう/ましき・松崎) → 慊堂(こうどう・松崎まつざき、儒者) 1 9 1 7

U1355 益性法親王(えきしょうほうしんのう、龜山天皇皇子)?-? 沙門/仁和寺流相承者;益助門/性心へ相承、

新海・道賢・神弘・性善・性心の師、歌;1350為世十三回忌和歌に出詠、

[たちかへる里にも猶やまよはましをしへし道を思ひ出でずは](為世十三忌歌;75)、

[なき人の我がいにしへを語りしも今は昔に又なりにけり](同;76/懐旧)

益信(えきしん;法諱) → 益信(やくしん;法諱、真言僧;広沢流祖) 4 5 4 9

益信(えきしん・狩野) → 洞雲(とううん・狩野かのう、絵師) B 3 1 2 0

- 益信(えきしん・田中) → 益信(ますのぶ・田中たなか、絵師) J 4 0 1 3
 益人(えきじん)万葉はすべて → 益人(ますひと)
 益人(えきじん・弦掛) → 弦掛益人(つるがけのますんど、狂歌) E 2 9 7 8
 C1339 易吹(えきすい) ? - ? 江前期京の俳人、
 1689言水「前後園」・90「新撰都曲」2句入、
 [北山や果ては宿とるさくらがり]、
 (都曲;下281/北に来たを掛る/京の北山;船岡・衣笠・岩倉山など)
 易輔(えきすけ・杉村) → 健(けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜) H 1 8 4 7
 益政(えきせい・神/物部) → 益政(ますまさ・神じん/物部、武家/連歌) J 4 0 2 1
 亦政堂(えきせいどう) → 長洲(ちようしゅう・城じよう、儒/詩人) I 2 8 7 5
 益性法親王(えきせいほつしんのう) → 益性法親王(えきしやうほつしんのう、歌) U 1 3 5 5
 役赤城(えきせきじよう) → 義観(ぎかん・島田、修験宗僧/詩) J 1 6 8 9
 益壮(えきそう・大原) → 重徳(しげとみ・大原おほはら、権中納言) S 2 1 1 3
 易蘇堂(えきそどう) → 貝陵(ばいりよう・高松たかまつ、儒/易学) C 3 6 2 4
 益泰(えきたい・本間) → 長兼(ながかね・本間ほんま/源、幕臣/歌) K 3 2 1 0
 役尊為(えきたかため) → 尊為(たかため・役えき、平賀、修験僧) M 2 6 2 2
 役尊閑(えきたかたかやす) → 尊閑(たかやす・役えき、平賀、修験僧) N 2 6 5 2
 益太郎(えきたろう・浅井) → 筋軒(せつけん・浅井、藩士/医者/詩文) E 2 4 2 0
 益智(えきち;法諱) → 魯山(ろざん;道号・益主;法諱、黄檗僧) B 5 2 5 8
 益忠(えきちゆう・本阿弥) → 光徳(こうとく・本阿弥ほんあみ、鑑定家) K 1 9 8 3
 易中(えきちゆう・池上) → 菊所(きくしよ・池上いけがみ、俳人) K 1 6 1 3
 益長(えきちよう・東坊城) → 益長(ますなが・東坊城ひがしぼうじよう/菅原、廷臣/日記) J 4 0 1 0
 益長老(えきちやうろう;通称) → 三江(さんかう;道号・紹益、臨濟僧/聯句) M 2 0 1 3
 易直(えきちよく・佐々) → 鶴城(たづき・佐々ささき、神職/国学) P 2 6 0 1
 易亭(えきてい・狩野) → 永納(えいのう・狩野、絵師) 1 3 4 4
 役藍泉(えきらんせん) → 藍泉(らんせん・役えき、島田、修験僧) C 4 8 8 3
 D1367 衛吉(恵吉えきち;通称・田内たのうち、名;喜多治/茂稔しげとし、武市正恒2男) 1835-64服毒死30歳 母;鉄、
 土佐長岡郡吹井村の郷土の家の生、武市瑞山(半平太)の弟、叔母の菊は鹿持雅澄の妻、
 田内真鎮(眞鉦ますき)の養子;土佐藩用人格に列す、漢学/国学:養父門、
 1862江戸で国学;鈴木重胤門、さらに剣術;長沼四郎左衛門門、
 帰途;同志岡田以蔵らと藩士井上佐市郎を殺害、
 帰国後;志士;五十人組を組織、再び江戸途上中誤って坂本瀬平を殺害;親戚に預けられる、
 1864勤王党弾圧により捕縛投獄;服毒死、「北山しぐれ」「入獄自記」「忍獄記」著
 易張(えきちよう・中村) → 梅塙(ばい・中村なかむら、藩士/儒者) 3 6 6 0
 易直(えきちよく・中村) → 観濤(かんと・中村なかむら、藩士/詩文) R 1 5 5 1
 易直(えきちよく・波多) → 易直(やすなお・波多はた、国学者) G 4 5 3 9
 益直(えきちよく・島田) → 益直(ますなお・島田しまだ/紀、廷臣/記録) J 4 0 0 9
 益直(えきちよく・佐藤) → 理珊(りさん・佐藤さとう、藩医) B 4 9 1 1
 C1340 易貞(えきてい) ? - ? 福知山俳、1689言水「前後園」・-90「新撰都曲」入
 益亭(えきてい・荒巻) → 菊男(きくお・荒巻あらまき、商家/俳人) K 1 6 0 4
 駅亭駒人(えきていこまんど) → 駒人(こまんど・駅亭、戯作者) F 1 9 8 7
 益亭三友(えきていさんゆう) → 三友(さんゆう・益亭、戯作者) E 2 0 7 6
 亦顛(えきてん・市河) → 米庵(べいあん・市河、儒者/詩/書家) 2 7 0 0
 D1368 益堂(えきどう・鈴木すずき、名;善教/字;叔徳/通称徳之助) 1819-60 42 江戸の儒者;昌平黌に修学、
 講説業、時勢に痛憤;論策著述、1850「褐夫八論」54「蝦夷旧聞」57「経世学論」著、
 1878「三河雑筆」、「益堂日抄」「読蔵大旨」「論策十八条」「大学纂説」著
 易堂(えきどう・久米) → 邦武(くにたけ・久米、藩士/欧米視察) C 1 7 8 4
 奕堂(えきどう・梅崖;法諱) → 梅崖(せんがい;法諱・奕堂、曹洞僧) F 2 4 9 2
 益道(えきどう・伊藤) → 華岡(かこう・伊藤いとう、書家) L 1 5 6 0
 益道(えきどう・児玉) → 益道(ますみち・児玉こだま、藩士/国学) P 4 0 6 8

- 益堂(えきどう・布川) → 菱潭(りょうたん・布川ぬのかわ、儒/兵学者) I 4 9 8 2
益徳(えきとく・三浦みうら) → 益徳(ますり・三浦みうら、藩士/国学者) J 4 0 1 4
易得子(えきとくし・庄村) → 貞甫(ていほ・庄村しょうむら、商家/墳墓録) B 3 0 6 6
C1380 易難(えきなん) ? - ? 江中期俳人; 雁宕(がんどう)(?-1773)門、
1785雁宕13回忌追善集「たままつり」編
益仁(えきにん/ますひと) → 崇光天皇(すこうてんのう、歌人) D 2 3 2 9
益之進(えきのしん・山崎) → 郷義(さとよし・山崎/源、藩士/捕縄術) K 2 0 5 8
益夫(えきふ・宇津木) → 昆台(こんだい・宇津木[-城]/于、医者) G 1 9 5 9
益夫(えきふ・増田) → 立軒(りっけん・増田ますだ、儒者/著述) B 4 9 7 2
益夫(えきふ・福) → 石室(せきしつ・福ふく、儒者/詩人) K 2 4 1 2
益夫(えきふ・柏木) → 如亭(じよてい・柏木/柏、幕府棟梁/詩) C 2 2 8 3
益夫(えきふ・大谷) → 尚古(しょうこ・大谷おおたに、儒者/俳人) I 2 2 6 8
益平(えきへい・大坪) → 寛近(ひろちか・大坪おおつば、役人/国学) I 3 7 8 7
益甫(えきほ・高橋/小樽こぐれ) → 賀前(かぜん・山本、和算家) M 1 5 7 2
益甫(えきほ・後藤) → 東庵(とうあん・後藤ごとう、漢学/教育者) I 3 1 9 5
益房(えきぼう・清閑寺) → 益房(みちふさ・清閑寺/藤原、廷臣/記録) C 4 1 4 3
1356 亦夢(えきむ・黒川くろかわ) ? - ? 越中新庄の俳人/京で皆川淇園門; 漢学を修学、
1830俳論「俳諧一串いっかん抄」著(鶯園序)、38「俳諧点式標」/44「詩経一枝」著、
[亦夢(;号)の名/通称/別号]名; 那雄、通称; 彝、別号; 六平斎
亦夢(えきむ・河原) → 翠城(すいじょう・河原/村上、儒者/詩) 2 3 6 7
1357 益友(えきゆう・武村/竹村たけむら/武野?)?-? 1680存 大阪の俳人; 益翁門、雑俳点者としても活動、
談林俳人、1679(延宝7)「一日独吟千句」/79「ぬれがらす」一礼と共編(; 両吟百韻2巻)、
1680「大坂十歌仙各蓋(まい)いさかづき」編、80「大坂八百韻」益翁・本秋と共編、
1677益翁「難波千句」/82春林「俳諧百人一句難波色紙」/90鬼貫「俳諧大悟物狂」(7句)入、
1691江水「元禄百人一句」/91賀子「蓮実」(13句)/97閑水「ぬれがさ」、
1702轍士「花見車」入、
[花遅し風や世界の大あくび](ぬれがらす; 百韻発句)、
[みやま路ぢや何とらまへて呼子鳥](元禄百人一句; 85/山中誰もいないのに)、
[益友(;号)の名/通称/別号]名; 昌数、通称; 清左衛門、別号; 万海(ばんかい)/一灯軒/曳尾堂
益友(えきゆう・佐藤) → 益友(ますとも・佐藤さとう、国学者) P 4 0 8 4
益裕(えきゆう・早崎) → 益裕(ますひろ・早崎はやさき/仙石、藩士/国学) R 4 0 8 7
益雄(えきゆう・五味) → 可都里(かつり・五味ごみ、俳人) C 1 5 5 6
益雄(えきゆう・熊沢) → 益雄(ますお・熊沢くまざわ、藩士/歌人) N 4 0 0 0
易雄(えきゆう) → 岩松(がんしょう、俳人) R 1 5 0 7
慧璆(慧球えききゅう; 字) → 祥光(しょうこう; 法諱・慧璆、真言僧) I 2 2 7 4
U1342 恵経(えききょう; 法諱、) ? - ? 平安鎌倉期; 南都の僧/法師、
歌人; 1237刊[檜葉ならのは集]入、
[たづねゆく心やさきにかよふらんまだみぬ花のおもかげにたつ](檜葉; 春32)
D1369 慧恭(えききょう; 法諱・字; 可円かえん、湯沢久泰の長男) 1693-1780 88 信濃伊那郡座光寺村の浄土律僧、
1705(13歳)飯田西教寺空誉門; 出家/のち江戸の深川霊岸寺に修学、招聘され西教寺8世、
牛牧村明光寺を再興/1739雲水となる/各地の寺院を再興、山城西光院住/檀林に修学、
両脈相承後; 戒律; 敬首・義燈門; 受戒、尾張円成寺の持律3世、美濃円満寺・北野西迎院中興、
大坂龍興寺・法明寺を復興/山城西光院・摂津竜興寺で戒を説く; 奉律の始祖、
歌人; 依田正純(梅山)・万里小路政房・鳥丸光祖(みつもと)・冷泉為村門、京の人丸寺に没、
「西教寺記」「臨終用心」「浄宗律儀問答」「浄宗兼律儀要訣」著、慧通の師、
[慧恭(;法諱)の幼名/号]幼名; 牛之助、号; 大愚/輪阿、法号; 可円慧恭律師
恵教(えききょう; 字) → 日生(にっしょう; 法諱・教蔵院、日蓮僧) E 3 3 1 8
恵教(えききょう; 法諱・松堂) → 虚白(きよはく; 号、松堂恵喬、臨濟僧/俳人) D 1 6 5 0
慧教(えききょう; 法諱) → 智教(ちきょう; 法諱、真宗仏光寺派僧) C 2 8 4 1
慧鏡(えききょう) → 義彦(ぎりゆう; 法諱、真宗僧) Q 1 6 5 1

- 1358 **恵行**(えぎょう) ? - ? 奈良期の僧;750?越中の講師こうじ(国師)、
万葉四期歌4204:越中守大伴家持の布勢遊覧に同行、
[我が背子せが捧げて持てるほほがしはあたかも似るか青き蓋きぬがき](万葉;十九4204、
攀よち折れる保宝葉ほほがしを見る歌/保宝葉はほおのき/守の持つ枝は青傘に酷似)
- 1308 **恵慶**(慧慶/恵京えぎょう/えけい)?-? 平安中期天徳-寛和957-87頃天台僧;法師、
播磨国分寺の僧/講師;播磨講師と称す、歌人/安法と親交;安法住持の河原院に出入り、
花山院・藤原道兼らに詠進/元輔・兼盛・好忠らと交流、962河原院歌合参加、「恵慶法師集」、
玄々集5首/後葉集1首(240)/続詞花集3首入、
勅撰55首;拾遺(18首62/69/131/140/151以下)後拾(11首210/236/235以下)詞花以下、
[八重むぐらしげれる宿のさびしきに人こそ見えね秋は来にけり](拾遺140:河原院)
☆恵慶(えけい;法諱、平安鎌倉期東大寺僧/俊盛しゅんしゅう男/歌人)とは別人
- U1351 **恵暁**(えぎょう;法諱、藤原家通[1056-1116]男)?-? 平安末期;興福寺の僧;権別当/法印、
歌人;1237刊[檜葉集]入、藤原顕経(従後下越前権守)・源豪(天台僧)の弟、
[法印恵暁若く侍りける時東大寺尊勝院に侍りける童に申しかはしけるが、
雪の深かりける夕つ方童ともだちの許に消息し侍りける便りに言付け侍りけるを、
ただちのふみならばいますこしほいにて侍りなましとて、
おなじくはつもるうらみもとくばかりふみわけてとへ庭の白雪](檜葉;雑863)
- 1359 **慧暁**(えぎょう;法諱・白雲;道号、仏照禅師)1228-79? 讃岐臨濟僧・円爾門、66-79入宋、東福寺4世、
「石人腰帯」「由迷能起」、「白雲和尚法語」著、「仏照禅師語録」(;虚室こい編)
- D1370 **恵暁**(えぎょう;法諱、恵敬/恵順)1677-? 1727存 越中鷹栖の真宗大谷派正安寺の生;
1701上京;西福寺恵空門、12帰郷;正安寺住職/26京の西蓮寺住職、27高倉学寮の講師、
1718「一枚起請愚験記」/23「一枚起請恵暁説記」、「恵空老師行状記」著
- D1371 **恵凝**(えぎょう;法諱) ? - ? 江戸後期能登の真宗僧、
「安楽集講録」「安楽集玄談」「科金鉀論」、1795刊「金剛鉀論」著
恵慶(えぎょう;法諱) → 恵慶(えけい;法諱、東大寺僧/歌) U 1 3 3 6
慧暁(えぎょう) → 義彦(ぎげん;法諱、真宗僧) Q 1 6 5 1
恵行院(えぎょういん;諡号) → 知道(ちどう;法諱、真宗大谷派僧) E 2 8 9 7
- D1372 **恵旭**(えぎょう;法諱・字;良縁、号;鷲丘)?-? 江中期寛保安永1741-81頃三河鷲塚村の真宗大谷派僧、
1742親鷲研究に志す;諸国行脚し史料蒐集、1773火災で史料焼失;記憶を喚起し著述、
1776(安永5)「宗祖世録」(;記憶をもとに完成)、「宗祖七十三輩考」著
- T1392 **恵玉**(えぎょう;法諱、) ? - 1772 信濃諏訪の曹洞宗風穴山竜雲寺の住職、
歌人;澄月門
恵旭(えぎょう;字) → 曇寂(どんじやく;法諱、真言僧) S 3 1 2 5
益良(えきりょう・東坊城) → 益良(ますよし・東坊城/菅原/広橋、廷臣/日記) 4 0 7 3
- 1360 **恵空**(えくう;法諱、俗姓;木曾、正覚祐俊男)1643-91? 紀伊真宗浄福寺3世(父が開山/兄が2世)、
1666叡山で天台学修学;真宗より改宗、1678真如堂で説教/洛東正立寺建立、多方面の著述、
仏書;「講余録」「自信録」「無尽灯」「浄信録」、国学「徒然草参考」「法音抄」、隨筆「閑窓倭筆」、
「梨窓隨筆」「梨窓二筆」「暇日操觚」/啓蒙「実語教諺解」「童子教諺解」「新刊節用集大全」編
[恵空の号] 覚賢・曲肱亭
- B1301 **恵空**(えくう;法諱、字;得岸、俗姓;川那辺、信空男)1644-1721? 近江野洲郡金森の僧;
比叡山で修行、のち真宗大谷派学僧;京の誓源寺円智門;真宗義を修学、
円智推薦で1670本山修業、1680京の西福寺住、1684以降大蔵経閲読;浄土部の典籍研究、
大学寮(高倉学寮)創立尽力、1715初代講師、浄土宗の忍激(仁激)や義山とも交流、
1698「叢林集」1711「叢林集要文」14「疑問釈答」19「選択集聞記」、「貝塚記」著、
「無量寿経講義」「恵心僧都行状記」「真宗安心芳談」著、「真宗仮名聖教」編、外編著多数
[恵空の号] 号;光遠房/秀光堂、諡号;光遠院
恵空(えくう) → 植通(たねみち・九条、玖山、関白/歌・連歌) 2 6 4 5
恵空(えくう;初諱) → 恵琳(えりん;法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 3 6
恵空(えくう;法名) → 邦高親王(くにたかしのう、歌人/連歌) 1 7 7 2
恵空(えくう;別諱) → 謙光(けんこう;道号・寂泰;法諱、黄檗僧) I 1 8 6 5

- 恵空(えくう;法諱) → 寂然(じやくねん;道号・恵空、曹洞僧) W 2 1 1 6
 江口遊女(えぐちのゆうじょ) → 白女(しろめ) D 2 2 3 7
- D1373 慧訓(えくん・和尚) ? - ? 詩文;1745嘯山の師/89「嘯山詩集」欄外に評
 恵群(えぐん;法諱) → 道振(どうしん;法諱、真宗本願寺派僧) F 3 1 6 3
- U1336 恵慶(えけい;法諱、興福寺僧の俊盛しゅんしゅう男;宇田源氏)?-? 平安鎌倉期;東大寺僧、
 維摩会講師(1199辞任)、歌人;菊苑庚申講に参加、
 父俊盛(俊頼男)は千載歌人/祖父俊頼は金葉歌人/伯父俊重・俊恵、叔母に待賢門院新少将、
 従兄弟頼円(俊恵男/興福寺僧/千載歌人);俊頼・俊恵など一族すべて歌人、
 1237素俊[檜葉集]入(;菊苑僧正[範円?])の庚申講での詠/雲葉集5首入、
 [かたしきのわが袖ちかききりぎりすのべにもかかる露はならはじ](檜葉;秋264)
 ☆恵慶(慧慶/恵京えぎょう・平安中期天台僧/拾遺歌人)とは別人
- D1374 会慶(えけい;法諱・字;覚頭)?- ? 鎌倉期1213-20頃真言僧;高野山蓮華院の俊晴門、
 師の跡を継嗣;高野山大伝法院8世学頭/華遊院を開創、「蓮華院覚頭口訣」著
- D1375 恵瓊(えけい;法諱・瑶甫ようほ、俗姓武田/銀山城主武田信実男?) 1538-1600刑死 63安藝沼田郡臨濟僧、
 安藝安国寺竺雲慧心門、1569安国寺住持/79東福寺退耕庵主/98東福寺224世/1600南禅寺、
 安藝毛利氏の外交僧/秀吉の直臣、1600関原で捕縛;光成と共に六条原で斬首、
 1591「和漢聯句」2度;紹巴らと、「東福寺入寺法語并疏」著、
 [瑶甫恵瓊の号/称] 号;一任斎/正慶、称;安国寺恵瓊、幼名竹若丸
- D1376 恵景(えけい;法諱・諡号;実言院)?- 1828 近江真宗大谷派僧、野洲郡の浄満寺住職、
 高倉学寮に修学/1824擬講/没後に嗣講、1823「浄満寺恵景擬講師法話」著、
 「真宗説教便覧」「御絵伝志摩」「新御書講義」「無量寿経五悪段勸誡録」外著多数
 恵慶(えけい、法師) → 恵慶(慧慶/恵京えぎょう、法師/歌人) 1 3 0 8
 恵敬(えけい) → 恵暁(えぎょう;法諱、真宗大谷派僧) D 1 3 7 0
- D1377 恵月(えげつ;法諱・号;乗行院)?-1863 越中砺波郡真宗大谷派長福寺住職、高倉学寮入、
 1842高倉学寮寮司/擬講/1861(文久元)嗣講、
 1855「成唯識論記」、「浄土論癸丑録」「唯識三類境選要講義」「執持抄恵月録」外著多数
- C1332 恵賢(えけん) ? - ? 室町期遠江人?歌・道芬門、1536「再昌草」入
- D1378 慧堅(えけん;法諱・字;戒山、号;退耕道人、俗姓;江上) 1649-1704 56歳 筑後久留米の僧;
 1663久留米千栄寺入/1665千光寺の黄檗僧道光門;出家、臨濟;宗悦門、戒律;慧猛門、
 1670具足戒を受、天台・真言律僧/安養寺の中興1世、京浄慈庵に退隱、
 1703河内真言野中寺3世、1691「近住八戒威儀録要」、「律苑僧宝伝」「浄土論註深義録」著、
 「菩薩戒蒙引」「梵網菩薩戒迪蒙」「八斎戒作法和釈」著
- D1379 慧巖(えけん;法諱/別法諱;俊了、号;香陵/法幢坊)?-1796 伊勢真宗大谷派僧、京円重寺住職、
 高倉学寮に修学、1756東本願寺寮司/擬講/嗣講、
 1746「安樂集藻鑑」、「華嚴探玄記講筵隨筆」「国字伝授翼」「御伝管窺淵録」外著多数
- D1380 恵見(えけん;法諱・号;誠実庵)?-1816 播磨佐土村の真宗大谷派福乗寺住職、
 高倉学寮に修学/1805高倉学寮擬講、
 1790「愚禿鈔分科」91「観経義三心釈分科」、「歎異鈔辛未録」「浄土文類聚鈔分科」著
- D1381 恵剣(えけん;法諱・号;如説院/開扇坊)?-1830 近江蒲生郡蛇溝村の真宗大谷派本啓寺住職、
 高倉学寮修学/1811寮司/擬講/21(文政4)嗣講、「歴代法語」編/「浄土和讃耳喰」著、
 1790「観経疏玄義分科」1816「最要鈔講録」28「正像末和讃聞書」外著多数
 恵儉(えけん;法諱) → 木嶺(ぼくかん;道号・恵儉、臨濟僧) C 3 9 5 7
 慧謙(えけん;法諱・天猊) → 天猊(てんげい;道号・慧謙、臨濟僧) D 3 0 4 2
- 1361 慧玄(えげん;法諱・関山かんざん;道号、高梨高家男) 1277-1360 84 臨濟僧・南甫紹明門/宗峰妙超門、
 美濃伊深に庵/1337正法山妙心寺開山、後奈良以下6天皇から国師号、「関山和尚百則公案」、
 [関山慧玄の幼名/諡号]幼名;駒の曹子朝明曆、諡号;本有円成国師/仏心覚照国師/
 大定聖応国師/放無量光国師/光徳勝妙国師/自性天真国師/無相大師
- F1360 慧玄(えげん;法諱) ? - ? 江中期曹洞僧;面山瑞方(-1769)の侍者、
 1749「般若心経秘要訣」著、51「永福結夏語録」編

- B1362 **恵巖**(えげん/えごん) ? - ? 肥前長崎の曹洞僧・心越[1639-95]門、
中国語に堪能、雨森芳洲の師
- 慧源(恵源えげん) → 直義(ただよし・足利、武将/歌人) G 2 6 0 4
 慧彦(えげん;字) → 宜庵(義隆ぎりゅう;法諱・慧彦、真言律僧) Q 1 6 5 2
 慧玄(えげん・心蓮社) → 立道(りゅうどう;法諱、浄土僧/詩歌) F 4 9 3 3
 恵玄尼(えげんに) → 梶子(かじこ・田村たむら、歌/書家/教育) U 1 5 8 8
- 1362 **慧広**(えこう;法諱・天岸:道号、仏乗禪師、俗姓伴) 1273-1335⁶³ 武州臨濟:無学門/1320-29入元、
楚俊らを渡来、報国寺開、詩・「東帰集」、「天岸和尚語録」「仏乗禪師語録」著
- D1382 **恵晃**(えこう;法諱・照山;字、号;翳華、俗姓浜岡) 1656-1737⁸² 京の律宗僧;玉周門、顕・密教修学、
悉曇学修学、泉涌寺94世長老/唐招提寺67世、詩文に長ず、
1684「因明三十三過本作法纂解」著、「採揀枳橘鈔」編、「枳橘易上集」「俱舍論頌疏科」著、
「菩薩戒通受遺疑鈔莊嚴記」「翻訳名義集辨訛」外著多数
- D1383 **慧光**(えこう;法諱・戒琛かいちん;字) 1666-1734^{69歳} 河内彼方村の真言僧・延命寺浄巖門、
1691師の湯島靈雲寺開創に尽力/1702湯島靈雲寺2世、25南都戒壇院長老、1695「瑜伽要訣」、
1700「阿字観要訣」09「秘藏記要訣」11「密記問辨」25「梅木地藏大士記」、「老夫対問」外多数、
1737遺誠録「戒壇院如法中興慧光長老遺誠」(門弟光国編)
[慧光の号] 虚心堂/虚円堂/虚円道人/悦心居士
- D1384 **恵香**(えこう;法諱・梅嶽;道号、俗姓佐藤) 1685-1764⁸⁰ 備中松山曹洞僧:祖庭梅雪門、諸方遍参、
備中松山の正音院住持;瑞雲寺と改名/1742洞松寺12世、「洞松禅寺住山歴祖伝」編
- D1385 **慧洪**(えこう) ? - ? 江戸中期曹洞僧;指月げつ慧印[1689-1764]門、
侍者として活動、1767(明和4)「拈評三百則不能語」編
- D1386 **慧晃**(えこう;法諱・東苑;号) ?-1776 美濃安田村の真宗本願寺派僧、
大和宇賀志村の勝林寺住職、「改悔文講話」著
- D1387 **慧皓**(えこう;法諱、号;澎法庵ほうぼうあん) ?-1784 大阪の真宗大谷派正行寺住職、高倉学寮に修学、
1755高倉学寮寮司/擬講/66嗣講、1757「阿弥陀経鳳毛」/71「正信偈聞書」著
- D1388 **恵航**(えこう;法諱) ? - ? 近江天台宗無動寺明徳院僧、1756回峰千日行成就、
1770後桃園天皇践祚時の安鎮大法勤仕、1772「法則集」88「学窓集」編、「開眼供養記」外著多
- D1389 **恵航**(えこう;法諱、諡号;開善院) ?-1829 越中婦負郡片懸村の真宗本願寺派僧、西念寺住職、
文化文政1804-30頃安居の講師/1824初勸学職(杏旭・性海・徳潤・雲・幢・自謙・玄肅と)、
1826「阿弥陀経開記」、「称讃浄土仏撰受経講録」「信行略説」「正像末和讃聞書」著
- D1390 **慧杲**(えこう;法諱・回天:道号) 1794-1853^{60歳} 能登七尾曹洞:関浪門、1842宇治興聖寺28世、
「回天和尚語録」著
- 慧杲(えこう;法諱) → 性堂(しょうどう:道号・慧杲、臨濟僧) L 2 2 1 8
 恵光(えこう、恵永) → 呑海(どんかい;法諱、有阿、時宗遊行4世) S 3 1 1 0
 恵光(えこう;字) → 玉庵(ぎょくりゅう;法諱・恵光、真宗僧) P 1 6 4 3
 慧光(えこう;字) → 日眞(にっしん;法諱・常不軽院、日蓮僧) E 3 3 3 9
 慧光(えこう;法名) → 貞常親王(さだつねしんのう)、伏見宮4世、歌) F 2 0 3 5
 慧光院(えこういん) → 日憲(にちけん;法諱、日蓮僧) B 3 3 5 3
 恵光院(えこういん) → 日瑤(にちよう;法諱・円琢、日蓮僧) D 3 3 4 6
 恵光院(えこういん) → 日延(にちえん;法諱、日蓮僧/国学) H 3 3 1 5
 慧光大円禅師(えこうだいえんぜんじ) → 抜隊(ぼつたい;道号・得勝、臨濟僧) F 3 6 2 6
 恵厚尼(えこうに) → 亀台(きだい、恵厚尼/慶寿院、俳人) L 1 6 1 4
 恵光房(えこうぼう) → 澄豪(ちようごう、天台学僧) I 2 8 3 0
 慧光菩薩(えこうぼさつ) → 源空(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1
 慧極(えごく:道号) → 道明(どうみょう;法諱・慧極、黄檗僧) H 3 1 2 9
- D1391 **恵巖**(えごん;法諱) ? - ? 江中期享保1716-36頃比叡山延命院の天台僧/法印、
1726大僧都、1728「春宮坊安鎮記」32「靈元院御中陰記」33「享保十八年御八講記」外著多数
- 恵巖(えごん) → 恵巖(えげん/えごん、曹洞僧) B 1 3 6 2
- D1392 **慧濟**(えさい;法諱・川僧せんそう;道号) ?-1475 三河の曹洞僧;諸師を歴参;真巖道空門、
近江洞寿院住持、遠江一雲斎/能登総持寺/越前竜沢寺住持、尾張乾坤院開創、

「川僧無門関再評」著、「遺録」、[川僧慧濟の諡号]法覚仏慧禪師

- C1311 恵尺(えさか/恵積、船ふね、道昭[629-700]の父)?-? 664存 河内丹比の生/大和廷臣;史官;史書編纂、645蘇我蝦夷えみし誅討時に「国記」救出
慧察(えさつ;号) → 観空(かんくう、慧察、浄土宗西山派僧) Q 1 5 2 7
- D1393 懐山(えざん・かいざん) ? - ? 江前期1688-1704頃伊勢浄土僧;阿濃津天然寺住、江戸小石川伝通院修業、京の帰命院住職、1696「浄土源流章解蒙」草稿執筆;
(1705門弟懐譽が私見を増補し刊行;34再修正増補し「浄統略讚」刊行)
恵山子(えざんし/けいざんし) → 宣明(せんみょう;法諱、真宗大谷派僧) N 2 4 7 4
衛士(えじ・岡部/賀茂) → 眞淵(まぶち・賀茂/岡部、国学者/歌) 4 0 3 1
衛士(えじ・井上) → 素良(もとよし・井上/藤原/梯、藩士/国/史学) J 4 4 1 4
衛士(えじ・原田) → 豊岳(とよおか・中尾なかお/三木/原田、国学) V 3 1 8 9
ゑしきぶ(絵式部えしきぶ) → 絵式部(えのしきぶ、後拾遺集歌人) C 1 3 2 5
恵実(えじつ;法諱) → 桑巖(そうごん;字・恵実;法諱、真宗本願寺派僧) H 2 5 3 3
慧実本明(えじつほんみょう) → 本明(ほんみょう;法諱・慧実、曹洞僧) F 3 9 5 9
- D1394 江島(絵島えしま) 1681 - 1741 61歳 月光院(将軍家継の生母)に仕えた大奥御年寄、1714山村座役者生島新五郎との交際などで流罪/数十人処罰;
のちに江島事件として歌舞伎・舞踊に脚色
恵積(えしやく) → 恵尺(えさか、船ふね、史書編纂) C 1 3 1 1
慧寂(えじやく;法諱) → 曇華(どんげ;号、真宗大谷派僧) S 3 1 1 6
- C1336 恵秀(えしゅう;法諱) ? - ? 僧;法師、1248成立「万代集和歌集」入;3185
[まがきする飛驒のたくみのたつき音あなかしかましなぞや世の中]、
(万代;雑3185/いほりつくとて詠める/たつき[鑪]は匠の用いる刃の広い斧)
- T1393 恵州(えしゅう;法諱、俗姓;脇坂/法名;智祐) 1815-59 45 飛驒益田郡の真宗大谷派僧、信濃飯田の真光寺住職/国学;本居内遠門、飯田藩士佐野正修と交流、妻;脇坂千枝子(1825-91/伊那歌人)
会秀(えしゅう;字) → 日掌(にっしょう;法諱・幸安院、日蓮僧) E 3 3 3 3
恵秀(えしゅう;字) → 日長(にっちやう;法諱・正善院、日蓮僧) F 3 3 2 1
- D1395 恵什(えじゅう;法諱/初諱;斉朝、字;勝定、藤原伊綱男)?-? 平安後期保延1135-41頃京の真言僧;芳源門、醍醐安養坊や御室衣笠山に住、平等房永厳と法流について抗争、勸修寺住、「勝語集」「凶像鈔」「立印軌鈔」「諸尊法」「拈拾悉曇思惟要訣抄」「五秘密口決」著、[恵什(;法諱)の通称] 信濃阿闍梨/釈王寺入寺
- U1333 恵重(えじゅう;法諱、) ? - ? 南北室町期;僧/法師、歌人;1400菊葉集3首入、
[ゆくすゑをなほや契らむ君と我あひおひ松の千代のみどりに](菊葉集;賀947)
恵重(えじゅう) → 恵重(けいじゅう、俳人) G 1 8 0 4
- D1396 慧淑(えしゆく;法諱・字;湛堂たんどう)?-? 1714存 真言律僧;河内野中寺3世の慧堅門/1698灌頂を受、1699近江安養寺住持、のち河内野中寺6世住持、当代一流の律匠として活躍、安楽律大成者光謙の自誓受具の証明入、1696「仏制比丘六物凶依釈」著、1710「戒山和尚行業記」著、13「竜山清規」編、「教誡律儀講述便宜鈔」、「不学無知章」外著多
恵俊(えしゆん;法諱) → 宜(よろし・吉田よした/きちた連むらじ、医者/万葉歌人) 4 7 3 8
恵俊(えしゆん) → 恵俊(けいしゆん・桂井坊、連歌) 1 8 7 1
恵俊(えしゆん;字) → 日詮(にっせん・山光院、天台/日蓮僧) E 3 3 7 3
恵俊(えしゆん) → 一中(初世いちちゅう・都太夫、浄瑠璃一中節祖) 1 1 2 4
慧詢(えじゆん・南嶺) → 南嶺(なんれい・慧詢;法諱、臨濟僧) J 3 2 7 2
恵順(えじゆん) → 恵暁(えぎやう;法諱、真宗大谷派僧) D 1 3 7 0
恵遵(えじゆん;法諱) → 言如(ごんによ;道号・円遵;法諱、臨濟僧) G 1 9 9 8
回純(えじゆん;字) → 日詮(にっせん;法諱・妙種院、日蓮僧) E 3 3 7 5
- 1364 恵章(えしやう・法師) ? - ? 平安後期大和興福寺の僧/法師、歌人;千載1249、1237刊[檜葉集]6首入、
[望月の雲かくれけむいにしへのあはれを今日の空にしるかな](千載集;釈教1249、山階の涅槃会[2月15日]の暮方に遮羅さら入滅[沙羅の林での釈迦入滅]の昔を思い詠)

[後白川院(1127-1192)春日御幸の日 扇に書いて藤原親盛(院北面)がもとに遣しける、
よるづよとかねてぞつげし三かさ山けふのみゆきをまつかぜのこゑ](檜葉;神祇527)

- F1367 **恵勝**(えしょう) ? - ? 平安後期の僧/歌人、
1071-82頃「多武峯往生院千世君ちよきみ歌合」左方入(紀伊入道素意判)、
[からくにに織れる錦をそれをなほ大和の秋の野にはしかじな]、
(千世君歌合;四番左7/野花錦筵)
- D1397 **恵照**(えしょう;法諱・字;心鏡/教伝房)?-? 江戸期寛永宝永1624-1711頃の真言学僧、
真言;運徹門、智山の雲寮・悟寮・梅蔭寮に住、義学/事相に精通、
1674「阿字檜尾記授要鈔」75「讚歎集」80「無畏禅要安心鈔」83「探心記秘決」外著多数
- D1398 **慧徹**(恵正えしょう;法諱・通称;慈鴻)?-1793 京の真宗大谷派僧;西光寺の生、西福寺慧然えん門、
1781高倉学寮の擬講/83嗣講、91五代講師、1722「一枚起請希聞記」、「一枚起請文聞記」著、
「玄義分聞書」「分類聚鈔講義」「大無量寿経講義」「観経疏玄義分顕録」著、
[慧徹(;法諱)の号] 香雲庵/知幻室/天祐/提雲/空山、諡号;寂定院
- U1314 **恵照**(えしょう;法諱・武村)1848-1905 58 近江栗太郡の真宗大谷派の伝久寺住職、
歌人;[鳩のうみ]入
- | | | | |
|---------------|---|----------------------|-----------|
| 恵照(えしょう;法諱) | → | 靈泉(れいせん;道号・慧照、曹洞僧) | 5 1 0 6 |
| 恵照(えしょう;法諱) | → | 大用(だいゆう;道号・慧照、曹洞僧) | L 2 6 1 3 |
| 恵照(えしょう;字) | → | 智教(ちきょう;法諱、真宗仏光寺派僧) | C 2 8 4 1 |
| 恵照(恵精/恵性えしょう) | → | 日円(にちえん;法諱、日蓮僧) | 3 3 7 3 |
| 恵照(えしょう;字) | → | 日念(にちねん;法諱・安住院、日蓮僧) | D 3 3 1 1 |
| 恵照(えしょう;字) | → | 日透(にっとう;法諱・観如院、日蓮僧) | F 3 3 4 1 |
| 恵正(えしょう;法名) | → | 正冬(まさふゆ・橋村/度会、神職/歌人) | R 4 0 7 3 |
| 恵匠(えしょう;字) | → | 日隆(にちりゅう;法諱・精進院、日蓮僧) | D 3 3 5 7 |
| 恵性(えしょう;字) | → | 日眞(にっしん;法諱・発星院、日蓮僧) | E 3 3 4 5 |
- 1365 **懐奘**(えしょう;法諱・孤雲;道号、俗姓;藤原)1198-1280 83 京の僧;初め天台僧;比叡山横川円能門、
出家/のち多武峰の覚晏門;能忍流の禅を修学/曹洞僧・道元門;終生随従、
道元「正法眼蔵」の書写集成、師歿後;永平寺2世;永平寺の基礎確立に尽力、
「正法眼蔵随聞記」編、「永平元禅師語録」「菩薩戒作法」編、1278「光明蔵三昧」著、外編著多、
[孤雲懐奘の号] 道光普照国師/二祖国師
- U1331 **恵常**(えしょう;法諱) ? - ? 江前期;上方の僧/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、
[桜のもみちをみて、
花にてはたぐひなかりし山桜秋も紅葉の中におとらで](林葉累塵;秋579)
- T1394 **恵乗**(えしょう;法名、俗姓;北村)1656-1720 65 加賀金沢の商家;喜多村屋の2代目、歌人、
壮年より仏門に帰依;40歳頃妻を離別/家督を3代目に譲り剃髪、草庵を結ぶ、
歌・連歌を専らとし7昼夜に独吟1千句を聯ねる/仙洞御所に50首歌を奉ず、
能順・浅井政右と共に達人と称せらる、
[恵乗(;法諱)の名/通称]名;石良/快全、通称;2代彦左衛門
- D1399 **恵定**(恵成えしょう;法諱) ? - 1842 筑後三潯郡荒木村の真宗大谷派浄光の住職、
1824高倉学寮の寮司/38擬講、「五事論聴書」著
- | | | | |
|---------------|---|----------------------------|-----------|
| 恵定(えしょう;道号) | → | 眞戒(しんかい;法諱・慧定、黄檗僧/詩) | N 2 2 6 4 |
| 恵浄(えしょう;字) | → | 旭雅(きよくが;法諱・恵浄、真言僧) | O 1 6 5 3 |
| 恵乗(えしょう;法諱) | → | 鷲十(りゅうじゅう;路時雨るじゅう、本願寺派僧/俳) | B 5 2 7 5 |
| 恵静(えしょう;剃髪号) | → | 正子(まさこ・矢部やべ/大平、歌/書) | C 4 0 4 6 |
| 恵盛(えしょう;号) | → | 了空(りょうくう;法諱、真宗本願寺派僧) | H 4 9 1 6 |
| 慧成大師(えしょうだいし) | → | 源空(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖) | 1 8 1 1 |
- U1320 **恵浄尼**(えしょうに;法名・牧野まきの)1735-1814 80 近江彦根藩士牧野成正の妻、国学者/歌人、
歌;[彦根歌人伝・亀]入
- | | | | |
|---------------|---|---------------------|-----------|
| 恵生房(えしょうぼう;号) | → | 英賢(えいけん;法諱・恵生房、真言僧) | C 1 3 6 6 |
|---------------|---|---------------------|-----------|
- 1363 **恵助法親王**(えじよほつしんのう、伏見天皇皇子)1289-1328 40 母;任快法印女の治部卿局、聖護院門跡、

1300出家/10天台園城寺長吏、歌;続現葉集入、
勅撰4首;続千載(911)続後拾(573)風雅(794/1569)、
[澄む月の影をうつして五十鈴川濁らぬ世にもかへる浪かな](続千載;神祇911)

- 1366 **慧心**(えしん;法諱・竺雲じくん;道号、俗姓:橘)?-1579 出雲の臨濟僧;1530允芳慧菊門;得度/法嗣、
東福寺退耕庵住、京の万寿寺・安国寺/周防山口の国清寺住持、1559(永禄2)東福寺213世、
南禅寺213世/1572退隱、1570禅師号・75国師号を贈与される、
五山文学;「大照禅師法語」「大照国師嗣法証并法語」著、
[竺雲慧心の号] 正灯普光禅師/仏智大照国師、 安国寺恵瓊の師
- 1367 **恵心**(えしん) ? - ? 仮名草子作者;「一休ばなし」、1668「極楽物語」著
恵深(えしん;号) → 妙瑞(みょうずい;法諱、真言僧) G 4 1 4 5
恵眞(えしん;法諱) → 目云(めくうん;法諱、真宗本願寺派学僧) 4 4 6 8
- E1300 **恵尋**(えじん;法諱・求道房;号)?-1278 初め叡山で天台を修学/洛東山中に中山堂を建立、
のち源智門;浄土宗義を修学、二尊院湛空門;浄土・戒律・密教諸学を修学・円頓戒を受、
京の新黒谷金戒光明寺4世住持;戒律・称名二門の法を相伝、1263「円頓戒聞書」、
「一心妙戒鈔」「師資相承」「天台菩薩戒真俗一貫鈔」著、
神護寺伝信・法勝寺恵鎮・元興寺惟賢・西山の道空に円頓戒を授与
恵心僧都(えしんそうず) → 源信(げんしん;法諱、天台僧/歌人) 1 8 2 2
- B1363 **恵信尼**(恵心尼えしんに;法名、越後豪族三善為則女?) 1178(82?)-1268 91(87)歳 親鸞の後妻;
親鸞の越後流罪時結婚、3男3女の母、親鸞と共に行動、晩年京より越後の帰郷、
末娘覚信尼宛の書簡;1243-68(寛元元-文永5)「覚信尼消息」著(西本願寺所蔵)
恵水(えすい;法諱・洞天) → 洞天(とうてん;道号・恵水、臨濟僧) G 3 1 6 9
慧端性明(えずいしょうみょう;曹洞僧) → 良寂(りょうじやく;道号・道明、黄檗僧) H 4 9 7 9
恵成(えせい → えじょう) → 恵定(えじょう;真宗大谷派僧) D 1 3 9 9
慧全(えぜん;法諱) → 提宗(ていじゅう;道号・慧全、臨濟僧/黄檗) B 3 0 1 0
恵禅(えぜん;法諱) → 靈屋(れいおく;道号・恵禅、曹洞僧) 5 1 1 5
- E1301 **恵琮**(えそう;法諱、号;越翁/頼翁おおう)?-? 江後期寛政1789-1801頃越後の真宗本願寺派僧、
大阪の西光寺住職、三論に精通、1790以降度々安居に講義、三業惑乱諍論に幕府の査問受、
晩年は宗典の研究に専念、「般舟讚講録」「入出二門偈集義玄談」著
衛足堂(えそくどう) → 徳雨(とくう、俳人) K 3 1 4 5
慧泰(えたい;号) → 義燦(ぎざん;法諱・慧曦、真言僧) K 1 6 7 3
- E1302 **枝賢**(えだかた・清原きよはら/船橋/舟橋、業賢の長男) 1520-90 戦国期廷臣;1563宮内卿/儒者、
1576従三位/81正三位;致仕落飾(出家)、1532頃大内義隆に・55頃に松永久秀に儒を教授、
1540「除目聞書」83「御成敗式目義解」85「百官和秘抄」、「日本書紀神代卷講義」「職原鈔」著、
[枝賢(;名)の別名/号]初名;頼賢、剃髮号;道白、法号;三陽院
枝直(えだなお;正しくは「えなお」・加藤) → 枝直(えなお・加藤、国学/歌) 1 3 8 0
- C1312 **枝成**(えだなり・与鳳亭よほうてい)2世、山崎、通称;佐助)?-? 江戸狂歌/滑稽本;与鳳亭内記門、2世襲名、
日本橋住、1820-49「花暦八笑人」5篇、23「まかきのきく」編、「戯歌鈍画集」「色欲二筋道」、
[与鳳亭枝成の別号] 比翼亭
- E1303 **枝彦**(枝比古えだひこ・佐藤さとう、信田宇兵衛男) 1791-1853 63歳 佐渡羽茂郡徳和村の生、
佐渡羽茂郡赤泊の佐藤家の養嗣子、国学者;本居大平門、書/歌人;[佐渡の三歌匠]の1、
「古風近調詠草」「枝彦三神説」著、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌/短歌入、
[澳おき遠くさかわる佐渡の島人も春にしなれば心たぬしも](八十浦;685/早春)、
[枝彦(;名)の通称/号]通称;勘十郎、号;桜園
☆佐渡の三歌匠;佐藤枝彦・中山千鶴ちづる・本間季喜
枝通(えだみち・久我/橘) → 敦通(あつみち・久我が、廷臣/連歌) C 1 0 7 2
- E1304 **慧単**(えたん;法諱・千山せんざん;道号、号;雷轟室、俗姓;多治比) 1769-1813 45 長門長府藩士の家、
臨濟僧;1778(10歳)豊前開善寺の蘭山門;出家/印可を受、1800筑後久留米福聚寺5世住持、
詩偈/書画を嗜む/茶禅一味の奥義、久留米藩家老有馬照長の参禅を受く、1813「参学解」著
慧湛(えたん;法諱) → 象海(ぞうかい;道号・慧湛;法諱、臨濟僧) G 2 5 5 3

慧湛(えたん;法諱) → 光澄(こうちよう;道号・慧湛、曹洞僧) K 1 9 6 3
 慧端(えたん;法諱) → 道鏡(どうきやう;道号・慧端、正受老人、臨濟僧) C 3 1 8 7
 恵団(えだん;法諱) → 大冥(たいめい;道号・恵団、臨濟僧) L 2 6 0 8
 慧端性明(えたんしやうみやう、曹洞僧) → 良寂(りやうじやく・道明、黄檗僧) H 4 9 7 9

E1305 越後(えちご/越後命婦えちごのみようぶ)?-? 平安前期命婦/歌、960天徳内裏歌合参加

1369 越後(えちご・内大臣家/花園左大臣家、越後守藤原季綱女)?-? 1147存 平安期女房歌人;

石清水別当光清の妻/法印成清・大宮小侍従の母/花園左大臣源有仁の乳母、
 1128源頭仲家南宮歌合参加、鳥羽天皇乳母典侍悦子の姉妹、
 金葉6首; II 88/166/167/224/283/543、

[蘆垣あしがきのほかとはみれど藤の花にほひは我を隔てざりけり](金葉;春/隣家の藤花)
 ☆千載集の三宮家越後と同一? → 越後(えちご・三宮家) 1 3 7 0

1370 越後(えちご・三宮家/三御子さんのみこの家/輔仁親王家)?-? 平安後期女房歌人、

後三条天皇第3皇子輔仁(けい)と親王(1073-1119)家の女房、続詞花集4首入/千載集728、
 [馴れてのちつらからましにくらぶればなき名はことの数ならぬかな](千載;恋728、
 時々文通する人に評判が立っていることを聞いての詠、
 愛し合った後捨てられる辛さに比べれば逢う前の噂は物の数ではない)

[三宮(輔仁親王)かくれ給ひて(1119元永2/6月)、

七条のいづみに左大臣(源有仁/花園左大臣)罷り侍りて歌よみけるに、

[ありしよにすみもかはらぬ水の面になきかげのみぞうつらざりける](続詞花;824)

☆源有仁家(花園左大臣家)越後と同一? → 越後(えちご・内大臣家) 1 3 6 9

1371 越後(えちご・前斎宮さきのいつきのみや/前中宮さきのちゆうぐう)?-? 平安後期斎宮令子・堀河院中宮篤子の女房、
 歌:金葉432(源家時?-?1118存[盛長男]の来訪が途絶えがちになったのを恨む歌)

[人ごゝろ浅沢水あさはみづの根芹ねざりこそこるばありにもつままほしけれ](金葉;恋432、
 根芹を摘み取るにも心浅いあなたには懲りるほどにつねってやりたい)

前中宮甲斐(さきのちゆうぐうのかい)と同一? → 甲斐(③かい・前中宮) E 1 5 2 8

越後(えちご・白河女御) → 越中(えちちゆう・白河女御) 1 3 7 8

越後(えちご・嘉陽門院) → 越前(えちぜん・嘉陽門院) 1 3 7 2

越後(えちご・鴨脚) → 昭子(あきこ・鴨脚いちよう、女官/日記) D 1 0 3 5

越後(えちご・松室) → 礼重(のりしげ・松室まつむろ、官人/日記) E 3 5 6 9

越後(えちご・徳川) → 光友(みつとも・徳川、尾張藩主/書画) E 4 1 0 5

越後(えちご・富田) → 景周(かげちか・富田とだ/とみた、藩士/儒者) E 1 5 9 6

越後(えちご・岡) → 俊直(としなお・岡おか・藤原、神職/歌人) U 3 1 5 7

越後(えちご・松木) → 集彦(ためひこ・松木/度会、神職) S 2 6 7 1

越後(えちご・広田) → 助侑(すけなみ・広田ひろた/度会/橋村、神職) J 2 3 0 8

越後(えちご・広田) → 清魚(きよな・広田ひろた/度会/宇治、助侑養子/神職) V 1 6 0 9

越後(えちご・広田) → 則明(のりあき・広田ひろた/度会/橋村、清魚養子/神職) J 3 5 8 6

越後(えちご・島津) → 元直(もとなお・島津しまづ、領主/詩文) D 4 4 4 2

越後(えちご・福原) → 元胤(もとたけ・福原/佐世/毛利、家老/歌) C 4 4 8 8

越後(えちご・腹巻) → 尚則(なおり・腹巻はらまき/坂、神職/国学) O 3 2 4 7

越後守(えちごのかみ・大河内) → 重平(しげひら・大河内おおこうち、神職/国学) N 2 1 7 4

越後守(えちごのかみ・大林) → 吉賢(よしかた・大林おおばやし、神職/国学) M 4 7 0 0

越後君(えちごのみ) → 源縁(げんえん;法諱、天台僧/歌人) B 1 8 3 1

越後阿闍梨(えちごのじゃり) → 日弁(にちべん;法諱、乗観房、日蓮僧) D 3 3 1 8

越後少将(えちごのしょうしょう) → 忠輝(ただてる・松平、藩主/歌人) P 2 6 9 2

越後四郎(えちごのしろう) → 時春(ときはる・北条/塩田/平、武将/歌) J 3 1 8 0

越後介(えちごのすけ) → 保房(やすぶさ・堀内ほりうち、神職/国学) G 4 5 5 7

越後介(えちごのすけ・渡辺) → 重蔭(しげかげ・渡辺わたなべ、神職/国学) a 2 1 1 5

越後大僧正(えちごのだいそうじやう) → 親巖(しんがん;法諱、真言僧) E 2 2 1 3

越後弁(えちごのべん) → 大式三位(だいにのさんみ、紫式部女賢子/歌人) 2 6 0 6

越後命婦(えちごのみようぶ) → 越後(えちご、歌人) E 1 3 0 5

- 越後阿房(えちごぼう) → 日弁(にちべん;法諱、乗観房、日蓮僧) D 3 3 1 8
- 1374 越前(えちぜん・大宮おのみやの・太皇太后宮、越前守源経宗女)?-? 後冷泉皇后寛子(四条宮)の女房、母;高階成順女と伊勢大輔との女/源兼俊・後三条院越前と同母の姉妹、1046-69頃歌人、後拾遺340、
[山里の賤しづの松垣ひまをあらみいたくな吹きそこがらしの風]後拾;秋340/山家秋風)
- 1373 越前(えちぜん・後三条院ごさんじょういんの、源経宗女)?-? 平安後期歌人;後三条院[1068-72在位]の女房、和琴;父門、母;高階成順と伊勢大輔との女/源兼俊・大宮越前と同母の姉妹、後拾遺1089、
[いにしへの家の風こそうれしけれかゝる言の葉散りくと思へば](後拾;雑1089、
庭で月を眺める後三条天皇の指名を受けての詠/家の風は実家の歌の伝統)
- 1372 越前(えちぜん・嘉陽かよう門院、伊勢女房、大中臣公親女)?-? 1250存 七条院殖子(後鳥羽院母)女房、のち後鳥羽院皇女嘉陽門院礼子の女房/歌人、正治後度百首/1200院第二度百首、1201(建仁元)老若五十首歌合・新宮撰歌合・千五百番歌合・影供歌合、1204春日社歌合参、1216内裏百番歌合/47後嵯峨百三十番歌合/48院御歌合参加、
現存和歌六帖・御裳濯集(5首)・檜葉集・雲葉集(4首)入、
勅撰26首:新古今(24/127/297/943/1140/1610/1884)新勅撰(3首)続後撰(3首)以下、
[山深みなほ影さむし春の月空かきくもり雪は降りつゝ](新古;春24/和歌所で春山月)
[千五百番歌合に、
かかればや野山の色もかはるらん身にしみそむる秋の初風](雲葉;秋396)
- 越前(えちぜん・安嘉あなか門院)→ 阿仏尼(あぶに、歌人/日記) 1 0 2 7
- 越前(えちぜん・長浜) → 尚次(ひさつぐ・長浜/藤原、幕府連歌衆) B 3 7 3 7
- 越前(えちぜん・小国) → 重年(しげとし・小国/鈴木/清原、神職/国学) 2 1 1 4
- 越前(えちぜん・菊池) → 真建(まさたけ・菊池さくち、神職/国学) P 4 0 2 3
- 越前(えちぜん・友田) → 眞澄(ますみ・友田ともだ、神職/歌人) R 4 0 1 0
- 越前阿闍梨(えちぜんのあじり)→ 静誉(せいよ、じょうよ;法諱、真言僧) J 2 4 6 7
- 越前已講(えちぜんのいこう) → 珍海(ちんかい;法諱、三論画僧) K 2 8 6 1
- 越前守(えちぜんのかみ・斎藤)→ 助成(すけなり・斎藤/藤原、武士/故実) G 2 3 7 8
- 越前守(えちぜんのかみ・長谷場)→ 宗純(そうじゆん・長谷場はせば、武将/記録) H 2 5 9 0
- 越前守(えちぜんのかみ・狩野)→ 元信(もとぶ・狩野かろう、幕府絵師) D 4 4 6 8
- 越前守(えちぜんのかみ・大岡)→ 忠相(ただすけ・大岡おのおか、幕臣/日記) F 2 6 1 9
- 越前守(えちぜんのかみ・川井)→ 久敬(ひさたか・川井かわい、幕臣/家老) L 2 7 6 8
- 越前守(えちぜんのかみ・松平)→ 光道(てるみち・松平まつだいら、藩主) F 3 0 0 1
- 越前守(えちぜんのかみ・丹羽)→ 長国(ながくに・丹羽にわ、藩主/歌人) K 3 2 2 5
- 越前守(えちぜんのかみ・山本)→ 経為(つねため・山本たまもと、神職/国学) G 2 9 6 8
- 越前守(えちぜんのかみ・進藤)→ 正則(まさのり・進藤しんどう、神職/国学) Q 4 0 2 8
- 越前権介(えちぜんのごんすけ)→ 明基(あきもと・坂上さかのうえ、明法家) E 1 0 0 1
- 越前宰相(えちぜんのさいしやう)→ 忠直(ただなお・松平、藩主/茶/連歌) Q 2 6 2 1
- 越前正(えちぜんのしょう・田窪)→ 峰忠(みねただ・田窪たくぼ/串部、神職/歌) I 4 1 5 9
- 1309 越前少掾(えちぜんのしょうしやう・初代豊竹とよたけ、若太夫) 1681-1764 84 大阪の浄瑠璃太夫;義太夫門、豊竹座を創設、浄瑠璃作者;梁塵軒、1746「酒吞童子出生記」63「落葉瓢念仏」著
- 越前入道(えちぜんにゅうどう)→ 宗純(そうじゆん・長谷場はせば、武将/記録) H 2 5 9 0
- 越前入道(えちぜんにゅうどう)→ 釣雪老人(ちようせつろうじん・斎藤、幕臣/故実) J 2 8 2 7
- 越前老樵(えちぜんのろうしやう)→ 善超(ぜんちやう;法諱、真宗山元派僧/歌) M 2 4 9 7
- E1306 恵仲(えちゆう) ? - ? 室町期僧/歌人;1474道灌「武州江戸歌合」参加、
[海原やまきおく船の苦さへに取りあへぬまの夕立の雨](江戸歌合;五番左9)
- 1375 恵中(えちゆう;法諱/初諱;宗的・号;草庵) 1629-1704 76 肥後の曹洞僧;1637困巖宗鉄門/46江戸住、運歩と親交、島原の禅林院住/江戸の天徳院西禅庵住持/仁王禅、仮名草子;1651鈴木正三門、1648「驢鞍橋」編/66「海上物語」74「因果小編」76「石平道人四相」95「禅祖念仏集」、「西禅集」著、
[恵中の通称] 信覚恵中/草庵乞士/長徳山野中沙弥/便沙弥
- 恵冑(えちゆう;初諱) → 建冑(けんちゆう;法諱・華岳、臨濟僧) L 1 8 1 3
- 恵忠(えちゆう) → 克讓(こくじやう;法諱、真宗僧/詩歌俳) C 1 9 3 6

- E1307 **慧潮**(えちよう;法諱) 1759 - 1830 72歳 江戸の真宗僧;大谷派恵忍門、
駒込の本願寺派還来寺住職、西海寺慧海と親交、「十住毘婆沙論讚勸要聞解」著
慧超(えちよう;法諱・栢翁)→白翁(はくおう;道号・禅璵;法諱、臨濟僧) C 3 6 7 2
慧澄(えちよう;字) → 癡空(ちくう;法諱、天台僧/法華玄義) C 2 8 5 9
恵澄源阿常念(えちようげんあじょうねん)→専壽(せんじゆ;法諱、浄土僧/歌人) M 2 4 4 2
- B1364 **恵珍**(えちん、感神僧都、源頭国男) 1118-1169 52 母;藤原宗忠女、京生/三論僧;1164大和和大安寺住、
叔父覚樹門/1167(文安2)権少僧都;東大寺の主務・法務を兼任/のち東大寺東南院院主、
1165「僧綱補任」編、「僧綱補任抄出」「七大寺年表」著
- 1376 **恵鎮**(えちん;字・円観;法諱、恵鎮上人/慈威和尚/五朝国師) 1281-1356 76 近江天台僧;比叡山入、
円頓戒;興円門、台密穴太流;澄豪門/京の元応寺住/後醍醐天皇の勅命で法勝寺住、
法勝寺長者/僧正、建武期;倒幕に際し文観・忠円らと天皇側に付く;幕府に捕縛;陸奥配流、
赦免帰京、法勝寺を再興/鎌倉宝戒寺開山、1321「宗要白光恵光房流」32「四教五時略名目」、
1335「建武二年中堂本尊安置記」40「菩薩戒義記口筆鈔」、「大乘起信論玄談」外著多数、
後伏見・花園・後醍醐・光厳・光明の5代天皇に円頓戒を授与、
歌人、勅撰3首;新千載(847/217)新拾遺(1510)、
「太平記」(原形)を直義に献上;のち玄恵が継承;小島法師(1352没)との関係は不詳、
[くやくしくももとの我が身をへだてきて心の外に迷ひけるかな](新千;釈教847)
- 慧陳(えちん・徳義) → 徳義(とくぎ;法諱・慧陳、天台/真宗僧) K 3 1 5 7
- E1308 **悦**(えつ・植木うき、別名;常成/長春、通称由右衛門)?-1698 伊勢久居藩士;兵学・小幡景憲門、
1662津藩主藤堂高久の軍学師、59「職原抄引事大全」編/61「西国太平記」68「慶長軍記」、
1674「古陳秘法」「握奇八陣六華古陳秘法附序目」編、「勢陽軍鑑」著
[悦の号] 升安/橋生齋/東林耕人、出家号;道可、法号;通全院
悦(えつ・大橋) → 景久(かげひさ・大橋おおし、藩士/歌人) T 1 5 9 6
関(えつ・松井) → 材庵(さいあん・松井まつい、医者) H 2 0 0 2
- T1395 **恵通**(えつう;法諱、安藤丹波守重広男/号;真理院) 1678-1724 47 勸修寺大納言経慶の猶子、
京の僧;1696(元禄9)得度/栗田青蓮院宮院室、愛宕山大善院住職、1718(享保3)大僧都、
歌人;武者小路実陰門
- T1397 **慧通**(えつう;法諱、号;達賢/法名;達賢慧通妙阿)?-1806 江中期;信濃伊那郡牛牧村の明永寺住職、
幼時に出家;座光寺村出身の可円の門弟、
歌人;西教寺輪阿(慧恭・1693-1780)門/のち澄月門、近衛家に歌道の指導を受ける、
一道・侍雲・大空・恵玉と交流
越翁(えつおう;号) → 恵琮(えそう;法諱、真宗本願寺派僧) E 1 3 0 1
越屋(えつおく→こかげや・寺井)→肇(はじめ・寺井てらい、藩士/故実家) E 3 6 4 1
関音居士(えつおんこじ) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
悦可(えつか・稲掛) → 棟隆(むねたか・稲掛/山口、商家/国学/歌) B 4 2 4 8
悦可院(えつかいん) → 日巧(にちこう;法諱、日蓮僧) B 3 3 8 6
悦貫(えつかん) → 十内(じゅうない・小野寺、義士/歌人) I 2 1 1 8
- F1352 **悦岩**(悦巖えつがん;道号・東念とうよ;法諱、号;西湖/六橋)?-1529 臨濟僧;西庵敬亮門;法嗣、
1521京建仁寺266世住持、1529「悦岩和尚語録」「悦岩詩集」著
悦溪(えつげい;道号) → 宗悟(そうご・悦溪、臨濟僧) H 2 5 2 5
越溪(えつげい;号) → 敬長(けいちよう;法諱・智遠;字、天台僧) G 1 8 3 7
関古楼(えつこうろう) → 吉(きち・高尾たかお、国学者) U 1 6 6 0
悦斎(えつさい・鈴木) → 周水(しゅうすい・鈴木すずき、書家) X 2 1 6 7
越斎(えつさい・今田) → 政徳(まさのり・今田いまだ/岡、文人) N 4 0 8 0
悦三郎(えつさぶろう・野呂瀬) → 秋風(しゅうふう・野呂瀬のりせ、藩士/歌) I 2 1 2 4
悦三郎(えつさぶろう・高野) → 長英(ちやうえい・高野たかの、蘭学者/医者) H 2 8 3 9
悦山(えつざん;道号) → 道宗(どうしゅう・悦山、渡来黄檗僧) F 3 1 0 3
越山(えつざん・地名ちみん) → 円旨(えんし;法諱・別源、曹洞僧) 1 3 9 7
悦子内親王(えつしないしん/えつこ-)→延政門院(えんせいもんいん、後嵯峨天皇皇女) F 1 3 1 1
越宗(えつしゅう→おつしゅう) → 蘭陵(らんりやう;道号・越宗、曹洞僧) D 4 8 2 8

- 越宗(えっしゅう→おっしゅう) → 仏灯(ぶつとう;道号・越宗、曹洞僧) H 3 8 4 7
悦習斎(えっしゅうさい・加藤) → 草庵(しょうあん・加藤かとう、儒者) G 2 2 5 5
越州左親衛(えっしゅうさしんえい、早歌作者) → 貞頭(さだあき・北条/金沢、執権)
悦叔(えっしゅうく・宗兌そうたい) → 宗最(そうさい;法諱・悦堂、臨濟僧) H 2 5 3 8
1377 悦春(えっしゅん・岡田おかだ、通称;大文字屋二郎兵衛)?-? 大阪の商家/俳人:令徳門・のち宗因門、
1673西鶴「哥仙大坂誹諧師」入/73西鶴「生玉万句」第三桜百韻の発句等入、
1675宗因「大坂独吟集」独吟百韻入/78西鶴「物種集」入、
[馬に鞍尾上の桜咲きにけり](生玉万句/桜発句;謡曲「鞍馬天狗」;使は来り馬に鞍)
発句[ちひさくて天地まろめし霰あられ哉](大坂独吟集;独吟百韻発句)
悦浄(えっじょう;法諱) → 義門(ぎもん;字、真宗僧/語学者) B 1 6 8 7
悦浄院(えっじょういん;号) → 忍阿(にんあ・常寂、真宗高田派僧) G 3 3 1 5
1310 越人(えっじん/おつじん・越智おち、通称;十蔵[重蔵]、別号;負山子/権花翁)1656?-1735?80? 越後の生、
1670頃名古屋で紺屋を営業、俳人:1684芭蕉門、87師と伊良湖崎に杜国を訪問、
1688師の更科紀行に同行;深川芭蕉庵に滞在/尾張の蕉門発展に尽力/1695-師と疎遠、
1715俳壇に復帰、1686「春の日」以下七部集入集、87師と連句興行、1715「歳旦帖」、
1717「鵲尾冠しゃくびかん」25「不猫蛇」;支考と論戦/26「みつのかほ」28「庭竈集」編、
1729「猫の耳」編/「猪の早太」、「越人自註独吟」「越人集」「冬日集権花翁解」、
[行燈あんどんの煤すけぞ寒き雪の暮れ](春の日;冬)
曰人(えっじん・遠藤、竹林舎) → 曰人(あつじん・遠藤、俳人) B 1 0 3 0
悦心居士(えっしんこじ) → 慧光(えこう;法諱・戒琛かいちん、真言僧) D 1 3 8 3
E1309 越水(えっすい) ? - ? 俳人;1689「あら野」入、
[どことなく地にはふ蔦の哀れ也](あら野;巻四/紅葉する蔦は木などに伝うから優雅)
E1310 悦水(えっすい・夢庵) ? - ? 江戸中期関東の僧、俳人、
1716(享保元)上京;嵯峨に結庵;周辺の旧跡を探訪、1717「摘艸」著
越水(えっすい・平野) → 東岳(とうがく・平野、書家) C 3 1 1 9
悦静(えっせい;法名) → 秀直(ひでなお・若林わかばやし、歌人/僧) M 3 7 3 6
越絶子(えっぜつし) → 季讓(きじょう;法諱・在先、臨濟僧/詩文) B 1 6 2 4
悦叟(えっそう;道号) → 妙怡(みょうい;法諱・悦叟、臨濟僧) G 4 1 1 1
悦窓(えっそう・浦上) → 則宗(のりむね・浦上うらがみ/紀、武将/連歌) G 3 5 5 5
鉞太郎(えつたろう・時田) → 流翠(りゅうすい・時田ときた、商家/俳人) E 4 9 8 7
鉞太郎(えつたろう・菅) → 秀久(ひでひさ・菅すが、藩士/国学/歌) J 3 7 9 1
1378 越中(えっちゅう・白河女御しらかわのようご、白河女御越後)?-? 白河天皇女御道子(藤原能長女)の女房、
or白河天皇祇園女御祇園の女御(出自不詳)の女房、歌人、
金葉1首;II 402(白河女御越後)/III 413(II 402と同じ歌;白河女御越中)、
[待ちし夜のふけしをなにに嘆きけん思ひ絶えても過ごしける身を](金葉;402/絶恋)
越中(えっちゅう・檜垣) → 貞舎(さだいえ・檜垣/度会、神職) H 2 0 7 5
越中(えっちゅう・高水) → 俊勝(としかつ・高水たかみず/忌部、神職/歌) V 3 1 6 7
越中(えっちゅう・上部) → 貞多(さだかず・上部うわべ/度会、神職) H 2 0 9 1
越中(えっちゅう・榎/竹内) → 享寿(きょうじゅ・竹内たけうち、法眼/歌人) C 1 6 5 7
越中(えっちゅう・益田) → 広堯(ひろあき・益田ますだ/繁沢、家老) L 3 7 0 0
越中(えっちゅう・益田) → 就祥(なりよし・益田ますだ、広堯男/家老) O 3 2 7 9
越中守(えっちゅうのかみ・津軽) → 順承(ゆきつぐ・津軽つがる、藩主/歌・俳人) G 4 6 7 1
越中守(えっちゅうのかみ・榊原) → 月堂(げつどう・榊原さかきばら、幕臣/書家) H 1 8 3 0
越中守(えっちゅうのかみ・渡辺) → 則綱(のりつな・渡辺わたなべ、藩主/越中守/歌) G 3 5 7 2
越中守(えっちゅうのかみ・大久保) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) U 2 6 3 9
越中守(えっちゅうのかみ・大沢) → 基躬(もとみ・大沢おおさわ、幕臣/高家) J 4 4 5 3
越中守(えっちゅうのかみ・津軽) → 寧親(やすちか・津軽つがる、藩主/俳人) G 4 5 2 7
越中守(えっちゅうのかみ・永持) → 道寛(みちひろ・永持ながもち/藤原、国学者) H 4 1 9 5
越中守(えっちゅうのかみ・芝) → 寛貞(ひろさだ・芝しば、国学者) H 3 7 7 7
越中黙笑(えっちゅうもくしょう) → 黙笑(もくしょう・越中、真言僧/狂詩) 4 4 9 6

- E1311 **越鳥**(えつちよう) ? - ? 越中魚津の俳人;1776樗良「月の夜」1句入、
 [野はあれて海に吹き入る秋の風](月の夜;50、同趣;言水;木枯の果てはありけり海の音)
 越伝(えつでん;道号) → 道付(どうふ;法諱・越伝、臨濟/黄檗僧) H 3 1 0 2
 悦堂(えつどう;道号) → 宗最(そうさい;法諱・悦堂、臨濟僧) H 2 5 3 8
 悦堂(えつどう;道号) → 満元(満基みつもと・細川/源、武将/歌) E 4 1 9 5
 悦堂(えつどう;道号・元逸) → 元逸(げんいつ;法諱・悦堂、黄檗僧) H 1 8 7 3
 越堂(えつどう) → 百庵(ひやくあん・寺町/越智、俳人) E 3 7 4 3
 越南(えつなん・大村) → 周斎(しゅうさい・大村おむら、漢学者) H 2 1 4 2
 鉞之進(えつのしん・保母) → 景光(かげあき・保母ぼぼ/井上、藩士/国学) V 1 5 6 1
- E1312 **越燕**(えつぶ) ? - ? 俳人;1776樗良「月の夜」5句入、
 [秋風の凄きを艸くさのそよぎ哉](月の夜;61/凄きは物さびしさの意)
 悦之進(えつのしん・西郷) → 暉隆(てるたか・西郷さいごう、藩士/歌人) C 3 0 7 8
 関甫(えつほ・名古屋[護]屋) → 玄医(げんい・名古屋/名護屋、医者) H 1 8 6 8
 悦峰(えつほう;道号) → 道章(どうしょう;法諱・悦峰、渡来黄檗僧) F 3 1 4 6
 越方(えつほう・峯) → 越方(こしかた・峯みね、国学者) Q 1 9 9 9
 越木斎(えつぼくさい・今田) → 政徳(まさのり・今田いまだ/岡、文人) N 4 0 8 0
 悦麿(えつまる) → 百亀(ひゃくき・小松、嘶本作者/狂詩) E 3 7 9 4
 曰理(えつり・高橋) → 富兄(とみえ・高橋、国学者) O 3 1 8 0
 恵定(えい→えじょう) → 恵定(恵成えじょう、真宗大谷派僧) D 1 3 9 9
 恵迪斎(えてきさい) → 東海(とうかい・恵迪斎、俳人) B 3 1 8 6
 恵迪斎(えてきさい) → 迪斎(てきさい・河田/川田、儒者/幕臣) B 3 0 9 3
 恵迪斎(えてきさい;法号) → 連起(つらおき・長ちよう、藩士) E 2 9 3 9
 慧徹(えつてつ;法諱・無極) → 無極(むきよく;道号・慧徹、曹洞僧) 4 2 4 2
 慧典(えつてん・向山) → 誠斎(せいさい・向山むこうやま、幕臣/歌人) B 2 4 6 2
- U1330 **恵伝**(えでん;法諱・頼音房)?- ? 江前期;真義真言宗智積院の僧;玄宥(1605没)門、
 智積院能化問題で祐宜と争い1606(慶長11)頃敗北し山科妙智院に退去、
 ☆1670刊下河辺長流[林葉累塵集]15首入の[僧恵伝]と同一?
 [多くの国々修行しありきてよめる、
 いづくにもうきめばかりぞ見えわたる世はみなうみと成りやしぬらん]、
 (林葉累塵;雑1229)
- 1379 **慧統**(えいとう;法諱・宗綱しゅうこう;道号)?-1439 南北室町期の臨濟僧;愚中周及門、
 「宗綱和尚偈頌」著
- E1313 **恵鑑**(えいけん;法諱・玉絃ぎよくげん;字、号;種月堂)1694-175158 越前真宗本願寺派演仙寺の生、
 越前足羽郡の平乗寺の住職、宗学;金津卞関べんかん門、京で安居の講師、
 諡号;顕明院;能化職以外で学功により院号を贈られた最初、「阿弥陀経弊籌録」著、
 「百詠詩集」「雪窓初筆」「東南堂詩歌」/1734「御文雪窓随筆」外著多、「顕明院師遺墨和歌」
 恵東(えいとう→けいとう・谷) → 恵東(けいとう・谷、歌舞伎作者) G 1 8 4 4
 慧等(えいとう;字) → 本寂(ほんじやく;法諱・慧等、真言僧) F 3 9 3 7
 慧桃(えいとう;法諱) → 靈源(れいげん;道号・慧桃、臨濟僧) 5 1 2 4
 恵堂(えいとう→けいとう・白土) → 恵堂(けいとう・白土しらと/しらつち、藩士/儒者) G 1 8 4 7
 慧灯院(えいとういん;号) → 令玄(りょうげん;法諱、本願寺派僧/天台学) H 4 9 3 9
 慧灯大師(えいとうだいし) → 兼寿(けんじゅ;法諱・蓮如、本願寺中興) 1 8 1 6
 慧篤(えいとう;法諱) → 善空(ぜんくう;号・慧篤;法諱、浄土僧) M 2 4 1 0
 吉年(えとし) → 吉年(きね・舎人) B 1 6 6 4
 江戸住(えどずみ) → 花江戸住(はなのえどずみ、狂歌師) F 3 6 4 7
 江戸阿闍梨(えどあじり) → 日眞(にっしん;法諱・守要院、日蓮僧) E 3 3 5 6
- C1313 **荏土方澄**(えどのかたすみ) ? - 1786 狂歌・南畝の同僚、1785後万載集1首・才蔵集3首;
 [おしつめし年の鞆しりがひはづれてや春の野がみに駆け出す駒](才蔵集)、
 (鞆は年の尻と馬体をしめる馬具を掛る)
 江戸孫四郎(えどまごしろう) → 孫四郎(まごしろう・江戸えど、説教節太夫) 4 0 7 5

- 江戸升(えどます、料理店)→ 黄金升成(こがねますなり、商家/狂歌) L 1 9 9 3
- E1314 惠頓(えとん;法諱、俗姓吉沢) 1725-1785 61歳 撰津島下郡五箇庄忍頂寺村の浄土僧;
郷里の西福寺鏡誉門;出家、儒学;江戸の大内熊耳門、芝増上寺に修学/泉谷寺住職、
1778「貞極大徳伝」83「泉谷瓦礫集」1802「祐天大僧正伝」11「真宗正名」、「忍海上人伝」著、
[惠頓の号] 極誉ごよ/願阿/証蓮社
慧敦(えとん;字) → 亮素(りょうそ;法諱・慧敦;字、天台僧) I 4 9 6 4
- 1380 枝直(要南甫えなふ・加藤かとう/本姓;橘、尚之男) 1692-1785 長寿 94 伊勢松阪の国学・歌:賀茂真淵門、
江戸町奉行大岡忠相配下与力、村田春道(春海父)と同郷で共に鴛氷おに長教門、千蔭の父、
観世流謡曲明和改正版の校訂、自撰家集「東歌」、「歌の姿古へ今を論(あづ)らふ詞」、
「橘枝直集」「歌のをしへ」「子に与ふる文」「枝直自筆歌評」「万葉目録略」「南山雜記」外多数、
本居大平「八十浦の玉」入、
[二並の筑波の山に霞棚びく今よりは鳥羽の淡海も氷とくらし]、
(八十浦;上2/旋頭歌/1758[宝暦8]真淵家宴)、
[月影は真砂の霜のふかき夜に夏をことわる山ほととぎす]、
(松平春嶽[古今百人一首]入;84)、
[枝直(;名)の別名/通称/号]別名;為直、通称;又左衛門/又兵衛、
号;南山・常世庵・芳宜園はぎぞの、法号;柔性院
荏野翁(えののおきな)→ 大秀(おおひで・田中たなか、商家/国学者) 1 4 0 6
- B1365 榎並の左衛門五郎(えなみのさえもんごろう)?-? 室町期能作者、世阿「柏崎」・「鶉飼」などの原作者
榎並中将(えなみのちゅうじょう)→ 公時(きんとき・滋野井/藤原、廷臣/歌) E 1 6 3 6
惠南(えなん;字) → 忍鑑(にんがい;法諱・惠南、香道家) G 3 3 2 0
淮南堂(えなんどう) → 菅江(漢江かんこう・朱楽、狂歌) 1 5 4 7
- T1385 えに女(えにじよ・小原おはら)? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[行末はしら玉つばきしらねどもけふは八千代と契りぬるかな]、
(大江戸倭歌;恋/寄椿恋)、
小原燕子(やすらけい)と同一?
→ 燕子(やすらけい・小原おはら、国学/歌人) F 4 5 0 8
- 1381 槐本(えにすのもと・えのもと・つきのもと)?-? 万葉歌人、万葉九1715、柿本の誤説;人麿か?、
[楽浪ささなみの比良山風の海吹けば釣りする海人の袖かへる見ゆ](万葉;1715)
惠日(えいち;字) → 寂明(じやくみょう;法諱・惠日、真言僧/歌) G 2 1 3 8
慧日(えいち;法諱・東明)→ 東明(とうみん/とうみょう;道号・慧日、曹洞僧) H 3 1 3 1
慧日(えいち;字) → 行智(ぎょうち;法諱・慧日、修験道/歌) C 1 6 7 7
慧日院(えいちいん;諡号) → 良空(りょうくう;法諱、真宗高田派僧/親鸞伝記) H 4 9 1 5
慧日閣(えいちかく;号) → 月珠(げつしゅ;字・覚了、真宗僧) H 1 8 0 6
慧日山人(えいちさんじん) → 安斎(あんさい・岡島、儒者) D 1 0 1 1
惠日坊(えいちぼう;号) → 清顕(しょうけん;法諱、天台園城寺学僧) I 2 2 4 1
- 1382 慧任(えいに;法諱、亮辨;字、俗姓;小島) 1665-1742 78 大阪の真言僧:1678天満宝珠院で出家、
1680(延宝8)豊山長谷寺に修業、1702伝法大阿闍梨/12(正徳2)醍醐山入;
寛順より两部秘法を受/1715武州中野の宝仙寺住職/17護国寺快意門;伝法院流を受、
1734(享保19)長谷寺22世/36僧正、1740(元文5)大和与喜寺に退隠、
1736「伝法院流伝授目録」「伝法院流御伝授私記」著
- E1315 惠忍(えいに;法諱、皆乗院) 1693-1783 91歳 羽前米沢の真宗大谷派僧、米沢の長命寺10世、
1752退隠、和漢学に通ず;国学/歌に長ず、上杉治憲の夜話に度々招聘される、
「二河白道長歌」「高僧和讃臨講記」「浄土和讃四十八首臨講記」「御文臨講記」著
- E1318 惠忍(えいに;法諱、号;通如)?-? 江戸中期越前の真宗高田派僧、坂井郡松樹院住職、
1754(宝暦4)「阿弥陀経明煥記」著
- E1316 惠忍(えいに;法諱、号;観城)?-? 江中期宝暦明和1751-72頃河内下嶋村の真宗僧、
蓮如の研究、1759(宝暦9)「御文来意鈔」、「真宗懐古鈔」著
- E1317 惠忍(えいに;法諱) ? - ? 江中後期天明寛政1781-1801頃大阪真宗大谷派僧、

- 大坂本町の浄久寺住職、1782(天明2)「真宗聖教字箋」、「顕教行証文類聖教字箋」著
 恵仁(えにん;字/初め天台僧)→実導(じつどう;法諱、浄土宗西山派僧) V 2 1 0 0
 慧仁(えにん;法諱) → 善空(ぜんくう;号・慧篤;法諱、浄土僧) M 2 4 1 0
- E1319 慧然(えねん;法諱・義融ぎゆう;別法諱、号;海東/華蔵庵、諡号香巖院) 1693-1764 72 堺真宗大谷派僧、
 ;恵空門、華蔵/天台に精通、1728本山講師;高倉学寮開校尽力、「安楽集講録」「改悔鈔」、
 「敬身録」「無量寿経俗談」「小童義譚」「阿弥陀経機教編」「念仏往生本願義」外著多数
 慧然(えねん;道号・義性)→ 義性(ぎしょう;法諱・慧然、曹洞僧) K 1 6 9 3
- 1383 榎井王(えのいのおおきみ、榎本王、志貴皇子男)?-762 光仁天皇の弟?、万葉三期歌人;六1015
 [玉敷きて待たましよりはたけそかに来たるこよひし楽しく思ほゆ](1015門部王に追和)
 役小角(えのおづぬ) → 役行者(えんのぎょうじゃ、修験道) B 1 3 3 2
 榎雨露住(えのきのうろずみ) → 雨露住(うろずみ・榎、狂歌作者) B 1 2 5 4
 榎僧正(えのきのそうじょう;徒然草)→ 良覚(りょうかく、天台僧/歌人) G 4 9 8 5
 役君小角(えのきみおづぬ) → 役行者(えんのぎょうじゃ) B 1 3 3 2
- C1325 絵式部(えのしきぶ/えしきぶ、清式部、平繁兼女)?-? 平安後期歌人/母;一条院女御義子乳母子、
 白河天皇中宮賢子[1057-84]女房、源資綱と交流、後拾遺524
 [ながむらん明石の浦のけしきにて都の月はそらにしらなん](後拾九;羈旅524)
 (資綱の明石の歌「おぼつかな都の空やいかならむこよひあかしの月をみるにも」の返し)
 槐本(えのもと) → 槐本(えにすのもと、万葉歌人) 1 3 8 1
 榎本王(えのもとのおおきみ) → 榎井王(えのいのおおきみ、万葉歌人) 1 3 8 3
- B1366 榎本屋吉兵衛(えのもとやきちべゑ)?-? 江戸地本問屋;1790触書諸書連印19名の1
- E1320 恵白(えはく;法諱・心画院;号)?-1843 能登国宿村の真宗大谷派西照寺の住職、
 1830高倉学寮の寮司/38(天保9)擬講、1797「一枚起請文聞書」1813「法華経科註随白記」著、
 「浄土論廻向文聆箋」「講演法華儀記」「自問自答御文恵白録」「菩提心論枢関」著
- E1321 恵舶(えはく;法諱・号;雲山/芬扇、諡号;慈雲) 1727-79 53 越前今立の真宗本願寺派学僧;
 京の宏山寺僧樸門;高弟、越前丹生郡の善行寺住;仏典の研究、歌/俳諧を嗜む、
 「浄土和讃記聞」「信行辨」著
- B1367 恵範(えはん/けいはん;法諱、心車;号) 1608-49 42歳 常陸の真言僧;智積院元壽門、智山に登り修業、
 のち京の六波羅密寺7世、「諸師製作目録」著;釈教録所収、1635「探心記」著、
 「真言宗先徳著述目録」編、「阿字四重秘釈」「護宗要関」「五塵仏事」「事教秘訣二十条」著
 恵範(えはん・心車、六地藏寺3世)→ 恵範(けいはん;法諱、心車、真言僧) G 1 8 5 6
 恵範(えはん;法諱) → 片雲(へんうん;号・恵範、真宗僧/詩人) B 2 7 1 0
 慧範(えはん・日旋) → 日旋(にっせん・慧範、曹洞僧) E 3 3 7 7
- U1306 兄彦(えひこ・加賀かが、旧姓;加藤) 1841-81 41 因幡鳥取藩士、尊攘派、1863本圀寺事件に参加、
 のち長田神社祠官、
 [兄彦(;名)の別名/通称/号]別名;忠益、通称;助之進、号;金蘭舎/木心
 夷(えびす・松下) → 筑陰(ちくいん・松下、儒者) C 2 8 5 1
 夷園(蛭子園えびすえん) → 直方(なおかた・谷井たにい、窯元/国学) N 3 2 7 9
 蛭麿(蛭丸えびすまる・中島)→ 広足(ひろたり・中島/越智、藩士/国学者) 3 7 2 1
 海老蔵(えびぞう・市川) → 団十郎(初世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役/作者) 2 6 8 8
 海老蔵(2世えびぞう・市川)→ 団十郎(2世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者) 2 6 8 9
 海老蔵(5世えびぞう・市川)→ 団十郎(7世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者/合卷) 2 6 9 1
 海老蔵(6世えびぞう・市川)→ 団十郎(8世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者) I 2 6 3 3
 蝦尺(えびたけ・前田) → 良能(りょうのう・前田、俳人) J 4 9 2 2
- B1302 穎人(えひと/かひひと・上毛かみつけの朝臣、大川男) 766-821 56 廷臣/漢学者;遣唐使の遣唐録事、大外記、
 810薬子乱に功、820民部大輔/東宮学士、815「新撰姓氏録」共編(万多親王/藤原緒嗣らと)
 詩;凌雲/文華秀麗/経国集入
- E1322 穎長(えひと・かびなが・多治比)?-? 平安前期詩人/822文章生、経国集入
 海老名南阿彌(えびなのなみ)→ 南阿(なんあ、連歌/曲舞作曲) I 3 2 4 8
 海老船守(えびのふねもり、後万載入)→ 方人(かたうど・辺越へごしの、佐野屋七兵衛/狂歌) C 1 5 3 1
 海老屋(えびや) → 信明(のぶあき・阪倉、国学/歌号) 3 5 7 4

- F1363 **えびら**(箴;組連) ? - ? 江戸木挽町一丁目(京橋・銀座)の雑俳の組連、
取次;1770「麟舎評万句合」/1771「川柳評万句合」入、
取次例;[しゞみ売り黄色なつらへ高う売り](1770麟舎万句/前句;あらそひにけり々々)、
(黄色なつらは黄疸患者)
- E1323 **恵辨**(えべん;法諱・号;海学堂/珠玉山人、諡号;離有無院)?-1768 伊勢富田の真宗高田派僧;
富田の竜和泉寺住職、真宗学;京の本誓寺の恵雲門、講師、1746「大名目集註」著、
「安心領解文忘己抄」「高僧和讃綱要」「浄土和讃綱要」「真宗解蒙鈔」「実偽身義」外著多数
- 1384 **慧鳳**(えほう;法諱・翽之こうし;道号)?-1464? 1469存? 丹波or丹後臨濟;1419東福寺岐陽門/32入明、
帰国後周防大内氏の庇護、詩文、1455「竹居清事」65「竹居西游集」、「翽之鳳禪師文集」
[翽之慧鳳の号] 竹居ちくきよ/幻庵/木禊ぼくたつ道人/借庵/紅蕉/古筠こいん
- E1324 **慧鳳**(えほう;法諱・禅洞;字、号;如幻道人)1688-1768⁸¹ 真言律僧;江戸湯島靈雲寺2世慧光門、
高崎大染寺3世、戒律を重視、1730「胎藏界念誦次第随聞録」、「金剛界念誦法随聞録」著
- 恵方(えほう) → 恵方(けいほう、俳人) C 1 8 0 6
恵方(えほう・湯本) → 俊斎(しゅんさい・湯本ゆもと、医者/儒) K 2 1 7 2
恵方庵(えほうあん) → 無三(むさん・富田、農家/代官/俳人) 4 2 5 6
恵方窟(えほうくつ) → 秀国(しゅうこく・壽ことぶき、俳人) H 2 1 3 9
恵鳳軒(えほうけん) → 立吟(りゅうぎん・森/小野川、俳人/地唄) D 4 9 4 0
慧牧(えぼく;法諱・醉翁) → 遂翁(すいおう;道号・元盧、臨濟僧) E 2 3 1 8
恵本(えほん;号) → 靈泉(りょうせん;法諱/臨濟僧) M 4 9 4 7
- 1385 **慧梵**(えぼん;法諱・竺源;道号、師成もろなり/もろしげ親王、後村上天皇皇子)1361-? 1431存 臨濟僧、
1399応永乱時大内義弘により擁立/1423伊勢南陽寺住;出家、晩年は大内教弘の許に寓居、
1431「類字源語鈔奥書」、歌;家百首主催/1375南朝五百番歌合参加(;弁内侍名)、
新葉集5首;147/340/793/870/935、
[木のもとに散りしく花を吹きたてて二たび句ふ春の山風]、
(新葉集;春147;兵部卿師成親王名)、
[竺源慧梵の号] 嬾雲子らんうし
- 江馬太郎(江間-えまたろう) → 泰時(やすとき・北条ほうじょう/平、執権/歌) 4 5 2 6
絵馬屋額輔(えまやがくすけ) → 額輔(がくすけ・初世絵馬屋、絵師/狂歌) E 1 5 7 4
絵馬屋額祐(えまやがくすけ) → 額祐(がくすけ・2世絵馬屋、狂歌) E 1 5 7 5
- E1325 **慧満**(えまん;法諱) ? - ? 江後期文政1818-30頃安藝巖島光明院住の浄土僧;学信門、
1821(文政4)「学信和尚行状記」著
- 恵美(えみ/けいび;法諱) → 雪鼎(せつてい;号・恵美;法諱、真宗大谷派僧) E 2 4 5 7
兄瓶(えみか・加納) → 諸平(もろひら・加納/夏目、国学者/歌) 4 4 3 5
- E1326 **江見河原入道**(えみがわらにゅうどう)?-? 太平記読;1466季瓊真薬きけいしんざい「蔭涼軒日録」入
- U1324 **恵美子**(えみし・山中やまなか、号;松月、旧姓;島崎)1795-1879⁸⁵ 近江蒲生郡の歌人;浜崎景斎門
- C1314 **蝦夷**(えみし・蘇我、馬子男)?- 645自殺 飛鳥時代;推古舒明皇極三代の大臣、入鹿の父、
入鹿が誅され家を焼き自刃
- E1327 **嘉猷**(えみち・山田やまだ/本姓;藤原、別名;孝房)1809-52⁴⁴ 京の豪家;柳馬場押小路北住の歌人、
国学者/歌人;城戸千楯門、画;松村景文門、「樛之落葉」著、
[嘉猷(;名)の通称/号]通称;長左衛門、号;宗閑/篁前へいぜん/蘭雅/都賀廼舎/樛舎(とがのや)
法号;善誉徳明宗閑居士、娘(長女の未瑳子)の婿が水原史郎ふみお(国学者)
- 慧密(慧蜜えみつ;法諱) → 蔵雲(ぞううん;道号・慧密えみつ、曹洞僧) G 2 5 1 2
- E1328 **慧明**(えみょう;法諱・了庵;道号、俗姓藤原)1337-1411⁷⁵ 相模曹洞僧;不聞/通幻寂靈門、最乗寺開、
能登総持寺/下総総寧寺など住持、「代語録」「峨山和尚行実」著、「了菴慧明禪師語録」著
- E1329 **慧猛**(えみょう;法諱、慈忍;字、秦はた宗伯男)1614-75⁶² 河内秦村真言律僧;真空律師門、
経疏;如周門、1657西大寺高喜より伝法灌頂受、1669野中寺中興、
「六物図略」「三聚戒釈」「教誠律儀鈔」著
- E1330 **慧明**(えみょう;法諱) 1732 - 1795^{64歳} 天台僧;恵忠門、日光照尊院10世、1776大僧都、
1777輪王寺御留守居24世/85久能山御宮別当/88江戸山王観理院住、
1781「御留守居歴代記」著

恵明(えみょう;法諱) → 獅絃(しげん;号・恵明/真宗僧/詩) T 2 1 2 4
 恵明(えみょう;法諱) → 神識(じんしき;法諱、真宗大谷派僧) O 2 2 6 8
 慧苗(えみょう;法諱) → 天産(てんさん;道号・慧苗、曹洞僧) D 3 0 5 4
 慧明(えみょう;字) → 日灯(にっとう;法諱・波羅密、日蓮僧) F 3 3 4 0
 恵命院(えみょういん) → 宣守(せんしゅ;法諱、真言僧/故実) F 2 4 8 3
 恵明院(えみょういん) → 如晴(にょせい;法諱・恵明院、真宗僧) G 3 3 0 2
 慧明国師(えみょうこくし) → 木庵(もくあん;道号・性瑠;法諱、黄檗僧) 4 4 6 4
 慧猛(えもう→えみょう) → 慧猛(えみょう;法諱、真言律僧) E 1 3 2 9

F1354 右衛門作(えもさく・山田やまだ)?- ? 肥前島原の農民;1637島原一揆に参加/38捕縛、
 乱中に妻子殺害される、島原の乱を供述「山田右衛門作口書写」、
 のち幕府に従い江戸でキリシタン摘発の手伝

右衛門七(えもしち・加藤) → 磯足(いそたり・加藤、国学者/歌) B 1 1 0 9
 右衛門七(えもしち・山路) → 重敏(しげとし・山路やまち・岡本屋、国学) U 2 1 0 4
 右衛門七(えもしち・清水) → 秋全(あきまさ・清水しみず、藩士/国学/歌) D 1 0 8 7
 衛門七(えもしち・木梨) → 恒充(つねみつ・木梨きなし、藩士/絵師) D 2 9 9 3
 衛門七(えもしち・大石) → 眞虎(まことら・大石おおいし、絵師) J 4 0 9 5
 衛門七(えもしち・近藤) → 順衡(のぶひら・近藤こんどう、藩士/歌人) I 3 5 4 9
 右衛門八(えもはち・正木) → 梅谷(ばいこく・正木まさき、藩士/儒者) B 3 6 2 4
 衛守(えもり・池上) → 菊所(きくしょ・池上いけがみ、俳人) K 1 6 1 3
 衛守(えもり・後藤) → 夷臣(ひなおみ・後藤ごとう、別名;、国学者) E 3 7 2 7
 衛守(えもり・山尾) → 章政(あきまさ・山尾やまお/平、絵図師/歌) I 1 0 6 3
 衛守(えもり・山尾) → 定政(さだまさ・山尾、章政養子/絵図師/詩歌) J 2 0 7 1
 衛守(えもり・渡辺) → 直(なおし・渡辺、藩国老/歌) B 3 2 2 6
 衛守(えもり・木村) → 茂信(しげのぶ・木村きむら、藩士/国学) O 2 1 1 8
 衛盛(衛守えもり・小川) → 道則(みちのり・小川おがわ、国学/歌人) I 4 1 2 4

E1331 衛門(えもん) ?- ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」入;
 [霧晴れてもとの長さの薄すき哉]

B1368 恵門(えもん) 1791 - 1862 72歳 播磨の唱導家;東保流の開祖

E1332 衛門(えもん・中館なかだて) 1819- ? 江後期陸中八戸氏の家士、
 寺子屋を開設;教科書を作成/子弟教育、「梅香家筆誉」著

衣紋(えもん) → 垢染衣紋(あかしまのえもん) C 1 0 2 1
 慧門(えもん;道号) → 禅智(ぜんち;法諱・慧門、曹洞僧) M 2 4 9 5
 衛門(えもん・武田/龍) → 公美(きんえ・龍たつ/りゅう、儒者/詩歌) E 1 6 8 7
 衛門(えもん・竜) → 世華(つぐあき・せいか・竜たつ、藩儒/歌人) F 2 9 9 9
 衛門(えもん・富川) → 大塊(たいかい・富川/大橋、大庄屋/詩文) J 2 6 4 3
 衛門(えもん・田内) → 董史(とうぶん・ただふみ・田内たうち、教育者) Q 2 6 7 6
 衛門(えもん・中西/荒木田) → 嗣興(つぐおき・中西/荒木田/幸福、神職/本草) 2 9 6 8
 衛門(えもん・長沢) → 伴雄(ともお・長沢、藩士/故実/国学/歌) P 3 1 2 3
 衛門(右衛門えもん・谷/北条;変名) → 松根(まつね・村山/樺山、藩士/歌) J 4 0 8 4
 衛門(右衛門えもん・上野) → 重武(しげたけ・上野うえの/荒木田、国学者) R 2 1 3 3
 衛門(えもん・久山) → 好雄(よしお・久山ひさやま、医者/歌人) L 4 7 0 6
 衛門(えもん・小笠原) → 競(きそう・小笠原おがさわら/奥瀬、藩士/国学) T 1 6 6 5
 衛門(えもん・片桐) → 貞彬(さだあき・片桐かたぎり、藩士/国学者) O 2 0 2 9
 右衛門(えもん→うえもん) → 則峰(のりみね・鹿島かしま/中臣/富田、神職) F 3 5 9 1
 右衛門(えもん→うえもん) → 則瓊(のりよし・鹿島かしま、則峰男神職/国学) G 3 5 3 1
 右衛門(えもん→うえもん・黒川) → 義忠(よしただ・黒川くろかわ、藩士/日記) E 4 7 2 3
 右衛門(えもん/うえもん・吉川) → 秀道(ひでみち・吉川よしかわ、伊豆諸島探査) D 3 7 8 7
 右衛門(えもん/うえもん・富田) → 泰州(やすくに・富田とみた/源、藩士/歌人) B 4 5 3 4
 右衛門太郎(えもんたろう・長宗我部) → 盛親(もりちか・長宗[曾]我部ちようそかべ、武将/城主) F 4 4 7 1
 右衛門督(えもんのかみ・永福門院女房) → 右衛門督(うえもんのかみ、歌人) 1 2 0 4

- 右衛門督(惟康親王家)→ 右衛門督(うえもんのかみ、歌人) 1 2 0 5
 右衛門督(中務卿宗尊親王家)→ 右衛門督(うえもんのかみ、歌人) 1 2 0 6
 右衛門督(安嘉門院)→ 阿仏尼(あぶつに、日記/歌人) 1 0 2 7
 右衛門督(宣光門院)→ 新右衛門督(しんえもんのかみ、楊梅盛親女) D 2 2 5 5
 右衛門督(えもんのかみ・井伊)→ 直該(なおもり・井伊) 直興/藩主/大老/歌) L 3 2 0 1
- E1333 衛門藏人(えもんのかみ) ? - ? 平安期歌人;966(康保3)内裏前裁合参加、
 [月影のうすきこきをも照らす夜はいかでか花の色にわかまし](内裏前裁;35)、
 右衛門(頼忠家女房)と同一? → 右衛門(うえもん、頼忠家女房歌人) 1 2 0 3
 右衛門佐(衛門佐えもんのすけ・二条大宮)→ 右衛門佐(うえもんのすけ・近衛太皇太后宮多子家) F 1 2 0 0
 右衛門佐(衛門佐えもんのすけ・高松院女房)→ 右衛門佐(うえもんのすけ・高松院、歌人) 1 2 0 7
 右衛門佐(衛門佐えもんのすけ・皇后宮こうごうぐ)→ 右衛門佐(うえもんのすけ・皇后宮) 1 2 0 8
 右衛門佐(衛門佐えもんのすけ・安嘉門院・四条)→ 阿仏尼(あぶつに) 1 0 2 7
 右衛門佐(えもんのすけ・萩原)→ 員從(かずより・萩原はざむら/卜部、神道家) V 1 5 3 9
 右衛門佑(えもんのすけ・黒田)→ 綱政(つなまさ・黒田/松平、藩主/連歌) B 2 9 2 9
 右衛門大志(えもんのたいし・青木)→ 行敬(ゆきもり・青木あおき/宗岡、歌人) G 4 6 4 5
 右衛門大尉(えもんのだいじょう・町口)→ 是保(これやす・町口まちぐち/坂上/別所、廷臣/明法博士) R 1 9 3 1
 右衛門大夫(えもんのだいはう・堀家)→ 清忠(きよただ・堀家ほりけ/吉見、神職/国学) V 1 6 1 8
 右衛門司(えもんのつかさ・千村)→ 重琦(しげかた・千村ちむら、本陣/歌人) Q 2 1 7 5
 右衛門司(えもんのつかさ・千村)→ 政成(まさなり・千村ちむら、歌人) Q 4 0 9 0
 衛門御息所(えもんのみやすどころ・藤原定方女)→ 能子(のうし) 3 5 3 4
- E1334 慧友(えゆう;法諱・了諦ようたい;字、愚然男)?-1724 真宗本願寺派僧、大坂天満三光寺住職、
 「正信偈集解」著
 恵雄(えゆう→えおう) → 日講(にちこう;法諱・安国院、日蓮僧) B 3 3 8 0
 恵雄(えゆう→えおう) → 日習(にっしゅう;法諱・安国院、日蓮僧) E 3 3 0 2
 稲置(稲木えゆき・堀川) → 稲置(稲木いなき・堀川、医者/国学) I 1 1 0 5
 嘯楽麿(えらまろ・秋山) → 色樹(いろき・秋山あきやま、官人/国学) J 1 1 8 1
- T1396 恵竜(えりゅう;法諱、号;素風) 1794-1848 55 加賀能美郡の真宗東派妙永寺の僧
 恵竜(えりゅう) → 鈍斎(どんさい・小松、僧/和算/天文) S 3 1 1 9
 会隆(えりゅう;字) → 日台(にちだい;法諱・歆寿院、日蓮僧) C 3 3 8 0
 恵隆(えりゅう;字) → 仁慶(にんきょう;法諱・恵隆、真言僧) G 3 3 2 8
 慧竜(えりゅう;字) → 祥雲(しょううん;法諱・慧竜、真言僧) H 2 2 0 2
- E1335 恵亮(恵亮えりょう;法諱) 802/812?-860 48-58 信濃水内郡の天台僧;幼少時比叡山に修業、
 829義真門;菩薩大戒を受、顕密;円澄(寂光)/円仁(慈覚)門、のち叡山西塔院に住、
 854(斉衡元)円仁の奏上で三部大法阿闍梨/859賀茂・春日神供奉の年分度者2人を奏請;許、
 のち西塔宝幢院検校、文徳の2皇子惟喬・惟仁の東宮争いに惟仁親王のため大威徳護摩法、
 860(貞観2)洛東妙法院に没、「授菩薩戒儀」著、袋草紙に[山なる僧]との関係の解説入、
 号;大薬大師/通称;宝幢院和尚
 慧亮(えりょう;法諱・達空;字)→ 涌蓮(ようれん;号、真宗高田派僧/歌) B 4 7 6 4
 慧亮(えりょう;道号) → 忘光(ぼうこう;法諱・慧亮、曹洞僧) F 3 9 2 2
 恵梁(えりょう・斯経;道号)→ 斯経(しきょう・恵梁、臨濟僧) Q 2 1 2 1
 恵亮(えりょう;字) → 日慶(にちげい;法諱・勇猛院、日蓮僧) B 3 3 5 1
 恵了(えりょう;字) → 日行(にちぎょう;法諱・瑞光院、日蓮僧) B 3 3 4 1
- E1336 恵琳(えりん;法諱・初諱;恵空、字;懐玉/抱玉/子玉) 1715-89 75 伊勢河内真宗大谷派願了寺僧、
 伊勢西弘寺住職、真宗義・華嚴天台;恵然門/本山学寮尽力;1765講師職4世、
 1774宗門代表として浄土宗と論争、1767「学部必要目録」、「清沢物語」「真宗帯佩記」著、
 「阿弥陀経解」「安楽集聞書」「愚禿鈔綱略」「釈門教義」「末燈鈔講義」「理綱隨筆」外著多数、
 [恵琳の号] 亀陵/仏乗坊、諡号;理綱院
- E1337 慧輪(えりん;法諱、慧倫玄亮?)?-? 1813存 江後期曹洞僧;万仞ばんじん道担門、
 1772「三休老人生死辯」編、1813「正法眼蔵御抄来由」著

慧林(えりん;道号) → 性機(しょうき;法諱・慧林、黄檗僧) H 2 2 9 3
 慧琳(慧霖えりん;初法諱) → 法霖(ほうりん;法諱、真宗本願寺派僧) C 3 9 7 3
 慧琳(えりん;字) → 慈海(じかい;法諱、真宗本願寺派僧) P 2 1 7 7
 慧麟(えりん;字) → 僧温(そうおん;法諱、真宗本願寺派学僧) G 2 5 4 1
 恵林院(えりんいん) → 日達(にちだつ;法諱、日蓮僧) C 3 3 8 5
 恵林院(えりんいん) → 義植(よしたね・足利/源、室町幕府將軍) E 4 7 3 4
 慧輪永明禪師(えりんえいめいぜんじ;諡号) → 光紹(こうしょう・智堂、曹洞僧) J 1 9 7 5
 恵林上人(えりんしょうにん) → 経弁(きょうべん;法諱、華嚴僧) O 1 6 4 9

E1338 婉(えん・野中のなか、野中兼山の4女) 1660-1725 66歳 土佐高知の生、1663(4歳)父と死別、
 1664(5歳)野中家は改易;幡多郡宿毛に幽閉、幽閉中に儒/詩歌:谷重遠[秦山]門、
 医書を読み医術を修学、1703(44歳)野中家の男系断絶;赦免されて土佐郡朝倉村に住;
 医業/藩より8人扶持支給、終生独身、1721「蘆の下根」、「おぼろ夜の月」[野中家系譜]著、
 [婉の号] 安履亭/賁趾亭ひいて/柳陰

U1310 艶(えん・山川やまかわ、西郷近登之ちかとし女) 1817-89 73 陸奥会津の生/会津藩士山川重固の妻、
 12人の子を出産;うち7人(2男5女)成長、1859(安政6)夫没;剃髪、育児教育熱心、
 1868新政府軍の若松城下時に子らと籠城戦参加、
 戦後;会津藩の移封先の陸奥斗南に移住;1871息子浩ひろし(大蔵おおくら)らと上京、
 [艶(名)の別名/号]別名;清きよ、歌号;唐衣、法号;勝聖院

えん(江牟えん・柏原/三井) → 齡子(としこ・柏原かしまり/三井、正寿尼/歌人) U 3 1 7 3

円(えん・泉) → 円(まどし・泉いずみ、商家/国学/歌) J 4 0 9 1
 円(えん/まどか・小林) → 退結(たいけつ・小林、兵法家/水軍研究) J 2 6 8 0
 円(えん・清水) → 羽長(うちょう・清水しみず、名;円) D 1 2 1 5
 円(えん・高垣) → 是正(これまさ・高垣たかがき、国学/歌人) O 1 9 8 2
 円(えん・鈴木) → 政辰(まさとき・鈴木すずき、和算家) L 4 0 3 3
 円(えん・渡辺) → 円(まどか・渡辺わたなべ、国学者) T 4 0 8 6
 円(えん・泉) → 円(まどか・泉/和泉いずみ、歌人) J 4 0 9 1
 円(えん・蒲坂) → 青荘(せいそう・蒲坂ほさか、漢学者) C 2 4 4 9
 円(えん・大石) → 円(まどか・大石おおいし、国学/勤王) O 4 0 2 5
 淵(えん・加藤) → 香園(こうえん・加藤、書肆/儒) H 1 9 6 9
 淵(えん・西岡) → 天津(てんしん・西岡、儒者) D 3 0 8 9
 淵(えん・執行/伊東) → 玄朴(げんぼく・伊東、蘭医) M 1 8 3 9
 淵(えん・中江/村上) → 竜眠(りゅうみん・村上/中江、医者/蘭方) F 4 9 7 5
 淵(えん・青木) → 充延(みつのお・青木あおき、儒者/詩文) E 4 1 3 8
 淵(えん・池永) → 碧於亭(へきおてい・池永いけなが、漢学/詩) 2 7 8 6
 淵(えん・佐和) → 莘斎(しんさい・佐和さわ、儒者/勤王/僧) O 2 2 4 4
 淵(えん・宇田) → 健斎(けんさい・宇田、医者/討幕活動) J 1 8 0 2
 淵(えん・五十川) → 訥堂(じんとく・五十川いそかわ、儒者/教育) P 2 2 4 8
 延(えん・児玉) → 延年(のぶとし・児玉こだま、藩士/兵学) C 3 5 3 5
 延(えん・笠倉) → 延平(のぶひら・網野あみの/笠倉、歌人) D 3 5 0 8
 延(えん・杉山) → 梅園(ばいえん・杉山/楡山すぎやま、儒者/詩) 3 6 6 5
 延(えん・木下/吉川) → 順子(じゅんこ・吉川きつかわ/木下、歌人) O 2 1 2 7
 艶(えん・奥田) → 大和(やまと・奥田おくだ/富永、国学/歌人) F 4 5 5 8
 遠(えん・帆足) → 杏雨(きょうう・帆足ほあし、絵師) N 1 6 2 2
 遠(えん・関) → 鉄之介(てつのおしげ・関、藩士/桜田門外変) C 3 0 5 9
 遠(えん・能美) → 隆庵(りゅうあん・能美のうみ、医者/藩医) C 4 9 6 9
 淹(えん・山田) → 青門(せいもん・山田やまだ、藩士/儒者/詩) J 2 4 6 5
 縁(えん・中村) → 善武(よしたけ・中村なかむら、藩士/国学) O 4 7 2 2
 堰(えん・大神) → 茂興(しげおき・大神おおが/大三輪、神職) N 2 1 7 3

U1354 円阿(えんあ・釈) ? - ? 鎌倉南北期:僧、
 歌人;1334(建武元)度会朝棟亭八月十五夜歌会参加(3首)、

[あかず見し月に心をはこぶかな神路の山の秋の半天なかぞら] (朝棟亭歌会; 118)

[捨つる身にうき世の秋のかさならば月より外の友やなからん] (同; 120)

- E1339 円阿 (えんあ・塵尾庵じんびあん) ?- ? 江中期京の狂歌作者、鈍金と交流、
1763刊「狂歌君か側」編

円阿 (えんあ; 法名) → 忠教 (ただのり・九条くじょう、廷臣/歌人) F 2 6 6 0

円阿 (えんあ; 法名・名蓮社) → 眞察 (しんさつ; 法諱、浄土僧) O 2 2 6 2

円庵 (えんあん・真嶋) → 秋扇翁 (しゅうせんおう・真嶋、能楽故実家) H 2 1 9 4

円庵 (えんあん・竹川) → 政信 (まさのぶ・竹川たけがわ、商家/国学者) F 4 0 7 5

燕庵 (えんあん) → 春門 (はるかど・村田/宮崎、国学/歌) 3 6 3 1

淵庵 (えんあん・伊東) → 不玉 (ふぎよく・伊東いとう、医者/俳人) B 3 8 4 5

- 1386 円伊 (えんい; 法諱、藤原伊頼 [1222-83] or 伊頼男の尊道男) ?-? 1323存 鎌倉期; 天台園城寺僧、
法眼/権僧正、静伊 (じょうい・園城寺別当) の兄、「一遍聖人絵伝」の絵師法眼円伊と同一説あり、
歌人; 続現葉集・1315「詠法華経和歌」入集/続現葉・藤葉集入、
1319比叡山法師による焼討で寺焼失; [文保三年記/類従454] [徒然草86段; 平惟継の師] 入、
勅撰13首; 新後撰 (1003) 玉 (410/439) 続千 (806/1119/1902) 続後拾 (1205) 風雅 (2首) 以下、
[うらみじよ思へば人のこぬまでもなさげにこそいは契りおきけめ] (新後撰; 恋1003)、
[うら遠きひがたの潮やみちぬらん跡なき浪に鳴く千鳥かな] (藤葉; 冬339)

- 1387 円伊 (えんい; 法諱・仲方 [仲芳] ちゅうほう; 道号) 1354-1413 60歳 長門の臨濟僧; 南嶺子越門、
1402播磨法雲寺住持/09建仁寺81世/南禅寺78世、晩年; 建仁寺長慶院開、詩文; 絶海中津門、
「伊仲芳四六之文」「蒲室疏解」「蘭室集」「懶室漫稿」「仲芳和尚語録」「長慶和尚語録」著、
[仲方円伊の初道号法諱/号] 初道号; 三山/法諱; 曇伊、号; 懶室らんしつ/懶子らんげんし

円位 (えんい; 法諱) → 西行 (さいぎょう、歌人) 2 0 0 3

円意 (えんい・鈿) → 景村 (かげむら・鈿いかり/河野、町年寄) T 1 5 5 9

円意 (えんい・浦上) → 円意 (のぶのり・浦上うらがみ、歌人) H 3 5 5 4

延彝 (えんい・青山) → 延彝 (のぶつね・青山あおやま、儒者/詩文) C 5 1 7

垣衣小家 (えんいしょうか) → 宍夫 (しお・尾崎おさき、国学者/歌人) N 2 1 7 2

- B1370 円一 (えんいち) ?- ? 戒律宗僧、1389字書「瑣玉集」編

- B1371 円一 (えんいち、伊豆いづ) ?- ? 平家琵琶法師/家康の恩顧を受、
総検校、式目の整備

淵逸 (えんいつ・中西) → 弘繩 (ひろつな・中西/度会、神職/国学) G 3 7 4 1

円意堂 (えんいどう) → 汎兮 (はんけい・石川いしかわ、商家/俳人) H 3 6 4 8

- E1340 延殷 (えんいん; 法諱、大原上人、俗姓; 橘) 968-1050 83 但馬の天台・真言僧、983叡山の慈仁門; 出家、
静照門; 修学、寂照の入宋を羨む; 渡宋叶わず/真言僧として多武峰住/のち大原山に住、
1038慈覚・智証による座主争いを避け醍醐寺住、仁海に伝法を請う/48法橋、「延殷決」著

- 1388 円胤 (えんいん・上人、説成親王男) ?-? 鎌倉期 (1321-24頃存) 浄土宗僧; 西山派?、
「延寿護法録」著、歌人/勅撰3首; 続千978/新千929/新拾1480、
[春やときみやま桜にさきだちて都の花はまづぞひらけし] (続千; 釈教978、
観無量寿経: 王宮会の心)

延胤 (えんいん・平田) → 延胤 (のぶたね・平田、藩士/国学) B 3 5 9 1

縁因 (えんいん) → 応住 (おうじゅう; 法諱・寂法、真言律僧) C 1 4 0 5

篤蔭 (えんいん・原) → 穂足 (ほたり・原はら、庄屋/国学/歌人) G 3 9 3 3

烟雨 (えんう・田内) → 董史 (とうぶんただふみ・田内たうち、教育者) Q 2 6 7 6

延于 (えんう/のぶゆき・青山) → 拙斎 (せつさい・青山、儒者) E 2 4 3 3

爰于翁菜 (えんうおうさい) → 田楽 (でんがく・椒芽きのめ、医者/戯作者) D 3 0 2 5

- C1330 円雲 (えんうん・山、信雅男) ?- 1182 平安後期僧、「喜記」入

垣雲法親王 (えんうんほつしんのう) → 恒雲法親王 (こううんほつしんのう) 1 9 7 3

- E1341 円恵 (えんえ) ?- 1376? 真言僧; 西山三鈿寺の僧/権大僧都、
仁空より亡後の住職を期待されていたが先に没 (仁空置文入)、連歌、菟玖波6句入、
[きのふの花はけふの山風] (菟; 春143/前句; とまらぬは春の別れと思ひしに)

- E1342 **延恵**(えんえ;法諱) 1418 - ? 1482存 東大寺の法相僧;法華堂衆の1、大峯入山18度、大峯大先達/小野流修験者、1472尊勝院実光の出家戒師/82(文明14)東室故若君の戒師、1475「執金剛神講式」著
 円郢(えんえい;法諱・東洲)→ 東洲(とうしゅう;道号・円郢、曹洞僧) E 3 1 8 8
 延栄(えんえい・日野西) → 延栄(とおいげ・日野西ひのし、廷臣/日記) I 3 1 6 1
 遠影(えんえい・丁野) → 遠影(とおかげ・丁野ちやうの、藩士/官吏/歌) V 3 1 7 5
 演益(えんえき・福田) → 渭水(いすい・福田ふくだ/ふた、儒/砲術) E 1 1 3 7
 円右衛門(えんえもん・葛谷)→ 実順(さねより・葛谷くずや、和算家) L 2 0 4 9
 円慧靈通禅師(えんえいりつぜんじ)→ 江雲(こううん;道号・宗竜、臨濟僧) H 1 9 4 2
- E1343 **円縁**(えんえん;法諱、南都僧都、高階業遠男)990-1066 京の生/大和興福寺の法相学僧;扶公門、一時中宮寺住;のち興福寺に戻る/1052(永承7)興福寺別当、1057権大僧都、「法自相」著
- U1337 **延円**(えんえん;法諱) ? - ? 鎌倉期;僧;法師、歌人;1237素俊撰[檜葉集]入、
 [菊苑僧正(範円?)庚申講に寄螢火恋、
 あけばまたわがみひとつの思ひにてよそにやなら□よはの夏むし](檜葉;恋403)
- E1344 **燕々**(えんえん) ? - ? 越後高田の俳人;1776樗良「月の夜」入;
 [稲妻に網打ち見えてあはれ也]
 遠々(えんえん・高久) → 靄崖(あいがい・高久たかく、絵師) D 1 0 1 7
 炎々翁(えんえんおう) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5
 燕々居(えんえんきよ) → 屋山(おくざん・稲毛いなげ、篆刻家) B 1 4 0 8
 淵々斎(えんえんさい・小林)→ 順堂(じゅんどう・小林こばやし/田淵、医者) L 2 1 6 0
 円々斎(えんえんさい) → 勝寂(しょうじやく・陶山すやま、絵師) S 2 2 8 4
- E1345 **衍々子**(えんえんし・臼田うすだ、名;榮、通称;榮吉)?-1756 伊勢度会の儒者、詩、教育者、
 1753「私語述説初編」著
 燕々子(えんえんし) → 宗政(むねまさ・池田、藩主/日記) C 4 2 4 8
 円々堂(えんえんどう) → 大庵(だいいちゅう;法諱・光海;字、真言律僧) L 2 6 1 9
- 1389 **円応**(えんおう・松山まつやま) ? - ? 江戸中期歌人・1751歌学「和歌叢林夜話」著
 円応(えんおう;諡号) → 実導(じつどう;法諱、浄土宗西山派僧) V 2 1 0 0
 苑扇(えんおう・小栗栖) → 示右(しゅう/じゅう・小栗栖おぐるす、神職/俳人) G 2 1 6 9
 猿翁(えんおう・正宗) → 直胤(なおたね・正宗まさむね、国/狂歌/俳) B 3 2 6 2
 演旺(えんおう;初法諱) → 日珥(にちがん;法諱、修験僧) B 3 3 1 7
 遠桜山人(えんおうさんじん) → 南畝(なんぼ・太田、狂歌/狂詩/戯作) 3 2 3 3
 円応禅師(えんおうぜんじ;諡号)→ 寂室(じやくしつ・元光、臨濟僧/詩) G 2 1 1 9
 鴛鴦亭主人(えんおうていしゅじん)→ 鐘成(かねなり・晁あかつき、商家/戯作/絵師) C 1 5 9 3
- E1346 **筵屋**(えんおく・加藤かとう/奥村)?- ? 1680存 京の軍学者、「戦功巻」「武功戦功物語」著
- E1347 **鉛乙**(えんおつ) ? - ? 肥前平戸の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」入、
 [住吉の森のちいさき潮干しひ哉](都曲;173/潮干狩に夢中になり沖まできてしまう)
 円音(えんおん;号) → 豪寛(ごうかん;法諱、天台僧/狂句) E 1 9 9 3
- 1390 **円嘉**(えんか;法諱、大夫阿闍梨/爪木阿闍梨、叡山僧円盛男/俗姓;大江)?-?1255存 鎌倉期叡山僧、宗円の甥、阿闍梨/能筆;藤原家隆の依頼で「千載集」書写、歌人;雲葉集入、勅撰4首;続後撰(1151)続拾遺(1154)続千(767)新拾(1546)、菟玖波3句入、
 [あととめてとはるるかひもありなまし昔おぼゆるすさびなりせば](続拾;雑1154、家隆依頼の書写した千載集を送る包み紙に詠、
 家隆の返歌;いにしへの流れの末のたえぬかな書き伝へたる水茎の跡)
- U1345 **円家**(えんか;法諱、高倉/本姓;藤原、権中納言家通男)?-? 平安鎌倉期;東寺/法眼、時通(左中将)・敦通(中将)・親通(侍従)・信家(法印)・重信(権大僧都)・尊能(法眼)の弟、1237刊[檜葉集]2首入(法師名/兄信家・重信らと共に入集)、
 [百首歌よみ侍りける うづみ火、
 よをさむみのこるともなきうづみ火のあたりをたのむひとりねのとこ](檜葉;冬349)
- 1391 **円雅**(えんが;号、東山隠士、俗姓畠山)?-?1461前没 室町期京の歌僧;堯孝門、師没後東山に隠棲;歌書多数を書写、新続古1首;隠名で入、家集「円雅集」、「詠百首和歌」著

- U1300 **円我**(えんが;法諱、俗姓;森井、)1813-9078 備後安那郡の真言僧、詩文;広瀬淡窓・菅茶山門、紀伊の高野山如意輪寺住職/大僧都/法印、国学にも通ず、「禅余雪窓集」著、
[円我(;法諱)の字/号]字;理常、号;雪窓
円雅(えんが;法諱・准玄:字)→准玄(じゅんげん・円雅、真宗本願寺派僧) J 2 1 5 0
圓雅(えんが→かんが) → 日従(にちじゅう;法諱、茂蘭、日蓮僧) C 3 3 2 0
- E1349 **円海**(えんかい;法諱、進藤為範[1122-1202]男)?-? 1328存 鎌倉期天台比叡山僧、法橋、1328「法華玄義第六見聞私」/「十如是義見聞」著、歌;1237檜葉集5首入/連歌;菟玖波2句入、範高・安範・範時・貞範・盛長・伊範・覚頭・定深の兄弟、
[あだしのやつゆもよさむのきりぎりすしもよりさきに声よわるなり](檜葉;秋267)、
[山鳥の尾上をのへの花を遠く見て](菟;雑1060/前句;ながながしきは春の日の影)
- E1350 **円懐**(えんかい) ? - ? 鎌倉期僧、連歌;菟玖波3句入、
[秋ばかりこそ昔なりけれ](菟;雑1119/前句;誰か見るふるき都の夜半の月)
- E1351 **円海**(えんかい;法諱、京の眞覚寺明性の長男)?-? 江前期真宗僧・西吟門、近江高宮円照寺の住職、「俱舍論聞記」「教行信証義例聴記」「七十五法講録」著、知空の兄
- E1352 **円解**(えんかい) ? - ? 美濃俳人;1689「あら野」入、
[梧きりの葉やひとつかぶらん秋の風](あら野;卷四)
- E1348 **円海**(えんかい) ? - ? 三河の真宗光輪寺住職、「真宗策問五十条愚答」著
円解(えんかい) → 円解(えんげ、真宗僧、詩画) E 1 3 5 3
円戒(えんかい;字) → 禅爾(ぜんに;法諱、華嚴・律宗僧) N 2 4 0 3
円海(えんかい;字) → 祐宝(ゆうほう;法諱・円海;字、真言僧) D 4 6 7 8
円海(えんかい;号) → 大瀛(だいえい;法諱、真宗僧) J 2 6 1 8
円海(えんかい) → 月感(げっかん;法諱、真宗僧) G 1 8 9 3
淵海(円海えんかい) → 日晧(にちぎょう;法諱・一音院、日蓮僧) B 3 3 4 0
淵晦(えんかい・宮永) → 大倉(たいそう・宮永、漢学者) K 2 6 5 5
円戒国師(えんかいこくし) → 眞盛(しんせい/しんぜい;法諱、天台眞盛宗の祖) P 2 2 0 7
猿崖居士(えんがいこじ) → 霊雨(れいう・伊形いがた、儒者/詩人) 5 1 1 1
- U1340 **円覚**(えんかく;法諱) ? - ? 1237以前没 平安鎌倉期;興福寺僧/法師、歌;1237檜葉集入、
[としごろの病ひ常よりも重くおぼえ侍りけるころ大僧都経円のむろに歌よみ侍る、
つきざりし秋のねざめのあらましのゆくへすくなきみとなりける](檜葉;職教602、
そののちほどなくまかりにけり)
円覚(えんかく;法諱) → 古道(こどう;字・実相院、真言僧/歌) N 1 9 1 9
円覚(えんかく;法名) → 綱平(つなひら・二条/九条、関白/歌人) B 2 9 2 5
円覚(えんかく;法名) → 実基(さねもと・徳大寺/藤原、太政大臣/歌) D 2 0 6 9
燕角(えんかく) → 智角(知角ちかく・興柳堂、俳人/絵師) 2 8 8 4
煙岳(えんがく・高橋) → 豊珪(とよあき・高橋たかはし、剣術/書家) V 3 1 6 5
円覚院(えんかくいん;号) → 亮研(良憲りょうけん;法諱、天台僧) H 4 9 3 1
猿岳樵翁(えんがくしゅうおう) → 東野(とうや・元田、儒/藩政改革) H 3 1 5 3
円覚房(えんかくぼう・号) → 芳樹(ほうじゅ;法諱、真宗僧) B 3 9 3 0
烟霞樵屋(えんかしょうおく) → 松斎(しょうさい・小出こいで、藩士/国学者) J 2 2 0 2
烟霞釣叟(えんかちょうそう) → 南湖(なんこ・春木はるき、絵師/狂歌) I 3 2 9 3
園果亭義栗(えんかていぎりつ) → 義栗(ぎりつ・円果亭、狂歌) H 1 6 6 5
煙霞都尉(えんかとい) → 稻川(とうせん・山梨、儒者/詩人) 3 1 1 9
園花堂(えんかどう、雑俳) → 蝶々子(ちょうちょうし・園花堂、雑俳) J 2 8 4 8
煙霞洞(えんかどう) → 春山(しゅんざん・富田/永野、医者/詩人) K 2 1 8 2
烟霞堂(えんかどう) → 清興(きよおき・町田まちだ、儒者/書家) O 1 6 6 4
煙霞道人(えんかどうじん) → 逸然(いつねん;道号・性融;法諱、画僧) J 1 1 2 4
烟霞比丘(えんかびく) → 逸然(いつねん;道号・性融;法諱、画僧) J 1 1 2 4
煙霞比丘(えんかびく) → 若芝(じゃくし・河村かわむら、逸然門絵師/工芸) G 2 1 1 5
煙霞比丘(えんかびく) → 秀石(しゅうせき・渡辺/岩川、逸然門絵師) H 2 1 8 8
煙霞病客(えんかびょうかく) → 高門(たかかど・京極、幕臣/禅門/歌人) C 2 6 6 3

- E1354 **円環**(えんかん;法諱・了齋りょうわ;字、俗姓;佐野)1696-1734³⁹ 大阪の真宗僧・1709(14歳)父と死別、京の西福寺の恵空門、1719越前敦賀大谷派真蓮寺の住職、歌;「今日庵和歌集」、1731「二尊に教円々喩」、「正信偈定説」「浄土根本教義」外著多数、[円環の法名/号]法名;超空、号;釈道中/今日庵
- 円観(えんかん;法名) → 忠通(ただみち・藤原、撰関/歌人/書) 2 6 3 3
 円観(えんかん;法名) → 頼親(よりちか・葉室はむろ/藤原、権大納言) J 4 7 0 0
 円観(えんかん) → 恵鎮(えちん、天台歌僧/太平記原型) 1 3 7 6
 円観(えんかん・禅蓮院) → 義山(ぎざん;法諱・良照;字、浄土僧) K 1 6 7 6
 円幹(えんかん;字) → 眞迢(しんちよう;法諱、日蓮・天台・念仏僧) 2 2 6 3
 遠貫(えんかん・山田) → 遠貫(とつら・山田、医者/国学) W 3 1 8 6
 円巖(えんがん;号) → 玉周(ぎよくしゅう;法諱・退室、律宗僧) P 1 6 0 5
 円鑑国師(えんかんこくし・大宝) → 宗園(そうえん;法諱・春屋、臨濟僧) G 2 5 3 1
 園鑒禅師(えんかんぜんじ) → 蔵山(そうざん;道号・順空;法諱、臨濟僧) K 2 5 8 3
 延季(えんき・荒木田) → 延季(のぶすえ・荒木田/家田、神職/歌) B 3 5 6 3
 延基(えんき・平出) → 延基(ながもと・平出、医者) G 3 2 0 4
 延紀(えんき・草鹿砥) → 延紀(のぶり・草鹿砥くさかど、神職/国学) I 3 5 2 7
 演義(えんぎ・由比) → 演義(のぶよし・由比ゆい、藩士/歌人) E 3 5 0 6
 宴儀(えんぎ;法名) → 惟継(これつぐ・平たいら、廷臣/歌人) E 1 9 3 2
 円議院(えんぎいん;号) → 慈瑗(じえん;法諱・円議院、天台僧) P 2 1 7 3
 延喜皇后宮大輔(えんぎこうごうのたいふ、続古今歌人) → 大輔(たいふ、穩子女房/後撰歌人) C 2 6 1 1
 円喜居士(えんぎこじ) → 都の錦(みやおのにしき、浮世草子) 4 1 3 9
 円吉(えんきち・加藤) → 雪湖(せつこ・加藤かとう、俳人) K 2 4 8 6
 円橘(えんきつ・早川) → 広海(ひろみ・早川/安田、医者/国学/俳) H 3 7 2 1
 円橘庵(えんきつあん) → 広海(ひろみ・早川/安田、医者/国学/俳) H 3 7 2 1
 延喜女御(えんぎのによご) → 仁善子(よしこ) K 4 0 8 4
 延喜帝(えんぎのみかど) → 醍醐天皇(だいてんのう) 2 6 0 3
 円機妙応禅師(えんきみょうおうぜんじ) → 蘭山(らんざん;道号・正隆しょうりゅう;法諱、臨濟僧) C 4 8 2 9
- E1355 **円玖**(円久えんきゅう、俗姓;竹田)1545-1625⁸¹ 和泉堺の僧;円作門/医家竹田薬師院の院主、盛誉より古今伝授を受く、歌人/連歌、1597師と「慶長二年十月五日何船百韻」[円玖(;法諱)の号]石林
- C1341 **焉求**(えんきゅう) ? - ? 但馬妙見山の俳人、1689言水「前後園」90「新撰都曲」入、[歟は捨てぬ男よ軍いさ見る螻蟻かはづ](都曲;417/歟を持ったまま蛙合戦見物)
- E1356 **袁弓**(えんきゅう) ? - ? 近江俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- 遠久(えんきゅう・賀茂) → 遠久(とおひさ・賀茂かも、神職/歌人) I 3 1 6 8
 厭求(えんきゅう/おんぐ;法諱) → 貞憶(ていおく;法諱、浄土僧) 3 0 3 9
 延久第三親王(えんきゅうだいさんのみこ) → 輔仁親王(すけひとしんのう、後三条天皇第3皇子/歌人) C 2 3 8 8
 延久第三親王の家甲斐(えんきゅうだいさんのみこのいへのかい) → 甲斐 ⑥(かい・輔仁親王家) E 1 5 3 0
 焉求子(えんきゅうし) → 浄巖(じょうごん・覚彦、悉曇学/詩) 2 1 7 6
 円居(えんきよ・大友) → 大友円居(おおともまどい、狂歌) C 1 4 0 9
 延挙(えんきよ・河野) → 杏庵(きょうあん・河野/越智/越、医者) N 1 6 1 6
 淵魚(えんぎょ;号) → 宝巖(ほうごん;法諱・智定;字、真言律僧) 3 9 7 8
 淵魚(えんぎょ・下里) → 千頼(ちかひ・下里しもさと/藤原/中臣/鎌田、神道) M 2 8 6 9
- 1392 **円経**(えんきょう;法諱、僧正範玄男/俗姓;藤原)1172or77-? 1338^存 伊賀の僧;興福寺貞慶門、法相・唯識を修学、1219(承久元)大僧都、1225法印/31元興寺別当/38興福寺権別当、興福寺三蔵院権僧正、覚範(法橋)・玄俊(権律師/配流)・信定・信舜・二条院内侍の兄弟、歌人;1238「春日社奉納名所十首」を勧進、[三十首歌会]催、尊賢・宗誉・宗懐の父、勅撰4首;新勅撰(1256)続後撰(99/1207)続拾遺(1129)、1237[檜葉ならのは集]10余首入、[いかにせむ頼む木陰こかげの枯れしより末葉すばにこまる露だにもなし](新勅;雑1256)[あさひさす峰のはのどかにかすめどの猶さえのこる谷のした風](檜葉;春5/早春の心)

- 円鏡(えんきやう;法諱) → 月珠(げつしゆ;字・覚了、真宗本願寺派僧) H 1 8 0 6
 衍鞏(えんきやう;初法諱) 戒觀(かいげん;法諱・石車、黄檗僧) I 1 5 5 7
 艶鏡(かぶきどうえんきやう・歌舞伎堂) → 歌舞伎堂艶鏡(かぶきどうえんきやう、浮世絵師) C 1 5 9 6
 E1357 円行(えんぎやう;法諱) 799 - 852 54歳 山城の真言僧;814出家/823空海門;
 金剛・胎蔵界の大法を受、824高雄寺定額僧入、838(40歳)入唐:青龍寺義眞門;
 両部大法を受/入唐八家の1、839帰国;山城靈巖寺/播磨大山寺を開創、天王寺初代別当、
 「金剛界記」「胎蔵大次第」「五大虚空蔵法」「靈巖口伝」外著多数
 円暁(えんぎやう;法諱) → 光暁(こうぎやう;初法諱、法相僧) I 1 9 3 4
 遠業(えんぎやう・羽生) → 懋斎(ぼうさい・羽生はにゅう、儒者/兵学) 3 9 9 2
 円鏡院(えんきやういん) → 定重(さだしげ・松平まつだいら、藩主) I 2 0 2 3
 円教院(えんきやういん;号) → 日意(にちい;法諱、日蓮僧) 3 3 4 0
 円行院(えんぎやういん) → 日迅(にちじん;法諱・怒転、日蓮僧) C 3 3 5 2
 延堯房(えんぎやういん) → 賢清(けんせい;法諱、興福寺僧/日記) E 1 8 2 5
 延玉(えんぎやく・石坂) → 宗哲(そうてつ・石坂いしがき、医官/鍼灸) I 2 5 5 5
 円居堂(えんきやうどう、淵魚堂) → 宝巖(ほうこん;法諱・智定;字、真言律僧) 3 9 7 8
 E1358 援琴(えんきん・北村きたむら) ? - ? 江中期京の作庭家、1735「築山庭造伝」著
 延近(えんきん・藤井) → 延近(のぶちか・藤井ふじい、神職/国学/歌) J 3 5 8 7
 遠近道印(えんきんどういん) → 道印(どういん・遠近おちこち、藤井、藩医/測量) B 3 1 1 0
 U1305 厭求(えんぐ;法諱・俗姓;源) 1634-1715 82 京の学僧/1645専念寺信譽門;得度、
 1649江戸の浄土宗靈巖寺の珂山かざん門;宗戒兩脈を相承、1657明暦の大火に無常を痛感、
 江戸を離れ近畿・東海・出羽・出雲・安藝を行脚し布教、
 1659(万治2)母の願いで湯治のため摂津有馬の極楽寺住職、1667母没後寺を辞し行脚、
 出羽出雲を遊化行脚を続ける;民衆教化に尽力/山城専福寺を開山、多くの寺を再興、
 「浄土肝要集述記」「厭求和尚法語」1705「念仏安心」「徒然わづら要草」著、彫刻/絵画にも通ず、
 晩年;日課念仏百万遍を満たし三河岡崎の草庵に没す、「厭求上人行状記」あり、
 [厭求(;法諱)の初名/号]初名;貞憶(ていおく(のち厭求に改名)/号;真蓮社広誉心阿
 1393 円空(えんくう;字・立信/隆信りゅうしん;法諱、号;極楽坊、多田行綱孫?) 1213-84 72 浄土宗西山派僧、
 西山派祖の証空門、山城深草真宗院を開創;その門流深草流の祖、後深草天皇の帰依、
 往生院・誓願寺歴住、のち真宗院に帰院、「立信上人法語」「往生論注私記」著、
 1273「観無量寿経四帖疏深草鈔」、「観経疏玄義分深草鈔」「観経四帖疏抄」著、
 歌人;1243「河合社歌合」参加/「井蛙抄」に藤原信実との交友入、
 勅撰6首;続拾遺(1362/1387)新後撰(701)玉葉(2701)新拾遺(1873)新統古(828)、
 [きさらぎやたき木つきにし春をへて残る煙は霞なりけり]、(続拾遺(1362)
 (続拾遺;釈教1362/双林入滅/円空上人名)
 C1333 円空(えんくう;号・深田ふかだ、名;得和)?-1663 江初期尾張藩儒、石川光吉の孫、天文・地理に通ず、
 「万国全図」著、明峯(めいほう(藩儒)の父
 E1359 円空(えんくう;法諱、窟上人/今釈迦) 1632-95 64 美濃竹ヶ鼻修験僧;伊吹・富士・白山籠山/遊行行脚、
 1663頃から仏師:30年行脚、仏像12万余体;荒彫り像、「勤行次第諸鏡」「粥川鶉縁起和讃」、
 歌;「円空自筆歌集」、彫刻;神像/観音像/柿本人麿像等、親しみの称;えんくさん
 E1360 円空(えんくう;法諱、善正寺教誓男)?-1760? 長門豊浦郡阿川の善正寺の真宗僧;萩明光寺入門、
 法霖に私淑、[長門老僧]と畏敬される、1758(宝暦8)妻妙了尼と上京、
 1760邪説として泰巖・僧樸らに糾弾;拘禁中没、
 「疑雲永晴辨」「草菴後世物語」「浄土略要抄」著
 U1301 円空(えんくう;法諱、) 1849 - 1891 43 美濃羽栗郡竹ヶ鼻村浄土宗光照寺の住職/歌人、
 光照寺17世道空(1804-80/桂園派歌人)の後任
 円空(えんくう;法名) → 通憲(みちのり・藤原、信西、廷臣/学者) 4 1 1 4
 円空(縁空えんくう;法名) → 基良(もとよし・栗田口あわたぐち/藤原、廷臣/歌人) E 4 4 6 5
 円空(えんくう;法名) → 基氏(もとじ・園その/藤原、廷臣/歌人) C 4 4 1 4
 円空(えんくう;法名) → 資賢(すけかた・源みなもと、廷臣/郢曲/歌) B 2 3 9 9
 円空(えんくう;法名) → 時慶(ときよし・西洞院にしこのいん、歌人) 3 1 3 8

- 円空(えんくう;法名) → 兼基(かねもと・二条、撰関/文筆) O 1 5 9 9
 円空(えんくう;法諱) → 乗専(じょうせん;法諱、真宗僧) T 2 2 9 2
 円空(えんくう;字) → 亮英(りょうえい;法諱・円空、天台僧) G 4 9 4 8
 縁空(えんくう;法名) → 基良(もとよし・粟田口あわたぐち/藤原、廷臣/歌人) E 4 4 6 5
 縁空(えんくう;法名) → 公保(きんやす・三条西/西三条、歌人) E 1 6 8 2
- E1353 **円解**(えんげ/えんかい;法諱、号;雲泉/華光院けいこういん) 1767-1840 74 豊後日田広円寺生の真宗僧;大含門、豊後国府の真宗大谷派光西寺の住職、高倉学寮修学;1806寮司/20擬講/31嗣講、華光院住、詩画を嗜む、田能村竹田と交流、「易行品講義」「正像末和讃科図」「歎徳文随聞記」著、1817「破邪論聞記略抄」33「法事讃聞記」36「小経講義随聞記」外著多数
- B1372 **延慶**(えんけい;法諱) ? - ? 奈良期の僧;753薩摩到着の鑑真を太宰府に伴う、鑑真入京にも訳語として随伴、仲麻呂に優遇された;760-2「家伝」下巻の「武智麻呂伝」著 [学校がくかうは賢才の聚あまる所にして王化わうかの宗むねとする所なり](武智麻呂伝)(王化は王者の徳により世を良くすること)
- E1361 **淵慶**(えんけい;法諱) ? - ? 室町末期(戦国期)興福寺法相僧/尊蔵院住、連歌;1569(永禄12)奈良に紹巴を迎え「何船百韻」興行、78近衛前久・紹巴と連歌
- E1362 **円罔**(えんけい;法諱、法名;信蓮社/玄誉/無為) 1634-1704 71 京の浄土僧;江戸靈巖寺の珂山門、檀林小金東漸寺住職、1688(元禄元)京本山百万遍知恩寺41世住職、「無量寿経四帖疏楷定記講録」著
- E1363 **演罔**(えんけい;法諱・大光;号) ?-1823 京の浄土僧;西山派深草流、円福寺51世、「観経疏玄義分楷定記見聞」「観無量寿経四帖疏楷定記聞録」著
- 円桂(えんけい;道号) → 祖純(そじゅん;法諱、臨濟僧) J 2 5 8 8
 円経(えんけい;法諱) → 円経(えんきょう;法諱、法相僧/歌人) 1 3 9 2
 円恵(えんけい・松浦) → 鎮信(しげのぶ・松浦まつら、藩主/茶人) C 2 1 7 1
 園桂(えんけい) → 綱徳(つなりの・河原、藩家老/日記) B 2 9 2 0
 園卿(えんけい・源) → 堅(かたし・源みなもと、歌人) M 1 5 9 3
 遠谿(えんけい;道号・元脈) → 元脈(げんみやく;法諱、黄檗僧) M 1 8 4 1
 遠継(えんけい・ト部) → 遠継(とおつぐ・ト部、ト占家) I 3 1 6 5
 遠卿(えんけい・立原) → 杏所(きょうしよ・立原たちばら、藩士/絵師) C 1 6 5 8
 淵卿(えんけい・犬飼) → 松窓(しょうそう・犬飼いぬかい、農業/儒者) K 2 2 5 8
 延経(えんけい・出口) → 延経(のぶつね・出口でぐち/度会、神職) C 3 5 1 4
 烟溪(えんけい;号) → 月性(げっしょう;法諱、真宗僧/海防論) E 1 8 7 9
 剡溪(えんけい・伊藤) → 莘野(しんや・伊藤いとう、儒者) 2 2 8 2
 援卿散人(えんけいさんじん) → 赤水(せきすい、井上/修姓;井、儒者) K 2 4 2 3
- 1394 **円月**(えんげつ;法諱・中巖ちゅうがん;道号、初諱;至道) 1300-75 76 相模僧;1307(8歳)鎌倉寿福寺で出家、1312(13歳)得度;東密を修学/禪門に転じ臨濟宗諸師に参禅、1325入元;東陽徳輝門/嗣法、1332帰国/39上州利根庄の吉祥寺を開山/京の万寿寺・建仁寺住持/鎌倉の建長寺住持、建仁寺妙喜庵に没、詩文に長ず;師鍊門・五山文学の頂点に立つ、1322「語家符命」34「中正子」、「空華集」編、「東海一漚集」「東海一漚集別集」「日本紀」著、「中巖円月語録」「藤陰瑣細集」「文明軒記雑談」「蒲室集註釈」「中巖月和尚自歴譜」外著多数、[中巖円月の幼名/号]幼名;吉祥丸、号;中正子/中正叟/東海一漚子、諡号;仏種慧濟禪師
- E1364 **円月**(えんげつ;法諱、俗姓;東陽) 1817-1902 86歳 豊前宇佐郡封戸村の真宗本願寺派西光寺住職、幼時より素読;父門/漢学;恒遠轟谷門/宗乗;覚照・月珠門/1843本山学林に修業;余乗;宝雲門/天台;栗田口の雷雨門、1846宗義の講義;熊本の教恩門、助教/司教/勸学職、諡号;浄満院、「往生論註略解」「東陽詩稿」「三誓偈聴記」「真俗二諦辨」著
- 偃月庵(えんげつあん) → 宏行(ひろゆき・河内/源、幕臣/歌人) H 3 7 5 9
 遠月亭(えんげつてい) → 武康(たけやす・菊池まぐち/浅井、藩士/国学) W 2 6 7 7
 烟月堂(えんげつどう) → 林鴻(りんこう、堀江、俳人/浮世草子) K 4 9 2 2
- E1365 **円憲**(えんけん;法諱、興福寺法印縁成男) 1197-1251 55 鎌倉期興福寺法相僧;円玄・経円門、三会の講師、法印権大僧都、尊憲(興福寺別当)・承憲(通観上人)の弟、小督局の甥、一法中道の論草あり、

- 「一法中道」(円憲・顕範・縁憲3人の唯識の中道についての論草短釈集/1338顕範・縁憲編)
- E1366 **縁憲**(えんげん;法諱) 1213? - ? 1357存 鎌倉南北前期;法相僧;縁円門?、
1338「一法中道」顕範と共編(円憲・顕範・縁憲3人の唯識の中道についての論草短釈集)、
「一因違四」「一因違四短釈」「相違因事」「転識頓耶」「極微縁相分」「処所不定事」外著多数
- E1367 **円顕**(えんげん;法諱) ? - ? 鎌倉期臨濟僧;蘭溪道隆門、「大覚禅師語録」編
延賢(えんげん・藤木/黒瀬)→ 延賢(のぶたか・藤本/黒瀬、神職) B 3 5 1 8
延賢(えんげん・平沼) → 晋(すすむ・平沼ひらぬま、藩士/詩・書) D 2 3 8 1
- 1395 **円玄**(えんげん、肥前守源俊保男or肥後守佐藤俊保男)1175-1250 平安後期法相僧;阿闍梨、
経円・円憲(興福寺法印)・公縁の師、無名抄入、
「装束要抄」著、歌人;千載537/1049、
[かくしつゝつひにとまらむ蓬生よぎふの思ひ知らるゝ草枕かな](千載;羈旅537、
行脚修行中に野中に宿り旅枕露しげくに詠)
- E1368 **円元**(えんげん;法諱・号;禅月房)1173-123967歳 近江天台宗園城寺僧、心海/良慶/兼秀門、
「禅談鈔」著
衍原(えんげん・湛江) → 湛江(たんこう;道号・衍原;法諱、黄檗僧) T 2 6 4 5
演言(えんげん・青木) → 峯行(みねゆき・青木あおき、藩医/国学) H 4 1 9 9
延絃(えんげん・上司) → 延絃(のぶお・上司かみつかさ、神職/国学) H 3 5 9 3
- E1369 **遠湖**(えんこ・司馬しば) 1812 - 187867歳 儒者;江戸の佐藤一斎門;浜松藩水野家に出仕、
晩年;東京五番町に開塾、「中庸論語抄説及論語講義卷」著、
[遠湖(号)の名/字/通称/法号]名;騰のぼる/藤、字;守黙、通称;勝太郎、法号;大光院
- U1321 **婉子**(えんこ・増田ますだ)1829- 188961 陸奥仙台の国学者
円護(えんご;字) → 普巖(ふごん;法諱、真宗本願寺派僧;大瀛門) B 3 8 9 4
- E1370 **円光**(えんこう;法諱) ? - ? 鎌倉期弘安1278-88頃真言僧;事相/教相の奥義を究む、
小野流・広沢流・天台穴太流を修学/小川承澄僧正門;園城寺一流を兼学、「理趣釈経鈔」著、
「金剛王院相承」「大日経不思議聴取聞鈔」「理趣釈経円光鈔」「理趣釈口決鈔」著
円孝(えんこう;法名) → 政宗(まさむね・伊達だて、室町期武将/歌) H 4 0 7 6
円行(えんこう;法諱) → 円行(えんぎょう;法諱、真言僧) E 1 3 5 7
猿猴(えんこう) → 定雅(ていが・西村、俳/狂歌/戯作) 3 0 4 1
縁江(えんこう) → 可有(あるべし・呉陵軒、川柳作者) 1 0 3 6
縁光(えんこう・鳥丸) → 資慶(すけよし・鳥丸・藤原、廷臣/歌学) 2 3 1 4
縁光(えんこう・武者小路)→ 縁光(よしみつ・武者小路むしやのこうじ/藤原、権大納言/連歌) J 4 7 8 0
遠江(えんこう;号) → 等連(とうれん;法諱・竺運;道号、臨濟/五山文学) 3 1 3 1
遠広(えんこう・深江) → 遠広(とおひろ・深江ふかえ、藩士/神道家) W 3 1 2 0
遠衡(えんこう・三善) → 遠衡(とおひら・三善みよし、廷臣/歌人) I 3 1 6 9
遠康(えんこう・中原) → 遠康(とおやす・中原なかはら、連歌) I 3 1 7 6
艶好(えんこう・高力こうりき)→ 猿猴庵(えんこうあん、藩士/随筆作家) B 1 3 7 3
延光(えんこう・日野西) → 延光(とおみつ・日野西ひのにし、廷臣/日記) I 3 1 7 4
延孝(えんこう・小林) → 延孝(のぶたか・小林こばやし/度会/出口、神職/国学) I 3 5 4 1
延弘(えんこう・黒瀬) → 延弘(のぶひろ・黒瀬くろせ、国学者) I 3 5 3 4
延好(えんこう・遠藤) → 延好(のぶよし・遠藤、歌人) E 3 5 0 3
延行(えんこう・原田) → 延行(のぶゆき・原田はらだ、商家/国学者) J 3 5 7 1
- B1373 **猿猴庵**(えんこうあん・高力こうりき、名;種信たねのぶ) 1756-183176 尾張藩士;大番、画;写生に長ず、
随筆/戯作作者、地誌に通ず、大惣の貸本として流行、
「尾張名湯図絵」「猿猴庵日記」「猿猴庵随筆」「ふかみぐさ」「矢立墨」「金明録」著、
1807「絵本江崎之春」16「絵本竹の春」18「懐中硯」30「絵本卯之花笠」外著多数、
[猿猴庵の通称/別号]通称;新蔵/新三/与左衛門、別号;艶好/艶香庵
燕岡庵(えんこうあん) → 卓池(たくち・鶴田、俳人) E 2 6 2 8
円光院(えんこういん) → 基忠(もとただ・鷹司、関白/歌人) C 4 4 9 1
円光院(えんこういん) → 日逕(にっけい・具撰院、日蓮僧/連歌) D 3 3 8 6
遠光院(えんこういん→おんこういん)→ 呑水(どんすい;号・日陽;法諱、日蓮僧) S 3 1 3 4

- 遠覺院(えんこういん→おんこういん)→ 日慶(にちけい;法諱・宣覚、日蓮僧) B 3 3 5 0
 円興院(えんこういん) → 日守(にっしゅ;法諱・驥尾きび、日蓮僧) D 3 3 9 5
 円光院入道前関白太政大臣(えんこういんにゅうどうさきのかんぱくだいじょうだいじん;続千載集以下)
 → 基忠(もとただ・鷹司、鎌倉後期関白/歌) C 4 4 9 1
 猿後園(えんこうえん) → 于当(雨当うとう・三津川みつかわ、俳人) 1 2 7 5
 鵜郊居士(えんこうこじ) → 浩斎(こうさい・長崎、医者/詩) I 1 9 9 4
 円光上人(えんこうしょうにん)→ 良舎(りょうがん;法諱、天台僧) G 4 9 9 7
 円光大師(えんこうだいし) → 源空(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1
 演孔堂(えんこうどう・中島)→ 撫山(ぶざん・中島なかじま、儒者/教育) C 3 8 3 6
 円光坊(えんこうぼう) → 日陣(にちじん;法諱、日蓮僧) C 3 3 5 0
 猿猴坊月成(えんこうぼうげつせい;春本作者)→ 焉馬(2世えんば・烏亭) B 1 3 3 4
 艶好法師(えんこうほうし) → 定雅(ていが・西村、俳/狂歌/戯作) 3 0 4 1
 援国(えんこく・井上) → 瑞枝(みずえ・井上のうえ、藩士/国学) L 4 1 1 4
 円極(えんごく;号) → 学如(がくにょ;法諱・空眼、真言僧) K 1 5 3 5
 厭吾亭(えんごてい) → 苔路(たいろ・荒巻あらまき、俳人) C 2 6 3 8
 E1371 円佐(えんさ) ? - ? 京の俳人;1702轍士「花見車」入、
 [花の雨仁王の作さくを聞くばかり](花見車;154/雨に降られ寺の仁王のいわれを聞く)
 B1374 猿左(えんさ・戸谷とや) 1724 - 1801 78歳 信州善光寺大門松の旅籠屋駒屋の生、猿山の甥
 俳人;猿山・綾足・麦浪門、善光寺俳壇の中心、成美/一茶と交流、一時綾足の片歌に熱中、
 1794「老の春」、95「蓬が室」/96「竹原聖」/97「さゝれ石」/98「誹諧発句帳」1800「手児奈集」編
 [猿左(;号)の名/通称/別号]名;寿郷、通称;吉九郎、
 別号;竹居士/猿佐/曲川斎/未之止/くどり、嗽芳菴そうほうあん/和女鬼堂
 U1350 縁西(えんさい;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
 歌人;1237刊[檜葉集]2首入、
 [述懐百首歌よみ侍りけるに、
 くらきよはさはの螢も照すめりわが身の闇のはてぞかなしき](檜葉;釈教601)
 E1372 円斎(えんさい・加藤かとう/加嶋/賀嶋、名;矩直) 1716-36頃生-1781-91頃没 美濃岐阜の儒;岡白駒門、
 経学を専修;大阪で講説業、「儀礼解箋」「周礼説筌」「周官解箋」「論語大疏集成」著、
 [円斎(;号)の名/字/通称/別号]名;矩直、字;宗叔、通称;荘右衛門/宗右衛門、別号;泉斎
 E1373 垣斎(えんさい・小泉こいずみ、字;子榮しらく/通称;見卓、棲真窩せいしんか男) ?-? 江中期伊勢松阪の医者、
 詩文に長ず、「垣斎集」、五林の父
 B1375 燕斎(えんさい・堀田ほった、芋洗男) 1783-? 1856存 江戸小日向服部坂上の旗本幕臣;5百石、
 1791(9歳)父に連れられ「元祖川柳小祥忌会筵」に参加;芋隣の号、1798頃眉長の川柳号、
 1806「柳多留三四篇」初見/15叶の号/46五世川柳「新編柳多留」入、56「手記」(;礪川伝)、
 [乳首を横にくはへる天狗の子](柳多留:三四)、
 [燕斎(;号)の通称/別号]通称;彦三郎?、別号;芋隣(;初号)/眉長/叶かのう/哥農
 猿斎(えんさい) → 晩得(ばんとく・佐藤さとう、藩士/俳人) I 3 6 4 4
 淵斎(えんさい) → 于当(雨当うとう・三津川みつかわ、俳人) 1 2 7 5
 燕斎(えんさい・中村) → 守臣(もりおみ・中村なかむら、国学者/神道) F 4 4 2 3
 円斎(えんさい・稲葉) → 則通(のりみち・稲葉/鈴木、藩士/兵学) F 3 5 8 5
 円斎(えんさい・平野) → 平角(へいかく・平野ひらの、商人/俳人) 2 7 1 6
 円斎(えんさい・弘) → 通光(みちみつ・弘ひろ、和洋算家/教育) C 4 1 6 4
 焉哉(えんさい・遠田) → 自省(よりみ・遠田とおだ、藩士/日記) J 4 7 7 8
 燕斎叶(えんさいかのう) → 燕斎(えんさい・堀田、旗本/川柳作者) B 1 3 7 5
 宛在水中央漁者(えんざいすいちゆうおうぎょしゃ)→ 溟北(めいほく・円山/小池、藩士/儒者) 4 3 3 7
 F1362 円策(えんさく;法諱、号;不退転院/荷風子) ?-1725 越後の真宗大谷派正福寺住職;誓源寺円智門、
 天台に精通/三業一致帰命説を主唱;本山の糾明を受、1709「改悔試験鈔」、「槐南夢覚録」、
 「原人論助覧」「真宗聞信集」「選撰集聞香記」「聞信集追加破文要決」著、円淋父/円勢の祖父
 U1322 遠察(えんさつ;法諱・三衣みえ、) ?-1880 近江膳所の達磨山清徑院20世、

歌人;[鴉のうみ]入

- C1315 **猿算**(えんさん・善教寺) ? - ? 浮世草子作者、1707「色道懺悔男」著
- E1374 **縁山**(えんざん) ? - ? 大阪の俳人;1686仙化「江鮭子あめご」1句入、
[古寺やものにかまはで秋の月](あめ子;172)
- E1375 **塩山**(えんざん) ? - ? 俳人;1768秀億「葛藤かつらぶじ」入
- 遠山(えんざん) → 不角(ふかく・立羽たちば/山崎、書肆/俳人) 3 8 0 3
- 遠山(えんざん・松平) → 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人) D 2 1 7 9
- 遠山(えんざん・中岡) → 偵太郎(しんたろう・中岡、勤王派/討幕) 2 2 5 9
- 円山(えんざん;道号) → 素明(そみょう;法諱、曹洞僧) K 2 5 4 1
- 傘山(えんざん・湯浅) → 進良(のぶよし・湯浅ゆあさ、藩士/典故) D 3 5 9 2
- 淵山(えんざん・大村/村田) → 益次郎(ますじろう・大村、藩士/兵学) J 4 0 0 4
- 遠山翁(えんざんおう) → 馬貞(ばてい・長野ながの、医者/俳人) F 3 6 3 4
- 遠山窓(えんざんそう) → 朝通(ともみち・小浦こうら、藩士/歌人) Q 3 1 6 5
- 遠山窓(えんざんそう) → 広名(ひろな・小浦こうら、藩士/国学/歌) J 3 7 5 2
- 塩山亭(えんざんてい) → 几董(きとう・高井、俳人) 1 6 2 3
- 円山隣(えんざんりん) → 一井(いっせい・細谷、俳人) H 1 1 4 2
- C1316 **延子**(えんし・藤原、麗景殿前女御いけいでんさきのようご/高倉女御、藤原頼宗女) 1016-9580 母藤原伊周女、
1020入道一品宮脩子内親王の養女、1042後朱雀天皇女御、1045一月16日後冷泉天皇即位、
同一月18日後朱雀院崩御;退出/四月故院の遺児正子しょうし内親王を出産、歌人、
1050正子内親王のために「前麗景殿女御歌合」主催:歌絵合の最初(;父頼宗の後見)、
後拾遺集584、
[去年よりも色こそ濃けれ萩の花涙の雨のかゝる秋には](後拾遺;哀傷584)、
(故院手植の東三条局の萩を翌年1046人が折って持参したので詠む/涙の雨は紅涙)
- 1396 **遠子**(えんし・高階たかしな、高階遠経女)?-1342? 参議高階経茂の孫、掌侍/花園天皇の勾当内侍、
洞院公賢と交渉;1女出産、歌人、暦応1338-42頃「花園院三十首」参加、花園宸記などに入、
勅撰11首;玉(1385)続千(1506)風雅(8首313/755/1151/1192/1196/1304/1317/1710)新千、
[契りしをよもと頼まぬこの夕べまつとはなしにしづ心なき](玉葉;恋1385)、
[遠子(;名)の通称] 花園院兵衛督はなぞのいんのひょうえのかみ/院兵衛督/新院しんいんの兵衛督
- 1397 **円旨**(えんし;法諱・別源;道号、号;縦性、地名ちみん越山、合志時長男/本姓平) 1294-136471 越前僧;
1300出家/09曹洞宗宏智わんし派円覚寺東明慧日門、132入元;古林くりん清茂せいむ/中峰明本門、
1330帰国/42越前足羽弘祥寺を開山、64建仁寺住持、詩文「南游東帰集」「別源和尚語」著
- E1376 **淵支**(えんし) ? - ? 尾張の俳人;1689「あら野」1句入、
[鳴突しぎつきは萱津かやつのあまのむまご哉](あら野;909/代々の生業;海士の子孫)
- C1323 **艶士**(えんし・横田よこた弥九郎、別号;壺谷軒/北流亭/眉丘子/短尺たんじやく堂)?-1712 江戸の医者、
俳人;露言/調和門、牡丹を愛好、1698「みづひらめ」1704「分外」編、
1691其角「二葉之松」1702轍士「花見車」入、
[語るまもなくして西瓜いくわの堅さ哉](花見車;85/出典は小弓誹諧集;
東鷲が江戸を旅立つ時の餞別句)
- E1377 **燕子**(えんし) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」1句入、
[海棠にゆらりと来たる胡蝶哉](卯辰集;98)
- E1378 **燕志**(えんし・東とう、別号;東流窓/匍匐庵ほふくあん)?-? 江戸中期江戸の俳人・万英門、
1756「ゆきのうら」64「日のはじめ」編、67「こころ草」70「千代の春」71「狂句歌集」著、
1772「都の春」75「福寿草」81「百福寿元禄俳諧」著/84「匍匐菴集」編、外編著多数
- E1379 **燕史**(えんし) ? - ? 江戸住の俳人;1783維駒こゝま「五車反古」入、
[船頭の軒いきを逃ぐる螢哉](五車反古;巻首233/螢見物舟で肝腎な所で軒に逃げた)
- E1380 **筵史**(えんし・通称;茶屋宗七、多賀庵4世、多賀庵2世六合養子) 1773-184674歳 広島袋物商、
俳人;敏彦門、1822多賀庵4世継承、1812「其袋集」、18「夢朝集」19「歳旦集」「さされいし」、
1821「このはな集」/22「はつたより」「花守集」、1823-44多賀庵年刊句集「やまかつら」継承、
1826六合追善「たままつり」編、30風律追善「ゆふがほ集」編、
[厠ひとつ浜辺に見えて秋の暮](1843「やまかつら」)

- 寺田筵史とは別人 → 古江(ここう・寺田、俳人) M 1 9 4 0
延子(えんし・藤原顕光女[?-1019]) → 堀河女御(ほりかわのによご、歌人) E 3 9 8 7
延子(えんし・毛利) → 延子(のぶこ・毛利もり、都美姫、藩主室) K 3 5 1 6
艶子(縁子えんし・柏原/三井) → 齡子(としこ・柏原かしわばら/三井、正寿尼/歌人) U 3 1 7 3
筵史(えんし、多賀庵4世とは別人) → 古江(ここう・寺田、俳人) M 1 9 4 0
延之(えんし・河本) → 延之(のぶゆき・河本/三宅、歌人) D 3 5 7 3
援之(えんし・岡島) → 冠山(かんざん・岡島おかじま、唐話唐音学) 1 5 5 1
円子(えんし・堤) → 円子(のぶこ・堤つみ/井上、歌/通女妹) J 3 5 2 0
円志(えんし;号) → 吐丈(とじょう;号/隆苗;法諱、浄土僧/俳人) O 3 1 1 8
円志(えんし・闇牛斎) → 秋童(しゅうどう・闇牛斎、絵師) Y 2 1 1 0
円禪(えんし) → 堯熙(ぎょうき;法諱・常磐井ときわい/近衛、真宗高田派) U 1 6 8 4
遠視(えんし・良岑) → 遠視(とおみ・良岑よしみね、廷臣) T 3 1 0 1
- E1381 縁侍(えんじ・岡本おかもと、通称;美濃守)?-? 1544存 戦国期武家故実家;小笠原家より伝授?、
「岡本記」著
- B1376 円慈(えんじ;法諱・東嶺とうれい;道号、中村善左衛門男) 1721-92 近江臨濟僧;1729亮山恵林門/出家、
古月禅材門/1742白隠慧鶴門、60伊豆三島竜沢寺住持、1762「禅関策進箋解」、「入道要訣」著、
「退養雑毒海」、「東嶺円慈道歌二十一首」、「宗門無尽燈論」、「神機独妙禅師年譜」著、
「東嶺円慈の初法諱/号」初法諱;道果、号;三光岬/不々庵主、諡号;仏護神照禅師
- 1398 艶二(えんじ・塩屋しおや) ? - ? 江戸赤坂葵阪住、洒落本/狂歌;徳和歌後万載入、
1800「見物左衛門」、1800「南門みなと鼠」(出版禁止)/1801「匂ひ囊」/02「五大力」、「三昧誌」著、
18004「白狐伝」、「艶二物語」著、
「雪ならで白きは霜のはし柱かへるもすごし行くも憂しみつ」(後万載;327/橋上霜、
橋上の霜柱/憂しと丑三つを掛る)
「塩屋艶二の別号」 紫色主むらさきのいろぬし/塩屋主人/塩屋色主/陀々羅大尽だたらだいじん/驍々閣
塩屋辛人しおやのからんど
- 延次(えんじ→のぶつぐ) → 延次(信次のぶつぐ・荷田/羽倉、神職) C 3 5 0 5
園次(円次/園治えんじ・木村) → 園夫(えんぶ・木村、歌舞伎作者) B 1 3 8 6
遠治(えんじ・井沢) → 強斎(きょうさい・井沢いざわ、儒者) N 1 6 8 0
圓治(えんじ・三浦) → 道意(どうい・三浦みうら/小林、藩医/歌) 3 1 9 7
円次(えんじ・中谷) → 梧庵(ごあん・中谷、栗本3世/俳人) H 1 9 0 6
円耳(えんじ→えんじ;法諱) → 虚応(こおう;道号・円耳;法諱、日蓮のち臨濟僧) L 1 9 7 7
演慈院(えんじいん;諡号) → 知空(ちくう;法諱、真宗本願寺派能化) C 2 8 5 6
円慈和尚(えんじおしょう) → 善空(ぜんくう;号・慧篤;法諱、浄土僧) M 2 4 1 0
- E1382 円識(えんじき;法諱、覚円男/俗姓永野) 1793-1852 60歳 安藝広島の本願寺派僧、
1804漢学;広島の坂井禎門/因明・俱舎・唯識;九州の宝雲門、宗乗余乗;雲幢門、
1818僧叡門;宗学・華嚴・天台・真言を修学、1829(文政12)安藝蒲刈の弘願寺9世住職、
1830学舎樹心斎を開設/46助教/47学林監事、歿後;司教・勸学・法号大智院を贈与、
1820「行信管窺」、「塵砂鈔」、「宗要私議」、「私淑録」、「高僧和讃私考」外著多数、「詩文遺稿」、
「円識の幼名/字/号」幼名;民蔵、字;思恭/宝乗、号;東郭散人/竈洲老樵そうしゅうろうしゅう、
諡号;大智院
- 円識(えんじき;号) → 靈鳳(れいほう;法諱、真宗大谷派僧) 5 1 6 7
- E1383 円実(えんじつ・和尚、藤原実能男)?-? 平安後期の僧;法眼/歌人;
1170住吉歌合参加(判者藤原俊成/藤原清輔・邦輔・朝宗・寂念・寂超らと参加)、
「住吉のおまへの岸の松の葉もかざかくれなく見ゆる月影」(住吉歌;社頭月九番右18)
- U1346 延実(えんじつ;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
歌人;1237刊「檜葉集」2首入、
「かよひこし庭のふるみちあとたえぬつもるや雪の深草の里」(檜葉;冬343)
- U1339 円実(えんじつ;法諱、撰関左大臣九条道家[1193-1252]男/本姓藤原) 1214-72 59 母;公経女綸子、
鎌倉期;法相僧;興福寺禅定院権僧正/1235(文暦2)興福寺別当/大僧正/大乘院住;
同寺領大住荘と石清水八幡宮領薪荘との争いで1243(寛元元)辞任/58(正嘉2)再任、

1259辞任/64(文永元)興福寺衆徒の要求で丹波に流罪/1272(文永9)没、尊信の師、歌人;1237[檜葉集]2首入(禪定院権僧正名)、教実・良実・実経・頼経・慈源・法助の兄弟、[大乘院前大僧正菩提山にて入滅の次のあした法文なむどとりしたためられけるに、花のちりけるをみて、

いつしかとあるじなしとやさくら花道まよふまでけさはちるらむ](檜葉;釈教584)

遠実(えんじつ・中原) → 遠実(とおさね・中原なかはら、連歌) I 3 1 7 2

延実(えんじつ・高橋) → 延実(のぶさね・高橋たかはし、神職/国学) I 3 5 9 5

延子内親王(えんしなしいんのう/のぶこ) → 延明門院(えんめいもんいん、伏見皇女) F 1 3 3 8

延子内親王家大夫(えんしなしいんのうけのだいぶ) → 大夫(だいぶ・延明門院、女房歌人) C 2 6 1 2

E1384 塩車(えんしゃ) ? - ? 俳人;1689「あら野」3句入

[土橋つちはしや横にはえたるつくづくし](あら野;二)

塩車(えんしゃ) → 貞佐(ていさ・桑岡、俳人[1672-1734]) 3 0 0 3

E1385 猿若(えんじやく) ? - ? 連歌;1476「表佐ひょうさ/おさ千句」参加

B1377 燕雀(えんじやく) ? - ? 大阪俳人、1751春耕「あふ夜」折句入

円寂(えんじやく;号) → 政忠(まさただ・竹川たけがわ、商家/歌人) D 4 0 5 1

燕雀坊(えんじやくぼう) → 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7

1399 円守(えんしゅ;法諱、権中納言近衛道嗣男) ?-? 鎌倉中期天台僧;比叡山の宗源門/権僧正、最勝講会の証義を務める、「御灌頂装束等記」、歌;新後拾遺794、[さゆる日は氷とちそふ山河の下行く水も残りやはする](新後拾;794)

E1386 円珠(えんしゅ;法諱) ? - ? 鎌倉期;弘長-文永1261-75頃天台・真言律僧、泉涌寺の智鏡・道玄門;律・密教を修学、鷲尾山の円照律師を訪問;菩提心論など講ず、撰津四天王寺の衆僧の要請で撰津勝鬘院住;同学の思順と並び法義を主唱、「六大義」著

垣守(えんしゅ・谷/大神) → 垣守(かきもり・谷たに、藩士/国学者) B 1 5 2 5

遠守(えんしゅ・水野) → 遠守(とおもり・水野みずの、歌人) X 3 1 1 1

延守(えんしゅ・久志本/河崎) → 常彰(つねあきら・久志本/度会、神道/歌) B 2 9 5 7

U1326 円寿(えんじゅ・星野ほしの) ? - ? 江前中期;歌人、

[移しうゑて幾年ならぬ立花も咲かば昔の香もや匂はん](茂睡[鳥の迹]夏228)

C1337 延寿(えんじゅ・富本とみもと、姓;清水/通称;権次郎) 1727-1802 76歳 筑前の生/富本節浄瑠璃太夫;宮古路品太夫(初代富本豊前太夫/富本父子を創始)門;師のワキを語る;斎宮いつき太夫名、師没後;師の息子の午之助(2代目豊前太夫)の後見役;富本節の基礎を築く、富本伊都喜太夫に改名/剃髪後;富本延寿(延寿斎)に改名
[富本延寿の初名]富本斎宮いつき太夫/伊都喜いつき太夫

延寿(えんじゅ・青山) → 延寿(のぶひさ・青山あおやま、儒者/槍術) C 3 5 9 6

延寿(えんじゅ・榊原) → 霞洲(かじゅう・榊原さかきばら、藩士/儒者) L 1 5 8 0

延寿(えんじゅ・衣笠) → 鳩陵(きゅうりょう・衣笠きぬがさ/蓋、儒者) M 1 6 9 8

延寿(えんじゅ;号) → 日明(にちめい;法諱、日蓮僧) H 3 3 0 2

円珠庵(えんしゅあん) → 契沖(けいちゅう;法諱・空心、真言僧/国学者) 1 8 0 6

円珠庵(えんしゅあん) → 羅城(らじょう;号・恵階;法諱、真宗僧/俳人) B 4 8 3 9

延寿院(えんじゅいん) → 玄朔(げんさく・曲直瀬まなせ/河崎、医者) J 1 8 1 4

延寿院(えんじゅいん) → 玄鑑(げんかん・曲直瀬まなせ/今大路、医者) I 1 8 3 1

延寿院(えんじゅいん) → 玄淵(げんえん・曲直瀬まなせ/今大路、医者) H 1 8 9 7

延寿院(えんじゅいん) → 恒子(つねこ・伊達だて/山本、藩主側室) F 2 9 9 4

E1387 円宗(えんしゅう;法諱) ? - 883 奈良元興寺三論の学僧、869維摩会講師/874律師、883(元慶7)少僧都、「一乗仏性慧日抄」著

E1388 円秀(えんしゅう) ? - ? 室町期歌人;1457武家歌合参加(正徹・心敬らと)、[朝づく日むかふ高ねのこずゑよりまだき色にぞいつるもみぢ葉](武家歌合;十一番右15)

1301 遠州(えんしゅう;通称・小堀こぼり、名;政一まさかず/正一、幼名作助、政次男) 1579-1647 69 母;磯野員正女、近江小堀生/1604備中松山藩主;父の遺領相続、08遠江守/19近江小室に転封/23伏見奉行、茶道;古田綾部門/遠州流茶道の祖、歌;冷泉為満門/書画/造園、「遠州茶書」「茶道百首」、「辛酉紀行」「湯本紀行」「小堀宗甫道記」「小堀遠州古田綾部茶湯日記」「小堀遠州書簡集」著、

狂歌;「古今夷曲集」2首入(遠江守一政かざまき名)/俳人;没後1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[遠州の号] 宗甫(茶号)/大有/孤蓬庵/転合庵
[えぬ歌をまつほのうらみいふ人にかくやもじさへ筆ふるひつゝ](夷曲集;九雑683、
「歌書きて得させよ」と催促する人への返事/本歌;定家[来ぬ人を]の歌)、
[冬に今朝霞や春の先備さきそなへ](手鑑)、
[風さえてよせくる波のあともなしこほる入江の冬の夜の月](集外三十六歌仙35)

B1303 遠舟(えんしゅう・和気わけ) 1653- 1702?50? 大坂玉造の俳人;宗因門、西鶴と交流/能書家、
門人に歌舞伎役者多数、1676(延宝4)「難波弁慶」80「太夫桜」編/「遠舟千句附并百韻」著、
1692「八重一言」「俳諧すがた哉」編/93「俳諧しらぬ翁」編、1673西鶴?「哥仙大坂俳諧師」入、
1673西鶴「生玉万句」(第四灌仏百韻発句等)入/81賀子「山海集」82如扶「三ヶ津さんかのつ」入、
1682風黒「高名集」/91賀子「蓮実」4句入/95草也「備後砂」入/1702轍士「花見車」入、
[麦藁も青葉で見しが小笛かな](高名集;麦藁笛/敦盛の銘[青葉]の笛に擬す)
[三日月の二つ見られぬ汐干しはひ哉](蓮実;197/満潮ならよいが干潮には残念一つだけ)
[遠舟(号)の通称/別号]通称;仁兵衛、別号;東柳軒/臙磨

E1389 円秋(えんしゅう・鳥居とりい) 1691-174454 尾張名古屋藩士/内証詰/1744歩行組、
天文学;大野伯友門、国学者、「諸曆通解」「曆儀新解」著
[円秋(号)の名/通称]名;千之ちゆき、通称;喜源次

E1390 炎洲(えんしゅう・雨森あめのもり、名;増質/字;有文) 1739-181476 越前福井藩士/儒者・詩文、
「炎洲雑詩」「炎洲詩稿」著
[炎洲の通称/別号]通称;太郎兵衛/甚四郎、別号;花陽居士/小森[小林]昼月(致仕後)

T1383 円秀(えんしゅう;法諱) ? - ? 江後期;僧、歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[言ひそむるかひもなぎさによる波のまた打ちかへす言の葉もなし]、
(大江戸倭歌;恋1379)

遠州(えんしゅう・思玄しげん) → 思玄(しげん;法諱・遠州、真言僧/狂詩) D 2 1 5 2

瀛洲(えんしゅう・石山) → 瀛洲(えいしゅう・石山いしやま、医者/詩歌) C 1 3 9 2

円周(円秀えんしゅう;字) → 日慈(にちじ;法諱・蓮昌院、日蓮僧) C 3 3 0 4

B1304 燕十(えんじゅう・志水しみず・鈴木すずき庄之助) 1747?-1810?64? 江後期幕府小吏/洒落本・黄表紙作者、
狂名:奈蒔野馬乎人なまけのばかんど、1789「一騎夜行」-84「通俗画図勢勇談」著

参和(さんな)説 → 参和(さんな・唐来) G 2 0 5 4

写楽(しゃらく)説 → 写楽(しゃらく・東洲斎) G 2 1 5 9

円宗(えんじゅう・空寂;法諱) → 空寂(くうじやく・円宗、曹洞僧) C 1 7 2 3

延重(えんじゅう・春日) → 延重(のぶしげ・春日かすが、神職/国学) H 3 5 9 0

烟舟亭(えんしゅうてい) → 移竹(いちく・田河、俳人) B 1 1 1 7

遠州屋弥七(えんしゅうややしち) → 百亀(ひやつき・小松、嘶本) E 3 7 9 4

延寿園有枝(えんじゅうえんありえだ) → 秀安(ひでやす・勝俣かつまた、医者/国学) J 3 7 0 7

延寿王院(えんじゅうおういん) → 信全(しんぜん・大鳥居、社僧/国学/連歌) P 2 2 1 6

円珠経屋(えんじゅうきやうおく) → 正辞(まさこと・木村、国学者) C 4 0 5 0

遠叔(えんしゅうく・三島) → 中洲(ちゅうしゅう・三島みしま、藩士/儒者) G 2 8 2 3

延寿斎(えんじゅうさい・富本) → 延寿(えんじゅう・富本とみもと、浄瑠璃太夫) C 1 3 3 7

延寿斎(えんじゅうさい・清元) → 延寿太夫(初世えんじゅうだゆう・清元、清元節祖) B 1 3 0 5

B1305 延寿太夫(初世えんじゅうだゆう・清元きよもと) 1777-1825殺害49 江戸の浄瑠璃太夫;清元節の祖、
江戸横山町の茶油商の生、1794富本斎宮太夫(延寿)門;その養子;
1797斎宮いつき太夫2世を襲名、1812富本節を離れ豊後路清海太夫の名で一派を成す、
1814富本節より分流し清元延寿太夫を名乗り清元節を創設;美声と世相を入れ評判、
1824剃髪;清元延寿斎と号す/25劇場の帰途何者かに刺殺、
「累」「山姥」「須磨」などを語る

B1306 延寿太夫(2世えんじゅうだゆう・清元、通称;岡村屋藤兵衛、初世男) 1802-5554歳 浄瑠璃太夫;清元節、
幼名;巳三治郎/号;紫雲斎、1816出雲松江藩主松平不昧より初代清元栄寿太夫を拝名;
1819襲名/1827延寿太夫2代目を襲名/45初代清元太兵衛と改名、清元お葉の父、

- 「神田祭」「落人」「お染」など語る
- 延寿道人(えんじゅどうじん) → 希逸(きいつ・川口かわぐち、臨濟僧/詩人) E 1 6 9 4
- 円珠房(えんしゅぼう;号) → 喜淵(きえん;法諱・円珠房、天台声明家) J 1 6 6 8
- 円珠房(えんしゅぼう;号) → 宝月(ほうがつ;法諱、真宗学僧) 3 9 2 9
- B1307 円俊(えんしゅん;法諱) ? - ? 鎌倉後期僧;法印/権律師、禅林寺住、聖戒と交流、歌人;冷泉為相家歌合などに参加、続門葉/続現葉集入集、玉葉2440、[見るたびに露かかれとはいひおかぬことのはおかで涙おつらむ]、(朗詠の文詞の心を;玉葉;十八雑2440)
- E1391 円俊(えんしゅん;法諱・号;行光坊)?-? 1421存 天台僧;小川流祖の承澄門、1401「密宗聞書」、[行林聞書]「独朗集」「八千杖事」「八千杖用意」「秘密灌頂記」、1421「日枝記」著、小川流は承澄→澄豪→永慶→円俊と相承;門下に兼英・清覚
- 円俊(えんしゅん;通称) → 志遠(しおん;法諱、上人/天台僧) B 2 1 2 7
- 延春(えんしゅん・度会) → 延春(のぶはる・度会わたらい、神職/歌人) K 3 5 5 9
- 延春(えんしゅん・菊池) → 延春(のぶはる・菊池きくち、神職/歌人) I 3 5 1 7
- 延春(えんしゅん/のぶはる・前田) → 又久(またひさ・前田/菅原/菅、藩士) J 4 0 5 4
- E1392 円順(えんじゆん;法諱・号;理覚院、源宗信男)1181-125676 天台宗園城寺理覚院の僧、法印/権僧正、台教;長舜/良俊門、摩訶毘盧舍那法;重円門、1225(元仁2)現舜の要請で円珍「授決集」を構ず、四宗証義/一寺別当/本寺題者歴任、1248(宝治2)大阿闍梨位、円頭らに付法、[声経詮要抄]「看文抄(智袋抄)」「四度理権記」著
- E1393 円遵(えんじゆん;法諱・徳猷;字、初諱;円智、音仁親王長男)1746-181974 有栖川宮職仁親王の猶子、1753真宗高田派僧;本山伊勢専修寺入/58得度/78同寺18世住職/97勸学堂創建立;学問奨励、1765「高田三祖伝」、「高田五帖勸章」「緋御書」著、「親鸞聖人御内証ノ御文」編、[円遵の号]号;一蝸(いちこう)/鷲峰/秋香堂/亮仁/洪澳盧、法号;無上上院、幼名;季宮
- 円遵(えんじゆん;法諱) → 言如(ごんによ;道号・円遵;法諱、臨濟僧) G 1 9 9 8
- 延純(えんじゆん・荷田/羽倉) → 延純(のぶずみ・荷田/羽倉、神職) B 3 5 7 1
- U1353 円助(えんじよ;釈/法諱) ? - ? 鎌倉南北期;僧、歌;1334(建武元)度会朝棟亭八月十五夜歌会参加、[桂川いつの秋より久堅の月にはかよふ名を残すらん](朝棟亭歌会;94)、[しらざりき世を歎かじと捨てし身に秋のうれへを残すべしとは](同;96)
- E1394 円恕(えんじよ;法諱・内大臣中院なかのいん通茂男)1673-173361 天台宗常住金剛院住職、大僧正/法印、1719「御経供養法則」「実心繫院宮年譜草」32「円恕年譜」著、中院通躬(みちみ)の弟、諡号;安如海院、
- 円如(えんじよ;字) → 琳賢(りんけん;法諱・円如;字、真言僧) K 4 9 1 4
- 園女(えんじよ) → 園女(そのめ/そのじよ・斯波/秦、俳人/歌) 2 5 2 7
- 延女(えんじよ) → 延女(のぶじよ、歌人) G 3 5 9 9
- 婉女(えんじよ・野中) → 婉(えん・野中のなか、医者/詩歌) E 1 3 3 8
- B1310 円昭(円松えんしやう;法師)? - ? 平安中期歌僧、関白道隆忌に法興院で詠歌、後拾遺1014、[明けぬなり賀茂の川瀬に千鳥鳴く今日もはかなく暮れむとすらん](後拾;雑1014、中関白道隆[長徳元995没]忌に法興院に籠り暁方に千鳥の鳴くを詠む)清水寺宝日上人と同一説(西行撰集抄に逸話)あり
- B1308 円照(えんしやう、厳寛男、俗姓藤原)1220-7758歳 鎌倉中期僧、聖守(せいしゆ)の弟
- E1395 円照(えんしやう・法師) ? - ? 南北期僧/歌、1324頃まで活動、新拾遺1613・新続古今933 [小倉山紅葉吹きおろす木枯にまたさそはるるさを鹿の声](新拾;雑1613/嵯峨) [行末もなほ重なれる山の端の雲のいづくをあすは越えまし](新続古今十;羈旅933)
- 円昭と同一? → 円昭(えんしやう・法師、新後拾遺歌人) B 1 3 0 9
- B1309 円昭(えんしやう・法師) ? - ? 南北期僧;1364頃まで活動、歌人、新後拾遺810 [ささたけの大宮人の袖のうへにかざしの玉とふるあられかな](新後拾八;雑秋810)
- 円照と同一? → 円照(えんしやう・法師、新拾遺歌人) E 1 3 9 5
- E1396 円性(えんしやう;法諱・号;白翁、真覚寺明性男)1623-170886歳 京真宗本願寺派僧;西吟門、真覚寺住職、1698権律師、1694「宗門年譜」、「教行信証冠履鈔」「愚禿鈔録」著

- E1397 **円聖**(えんしょう;法諱、重源の孫)1664-1747**84歳** 上州吾妻郡原町金剛院住の天台僧;祖父門、史実に精通、滝峨山に観音石像を建立、1716「吾妻原町記」、「再編吾妻記」「天狗神仏論」「修験岩櫃語」著
- E1398 **延尚**(えんしょう) ? - ? 京の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、[滝音たきおとを聞きて行き着く暑さ哉](都曲;190/暑さも一息)
- B1311 **円生**(初代えんしょう・三遊亭、橘屋、円里;俳名)1768-1838**71** 江戸落語家;道具入り芝居噺の祖、初代立川焉馬門
- E1399 **円祥**(えんしょう;法諱、鷹司輔平男)1788-1837**50歳** 有栖川宮職仁親王猶子、真宗高田派僧;1790円遵門、1793本山伊勢専修寺入/1811専修寺19世住職、1823法印/24(文政7)大僧正、詩文に長ず、1827「礫溪猿馬記」35「薑花集」、「宣教護国論」「高田中興上人別伝」著、[円祥(;法諱)の幼名/号]幼名;章宮、号:文鳳/墨化/三軒、法号;眞無量院
- B1378 **円生**(二代えんしょう・三遊亭、橘屋円蔵)1806-62**56歳** 落語・初代門、「累草子」作、円朝の師
- T1390 **円松**(えんしょう;法諱・岩谷いわや、)1823-89**67** 近江高島郡梅津村の浄土真宗願慶寺住職、歌人、[円松(;法諱)の通称/号]通称;三輪丸、号;尺教/松月
- B1379 **円生**(三代えんしょう・三遊亭、初代円楽)1839-81**43歳** 落語・円朝門、円朝より芝居道具贈らる
- 円照(えんしょう;法名) → 顕基(あきもと・源、廷臣/歌人) 1 0 8 6
- 円照(えんしょう;法名) → 実継(さねつぐ・三条/正親町三条、内大臣/歌) D 2 0 1 8
- 円照(えんしょう;法名) → 頼藤(よりふじ・葉室/藤原、権大納言/日記) J 4 7 7 1
- 円証(えんしょう;法名) → 兼実(かねざね・九条/藤原、撰閔/歌人) 1 5 2 9
- 円性(えんしょう;字) → 覚基(かくき;法諱・円性、真言僧) J 1 5 6 5
- 円性(えんしょう;法名) → 実基(さねもと・徳大寺/藤原、太政大臣/歌) D 2 0 6 9
- 円象(えんしょう・和田) → 寧(やすし・和田わだ、和算家) B 4 5 6 1
- 円紹(えんしょう・三浦) → 道意(どうい・三浦みづら/小林、藩医/歌) 3 1 9 7
- 遠照(えんしょう;号) → 了祐(りょうゆう;法諱、本願寺派学僧) J 4 9 6 1
- 延璋(えんしょう・森岡) → 武雅(たけまさ・森岡、藩士/詩人) O 2 6 7 5
- 延昌(えんしょう・青山/佐藤) → 松溪(しょうけい・佐藤さとう、儒者/絵師) I 2 2 2 3
- 偃松(えんしょう) → 諦霊(たいれい;法諱、真宗大谷派僧) L 2 6 3 0
- U1343 **縁定**(えんじょう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、歌人;1237刊素俊撰[檜葉集]入;菊苑庚申講歌会・光明院歌会に参加、[光明院の月次歌よみて遣しける、よをすててすまばやと思ふみ吉野の奥よりにほふ花の春風](檜葉;597)
- F1300 **宴乗**(えんじょう・二条にじょう)? - ? 1586**存** 坊官/興福寺三綱職;丹波寺主/法眼、1569/70/71/74/86「二条宴乗日記」著
- F1301 **円乘**(えんじょう・高田たかた/狩野、名;正和/修姓;高)?-? 江後期絵師;狩野惟信門、1786「古画要覧」91「唐詩選画本」、「加言二十四孝」「三十六歌仙」画
- F1302 **燕尉**(えんじょう・笹井ささい) ? - ? 江後期の講釈師;家斉御前で軍談
- 円常(えんじょう;道号) → 元續(げんれい;法諱・円常、曹洞僧) N 1 8 1 2
- 円常(えんじょう・和田) → 蚊足(ぶんそく・和田わだ、俳人) G 3 8 0 7
- 円浄(えんじょう;法皇) → 後水尾天皇(ごみずのおてんのう、古典/歌人) D 1 9 8 9
- 偃松院(えんしょういん) → 諦霊(たいれい;法諱、真宗大谷派僧) L 2 6 3 0
- 円照院(えんしょういん) → 宗実(むねざね・伊達だて、領主/銃術/歌) B 4 2 3 6
- 円成院(えんじょういん) → 日成(にちじょう;法諱・英学、日蓮僧) C 3 3 4 3
- 円成院(えんじょういん) → 詢道(じゅんどう;法諱・伝灯、真宗本願寺派僧) L 2 1 6 4
- 円乗院(えんじょういん) → 宣明(せんみょう;法諱、真宗大谷派僧) N 2 4 7 4
- 円浄院(えんじょういん) → 晴姫(せいひめ・松平まつだいら/池田、藩主室/歌) O 2 4 4 8
- 円城王子(えんじょうおうじ) → 齐世親王(ときよしのう、真言仁和寺僧) K 3 1 3 3
- 円常覚(えんじょうかく) → 顕親門院(けんしんもんいん、伏見天皇妃/歌) C 1 8 3 9
- 偃松軒青標(えんしょうけんせいひょう) → 秀堅(ひでかた・石田いしだ、神職/茶人) L 3 7 1 9
- 円成寺(えんじょうじ;法号) → 兼輝(かねてる・一条、関白/日記記録) O 1 5 6 6

- 円成寺僧正(えんじょうじのそうじょう)→益信(やくしん;法諱、真言;広沢流祖) 4 5 4 9
 円城寺宮(えんじょうじのみや)→齊世親王(ときよしのう、真言仁和寺僧) K 3 1 3 3
 円照大師(えんしょうだいし)→智真(ちしん;法諱・一遍;号、時宗開祖) 2 8 1 2
 円照房(えんしょうぼう;字)→景巖(けいがん;法諱・円照房、真言僧) F 1 8 3 8
 円性房(えんしょうぼう)→日法(にっぽう;法諱、日蓮僧/彫刻家) F 3 3 5 3
 円城坊(えんじょうぼう)→頼基(らいき;法諱、天台権大僧都/歌) 4 8 2 9
 円照本光国師(えんしょうほんこうこくし)→崇伝(すうでん;法諱・以心;道号、臨濟僧/幕政参画) 2 3 0 5
 円定明院(えんじょうみょういん)→邦忠親王(くにただしんのう・伏見宮、歌人) C 1 7 8 5
 円次郎(えんじろう・菅原)→恵迪(けいてき・菅原すがわら、和算家) G 1 8 3 9
 円次郎(えんじろう・入谷)→美平(よしひら・入谷いりや、藩士/歌人) L 4 7 6 4
 猿次郎(えんじろう・平岩)→元珍(げんちん・平岩、藩士/儒/音楽) L 1 8 4 5
 遠思楼主人(えんしろうしゅじん)→淡窓(たんそう・広瀬、儒者/詩人) 2 6 9 3
 F1303 円心(えんしん;法諱) ? - ? 平安中期絵仏師、「五大明王凶像」画、
藤原頼通邸中門に描いた鶏絵の逸話;寒夜早暁に鳴いたという(盛衰記/長門本平家)
 F1304 延信(えんしん・白川、延信王、清仁親王男)?-? 平安中期1025源姓/従四上/-46神祇伯、「経緯貫義」
 U1338 宴信(えんしん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;大和の僧;法師、歌人、
1237素俊撰[藤葉ふじのは集]9首入集、
[律師尊海法花経料紙のため月なみの歌よませ侍りけるに、
安樂行品の顛倒分別諸法有無の心をよみてつかはしける、
むめの花いろはみえずと思ひしもやみにまよへる心なりけり](藤葉;釈教556)
 B1312 延真(えんしん・僧都) ? - ? 平安鎌倉期;叡山常寂院住の天台僧/権少僧都、
のち僧都に昇進?、歌;続後撰598、11665[続詞花集600]・檜葉集700(同じ歌;律師延真名)
[あだにおくすゑばの露は繁けれど中に結ぶぞ玉と見えける](続後撰;釈教598/囑累品)、
[西の方へ通ひける羨ましくや思ひけむ月の明かりける夜例の方にまかれりける道に、
さいぎりて申しかけける、
よがれせずうらやましくぞ西へゆく月はひとめもつつまざりけり](檜葉;雑706)
 F1305 円親(えんしん;法諱、藤原[二条]定親[定観]男)?-? 鎌倉期僧;大法師/法印、定兼(東大寺僧)の弟、
歌;1295伊勢新名所絵歌合参、1237刊檜葉集3首入、
[咲けばかつまがはぬ花の梢より名にあらはるる桜木の里](絵歌合;六番右12)、
[ながめやるいくののすゑの道とほみしもになづまぬくさのはもなし](檜葉;羈旅660)
 F1306 円深(えんしん、日野勝光[1426-76]男)?-? 興福寺西南院僧;光淳僧正門、興福寺197代別当、
僧正、1515(永正12)講師、歌人;徳大寺実淳さねあつ[1445-1533・太政大臣]門・古今伝授を受
 B1313 燕晋(えんしん・伊東、通称;仙右衛門、別号;詞筵) 1761-1840江戸湯島天神の講釈師/伊東派祖、
湯島社境内で軍談講釈、1806家齊御前で「川中島軍記」講釈、22「団撃攘余録」;抄録分類
伊東派2代目 → 燕凌(えんりょう・伊東[2世]、講釈師) B 1 3 3 8
 円信(円心えんしん;法名)→家実(いえざね・近衛、撰関/記録) C 1 1 1 0
 円心(圓心えんしん;法諱)→鉄牛(てつきゅう;道号・円心、臨濟僧) C 3 0 2 4
 円眞(えんしん;出家号)→尚忠(ひさただ・九条/二条、公武合体派) B 3 7 3 0
 円親(えんしん;法名)→頼親(よりちか・葉室/藤原、権大納言) J 4 7 0 0
 縁信(えんしん・東)→縁信(よりのぶ・東/石野/平、国学者) J 4 7 4 0
 淵臣(えんしん・古松)→淵臣(ふちおみ・古松ふるまつ、歌人) D 3 8 2 0
 淵信(えんしん・狩野)→永恕(えいじよ・狩野、絵師) C 1 3 9 7
 衍親(えんしん→のぶちか・松平)→雪川(せつせん・松平、治郷の弟/俳人) E 2 4 4 8
 延親(えんしん・度会)→延親(のぶちか・度会わたらい、神職/歌) B 3 5 9 4
 延親(えんしん・大藪)→延親(のぶちか・大藪おおやぶ/香川、神職/国学) H 3 5 7 5
 F1307 延尋(えんじん;法諱、観音院僧都、源扶義男) 992-1049or4857-58 真言僧;仁海門、1013東寺入寺、
1021仁和寺観音院で済信門;伝法灌頂を受、1022権律師/27東寺三長者/31権少僧都、
1038権大僧都/1044長者・権大僧都を辞退、1022「長和親王御灌頂記」、「大御室御灌頂記」著
 U1332 円尋(圓尋えんじん;法諱、今出川公行男)?-? 南北室町期;法相宗僧/権僧正、興福寺東門院住、
1406(応永12)興福寺154代別当、実富の弟、歌人;1400[菊葉集]入、

[思へどもいはで過ぐるにいとどなほ胸もこがるる心地こそすれ](菊葉;恋1118)

園人(えんじん・藤原) → 園人(そのひと・藤原、廷臣/系譜編纂) E 2 5 2 0
遠人(えんじん・根来) → 喜内(きない・根来ねごろ、幕臣/記録) L 1 6 7 0
遠塵(えんじん;字) → 円珍(えんちん;法諱、智證大師、天台僧) B 1 3 2 5
袁晋卿(えんしんけい) → 晋卿(しんけい・袁、大学音博士) D 2 2 8 8

F1308 衍真尼(えんしんに:法諱、隱巖いんがん:道号、号;貞松ていしょう/貞松尼) 1663-1732 70歳 黄檗宗の尼僧、
近江大津四の宮神官志賀氏の出身、近衛基熙の正室常子内親王に出仕;老女頭、
1690(28歳)近江九品寺で出家;鉄面寂鍊門、96(元禄9)京の岡崎に結庵、
1705(宝永2)基熙建立の北山鷹ヶ峰一様庵に住/10薬師堂本尊購入/19寺院建設開始、
1722(享保7)白毫山一様庵を開山;近衛家より帰依を受、「隱巖尼禅師語録」著、
「一様院文書」「白毫山一様禅庵開山隱巖尼和尚行状」あり

延信王(えんしんのおおきみ) → 延信(えんしん・白川、神祇伯) F 1 3 0 4

B1314 猿雖(えんすい・窪田くぼた、正誓まさちか男) 1640-1704 65歳 伊賀上野の商人;内神屋うちのかみや初代、
俳人;芭蕉門、猿蓑4句/炭俵5句/続猿蓑7句入、「北の山」「初蟬」入、
俳人を招待、別邸;東麓庵/西麓庵、
[鳥の行く焼野やけの隈や風の末](炭俵;上巻)

[猿雖(;号)の通称/法号]通称;惣七郎、法号;意専いせん、

B1380 遠水(えんすい・樋口ひぐち) ? - ? 江戸の俳人;露言門、蕉門とも交流、
1690其角「花橘」歌仙入、1691「猿蓑」1句入、
[垣ごしにとらへてはなす柳哉](猿蓑;巻四/なにげない動作)

F1309 縁水(えんすい) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」2句入、
[春過ぎて女子をなごのしらぬ野菊かな](蓮実;315/若菜摘の嫁菜も生長し野菊)

B1315 円水(えんすい・増田ますだ) ? - ? 京の雑俳;笠付の確立に尽力、大阪に住、
1696(元禄9)笠付「俳諧住吉躍」撰(長谷川庄兵衛版/笠附集)、91賀子「蓮実」6句入、
[蟬聞いて馬の駆け出す山路哉](蓮実;233)

烟水(えんすい・小野崎) → 通亮(みちすけ・小野崎おのぎ、藩士/神道) I 4 1 2 7

延綏(えんすい・志賀) → 綏(やすし・志賀しが、藩士/国学者) B 4 5 6 2

円瑞(えんずい;字) → 日祥(にっしょう;法諱・慈門院、日蓮僧) E 3 3 3 1

烟水散人(えんすいさんじん) → 維則(これのり・西田、儒者/白話翻訳) O 1 9 6 9

猿雖堂(えんすいどう・亀山) → 梅臣(ばいしん・亀山、尾道俳人) B 3 6 6 1

猿水洞(えんすいどう) → 廬朝(ろちよう・水野/源/水、幕臣/絵師/俳人) C 5 2 1 3

遠水楼(えんすいろう) → 古貫(こかん;法諱、真宗本願寺派僧) L 1 9 9 7

縁数(えんすう・東) → 頼数(えんすうよりかず・東とう、常縁男/歌人) I 4 7 4 8

B1316 円世(えんせい・法師) ? - ? 鎌倉期;歌僧、権律師、
歌/勅撰4首;新後撰613・続千1139・1293・1565、
[かりそめの宿ともしらで尋ねこし迷ひぞ道のしるべなりける]、
(新後撰;釈教613、化城喩品)

C1329 円成(えんせい) ? - ? 伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」735、
[朝露はたゞ螢火のしめし哉](犬子集:735/朝露のしめりて螢火が消える)

C1318 塩井(えんせい・辛島からしま/修姓;辛、青溪男) 1754-1839 86歳 肥後熊本藩の儒者;紫溟門/1786訓導、
1792藩主侍講/藩儒、1802昌平覺で講義、1821藩校教授、
「学政或問」「塩井詩文集」著、「楽沖集」入
[塩井(;号)の名/字]名;憲/知雄、字;伯彝

F1310 円勢(えんせい;法諱・号;真阿/聴松庵/阿耨あとう院、円淋男) 1810-63 54 代々越後の真宗正福寺住職、
詩、「新潟府志」、1860「念仏百詠」著

円清(えんせい、黒田官兵衛) → 孝高(よしたか・黒田、武将/連歌) D 4 7 9 3

円盛(えんせい;字) → 義観(ぎかん、島田、修験宗僧/詩人) J 1 6 8 9

円聖(えんせい) → 円聖(えんしやう;法諱、天台僧) E 1 3 9 7

円政(えんせい;字) → 日修(にっしゅう;法諱、日蓮僧/久遠寺法主) E 3 3 0 9

円静(えんせい;法諱) → 資実(すけざね・日野/藤原、廷臣/詩歌) C 2 3 1 8

延世(えんせい・世古)	→	延世(のぶよ・世古せこ、酒造業/勤王)	G 3 5 2 0
延世(えんせい・長谷)	→	延世(のぶよ・長谷ながたに、商家/歌人)	J 2 5 4 0
延清(えんせい・大原)	→	武明(たけあき・大原おほら、儒者)	O 2 6 2 1
延誠(えんせい・度会)	→	延誠(のぶとも・度会わたらい、神官/歌人)	C 3 5 3 6
縁西(えんせい;法諱)	→	縁西(えんさい;法諱、法師/歌人)	U 1 3 5 0
淵静(えんせい・上田)	→	白水(はくすい・上田うえだ、儒/兵学)	D 3 6 4 0
淵静(えんせい;号)	→	慈観(じかん;法諱、天台僧)	P 2 1 9 4
塩井(えんせい・辛島)	→	古淵(こえん・辛島からしま、藩士/儒者)	L 1 9 7 5
遠清(えんせい)	→	長行(ながみち・小笠原、幕臣/詩歌)	F 3 2 9 0
遠成院(えんせいいん)	→	日近(にちこん・空堂、日蓮僧)	B 3 3 9 7
遠成院(えんせいいん)	→	日寿(にちじゅ;法諱・示勸、日蓮僧)	C 3 3 1 3
円成院(えんせいいん)	→	詢道(じゆんどう;法諱・伝灯、真宗本願寺派僧)	L 2 1 6 4

F1311 **延政門院**(えんせいもんいん、悦子内親王、後嵯峨天皇皇女) 1259-1332 74歳 鎌倉後期の内親王、女房に一条/新大納言などの歌人、徒然草第六十二段;幼少時に父の後嵯峨上皇の院に言づてしての歌、ふたつ文字もじ 牛の角文字 直すぐな文字 歪ゆがみ文字とぞ君は覚ゆる、(兼好は謎めいた歌を[こ・い・し・く]の意で父を慕う心と解く)

延政門院一条(えんせいもんいんのいちじょう) → 一条(いちじょう・延政門院) G 1 1 2 7

延政門院新大納言(えんせいもんいんのしんだいなごん) → 新大納言(しんだいなごん) 2 2 5 5

円是院(えんぜいん) → 日耀(にちよう;法諱・住心、日蓮僧) D 3 3 4 7

B1317 **燕石**(えんせき・富永とみなが、高康、甲浦代官富永伊織男/のち安井家養子) 1625-66 42 土佐甲浦の武士、連歌:父門/1633(寛永10)父事に座し自刃、のち昌琢門、俳諧に転ず;令徳・貞徳門、貞門俳諧の種々伝授を許可、貞徳「天水抄」を流布、1655(明暦元)「夜のにしき」57「牛飼」編、狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入、[もろ人もけふ赤子にやなりぬらんむつきをしきの始めと祝へば]、(夷曲集;春14/睦月と襦袢・四季と敷きを掛る)

[燕石の通称/別号] 通称;治右衛門尉、別号;幽山亭、鯛屋貞因の師

B1381 **燕石**(えんせき・日柳くさなぎ/旧姓;草薙、名;政章、加島屋惣兵衛政恒男) 1817-68 52 讃岐榎井質商、儒;三井雪航門、岩村南里門、博徒として遍歴/1854琴平吞象楼住;勤王家、1865高杉晋作を庇護;投獄/68出獄、会津征討軍参加;越後柏崎で病没、詩人;7-8千首作/洒落本作者、「柳東詩集」「燕石詩集」「柳東軒詩話」「吞象楼詩文稿」、「吞象楼雜纂」「捫蝨夜話」「松乃婦多葉」著、「吞象楼遺稿」、

[燕石の字/通称/別号/変名] 字;士煥、通称;長次郎/耕吉/浩吉/加島屋長次郎、

別号;猿赤/鴛石/偃石/柳東/春園/三白/捫蝨もんしつ/三楽/半楽/楽王/

九白堂/容膝堂/愛松軒/撫松楼/吞象楼/双竜閣/皆宜楼/双松楼、変名;赤松剣吾

猿赤(鴛石/偃石 えんせき・日柳) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人) B 1 3 8 1

燕石(えんせき;号) → 大溪(だいかい;道号・浄高;法諱、黄檗僧) J 2 6 7 8

燕石(えんせき・新宮) → 凉民(りょうみん・新宮しんぐう/柚木、蘭医) J 4 9 5 1

燕石窩(えんせきか) → 芳洲(ほうしゅう・松村、儒者/詩人) B 3 9 3 9

猿赤居士(えんせきこじ) → 燕石(えんせき・日柳、詩人) B 1 3 8 1

F1312 **燕石斎薄墨**(えんせきさいうすずみ・姓;笠原) ?-1834 常陸水戸の書家、1818頃仙台書肆裳華房に寄寓;奥州各地を行脚、往来物執筆;1822「竹駒詣」29「仙府年中往来」30「平泉往来」著、1830「松島往来」32「於曾礼山詣」著

燕石楼(えんせきろう) → 金鶏(きんけい・奇々羅/畑、医/狂歌) 1 6 6 0

燕石楼(えんせきろう) → 銀鶏(ぎんけい・平亭/畑、医/狂歌) D 1 6 9 5

B1318 **燕説**(えんせつ・其日庵) 1671 - 1743 73歳 美濃大垣禅僧/俳人;露川門、師の行脚随伴、伊勢各地に結庵、晩年;伊勢度会わたらい村松の松林寺住職、

1715「俳諧あふむ石」24「こぶし紙」編、

1717「西国曲さいごぶり」(草風・燕説・梅風共撰;露川に随伴した中国九州紀行と句を集録)、

[燕説の別号] 其日庵/逢春軒/無外坊/止白堂/遅月庵/桂蔵庵、伝は追善集「こぬ世の風」入

- 延雪(えんせつ・加藤) → 章庵(しょうあん・加藤かとう、儒者) G 2 2 5 5
- C1331 円仙(えんせん、頭頼男) 1120 - 1164 45歳 平安後期;僧、忠親「山槐記」入
- U1341 円宣(えんせん;法諱、) ? - ? 鎌倉期僧;法師、歌人;1237刊[檜葉集]入、
[さみだれにみのしろ衣けふいくかほさできつらむひなのながみち](檜葉;雑798)
- F1313 苑扇(えんせん) ? - ? 京の俳人;1691江水「元禄百人一句」入、
[西の岡鯰ことづかる坊主かな](百人一句;39)
- F1314 円宣(えんせん;法諱、俗姓;片山) 1718?-92 75歳? 肥前伊万里浄土僧;常光寺靈潭門、
芝増上寺修業/神道;依田伊織門/律;湛慧門、1771増上寺学頭/90増上寺52世、
「五重口決」「挫僻打磨編」「璽書布薩口訣」「悉曇初学抄」「伝書五重弁釈」著
[円宣(法諱)の法名]法名;広蓮社統誉道阿、
円詮(えんせん;字) → 日堯(にちぎょう;法諱・自成院、日蓮僧) B 3 3 3 5
- B1319 延全(えんぜん・法印) ? - ? 鎌倉末期;天台僧・梶井門跡に出仕/侍従/執当、
法印、歌、勅撰4首;風雅1864/新千2125/新拾1422/新後拾1379、
[七ぞちのとしなみ越えていまは身の何をかすゑの待つことにせん](風雅;雑1864)
- F1315 円然(えんぜん;通称・片山かたやま、名;国俵、号;松斎、国雄男) 1764-? 幕臣;1786(天明6)家督継嗣、
学問を志し若くして致仕/隠居、蘭学;司馬江漢門/天文学を紹介、「西洋異譚」著、
「葱圃損益録」編、1815-24「滄海一滴集」、27「地転窮理論」37「天学余話」著、外編著多数
遠沾院(えんせんいん→おんせんいん) → 日亨(にちこう;法諱・遠理院、日蓮僧) B 3 3 8 2
- F1316 鶯惣(えんそう・楽笙軒) ? - ? 江前期俳人;1692我黒判「七瀬川」共編?
衍操(えんそう;法諱) → 大愚(だいう;道号・衍操、黄檗僧) J 2 6 7 2
衍聡(えんそう;法諱) → 素明(そみょう;道号・衍聡、黄檗僧) E 2 5 4 1
燕巢(えんそう・竹中) → 霞城(かじょう・竹中たけなか、医者) L 1 5 9 7
燕巢(えんそう・奥村) → 邦秀(くにひで・奥村おくむら/橘、国学/茶人) E 1 7 0 8
鳶巢(えんそう・金森) → 錦謙(きんけん・金森かなもり、蘭学者) Q 1 6 8 5
縁窓(えんそう・相沢) → 月邦(げっぽう・相沢あいざわ、俳人) H 1 8 3 9
円蔵(えんぞう・橘屋) → 円生(えんしょう・二世三遊亭、落語家) B 1 3 7 8
円蔵(えんぞう・松崎) → 明(あきら・松崎まつき、医者/詩文) E 1 0 1 8
円蔵(えんぞう・小林) → 見外(けんがい・小林こばやし、俳人) B 1 8 3 7
円蔵(えんぞう・上林/宇治屋) → 諸史(もろふみ・上林かんばんやし/杉、村役/歌) J 4 4 7 3
円蔵(えんぞう・中村) → 園夫(そのお・中村なかむら、醸造業/国学) L 2 5 0 7
延蔵(えんぞう・伊藤) → 東里(とうり・伊藤、儒者) I 3 1 1 4
延蔵(えんぞう・河路) → 光広(みつまさ・河路かわじ、商家/歌人) I 4 1 7 4
延象(えんぞう・立花/黒田) → 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7
焉蔵(えんぞう・野間) → 隆喜(たかよし・野間のま、藩医者/歌人) Y 2 6 9 1
淵蔵(えんぞう・千賀) → 春城(はるき・千賀ちが、故実家) G 3 6 2 7
淵蔵(遠蔵えんぞう・中井) → 蕉園(しょうえん・中井なかい、儒者) H 2 2 2 8
淵蔵(えんぞう・関藤) → 藤陰(とういん・関藤せきとう/石川、藩儒/蝦夷踏査) B 3 1 0 7
淵蔵(えんぞう・野村) → 恒見(つねみ・野村のむら、陪臣/歌人) G 2 9 1 5
円窓軒(えんそうけん) → 如晴(にょせい;法諱・恵明院、真宗僧) G 3 3 0 2
円窓書斎(えんそうしよさい) → 伴存(ともあり・畔田くろだ、国学/本草) P 3 1 1 7
延足(えんそく・五富利) → 言足(延足のぶたり・五富利ごぶり、御師代官/国学) I 3 5 4 6
偃鼠亭(えんそてい) → 似閑(じかん・今井、商家/国学者) 2 1 0 6
- U1335 円尊(えんそん;法諱) ? - ? 平安後期;僧;法師/権律師?(檜葉;99)、
歌人;1237刊[檜葉集]7首入、英尊の師、
[頭昭・寂蓮・覚延等あひともなひてうたよむ;雪中待客、
うらやましたのめし人はこぬやどにともまちえたる庭の白雪](檜葉;冬342)
- 遠村(えんそん・矢野) → 遠村(とむら・矢野/橘、武家/歌人) I 3 1 7 5
- 円陀(えんだ;法諱) → 荷塘(かとう;号・遠山とおやま、僧/漢学) C 1 5 5 9
- T1381 円諦(えんたい・浄徳寺じょうとくじ) ? - ? 江後期;僧;真宗僧?、
歌人;1860鋤柄助之「現存百人一首」入、

[懐かしく霞める月を春の夜の空に残して帰る雁がね] (現存百人一首 ; 63)

燕台(えんたい・室谷) → 賀世(よしつぐ・室谷むらたに、商家/国学者) E 4 7 6 9
円台院(えんたいいん) → 薫子(のぶこ・近衛、経熙つねひろ室、日記) B 3 5 3 9
燕岱斎(えんたいさい) → 歌麿(うたまる・喜多川、絵師/狂歌) 1 2 7 0
堰埭楼(えんたいろう) → 国信(くにのぶ・歌川、絵師/草双紙) B 1 7 5 8
延陀王丸(えんだおうまる) → 貞徳(ていとく・松永、歌学者/俳人) 3 0 0 8

F1364 遠沢(えんたく;号・加藤かとう、名;守行/通称;玄甫) 1643-1730⁸⁸ 江前中期陸奥会津の狩野派絵師;
狩野探幽門/探幽四天王の1、会津藩主保科家の御用絵師、山水・人物画に長ず、
作品;「祇園祭礼図屏風」(6曲1双/藩主の女常姫婚礼調度という)など

円琢(えんたく;字) → 日瑤(にちよう;法諱・恵光院、日蓮僧) D 3 3 4 6

B1320 縁達師(えんだちし) ? - ? 万葉三期歌人、百濟系法師?、万葉八;秋雑1536
2説; ① 名;縁達+法師の「師」をつけた。② 姓;縁+名;達師。①説が有力、
[よひに逢ひて朝あした面おもなみ名張野の萩は散りにき黄葉はや継げ](万葉;1536)

U1302 円達(えんたつ;法諱、俗姓;三輪、9世正順男) 1756-1826⁷¹ 紀伊日高郡三尾村の僧;
真宗本願寺派の光明寺第10世;在職40年/歌人;尾崎雅嘉門、「窓臥詠草」著、
[円達(;法諱)の号]号;窓臥

U1303 円達(えんたつ;法諱、名;快通/号;温故堂老人) 1763-1822⁶⁰ 肥後宇土郡の修験者/宇土藩に出仕
延陀丸(えんだまる・延陀王丸) → 貞徳(ていとく・松永、歌学者/俳人) 3 0 0 8

円旦(えんたん;法諱) → 周南(しゅうなん;道号・円旦;法諱、臨濟僧) Y 2 1 1 5

B1321 円智(えんち;法諱、俗名;平たいら親範) 1137-1220⁸⁴ 平安期・僧、1174「相蓮房円智記」著

F1317 演智(えんち;法諱・随誉;法号) 1633-1712⁸⁰ 伊勢の浄土僧;法誉門、当麻曼茶羅の研究・布教、
郷里に曼茶羅寺を創建、1671「一枚起請燕泥」95「当麻曼茶羅捫象」著

F1318 円智(えんち;法諱・中阿;法号)?-1703 江前期近江大津の浄土僧;浄念寺円立門/聞証門、
草津正定寺住;聞証の命で「法然上人伝」の注釈書「翼賛」編纂中急逝(知恩院義山が完成)、
1703「円光大師(法然上人)行状画図翼賛」著、「西方要決科註」注、「御伝翼賛遺事」著

F1319 円智(えんち;法諱・示空じく;字) 1639-1721⁸³ 江前期京の浄土宗西山派僧、京円福寺36世、
1708「円福寺絵図並寺誌」、「往生論註科」「選択集科註」「選択集分科」「鎮勸用心新抄」著

F1320 円智(えんち;法諱) ? - ? 江前期寛文延宝1661-81頃真宗大谷派僧、
京の誓源寺住職、大谷派初期の学匠、14世琢如に重用、恵空の師;恵空を琢如の許に推挙、
1661「歎異鈔私記」65「浄土論註分科」、「推験抄」「和讃私記」外著多数、歿後;贈講師

F1321 宴池(えんち) ? - ? 越後高田の俳人;1776標良「月の夜」1句入、
[露を分けてうかるゝ虫の高音たかね哉](月の夜;64/露を分けて恋人の許に通うイメージ)

焉智(焉知えんち;法諱) → 黙室(もくしつ;道号・焉智、曹洞僧) 4 4 9 2

焉知(えんち・渡部) → 益庵(えきあん・渡部/渡辺、医者/紀行) D 1 3 6 2

円智(えんち;法名) → 親範(ちかのり・平たいら、廷臣/出家/歌) B 2 8 5 8

円智(えんち;字) → 信堅(しんけん;法諱・円智、高野真言僧) O 2 2 0 9

円智(えんち、円智院) → 日性(にっしょう;法諱・本地院、日蓮僧) E 3 3 1 9

円智(えんち;初諱) → 円遵(えんじゆん;法諱・徳猷、真宗高田派僧) E 1 3 9 3

円智(えんち;初諱) → 豪円(ごうえん;法諱・無安庵、天台僧) H 1 9 7 1

園智(えんち・石川) → 柏山(はくざん・石川いしかわ、書家) D 3 6 1 0

遠恥(えんち・鈴木/木) → 小蓮(しょうれん・鈴木/木、儒者/詩文) M 2 2 0 4

円智院(えんちいん) → 公国(きんくに・三条西さんじょうにし、歌人) D 1 6 9 3

円智院(えんちいん) → 尊純親王(そんじゆんしんのう、天台座主/歌) E 2 5 9 0

遠智娘(えんちじょう) → 遠智娘(おちのいらつめ、蘇我石川磨女) B 1 4 0 9

円智常照禅師(えんちじょうしゅうぜんじ) → 江隠(こういん;道号・宗顕;法諱、臨濟僧) H 1 9 3 5

B1322 円忠(えんちゅう;法諱・貞叟;法号、諏訪大進房、諏訪盛忠男/本姓;神じん) 1295-1364⁷⁰ 諏訪大社執行、
法眼/夢窓国師推挙により尊氏の臣/1339天竜寺造営奉行/幕府評定衆/引付衆/武家奉行、
「諏訪大明神絵詞」編、歌;新千載2049・新後拾1326、連歌;菟玖波1句入、貞嗣の父、
[思ひきやみし世の事をいきてなほ昔の夢に語るべしとは](新千載;十八雑2049)

円忠(えんちゅう;法諱・大功) → 大功(だいく;道号・円忠、曹洞僧) J 2 6 9 5

- 猿中(えんちゅう・中島) → 魚坊(ぎよぼう・中島、歌人/俳人) Q 1 6 3 0
遠忠(えんちゅう・中臣) → 遠忠(とのおた・中臣/家名;大東、神職) I 3 1 6 2
遠忠(えんちゅう・十市) → 遠忠(とのおた・十市とおち、武将、歌人) I 3 1 6 3
遠仲(えんちゅう・高階) → 遠仲(とおなか・高階たかしな、廷臣/歌) I 3 1 6 7
遠中軒(えんちゅうけん) → 立心(りゅうしん・小出こいで、俳人) E 4 9 7 5
- B1323 円澄(えんちよう;法諱、俗姓;壬生)772- 83766歳 奈良平安前期;武蔵の僧;789道忠(鑑真門)門、道忠歿後;叡山天台僧;796(延暦17)最澄門、805紫宸殿で五仏頂法を修す、唐僧泰信より具足戒を受/高雄山寺で灌頂・毘盧遮那法を修す/三昧耶戒を受、807法華長講で第二巻を講ず/808金光明長講の講師/最澄より天台の奥義を授与される、832天台座主2世、寂光/西塔二院を建立、「維摩堂日記」「唐渇問」「唐決問」「妙法蓮華迹本二門大意」「通達仏願海門」外著多数、[円澄(;法諱)の初通称/諡号]初称;法鏡行者、諡号;寂光大師、
- B1382 円超(えんちよう;法諱) 861 - 92565歳 平安前期東大寺の華嚴学僧;海印寺の良緒門、奈良で三論・法相を究める、925(延長3)権律師、914「華嚴宗章疏並因明録」、「五宗録」著(1667釈教諸師製作目録入)
- B1324 円朝(えんちよう;法諱、北条宗教男)?-? 鎌倉後期歌人、天台園城寺僧;法印、玉葉集1895、[をる人のまれなるにこそ山桜とはれぬ宿もなぐさまれけれ](玉葉;雑1895)
- F1322 円澄(演澄えんちよう;法諱・宝洲;字、祐山男)1685-172642 美濃の真宗大谷派称名寺住職、1691出家、宗義;1701寂雅/是空門、智積院法音門;起信注疏を修学/鳳譚門;起信義記を修学、1702是空・円爾より宗乗を修学、1704改名;円澄/24(享保9)講師、「円澄師自伝」「鬪諍堅固記」「阿弥陀経義疏略考」「五教章鈔」著、1725「演澄年譜」編、外著多、[円澄の別法諱/字/諡号] 初法諱;玄祐/録生/円超/のち円澄、字;宝洲、諡号;称名院
- U1323 演暢(えんちよう;法諱・安井やすい)1827-9670 河内河内郡四条村の乗揚寺住僧、国学・歌;岩崎美隆・村田春門門
円澄(えんちよう;法諱・湛堂)→ 湛堂(たんどう;道号・円澄、曹洞僧) I 2 6 9 9
円澄(えんちよう) → 知電(ちでん;法諱、真宗僧) E 2 8 8 3
円長(えんちよう;法諱・天岩)→ 天岩(てんがん;道号・円長、曹洞僧) D 3 0 2 8
円蝶(えんちよう・三遊亭) → 円馬(えんば・花枝房はなしばう・立川、嘶家) C 1 3 2 0
演徴(えんちよう・由比ゆい) → 演徴(のぶあきら・由比ゆい、藩士/歌人) 3 5 8 6
延朝(えんちよう・中臣) → 延朝(のぶとも・中臣、神職/歌人) C 3 5 3 7
延長(えんちよう・飯塚) → 空谷(くうこく・村山むらやま/飯塚、儒者) C 1 7 0 1
延長(えんちよう・佐竹) → 延長(のぶなが・佐竹さたけ、三山先達/国学) I 3 5 5 2
遠長(えんちよう・村山) → 守雄(もりお・村山/三井、藩士/歌人) F 4 4 2 0
宴長(えんちよう・小山) → 武矩(たけのり・小山こやま、藩士/兵法/俳) O 2 6 6 0
円朝証智禅師(えんちようしゅうちぜんじ)→ 道秀(どうしゅう;法諱・松嶺、臨濟僧) F 3 1 0 1
- B1325 円珍(えんちん;法諱・遠塵;字、俗名;佐伯/和氣広成、和氣宅成男)814-89178 天台宗寺門派の祖、讃岐の生/母は空海の姪、828(15歳)比叡山の義真門/受戒;12年籠山/内供奉十禅師に勅任、853-858入唐、帰国;859園城寺再興に着手、863伝法灌頂/866園城寺別当、868(貞観10)天台座主(5世)/883法眼和尚位を受/890少僧都、没後;法印大和尚追贈、「在唐記」「在唐私記」「在唐日録」「法華論記」「授決集」「阿若集」「縁覚集」「独悟集」外著多数、歌;新古(1921/1922)、[法りの舟さしてゆく身ぞもろもろの神も仏もわれをみそなへ](新古今;釈教1921、入唐時の歌/みそなへはご覧・お守りあれの意/乗りと法・棹さすと法をさすを掛る)、[円珍(法諱)の幼名/諡号]幼名;広雄、諡号;智證大師ちしうだいし
延珍(えんちん・岡崎) → 千兮(せんけい・岡崎/竹内、俳人) M 2 4 1 4
- U1334 円通(えんつう;法諱、) ? - ? 鎌倉南北期;法師、歌人;藤葉集入、[うき人の袂にやどる月ならば我がこころをやそへてみせまし](藤葉;恋497)
- F1323 円通(えんつう;法諱、功德雲院)?-1791 三河の真宗高田派僧;三河桑子の妙源寺住職、駿河浄円寺の恵海門、屢々本山伊勢専修寺の安居本講を務める、「温古鈔」著
- F1324 円通(えんつう;法諱、珂月;字、俗姓;山田)1754-183481 因幡の日蓮宗の家の生;1760(7歳)出家、

各宗の碩学につき修学/天台浄土僧;梵曆に精通、晩年;芝増上寺住;曆法講義、洋曆を排す、護法勤皇運動を興す、1810「仏国曆象編」24「羽翼原人論」、「梵曆議考」「梵曆策進」外著多数、
[円通の号] 無外子/普門ふもん

- 円通(えんつう;字) → 日峰(にっぽう;法諱・和光院、日蓮僧) F 3 3 6 3
 円通(えんつう;号) → 仙厓(せんがい;道号・義梵;法諱、臨濟僧/禅画) F 2 4 0 1
 円通(えんつう;道号) → 道成(どうじょう;法諱・円通、黄檗僧) F 3 1 5 1
 円通(えんつう;字) → 存統(ぞんとう;法諱、浄土僧、天文地理) F 2 5 6 8
 円通(えんつう;号) → 魯道(ろどう;法諱、曹洞僧/国学者) C 5 2 7 9
 延通(えんつう・中臣) → 延通(のぶみち・中臣/大東、神職) D 3 5 3 6
 円通院(えんつういん) → 日亮(にちりょう;法諱・上聖院、日蓮僧) D 3 3 6 0
 円通院(えんつういん) → 光宗(みつむね・伊達だて、世子/歌) E 4 1 9 3
 円通大応国師(えんつうだいうこくし) → 紹明(じょうみょう/じょうみん・南浦、臨濟僧) 2 2 0 5
 円通大師(えんつうだいし) → 寂照(じやくしやう、入宋天台僧/歌人) 2 1 3 6
 円通大師(えんつうだいし) → 鉄舟(てつしゅう;道号・徳濟、臨濟僧) C 3 0 3 8
 円通道成(えんつうどうじょう) → 道成(どうじょう;法諱・円通、黄檗僧) F 3 1 5 1

B1383 延貞(えんてい) ? - ? 京俳人、1687言水「京日記」歌仙/90「新撰都曲」入、
[此の里は棺ひぎ通さぬ田植かな](都曲;406/御田植;

住吉大社御田植の時御田のある小田村の里は葬列さえも通さない)

- 延貞(えんてい・大路) → 延貞(のぶさだ・大路おおじ、国学者/歌人) H 3 5 6 7
 延貞(えんてい・明星) → 延貞(のぶさだ・明星あかばし、商家/歌人) H 3 5 1 1
 円諦(えんたい・浄徳寺) → 円諦(えんたい・浄徳寺じやうとくじ、僧/歌人) T 1 3 8 1
 塩亭(えんてい) → 知明(ともあき・藤塚、復古神道家) P 3 1 1 0
 園亭(えんてい・浅野) → 鹿古(しかふる・浅野あさの、藩士/俳人) P 2 1 8 4
 縁定(えんてい;法諱) → 縁定(えんじやう;法諱、法師/歌人) U 1 3 4 3
 腕亭(えんてい・浜武はまたけ) → 治兵衛(じへい・浜武/本田、宿老/洋砲) V 2 1 6 2
 遠図(えんと・北脇/広瀬) → 保水(ほすい・広瀬/北脇、実業家) E 3 9 3 5

F1325 衍灯(えんとう;法諱・喝伝かつでん;道号) 1672-1734⁶³ 尾張黄檗僧;天然/鉄鞭門、1706尾張地蔵堂住持、
1728大竜寺創建、「喝伝禅師住福寿山大竜寺語録」著

B1326 円道(えんどう・法師、心円法師男)?-? 鎌倉後期僧/歌人、新後撰1422

[行末もさこそと思へばあらましのなぐさめだにもなき我が身かな](新後撰十八;雑1422)

- 遠藤(えんどう・藤原) → 遠藤(とおふじ・藤原ふじわら、連歌) I 3 1 7 1
 遠洞湖(えんどうこ) → 白也(はくや・寺島てらしま、代官/俳人) D 3 6 9 8
 円徳院(えんとくいん) → 敦通(あつみち・久我こが、廷臣/連歌) C 1 0 7 2
 縁督堂(えんとくどう) → 野径(やけい・縁督堂、俳人) 4 5 5 3
 円頓斎(えんとんさい) → 不白(ふはく・川上、茶道/俳人) D 3 8 6 3
 円頓坊(えんとんぼう) → 日泰(にったい・心了院、日蓮僧/連歌) E 3 3 9 6
 円頓房(えんとんぼう;号) → 尊海(そんかい;法諱・円頓房、天台僧) F 2 5 2 3
 円頓法印(えんとんぼういん) → 尊海(そんかい;法諱・円頓房、天台僧) F 2 5 2 3

B1327 円爾(えんに;法諱、俗姓;平) 1202-80⁷⁹歳 駿河安倍郡藁科の生/1206(5歳)久能山禿辯の童子、
1219園城寺に出家;天台教学修得/臨濟;上野長楽寺の榮朝門/久能山の見世阿闍梨門、
鎌倉寿福寺の行勇門、1235入宋;径山の無準師範門;嗣法/41帰国/筑前太宰府崇福寺を開、
博多承天寺で仏心宗主唱、顕密禅の宗風を高揚;公武の帰依多数、
1243九条道家から聖一和尚号を受;55道実建立臨濟宗東福寺に招聘開山、東大寺大勧進職、
臨濟宗東福寺聖一門派を形成、没後;1311花園天皇より国師号を贈与、
1270「三教要略」72「大日経見聞」75「十宗要道記」著、「聖一国師仮名法語」「聖一国師語録」、
[円爾の別法諱/号]別法諱;辯円(一時期)、号;聖一しょういち和尚、諡号;聖一国師

- 円耳(えんに;法諱) → 虚応(こおう;道号・円耳;法諱、日蓮のち臨濟僧) L 1 9 7 7
 円耳(えんに;字) → 眞流(しんりゅう;法諱・円耳;字、天台僧) Q 2 2 0 7

B1384 円入(えんにゅう;号、二月坊)?-? 近江大津の俳人:尚白門、
1722(享保7)尚白追善「夕かほの歌」宰陀と共編

- F1326 円如(えんにょ;法諱) ? - ? 寛政弘化1789-1848頃比叡山天台西塔正教坊住僧、大僧正/1829探題、1839光格天皇崩御・1846仁孝天皇崩御の時の中陰27日供養を務む、1798「貞心得得舎利記」1846「仁孝天皇尊儀二七日般舟院御経供養法則」著
- F1327 円如(えんにょ;法名・馬嶋まじま、名;嘉七/字;忍甲、広橋三郎兵衛男)1802-5554 尾張愛知郡の眼科医、1830-40頃長崎遊学/兄の後継;馬嶋流眼科28世/僧正、「眼科折衷大全」「金篋大成」著、[円如(;法名)の号] 白馬洲復明堂主人/復明堂
 円如(えんにょ;山城本願寺住職)→ 光融(こうゆう・蓮如孫) L 1 9 3 7
 円如(えんにょ;字) → 法道(ほうどう;法諱、浄土僧) C 3 9 4 0
 円如(えんにょ;字) → 琳賢(りんけん;法諱・円如;字、真言僧) K 4 9 1 4
- B1328 円仁(えんにん;法諱・諡号;慈覚大師、俗姓壬生)794-86471 天台山門派祖、下野生/9歳出家;広智門、808叡山;最澄門、摩訶止観を修学/813試業に合格/814得度/東大寺で具足戒を受、838-847入唐;五台山を巡拝;帰国時に多数の仏典を請来、848(嘉祥元)伝灯大法師位を受、叡山常行三昧堂を開/総持寺を建立、851五台山念仏三昧法を模して常行三昧を始修、854(斉衡元)天台3世座主に就任、「入唐求法巡礼行記」「在唐記」「又顕集」「義綱集」、「金剛記」「三部記」「胎蔵記」「自行要記」「五台山念仏三昧伝授記」「薬師記」外著多数、864(貞観6)没、歌人;勅撰3首;新古今1587/続古756/新拾1453、[おほかたに過ぐる月日とながめしは我が身に年の積もるなりけり]、(新古;雑1587/時の流れという無常の理が自身の老いとして実感)
- B1329 縁忍(えんにん・本覚房上人)?- ? 1181存 天台僧;良忍門、大原上人の1、1179藤原基房出家の戒師、寂念・寂超に止観を授与、歌人;後徳大寺実定・西行らと大原来迎院で詠歌、1155-6寂超「後葉集」1首(501)入(宴仁名の写本もある)、万代集入、続後撰1120(万代集3695入;三句くやしきは)、[山の端に影かたぶきてかなしきはむなく過ぎし月日なりけり](続後撰十七;1120)
- F1328 円忍(えんにん;法諱・真政;字、俗姓;窪田)1609-7769 加賀石川郡窪田村の真言律僧/1622伏見院入、1623(15歳)出家;快玄門、1626高野山入;長青門;金剛界胎蔵界の灌頂を受/1647円通寺住、1649南都上宮皇院住/72神鳳寺住;法起寺兼務、「観行要集」/1668「観行要法集」74「修善要法集」著
- F1329 延年(えんねん・俵屋たわらや)?- ? 大坂の商人;横堀船町年寄役豪商俵屋の一族か?俳人;1777蕪村「夜半楽」2句/1782蕪村「花鳥篇」1句入、[遠里とほざとに人声こもるかすみかな](夜半楽;48)
- C1319 延年(えんねん・山口やまぐち、修姓;余)1746-181974歳 尾張知多郡大高の篆刻家;高芙蓉門、俳諧:暁台門、画;増山節斎門、「風塵随筆」「緑竹集」「宣和集古印史」著、[延年(;名)の字/通称/号]字;千秋、通称:九郎右衛門/九郎左衛門号;墨山ほくざん/緑竹斎/風塵翁/風塵道人/魯堂/魯台/成修処士/墨山樵者、大魚たいぎよ父
- F1330 延年(えんねん・山澄やますみ/本姓;平)?-? 江後期紀伊和歌山藩の侍医/医学;水野皓山門、京新町武者小路北の開業医、1807(文化4)丹波頼理「本草薬名備考和訓抄」校訂/増補刊行、1815「可恃録」校訂、[延年(;通称)の号] 静安/玳洲たいしゅう
- B1331 延年(えんねん・長谷川はせがわ/本姓;藤原、名;守眞/庸勅/長庸)1803-8785 京の生/代々三条家家臣、大阪で軍学/柔剣術を教授、書画筆写/篆刻に長ず、妻は河内八尾の大庄屋杉原純左衛門女、大塩平八郎と交流、晩年は河内八尾住、近郷の子弟教育、遠州流生花/盆石/茶道を指南、1829「裸集録」30「百品紅葉図」31「荷蘭甲冑馬具図」、57「博愛堂古印譜」編、[延年の字/通称/別号]字;子淳/士淳、通称;式部/万比等/眞人、別号;如一/山隠樵夫/玉洲外史/楓洞/楓洞逸人/韜光斎/博愛堂、法号;积了眞
 延年(えんねん・高辻) → 胤長(たねなが・高辻たかつじ、廷臣/記録) R 2 6 8 9
 延年(えんねん・勝野/大沢) → 延年(のぶとし・勝野/大沢、藩士/故実) C 3 5 3 3
 延年(えんねん・児玉) → 延年(のぶとし・児玉、藩士/兵学/画) C 3 5 3 5
 延年(えんねん・岡) → 延年(のぶとし/えんねん・岡おか、商家/絵師) H 3 5 7 7
 延年(えんねん・松村) → 梅岡(ばいこう・松村まつむら、儒者/詩人) B 3 6 1 7

延年(えんねん・橋爪) → 玄惟(げんい・橋爪、医阿/漢学者/剣術) H 1 8 6 9
 延年(えんねん・木村) → 尚寿(しょうじゅ・木村きむら、和算家) J 2 2 5 0
 延年(えんねん・菱川) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7
 延年(えんねん/のぶとし・青山) → 雷巖(らいがん・青山あおやま、漢学者) 4 8 2 8
 延年(えんねん・大高坂) → 南海(なんかい・大高坂おたかかさか/山本、藩士/詩/画) O 3 2 9 4
 延年(えんねん・中路) → 延年(のぶとし・中路なかじ/岡本、藩士/尊攘) J 3 5 3 4
 延年(えんねん・大蔵) → 延年(のぶとし・大蔵おおくら、宿業/教育) H 3 5 6 6
 延年(えんねん・志賀) → 延年(のぶとし・志賀しが、藩士/国学者) I 3 5 6 6
 延年(えんねん・菊川) → 延年(のぶとし・菊川きくかわ、庄屋/儒・国学) I 3 5 1 6
 延年(えんねん・村田) → 延年(のぶとし・村田むらた、藩士/国学/歌) K 3 5 1 5
 円然(えんねん;法名) → 頼藤(よりふじ・葉室/藤原、権大納言/日記) J 4 7 7 1
 延年亭(えんねんてい) → 源一(げんいち・片桐かたぎり、歌人) H 1 8 7 0
 役小角(えんのおづぬ) → 役行者(えんのごうじや、修験道の祖) B 1 3 3 2

B1332 **役行者**(えんのごうじや、役小角えんのおづぬ/えのおづぬ・役之君)?-? 699存 奈良期修験道の祖、葛城で呪術、弟子の韓国連広足の讒言で伊豆配流(続日本紀)、靈異記以下の説話集に逸話、鬼神を使役し金峰山と葛城山に架橋逸話;修験者の理想/伝説化し諸国に足跡説話、「三身壽量無辺経」「庭檀大護摩供養次第」「柴燈護摩供養次第」外著多数

役祐誠(えんのゆうじょう) → 祐誠(ゆうじょう;法諱・字;玄明、修験僧) C 4 6 6 2
 円之助(えんのすけ・高妻) → 秀馨(ひでか・高妻こうつま、儒者/教育者) J 3 7 5 7
 猿之助(えんのおすけ・平岩) → 元珍(げんちん・平岩、藩士/儒/音楽) L 1 8 4 5
 焰之助(えんのおすけ・小倉) → 実麿(さねあき・小倉おぐら/林、幕臣/歌) K 2 0 6 9
 役赤城(えんのせきじょう) → 義観(ぎかん・島田、修験僧) J 1 6 8 9

B1333 **焉馬**(えんば・烏亭うてい、中村なかむら、名;英祝/利貞) 1743-1822 80歳 江戸本所の大工棟梁、狂歌;四方側/戯作/落噺;落語中興、1786「咄の会」主催、俳諧;2世祇徳門、浄瑠璃/歌舞伎精通、市川團十郎後援会「三升連」組織、1780浄瑠璃「碁太平記白石噺」作、1784「太平楽記文」1796「喜美談語きびだんご」著、97「落噺六義」編、1804読本「絵本敵討待山話」著、1804「狂言綺語」編、06南畝「ひとつもと草」狂文2編;「萩寺縁起」等、1811「花江都歌舞妓年代記」外著多数

[焉馬(;号)の通称/別号] 通称;和泉屋和助、別号;立川たてかわ焉馬/立川たてかわ談洲楼/鑿鉞言墨金のみちょうなごんずみかね/立川舎/英祝軒/桃栗山人柿発ももくりさんじんかきはっさい/烏亭窓/肝积坊/塞翁斎/朝鮮堂弘慶子/本庄馬助 など

B1334 **焉馬**(二世えんば・烏亭、山崎、名;嘗[賞]次郎/助右衛門) 1792-1862 71 江戸南町奉行与力/遊蕩、家督を弟に譲、狂歌;五側・春本作者・歌謡、相撲行司、1828焉馬襲名、32「妖狐天網島」著、1835「一日千里」45「相撲節会銘々伝」50「新落し噺」57「青楼心得草」、「巽八景」外著多数、[2世焉馬の別号]松寿庵永年/七国楼/立川焉馬2世/蓬萊山人帰橋2世/近松門左衛門2世/(春本名);猿猴坊月成/(相撲行司名);式守鬼一郎、

妻みよ[立川たてかわ梅子(榎子うめこ)];狂言師/歌/画人

B1385 **焉馬**(三世えんば・烏亭うてい、木元きもと佐一郎)?-? 江戸の狂歌作者、江戸山王社の神官

C1320 **円馬**(えんば・花枝房はなしばう/葉南志坊・立川)?-1880 江戸噺家:初世林屋正蔵門/初世三遊亭円生門、1846「落噺千里藪」、「かわりもんくとつちりとん其他」編、門人;三遊亭円馬/白井杵蔵

[花枝房円馬の別号] 三遊亭春好/円蝶/葉南志坊はなしばう円馬、トッチリトンの王と称される

淵梅軒(えんばいけん・西川) → 如見(るけん・西川/源、暦算家) C 2 2 4 0
 円白(えんぱく;字) → 寂然(じやくねん;法諱・円白;字、真言僧) W 2 1 1 5
 淵伯(えんぱく・奥村) → 玉蘭(ぎょくらん奥村、醸造業/儒/画) P 1 6 4 2
 煙波釣叟(えんぱちようそう) → 大湫(たいしゅう・南宮なんぐう、儒者) B 2 6 5 3
 煙波釣徒(えんぱちようと) → 草雲(そううん・田崎たざき、藩士/絵師) 2 5 5 9
 煙波亭(えんぱてい) → 知明(ともあき・藤塚ふじつか、神道家) P 3 1 1 0
 延繁(えんはん・高木) → 延繁(のぶしげ・高木たかぎ、神職) I 3 5 9 3

B1335 **円範**(えんぱん・律師) ? - ? 歌人、続拾遺1053、

[いつまでのなさけなりけんいつはりのことのはさへぞ今は恋しき](続拾十五;恋1053)

次項天台僧と同一人か→ 円範(えんぱん、俗姓藤原、園城寺僧) F 1 3 3 1

- F1331 円範(えんぱん;法諱、藤原保家男)1027-9266歳 平安後期園城寺天台学僧;長守僧正門/権律師、天台密教を修学、1061竜華院阿闍梨/79最勝講会聴衆に列す/1081-87頃;二会の講師、「局通対」「阿毘達磨俱舍論本義鈔」「法差別」「有法差別短尺」「因明世流布名目抄」著
前項歌人と同一人?→ 円範(えんぱん・律師、続拾遺歌人) B 1 3 3 5
遠帆楼(えんぱんろう) → 醒窓(せいそう・恒遠つねとお、儒者/詩) C 2 4 5 0
- F1332 艶美(えんび・在原ありわら、別称;業平艶美/成平榻見)?-? 江中期江戸本所業平橋畔の洒落本作者、1781「家内手本町人蔵」83「読と歌通の一字」、98「浴爵一口浄瑠璃」著
延美(えんび・冢田) → 旭嶺(ぎよくれい・冢田つかた、医/儒者) P 1 6 4 4
延美(えんび・立花/黒田)→ 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7
延美(えんび・石渡) → 延美(のぶよし・石渡いしわた、神職/国学) H 3 5 3 6
延駒(えんびん・志賀) → 延駒(のぶもと・志賀しが、藩士/国学/歌) I 3 5 6 7
- B1386 園夫(えんぶ・木村きむら)1738 - ? 歌舞伎作者:初世桜田治助門、1798森田座市川團十郎付作者、1790-1805頃活躍/歌・俳諧を嗜む、1781治助「四天王宿直着綿」番付/98「東下花関札」1800「江戸花五枚錦絵」著、1800「源氏雲黄金限取」、04「四天王楓江戸粧」07「両顔ふたおもて月姿絵」外著多数、[木村園夫の別号] 木村園次(初号)、園治、紅粉助べすけ、ゑんぶ、遠鳧、松好堂
偃武(えんぶ・吉田) → 千鶴(ちづる・吉田よしだ、絵師) N 2 8 7 7
延武(えんぶ・宇治) → 延武(のぶたけ・宇治うじ、藩士/教育) H 3 5 4 6
ゑんぶ(遠鳧えんぶ・木村)→ 園夫(えんぶ・木村、歌舞伎作者) B 1 3 8 6
園夫(えんぶ・中村) → 園夫(そのお・中村なかむら、醸造業/国学) L 2 5 0 7
- F1333 園風(えんぶう) ? - ? 伊賀上野藩士/俳;蕉門、1689(元禄2)より伊賀で芭蕉の俳席に参ず、1691「猿蓑」5句入、[いかのぼりこゝにもすむや潦にはたづみ](猿蓑;卷四/雨後の空に風;水溜にも静かに映る、すむは静かに落着いているさま/潦はここでは雨上がりの地上の溜まり水)
猿風(えんぶう) → 木兵(もくべい・岡島おかじま、伊丹俳人) B 4 4 0 8
(1684「かやうに候ものは青人・猿風・鬼貫にて候」[百韻三卷のうち第二卷]入)
衍復(えんぶく;別法諱) → 聞中(もんちゅう;道号・浄復;法諱、黄檗僧) I 4 4 6 6
円福室(えんぶくしつ;室号)→ 淇園(きえん・柳沢、詩/書画) 1 6 0 3
円布軒(えんぶけん) → 貞処(ていしょ・野村のむら、和算家) B 3 0 1 6
- F1334 艶文(えんぶん・工藤くどう、名;彝/字;徳卿、与力安左衛門男)?-1807 弘前藩士/儒;山崎蘭州門、蘭州門四傑/藩校稽古館学士/1807長柄奉行として蝦夷視察;帰途客死、「艶文遺文集」、[艶文の通称/別号] 通称;民助、別号;艶文いぶん/西郭
- T1386 艶文(えんぶん・風間かざま) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[山の井のみづから浅き心とは思日ながらもかき濁しつつ](大江戸倭歌;雑1867)
延文(えんぶん・度会) → 延文(のぶふみ・度会わたらい、神職/歌人) K 3 5 5 8
円平(えんべい・野村) → 空翠(くうすい・野村、商家/詩歌/勤王) C 1 7 2 5
円平(えんべい・網野/雨宮)→ 義友(よしとも・網野あみの/菅原/雨宮、商家/国学) L 4 7 2 8
延平(えんべい→のぶひら・細川)→ 清斎(せいさい・細川ほそかわ、藩儒/詩文) B 2 4 5 9
延平(えんべい・下里) → 延平(のぶひら・下里しもさと、国学者) D 3 5 0 6
延平(えんべい・土肥) → 延平(のぶひら・土肥どひ、藩士/歌/武術) J 3 5 2 6
延平(えんべい・笠倉/網野)→ 延平(のぶひら・網野/笠倉、歌人) D 3 5 0 8
遠碧(えんべき・青木) → 鳳毛(ほうもう・青木/広瀬、藩儒者) C 3 9 6 0
遠碧軒(えんべきけん) → 道祐(どうゆう・黒川玄逸、医/儒/地誌) 3 1 2 6
円兵衛(えんべい・池田) → 春尚(はるひさ・池田いけだ、国学) J 3 6 6 9
- B1339 円弁(えんべん・了達房)1203 - ? 東大寺華嚴僧/歌;明恵[高弁]門、1224(貞応)・26(嘉禄2)の明恵の講義を同門高信・喜海と筆録;[解脱門義聴集記]に編纂、1228「明恵上人歌集」入、[聞くままに心はすみぬ清滝の波にともなふ峰の松風](明恵歌集;142/明恵への返歌)

(安貞二1228初秋明恵の贈歌;秋の夜はわきぞかねつる清滝の波にともなふ峰の松風)

1237刊[檜葉集]入の円弁法師と同一?

[きえのこるくさばの露をとめかねてあらしにまよふのべの月影](檜葉;雑823)

- C1322 淵輔(えんぼ・高原、東郊とうこう父)?-? 江中期岡山儒:藩老日置家儒臣、「左氏春秋書例」編;東郊補
塩浦(えんぼ・小川) → 官介(かすけ・小川おがわ/桜井、儒/国学) T 1 5 8 5
円方(えんぼう・村上) → 円方(まどかた・村上、国学/歌人) J 4 0 9 2
円方(えんぼう→みちまさ・田付) → 景利(かげとし・田付、砲術家/歌人) L 1 5 0 6
遠方(えんぼう) → ト枝(ぼくし、俳人) D 3 9 3 1
延宝(えんぼう・中西) → 国器(くにかた・中西なかにし、儒者/詩歌) E 1 7 3 8
遠望閣(えんぼうかく) → 鑑寿(あきひさ・立花たちばな、藩主/歌人) 1 0 8 0
- B1387 円法師(えんほうし) ? - ? 連歌、1592「大山万句三物」連衆
円方女王(えんほうじよおう) → 円方女王(まどかたのおおきみ、長屋王女、万葉歌人) J 4 0 9 3
円法房(えんほうぼう) → 定真(じょうしん;法諱、真言僧/明恵門) K 2 2 0 0
- F1335 円木(えんぼく) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」3句(191/421/426)入
[真菰まこも刈るうさに戸扣たく水鶏かも](卯辰;191/すみかの無くなる辛さ/かもは詠嘆)
延本(えんぼん・立花/黒田) → 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7
遠方(えんぼう/おちかた・加賀美) → 此一(いち・加賀美/加々美かみ/於曾おそ、藩士/俳人) P 2 1 5 8
延方(えんぼう・鈴木) → 延方(のぶかた・鈴木すずき、歌人) G 3 5 8 1
延房(えんぼう/のぶふさ・染崎) → 春水(2世しゅんすい・為永、藩士/戯作者) 2 1 5 8
遠木軒(えんぼくけん) → 立心(りゅうしん・小出こいで、俳人) E 4 9 7 5
延本(えんぼん・立花/黒田) → 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7
円満(えんまん;号) → 憲静(けんせい/けんじょう;法諱、真言僧) K 1 8 4 2
円満院大僧正(えんまんいんのだいそうじょう) → 明尊(みょうそん、天台園城寺僧/歌) G 4 1 5 5
円満院大僧正(えんまんいんのだいそうじょう) → 行尊(ぎょうそん、天台座主/歌) 1 6 3 5
円満広照禅師(えんまんこうしょうぜんじ) → 南嶺(なんれい・慧詢、臨濟僧) J 3 2 7 2
円満常照国師(えんまんじょうしょうこくし) → 祖元(そげん;法諱・無学;道号、渡来臨濟僧) 2 5 2 0
円満智(えんまんち;法名) → 後花園天皇(ごはなそのてんのう、学門/詩歌) D 1 9 5 8
円満坊(えんまんぼう) → 慶算(きょうさん/けいさん;法諱、江戸前朝天台僧) S 1 6 2 9
円満本光国師(えんまんほんこうこくし) → 大休(だいきゅう;道号・宗休;法諱、臨濟僧) J 2 6 6 2
塩味(えんみ・小堀) → 宗中(そうちゅう・小堀こぼり/源、幕臣/茶人) B 2 5 8 6
- F1336 円明(えんみょう;法諱、紀州良豊田丸太夫男)?-851 僧/南都で三論僧/真言僧;空海門;密教修学、
824高雄神護寺で空海より両部灌頂を受/850(嘉祥3)正律師、
「弘法大師略頌鈔」「観音経略解」「五悔鈔」「三学論」「大乘要義法門」「十界義」著
- F1337 円妙(えんみょう;法諱・戒珠;字)?-1738 江戸の真言律僧;湯島靈雲寺慧光門、
武州埼玉郡大相模大聖寺主、1730(享保15)「門徒教誠篇」著
縁妙(えんみょう) → 監君(げんのきみ、縁妙、賀茂女の女) E 1 8 4 7
遠妙院(えんみょういん/おんみょういん) → 日穩(にちおん;法諱・慧活、日蓮僧) 3 3 9 7
園妙院(えんみょういん) → 日耆(にちぎ;法諱・玄得、日蓮僧) B 3 3 2 2
円明院(えんみょういん;法号) → 最胤親王(さいいんしんのう、天台座主) G 2 0 5 0
円明院(円妙院えんみょういん) → 日澄(にっしょう・啓運、日蓮僧) F 3 3 1 6
円明院(えんみょういん) → 行智(ぎょうち;法諱・慧日、修験道/歌) C 1 6 7 7
円明院(えんみょういん) → 義峰(ぎほう・義峯よしみね・佐竹さたけ、藩主) N 4 7 1 0
延命院僧都(えんみょういんのそうず) → 元泉(げんこ;法諱・真言房、真言僧) B 1 8 7 2
円明寺関白(えんみょうじかんぱく) → 実経(まねつね・一条/藤原/九条、一条祖/関白・摂政/歌) D 2 0 2 1
円明禅師(えんみょうぜんじ) → 徳忠(とくちゅう;法諱・節香、曹洞僧) L 3 1 2 2
円明叟(えんみょうそう) → 月林(げつりん/がつりん;道号・道皓、臨濟僧) H 1 8 4 1
円明大師(えんみょうだいし) → 元選(げんせん;法諱・無文;道号、臨濟僧) C 1 8 5 0
延命(園菟えんめい・娛息斎/五息斎) → 君山(くんざん・唐橋、儒医/狂詩) B 1 7 2 2
延明(えんめい・度会) → 延明(のぶあき・度会わたらい、神職/歌) 3 5 6 8
延明(えんめい・田中/清妻) → 菊丸(きくまる・田中たなか/清妻、文筆家) K 1 6 2 7

- 遠明(えんめい・藤原) → 遠明(とおあき/とおあき・藤原、廷臣/歌) I 3 1 5 6
 遠明(えんめい・下野) → 遠明(とおあき・下野もの、藩士/攘夷論) I 3 1 5 7
- F1338 延明門院(えんめいもんいん・延子えんし/のぶに内親王、伏見天皇皇女) 1291-? 鎌倉期;1315出家/院号、女房に大夫だいは(歌人)
 延命院僧都(えんめいいんのそうず) → 元杲(げんこう;法諱・真言房、真言僧) B 1 8 7 2
 延命寿院(えんめいじゅいん) → 玄朔(げんさく・曲直瀬まなせ/河崎、医者) J 1 8 1 4
 延明門院大夫(えんめいもんいんのだいは) → 大夫(だいは・延明門院、歌人) C 2 6 1 3
 淵黙(えんもく) → 鳥道(ちょうどう・広部、儒者/陽明学) J 2 8 5 7
 淵黙(えんもく・古田) → 広計(ひろかず・古田ふるた、藩士/歌人) F 3 7 6 8
- F1339 円門(えんもん;法諱・字;法蘭/曇茂)?-1794 豊前日田の真宗大谷派僧;黄檗僧大潮門、豊前広円寺住職、儒学/詩人、1793(寛政4)「銭塘詩集」著
 [円門の号] 銭塘/泥華でいげ院
 篤門(えんもん・横田) → 篤門(すずかど・横田よこた、国学/歌人) J 2 3 3 8
- U1329 円弥(えんや;法諱/法師)?-? 江前期;京の僧/歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]入、[書きすさむ硯の海のふかき江にうつろふ月の影はにごらじ](麓の塵;雑620)
- F1340 円弥(えんや;通称・中島なかしま、名;紀政/別通称繁三郎)?-? 1860存 江後期尾張名古屋藩士、数寄屋頭、儒者/歌;鈴木腹あきら[1764-1837]門、「宇治御用根留」著
- B1336 円勇(えんゆう;法師・通称;三河阿闍梨)?-? 1265存 鎌倉期園城寺の天台僧/律師/僧都?、歌・連歌、將軍宗尊親王期の鎌倉歌壇で活動/1265連歌会執筆/74長景と歌贈答、1279宗頼供養導師、勅撰6首;続古(1646)続拾(639/1072)新後撰(688/1421)続千(1406)、[蘆根はふ入江の小舟をぶねさすがなほうきにたへても世を渡るかな](続古今;雑1646)
- F1341 円猷(えんゆう;法諱、伏見宮貞致親王男/専修寺堯円の養子) 1694-1753 60 伊勢の真宗高田派僧、1708得度/1710本山専修寺17世、「専修寺円猷書状」著、内室;常子(紫雲光院)
 [円猷の号] 韞玉おんぎょく/如笑/桃塢/従容窠しょうようか、諡号;歓喜心院
- F1342 円猷(えんゆう;法諱・号;長松園)?-? 江中期越中富山の真宗本願寺派大徳寺住職、歌;小沢廬庵門、1834刊「長松園歌集」「言葉の枝折」「雅言延約考」著
- 円融(えんゆう) → 玉周(ぎょくしゅう;法諱・円巖/退室、律宗僧) P 1 6 0 5
 円遊(えんゆう・金原亭) → 馬生(初世ばしょう・金原亭、落語家) E 3 6 5 6
 円雄(えんゆう・今井) → 似閑(自閑じかん・今井、商家/国学者) 2 1 0 6
 延裕(えんゆう・田中) → 延裕(のぶひろ・田中たなか、藩士/国学) I 3 5 8 6
 燕遊軒(えんゆうけん) → 重栄(じゅうえい・竹山、俳人) G 2 1 8 4
 円融禅師(えんゆうぜんじ) → 峻翁(しゅんおう;道号・令山;法諱、臨濟僧) L 2 1 7 1
- B1337 円融天皇(えんゆうてんのう、名;守平、村上天皇第5皇子) 959-991 33 母;藤原師輔女の中宮安子、在位896-984、985出家;法名は金剛法/986大井河行幸;(公任の三船故事)、歌;家集「円融院御集」、玄々集2首入、勅撰24首;拾遺(20/971)詞花(395)新古今(7首381/1173/1439以下)新勅(1165)続後撰以下、[限りなき思ひの空に満ちぬればいくその煙雲となるらん](拾遺;恋971、在位中の詠、少将更衣に贈歌/更衣の返歌;空に満つ思ひの煙雲ならばながむる人の目にぞ見えまし)
- 円融房(えんゆうぼう) → 明雲(めいうん・みょううん;法諱、天台座主) 4 3 0 6
 円融房(えんゆうぼう) → 澄覚法親王(ちようかくほつしんのう、梶井宮門跡/歌人) H 2 8 6 8
 円融房(えんゆうぼう) → 覚雲親王(かくうんしんのう、天台僧) J 1 5 5 2
 円融房(えんゆうぼう) → 堯胤法親王(ぎょういんほつしんのう、天台僧/歌) G 1 6 5 6
 円誉(えんよ;法名) → 師嗣(もろつぐ・二条/藤原、関白/歌人) H 4 4 4 4
 縁誉(えんよ・三蓮社) → 称念(しょうねん;法諱、浄土僧) L 2 2 3 2
 厭誉(えんよ;号) → 称阿(しょうあ;号、浄土僧) G 2 2 4 8
 淵誉(えんよ・玉蓮社) → 託庵(たくりゅう・性雲、浄土僧) E 2 6 3 1
 延庸(えんよう・中臣) → 延庸(のぶつね・中臣/富田、神職/歌人) C 3 5 1 6
 縁楊(えんよう・関せき) → 伝笑(でんしょう・関亭、合卷/読本) D 3 0 8 3
 焉用軒(えんようけん) → 道竹(どうちく・石河いしかわ、儒;陽明学) G 3 1 3 9
 延養亭(えんようてい) → 古音(こおん・菰口こもぐち、俳人) L 1 9 7 9

- C1342 淵瀬(えんらい/ふちせ) ? - ? 江戸中期京俳人、1689言水「前後園」入/90「蓮の葉」編、1690言水「新撰都曲」入/91団水「団袋」両吟半歌仙入/91江水「元禄百人一句」入、1691「蓮の葉」2句入、1692団水「くやみ草」両吟3吟など入、1702轍士「花見車」入、[付きそひて妻は出いでぬか鉢たゝき](百人一句:92/鉢叩よお前の妻は来ないのか)[堂ふるしうしろは浅黄桜あさぎざくら哉](花見車;128)
 烟羅館(えんらかん、「両都妓品」序)→ 庄次郎(しょうじろう・蔓蔦屋/蘭洲/妓楼経営) T 2 2 5 5
 円楽(初世えんらく・三遊亭)→ 円生(三代えんしょう・三遊亭、落語家) B 1 3 7 9
 円楽寺法印(えんらくじのほういん)→ 親覚(しんかく;法諱、真言僧) N 2 2 6 7
 衍藍(えんらん;法諱) → 圭三(けいさん;道号・衍藍、黄檗僧) F 1 8 7 3
 延蘭(えんらん・土佐) → 光貞(みつさだ・土佐/藤原、宮廷絵師) D 4 1 4 6
- F1343 延理(えんり) ? - ? 京の俳人;1690言水「新撰都曲」1句入;
 [五分鄙に薄し都の厚氷](都曲;340)
- F1344 遠里(えんり) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」2句入、
 [いたづらに蓮はちすに立ちし吹矢かな](卯辰;276)
 遠里(えんり・西村) → 遠里(とおさと・西村にむら、商家/暦算家) I 3 1 5 9
 遠里(えんり・川喜田) → 遠里(とおさと・川喜田かわきた/芝原、商家/国学) U 3 1 8 2
 円理(えんり;法名) → 忠実(ただかね・藤原、撰関/故実/歌) 2 6 2 5
 円理(えんり・岩城) → 蟾居(せんきょ・岩城、商家/俳人) M 2 4 0 5
 円里(えんり・俳名) → 円生(えんしょう・三遊亭/橘屋、落語家) B 1 3 1 1
 円立(えんりつ、今井) → 円立(えんりゅう、今井、俳人) F 1 3 4 5
 円律(えんりつ;法諱) → 徳円(とくえん;法諱、浄土僧) K 3 1 5 0
 燕栗園(初世えんりつえん/さぐりえん) → 千穎(ちかひ・西村、国学/狂歌) 2 8 6 0
 燕栗園(2世えんりつえん/さぐりえん) → 千寿(ちほぎ・久米、書肆/狂歌) F 2 8 3 7
 煙里亭(えんりてい) → 此麿(このまろ・喜多川きたがわ、絵師) N 1 9 3 9
- F1345 円立(えんりゅう、今井いまい、通称;了三)?-? 江前期1661-73頃京俳人;立圃門、
 1665「天神の法楽」「雪千句」編
- U1304 円隆(えんりゅう;法諱)1761-182565 近江栗太郡下鉤村真宗本願寺派の浄光寺住職、
 歌人;香川景樹門
- F1346 円竜(えんりゅう;法諱、諡号;即往院)?-1845 筑後榎木津の真宗大谷派僧;覺了寺住職、鳳嶺門、
 1809高倉学寮寮司/27擬講/38嗣講、1828「安心決定鈔聞書」31「観經玄義分聞記」外著多数
- F1347 淵竜(えんりゅう・有元ありもと道信、字;進斎、通称泰蔵)1777-184064 美作の医者、俳人:青々堂白竜門、
 のち淡々門、「菅の根」、「由幾能念雑迷」著、
 [淵竜の別号] 一物/自然庵じねんあん/大生堂/半時庵、法号;泰竜院
 淵竜(えんりゅう;法諱・玄峯)→ 玄峯(げんぼう;道号・淵竜、曹洞僧) M 1 8 3 3
 淵竜(えんりゅう・香川/梅月堂)→ 宣阿(せんあ・香川/平、藩士/歌人) 2 4 2 2
 淵竜(えんりゅう・佐々木) → 文山(ぶんざん・佐々木/佐/源、書家) F 3 8 4 0
 延隆(えんりゅう・下里) → 延隆(のぶたか・下里しもさと、町役/国学) I 3 5 7 1
 円竜(えんりゅう・吉川) → 従長(よりなが・吉川よしかわ、幕臣/神道) L 4 7 4 2
 円竜(えんりゅう・松崎) → 明(あきら・松崎まつさき、医者/詩文) E 1 0 1 8
 円竜(えんりゅう;法号) → 雲阿(うんあ;法諱、神職/僧/狂歌) D 1 2 5 3
- F1348 円陵(えんりょう・高こう、名;啓)1714-? 1782存 越前の隠士・儒者、1782「礼伝通字考」、「論語錯」著
- C1335 円陵(えんりょう・長坂/長阪ながさか、名;黒肱、辰春男)1737-60早世24歳 上野高崎藩士/高崎の生、
 のち江戸本郷丸山藩邸に住(;円陵と号す)、儒;古文辞学・大内熊耳門、
 「円陵子」「抵掌録」著、「贅人ぼうじん遺稿」、
 [円陵(;号)の字/通称/別号]字;贅人、通称;平助/平介、別号;円陵子
- F1349 延陵(えんりょう・権藤こんどう、名;直/字;大民、寿達男)1782-184261 筑後久留米儒者;南冥/昭陽門、
 大阪で医/薬学、外科術;1814華岡青洲門、讃岐/のち久留米開業/文芸・医学塾;子弟教育、
 「防疫論」「救飢論」「民制通考」著、松門しょうもん父
- B1338 燕凌(えんりょう・伊東[2世]、漆畑新介)1801-5555歳 伊東派の講釈師;伊東燕晋門、
 当時講釈師の最高の木戸銭、「義士肖像忠臣蔵」作、追悼集「花火売」、

[伊東燕凌の初号] 伊東凌宇

F1350 円陵(えんりょう・宮田みやた、名;敏/字;茂行/通称平五郎、江間(えま)本草男)1810-70 宮田齊平の養嗣子、信州藪原儒者;林南涯門、宮田齊平に認められ養嗣:1854尾張藩士/64藩校明倫堂学寮係、のち助教、護園(けんえん)学/兵学、1841「円陵随筆」「岐岨土産」、43「文艸集」、50「海防芻言」著、[円陵の別号] 修古堂

1350 延陵(えんりょう・関せき、名;祐之/字;伯順)?-? 江戸後期近江の医者、「医案十六則」「易稽」、「西方新方」「天準医疇」「傷寒定話」著

F1351 延陵(えんりょう・佐藤さとう、名;貞吉、通称;竜也/竜之進、別号東山)?-? 江戸後期延岡藩儒医、易学、陽明学、1810「助辞発蒙」43「孝経一家政談」51「河図窮理学」53「周易精義」59「韻鏡切紙伝」著

円了(えんりょう・入江) → 是清(これかげ・入江いりえ、国学/歌人) Q 1 9 3 5

円陵(えんりょう・有馬) → 誉純(なすみ・有馬、藩主/文筆) G 3 2 6 3

延良(えんりょう・度会) → 延良(のぶよし・度会わたらい、神職/歌) D 3 5 8 1

延良(えんりょう・中川) → 築郊(らくこう・中川ながかわ、藩士/学問) B 4 8 1 2

延菱(えんりょう・本間) → 築山(らくざん・本間ほんま、士門、儒者) B 4 8 2 0

延陵(えんりょう・町田) → 清興(きよおき・町田まちだ、儒者/書家) O 1 6 6 4

円陵子(えんりょうし・長坂/長阪) → 円陵(えんりょう・長坂ながさか、儒者) C 1 3 3 5

円琳(えんりん;法諱) → 済忍(さいにん;字、円琳、真宗大谷派僧) G 2 0 9 8

円林坊(えんりんぼう) → 日音(にちおん;法諱、日蓮僧) 3 3 9 3

C1324 延齡(えんれい/ながとし/のぶとし・平出ひらで/初姓;杉江、)1809-6153 尾張名古屋の医者;山崎菜茄門、さらに浅井貞庵門、1829初代平出順益の婿養子/31(天保2)家督嗣、56尾張藩御用懸締方、1858(安政5)尾張藩御用人支配、医学以外に漢学・国学/物語文学に精通/蔵書家、納屋町住、耽古連八天狗(趣味家の集い)に参加;奇人と称される(小寺玉晁[人物図絵]入)、1850備忘録「代睡漫抄」、「普救堂漫筆」「物語草紙解題」「癸巳日疏」著、延基の父、[延齡の字/通称/号]字;修甫、通称;順益2世、号;泥江亀寿/古今園/蓬廬屋天然、鈍阿

延齡(えんれい・加藤) → 昌融(まさひろ・加藤かとう、国学者) O 4 0 7 0

C1343 円蓮(えんれん;法師) ? - ? 鎌倉後期?の僧/歌人、続千載1583、[うかりける人の心の忘れ水などふかからぬ契りなるらむ](続千;恋1583)

円蓮院巧誉(えんれんいんこうよ;法名) → 念成(ねんじょう;法諱、浄土僧) 3 4 6 6

演蓮社学誉(えんれんしゃがくよ) → 冏鑑(げいかん;法諱・一呼、浄土僧) F 1 8 3 9

円蓮社義誉(えんれんしゃぎよ) → 観徹(かんでつ;法諱・浄覚、浄土僧) R 1 5 4 7

円蓮社光誉(えんれんしゃこうよ;法名) → 法岸(ほうがん;法諱、浄土僧) 3 9 3 4

縁蓮社三誉(えんれんしゃさんよ) → 輪超(りんちょう;法諱、浄土僧/詩歌) K 4 9 6 9

円蓮社順誉(えんれんしゃじゅんよ) → 祐水(ゆうすい;法諱、浄土僧) C 4 6 8 0

円蓮社聖満(えんれんしゃしょうまん) → 良順(りょうじゅん;法諱、浄土僧) H 4 9 9 7

遠浪斎(えんろうさい) → 重光(しげみつ・川俣、絵師) S 2 1 8 6